

史 跡

上之國勝山館跡 XXII

—平成12年度発掘調査環境整備事業概報—

2001・3

上ノ国町教育委員会

序

行きつ戻りつした遅い春も、ようやく渡島半島の南端に到達し、春の山菜目当ての人々がリュックを背負い、日本海沿いの国道の路傍をそぞろ歩く姿が眼につく季節になりました。

今年度新しく採択なった史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）の散策路整備工事に伴う補充発掘調査として、夷王山墳墓群第Ⅰ・Ⅱ地区の土壇頭の間を縫うように、夷王山山麓の駐車場から勝山館跡の背後へと続く踏み分け道周辺の調査を行いました。密集する墳墓と既存のルートとの切り合いを見極めるための確認調査は5月中旬から20名近い発掘スタッフの手により慎重に続けられました。

調査が1ヶ月ほど経過した初夏、第Ⅰ地区の土壇から太刀の鏝らしきものを発見したとの報を受け、発掘の行方を興味深く見守っていました。墓壇の完掘を終え、ほぼ中世のアイヌ墓に間違いないとの確証を得た段階で、文化庁記念物課並びに北海道教育委員会の諒解を得、報道機関への公表公開に踏み切りました。その後も和人墓を挟む形でアイヌの合葬墓が発見され、最終的には3基4体を埋葬したアイヌ墓を検出することができました。

この間、文化庁記念物課の本中、磯村両調査官をはじめ、上ノ国町史跡整備検討委員の渡辺定夫、仲野 浩、宮本長二郎、田中哲雄、榎森 進、鈴木 亘の各先生、関係各機関の諸先生には遠路お越しいただきご指導ご助言を賜りました。心より御礼申し上げます。また調査を進めるにあたり、多くの地域住民の皆様のご支援ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

勝山館跡調査研究専門員の網野善彦先生が、勝山館内でのアイヌと本州人の混住を夙に説いていたせいか、地域住民の中にはさもありなんとの声も聞かれましたが、散策路整備のための補充発掘調査が、「和人」とアイヌの混住を裏付ける貴重な考古資料の発見という思いがけない成果をもたらしました。

現在、上ノ国の旧家の一つが能登屋笹浪家の旧蔵文書の調査を進めています。その中に眼を惹く一枚物の文書があります。二級河川天の川の中流に南から注ぐ厚志内（at-us-nay）の対岸にある集落・早瀬の住人が笹浪久右衛門にラシヨウ皮10貫目を代金80銭で売り渡した明治36年4月19日付けの証文です。

最終用途として厚司（アツシ）に織られたのか、文書は教えてくれませんが、オヒヨウ楡から繊維を採る技術が当地方に生きていたことを示唆してくれる文書です。資料に乏しいのですが、繊維として採り出すまでの一連の生産技術や知識がアイヌからもたらされたとするのは穿ちすぎるでしょうか。

勝山館跡のある町に日々暮らす者の一種の予感ですが、地域の歴史民俗の掘り起こしを丁寧に続けていけば、行き着くところ「和人」とアイヌの混住交錯によって形成された、若しくはアイヌ文化を基層で受容していると言いうような生活文化の諸相がほの見えてくるような気がしています。

継続して史跡勝山館跡の整備を鋭意進める傍ら、身近な地域史の発見に努めて参りたいと考えておりますので、関係各機関並びに諸先生方にはより一層のご助言ご叱正を賜りますようお願い申し上げます、刊行の挨拶といたします。

平成13年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀 勝

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次

例言／引用参考文献

第1部 宮ノ沢川右岸・左岸地区の調査

I 調査の概要	1
II 遺構確認調査	4
1 調査の経緯と目的	4
2 検出遺構と出土遺物	4
(イ) 旧笹浪家住宅主屋内	4
(ロ) 旧笹浪家住宅附属雑倉周辺	21
(ハ) 宮ノ沢川左岸地区	22
III まとめ	39
1 重文笹浪家住宅主屋内の調査	39
2 旧笹浪家附属土蔵の調査	43

第2部 夷王山墳墓群第Ⅰ・Ⅱ地区の調査

I 調査の概要	44
II 遺構確認調査	
1 検出遺構と出土遺物	45
(1) 夷王山墳墓群第Ⅰ地区	45
(2) 夷王山墳墓群第Ⅱ地区	74
III まとめ	112
1 夷王山墳墓群第Ⅰ・Ⅱ地区の和人数	112
2 夷王山墳墓群のアイヌ墓	117

附篇 保存処理 120

挿図目次

第1図 遺跡地形図・調査区位置図	2
第2図 宮ノ沢川兩岸調査区位置図	3
第3図 宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋)土層堆積図	6
第4図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図1	9
第5図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図2(昭和30年代以降～現代)	11
第6図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図3(明治20年代～現代)	13
第7図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図4(旧笹浪家主屋創建期～天保年間～明治20年代)	15
第8図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図5(勝山館廃絶～旧笹浪家創建以前柱穴)	17

第9図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図6(勝山館併行期堀跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-15・16世紀)	19
第10図 宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅雑倉)土層堆積図	22
第11図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図1	24
第12図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図2	25
第13図 宮ノ沢川右岸地区土層16平面図他	26
第14図 宮ノ沢川左岸地区(旧笹浪家住宅附属土蔵)土層堆積図	27
第15図 宮ノ沢川左岸地区(旧笹浪家住宅附属土蔵)平面図	29
第16図 宮ノ沢川左岸地区焼土配置図	32
第17図 宮ノ沢川左岸地区中・近世遺構配置図	33
第18図 宮ノ沢川左岸地区焼土1～3・7・8・10・11平面図他	34
第19図 宮ノ沢川左岸地区焼土12・13平面図他	35
第20図 宮ノ沢川左岸地区配石遺構・墓1平面図他	36
第21図 宮ノ沢川左・右岸調査区出土遺物	38
第22図 第Ⅰ地区調査区位置図	46
第23図 第Ⅰ地区調査区土層堆積図	47
第24図 第Ⅰ地区遺構配置図	50
第25図 第Ⅰ地区第98・116～118・123・126号墓・土層4平面図他	51
第26図 第Ⅰ地区第98・116号墓出土遺物	56
第27図 第Ⅰ地区第119号墓平面図他	57
第28図 第Ⅰ地区第120号墓平面図他	58
第29図 第Ⅰ地区第121号墓平面図他	59
第30図 第Ⅰ地区土層2平面図他	60
第31図 第Ⅰ地区第127・129号墓平面図他	61
第32図 第Ⅰ地区土層5・6平面図他	62
第33図 第Ⅰ地区第97号墓平面図他	63
第34図 第Ⅰ地区砂利敷遺構平面図	64
第35図 第Ⅰ地区砂利敷遺構遺物分布図他	66
第36図 第Ⅰ地区第131号墓・配石遺構1平面図他	67
第37図 第Ⅰ地区第124・125号墓平面図他	68
第38図 第Ⅰ地区第128・130号墓平面図他	69
第39図 第Ⅰ地区第122号墓平面図他	70

第40図	第Ⅰ地区第101号墓平面図他	72
第41図	第Ⅰ・Ⅱ地区遺構出土遺物(陶磁器・石製品・鉄製品)	73
第42図	第Ⅱ地区調査区位置図	75
第43図	第Ⅱ地区調査区土層地積図	76
第44図	第Ⅱ地区遺構配置図	79
第45図	第Ⅱ地区第23号墓平面図他	88
第46図	第Ⅱ地区第23号墓焼骨出土状況図	89
第47図	第Ⅱ地区第30号墓平面図他	91
第48図	第Ⅱ地区第33号墓平面図他	93
第49図	第Ⅱ地区第35号墓平面図他	94
第50図	第Ⅱ地区第37号墓平面図他	95
第51図	第Ⅱ地区第39号墓平面図他	97
第52図	第Ⅱ地区第54号墓平面図他	98
第53図	第Ⅱ地区第78号墓平面図他	99
第54図	第Ⅱ地区第115・117号墓平面図他	101
第55図	第Ⅱ地区第118号墓平面図他	102
第56図	第Ⅱ地区第119号墓平面図他	103
第57図	第Ⅱ地区第120号墓平面図他	104
第58図	第Ⅱ地区第121号墓平面図他	105
第59図	調査区遺構出土遺物(銅銭1)	106
第60図	調査区遺構出土遺物(銅銭2)	107
第61図	調査区遺構出土遺物(銅銭3)	108
第62図	調査区遺構出土遺物(鉄製品1)	109
第63図	調査区遺構出土遺物(鉄製品2)	110
第64図	調査区遺構出土遺物(鉄製品3)	111
第65図	調査区遺構出土遺物(鉄製品4)	112

表目次

表1	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・板間東西セクション南壁土層観察表(A-A')	7
表2	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 座敷・店東西セクション南壁土層観察表(B-B')	7
表3	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・北南北セクション東壁土層観察表(C-C')	7
表4	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 板間南北セクション西壁土層観察表(D-D')	8
表5	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 通り庭南北セクション東壁土層観察表(E-E')	8
表6	旧笹浪家 雑倉南北セクション東壁土層観	

察表(A-A')	23	
表7	旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表(B-B')	23
表8	旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表(C-C')	23
表9	旧笹浪家 土壇16土層観察表	28
表10	旧笹浪家附属土蔵南北セクション東壁土層観察表(A-A'-A'')	28
表11	旧笹浪家附属土蔵東西セクション南壁土層観察表(B-B')	28
表12	旧笹浪家附属土蔵南北セクション西壁土層観察表(C-C')	28
表13	旧笹浪家附属土蔵東西セクション北壁土層観察表(D-D')	31
表14-1	重文蔵 焼土1土層観察表	31
表14-2	重文蔵 焼土2・3土層観察表	31
表14-3	文庫蔵 焼土7土層観察表	31
表14-4	文庫蔵 焼土8土層観察表	31
表14-5	米蔵 焼土10(口)土層観察表	31
表14-6	文庫蔵 焼土11土層観察表	31
表15-1	米蔵 焼土12土層観察表	31
表15-2	米蔵 焼土13土層観察表	31
表16-1	配石遺構土層観察表(A-A')	37
表16-2	配石遺構土層観察表(B-B')	37
表17	文庫蔵 墓1土層観察表	37
表18	遺物計測表	39
表19	宮ノ沢川右岸地区 旧笹浪家主屋内出土陶磁器集計表	41
表20	宮ノ沢川右岸地区 旧笹浪家雑倉下層出土陶磁器集計表	42
表21	第Ⅰ地区トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(A-A')	48
表22	第Ⅰ地区トレンチ4 南北セクション東壁土層観察表(B-B')	48
表23	第Ⅰ地区トレンチ5 南北セクション東壁土層観察表(C-C')	48
表24	第Ⅰ地区トレンチ6 南北セクション西壁土層観察表(D-D')	48
表25	第Ⅰ地区トレンチ8 南北セクション西壁土層観察表(F-F')	48
表26	第Ⅰ地区トレンチ11 南北セクション西壁土層観察表(G-G')	49
表27	第Ⅰ地区第117・116号墓・土壇4・第98号墓南北セクション西壁土層観察表(E-E'-E''-E''')	

E")	53
表28 第I地区第98・123号墓南北セクション東壁土層観察表(B-B')土層観察表	53
表29 第I地区第126号墓土層観察表	53
表30 第I地区第119号墓土層観察表	57
表31 第I地区第120号墓土層観察表	57
表32 第I地区第121号墓土層観察表	58
表33 第I地区土壇2土層観察表	59
表34 第I地区第127号墓土層観察表	59
表35 第I地区第129号墓土層観察表	59
表36 第I地区土壇5土層観察表	63
表37 第I地区第97号墓土層観察表	63
表38 第I地区配石遺構1 南北セクション西壁土層観察表	63
表39 第I地区配石遺構2 南北セクション東壁土層観察表	63
表40 第I地区第124・125号墓土層観察表	68
表41 第I地区第128・130号墓土層観察表	68
表42 第I地区第122号墓土層観察表	71
表43 第I地区第101号墓土層観察表	71
表44 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(A-A')	77
表45 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(B-B')	77
表46 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(C-C')	77
表47 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(D-D')	78
表48 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(E-E')	78
表49 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(F-F')	78
表50 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(G-G')	78
表51 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(H-H')	78
表52 第II地区第23号墓土層観察表	81
表53 第II地区第30号墓土層観察表(A-A')	81
表54 第II地区第30号墓土層観察表(B-B')	81
表55 第II地区第30号墓土層観察表(C-C')	81
表56 第II地区第33号墓土層観察表	81

表57 第II地区第35号墓土層観察表(A-A')	82
表58 第II地区第35号墓土層観察表(B-B')	82
表59 第II地区第37号墓土層観察表(A-A')	82
表60 第II地区第37号墓土層観察表(B-B')	83
表61 第II地区第39号墓土層観察表	83
表62 第II地区第54号墓土層観察表	83
表63 第II地区第78号墓土層観察表(A-A')	84
表64 第II地区第78号墓土層観察表(B-B')	84
表65 第II地区第115号墓土層観察表	84
表66 第II地区第117号墓土層観察表	85
表67 第II地区第118号墓土層観察表	85
表68 第II地区第119号墓土層観察表	85
表69 第II地区第120号墓土層観察表(A-A')	85
表70 第II地区第120号墓土層観察表(B-B')	86
表71 第II地区第121号墓土層観察表(A-A')	86
表72 第II地区第121号墓土層観察表(B-B')	86
表73 第II地区第121号墓土層観察表(C-C')	86
表74 遺物計測表	113
表75 銅銭拓影一覧表	114
表76 墓出土銭一覧表	114
表77 遺構一覧表	115

写真図版

PL. 1 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I地区)
PL. 2 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I地区)
PL. 3 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I・II地区)
PL. 4 出土遺物(宮ノ沢川左・右岸地区)
PL. 5 遺構検出状況(宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋内))
PL. 6 遺構検出状況(宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋内))

- PL. 7 遺構検出状況（宮ノ沢川右岸地区（旧笹浪家住宅附属雑倉周辺））
- PL. 8 遺構検出状況（宮ノ沢川左岸地区（旧笹浪家附属土蔵周辺））
- PL. 9 遺構検出状況（夷王山墳墓群）
- PL. 10 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 11 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 12 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 13 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 14 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 15 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 16 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）

附図1 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図

附図2 宮ノ沢川左岸地区遺構配置図

附図3 夷王山墳墓群第Ⅰ地区遺構配置図

附図4 夷王山墳墓群第Ⅱ地区遺構配置図

例 言

1. 本書は史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に伴う平成12年度の宮ノ沢川右岸・左岸地区（重要文化財旧釜浪家住宅周辺）、夷王山墳墓群第Ⅱ地区の発掘調査について概要をまとめたものである。

2. 本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

指導 上ノ国町勝山館跡調査研究専門員

鶴見大学客員教授 石井進

橘女子大学教授 朝尾直弘

歴史家 網野善彦

東北学院大学教授 榎森進

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

勝山館跡整備委員会

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

東北芸術工科大学教授 田中哲雄

東北芸術工科大学教授 宮本長二郎

東北学院大学教授 榎森進

文化学院講師 鈴木亘

東京大学名誉教授 渡辺定夫

主管 上ノ国町教育委員会文化財課 課長

渡部孝之 主任学芸員 松崎水穂 文化財

係長 齊藤邦典 博物館整備係 学芸員

松田輝哉 事務補 岡田俊一郎 嘱託発掘

調査員 三浦英俊 郷土館資料調査専門員

久末久義 臨時事務補 小林真澄

調査補助員 山崎洋子 笠谷奈智子 竹内江

美子

作業員 池田奈子 井越祥子 奥寺京子 川

口泰子 小滝あけみ 笹浪竹志 澤村司

鈴木千春 住吉泰子 沼沢国枝 八田揚子

藤谷ひろみ 松木津枝子 目黒加奈子

保存処理作業員 木村洋子 油谷和枝

3. 本書は松崎・松田で協議の上編集した。第1部、第2部各章節を松崎・松田の分担で執筆し、文末に文責を記した。

4. 挿図の作成は、宮ノ沢川右岸地区・夷王山墳墓群第Ⅱ地区を笠谷、宮ノ沢川左岸地区・夷王山墳墓群第Ⅰ地区を竹内が作成した。

5. 土層の土色は「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局）を用い目測で比定した。

6. 調査時の写真は松崎、松田が撮影した。

7. 調査にあたっては、次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。

文化庁記念物課 本中真 磯村幸男 伊藤正

義 坂井秀弥 岸本直文 平沢毅 加藤真二、

建造物課 益田兼房 大和智 西和彦 下間

久美子、北海道教育庁文化課 畑宏明 大沼

忠春 千葉英一 工藤研二 田才雅彦 高橋

優 多田博昭 吉田種榮 上出秀信、(財)

元興寺文化財研究所所長 坪井清足、國學院

短期大学 近藤好和、(財)文化財建造物保

存協会 近藤光雄 岸茂 アイヌ文化振興・

研究推進機構 河野哲也、国立歴史民俗博

物館小野正敏、北海道開拓記念館 平川善祥、

(財)北海道埋蔵文化財センター 種市幸生

越田賢一郎 田中哲朗 田口尚 藤原秀樹

富永勝也 彭浦寛、市立図書館 長谷部

一弘 保科智士、苫小牧市立博物館 三村伸

銅路市立博物館 高橋勇人、三春町歴史民俗

資料館 平田植文、上磯町教育委員会 森靖

広、恵庭市教育委員会 上原眞一、平取町教

育委員会 森岡秀人、余市町教育委員会 乾

芳宏、市浦村教育委員会 榎原滋高、中里町

教育委員会 齋藤淳、豊田町教育委員会 清水

尚、米原町教育委員会 中井均、能登川町

教育委員会 植田文雄、(株)亀田工業、(株)

丸善工業

8. 保存処理は、鉄製品250点、銅製品100点、木製品300点の処理を行った。併せて、過年度に処理した鉄製品の内、再び錆が生じ破損の恐れがあるもの200点の処理を行った。

引用参考文献

『北蝦夷編纂』北門叢書第五冊 1972年 大友

喜作編

『蝦夷島奇観』1982年 谷澤尚一・佐々木利和

編

『要綱日本紋章學』1928年 沼田頼輔

『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』1924

年 北海道庁

- 『日本刀』 本間順治 1939年
 『アイヌ美術 金工漆工篇』 1943年 金田一京介・杉山寿栄男
 『毒矢の文化』 1963年 石川元助
 『日本の美術6 刀剣』 1966年 佐藤藤山編
 『日本の美術64 刀装具』 1971年 加藤進編
 『日本北方史の論理』 1974年 海保嶺夫
 『日本史小百科4 墳墓』 1978年 斎藤忠
 『昔から見た日本人のルーツ』 1983年 鈴木尚
 『1643年アイヌ社会探訪記 フリース船隊航海記録』 1983年 北橋保男
 『列島北方史研究ノート』 1986年 海保嶺夫
 『アイヌの歴史北海道の人びと(2)』 1982年 榎森進編
 『アイヌ文化成立史』 1988年 宇田川洋
 『中世の都市と墳墓』 1988年 網野善彦・石井進編
 『別冊太陽 古伊万里』 1988年 西田宏子・大橋康二監修
 『日本海域の土器・陶磁器 中世編』 1989年 吉岡康暢
 『肥前磁器』 1989年 大橋康二
 『よみがえる中世4 北の中世 津軽・北海道』 1989年 菊池徹夫・福田豊彦編
 『北からの日本人 第2集』 1990年 北海道東北史研究会編
 『中世の葬送・墓制』 1992年 水藤真
 『中世社会と墳墓』 1993年 石井進・萩野三雄編
 『亮昌寺資料目録』 1993年 (財)アイヌ民族博物館
 『アイヌ民族と日本人』 1994年 菊地勇夫
 『古伊万里の文様』 1994年 大橋康二
 『中世須恵器の研究』 1994年 吉岡康暢
 『日本出土銭総覧』 1996年 兵軍埋蔵銭調査会編
 『中・近世の北陸』 1997年 北陸中世土器研究会編
 『中世後期における東アジアの国際関係』 1997年 大隅和雄・村井章介編
 『北の内海世界—北奥羽・蝦夷ヶ島と地域諸集団—』 1999年 入間田宣夫・小林真人・斎藤利男編
 『九州陶磁の編年』 2000年 九州近世陶磁学会

編

- 『国史大辞典』 1984年～1998年
 『發寒村の遺跡発掘記』 河野広道 『蝦夷往来 第10号』 1933年
 『發寒村發寒の遺物に就いて』 高倉新一郎
 『蝦夷往来 第10号』 1933年
 『北海道檜山郡宮ノ沢遺跡』 渡辺兼磨・松崎水穂 『考古学雑誌第56巻第1号』 1970年
 『北海道の墓』 加藤邦一 『新版仏教考古学講座 第5巻 墳墓』 1974年
 『松前町字上川墳墓遺跡の調査』 久保泰 『松前藩と松前』 13号 1979年
 松崎水穂・中村公宣・百々幸生 『北海道洲崎館跡発見の中世遺物と頭首』 考古学雑誌第67巻第2号 1981年
 『北海道における近世の墓制』 田村俊之 『北海道考古学19』 1983年
 『静浦D遺跡と道南地方の摺文文化』 久保泰 1983年 月刊考古学ジャーナル№213
 『北海道出土の中国陶磁』 1984年 松下亘
 『北海道の研究2』
 『近世アイヌ墳墓の考古学的研究』 1984年 平川善祥 『北海道の研究2』
 『北海道の中世墓について』 加藤邦一 『北海道の研究』 考古編Ⅱ 1984年
 『続縄文土器様式』 大沼忠春 『縄文土器大観4』 小林達雄編 1989年
 『墳墓(2) 中世』 惠美昌之 1990年 『歴史考古学の問題点』 坂詰秀一編
 『中世の葬場』 惠美昌之 『季刊考古学第39号』 1992年
 『旧笹浪家住宅解説』 齊藤英俊 『月刊文化財』 平成4年2月号 1992年
 『アイヌ墓の成立過程』 1992年 宇田川洋
 『北の人類学』 岡田宏明・岡田淳子編
 『チャシとその墓 二風谷遺跡の例を中心にして』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』 北海道立北方民族博物館編
 『千歳川流域におけるアイヌ文化の成立』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』 北海道立北方民族博物館編
 『摺文以後をめぐって』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』

北海道立北方民族博物館編
「原始工芸・アイヌ工芸の研究者としての杉山寿
栄男（小伝）」 1997年 『東北歴史資料館研究
紀要第23巻』
「近世アイヌ墓址のいくつかの問題点」 1988年
豊原照司 『野村先生遷居記念論集 北方の考
古学』
「古代・中世京都の墓」 1996年 五十川伸矢
『国立歴史民俗博物館研究報告第68集』
「福山秘府」『新撰北海道史第5巻 資料一』
1936年 北海道廳
『上ノ国村史』 1956年 松崎岩徳
『統上ノ国村史』 1962年 松崎岩徳
『弘前市史 資料編1 考古資料』 1995年
『中世北陸の寺院と墓地』 1994年 北陸中世土
器研究会
『シンポジウム資料集 中世の火葬—その展開と
地域性—』 東国歴史考古学研究所・帝京大学山
梨文化財研究所 1995年
『東北地方の中世出土貨幣』 東北中世考古学研
究会第5回研究会資料 1999年
『北海道上ノ国町 旧佐浪家附属土蔵解体調査報
告書』 1992年 財団法人文化財建造物保存技術
協会
『札幌遺跡』 1974年 木古内町教育委員会
『ユオイチャシ・ポロモイチャシ・二風谷遺跡』
1986年 （財）北海道埋蔵文化財センター
『福山城V』 1988年 松前町教育委員会
『美沢川流域の遺跡群XIII』 1989年 （財）北

海道埋蔵文化財センター
『美沢川流域の遺跡群XV』 1990・1991年
（財）北海道埋蔵文化財センター
『ライトコロ川口遺跡』 1980年 東京大学文学
部考古学研究室常呂研究室編
『ライトコロ川口遺跡』 1995年 東京大学大学
院人文社会系研究科文学部考古学研究室
『南川2遺跡』 1985年 瀬棚町教育委員会
『瀬棚南川遺跡』 1982年 瀬棚町教育委員会
『御幸町』 1985年 森町教育委員会
『浪岡城VII』 1984年 浪岡町教育委員会
『史跡七戸城跡北館V』 1996年 七戸町教育委
員会
『川内町埋蔵文化財発掘調査報告書 熊ヶ平（1）
遺跡 熊ヶ平（2）遺跡 韃越遺跡』 1997年
川内町教育委員会
『史跡 上之国勝山館跡I～XXI』 1980～
2000年 上ノ国町教育委員会
『夷王山墳墓群』 1984年 上ノ国町教育委員会
『夷王山墳墓群II』 1989年 上ノ国町教育委員
会
『上ノ国漁港遺跡』 1986年 上ノ国町教育委員
会
『町内遺跡発掘調査事業概報I・II』 1996・98
年 上ノ国町教育委員会
『町内遺跡発掘調査事業報告書III・IV』 2000・
2001年 上ノ国町教育委員会
『原歌遺跡S地点 附米澤屋敷遺跡・久末屋敷遺
跡』 1997年 上ノ国町教育委員会

第1部 宮ノ沢川右岸・左岸地区の調査

I 調査の概要

1 調査

史跡上之國勝山館跡は、昭和52年国史跡に指定され、同54年より環境整備に伴う発掘調査を行ってきた。特に昭和63年以来館中心部を調査し、「客殿」と比定し得る建物跡や鍛冶・鋳造作業場跡などの遺構が見つかり、勝山館の様子広がりが見えてきた。昨年度は史跡地内に所在する重要文化財旧笹浪家住宅の修理に伴い、その周辺部の調査を行った。重文旧笹浪家住宅は、館主体部直下の海岸に面する平地部の一面に位置し、根小屋などの施設が想定される箇所であり、勝山館の構造を考える上で重要な地点である。調査の結果、旧笹浪家住宅主屋南庭の下層に勝山館期と推される幅4m余りの堀を検出した。又、調査区西方の宮ノ沢川右岸縁で、駒ヶ岳由来の白色火山灰（Ko-d、1640年降灰）下層に、出土陶磁器から慶長期と推される遺物包含層を検出した。この遺物包含層からはイクバスイ、弓等のアイヌ文化遺物と矛形の形代等多種多様な遺物が出土した。調査面積は限られたものであったが、勝山館期の土地利用や勝山館廃絶直後期の様相を究明する上で重要な資料を得ることが出来た。

本年度は、重要文化財旧笹浪家住宅周辺地の発掘調査を行った。昨年に引き続き宮ノ沢川地区の旧笹浪家関連遺構、勝山館時代の遺構の確認調査を行った。調査箇所は旧笹浪家住宅主屋、附属雑倉、附属米・文庫蔵、附属重文指定土蔵である。また、附属雑倉以外は、解体修理との関係上トレンチ調査に留まった箇所もあり、調査区範囲・位置が複雑である為詳しくは遺構図を参照されたい。

2 調査法

旧笹浪家主屋東面に平行する史跡境界ラインを縦軸に利用し、4m×4mのグリッドを組み、調査区を設定した。南北ラインをアルファベット、東西ラインをアラビア数字で表記した。調査区の遺構配置・土層堆積図は1/20、土壌は平面・堆積を1/10、1/20で実測した。測量法は平板測量、遠方測量を適宜併用した。遺物は出土地点を1/20の分布図に記録し、レベルを付してから取り上げた。土壌は平面プラン確認後、半載し堆積状況

を撮影、実測した後に掘りあげた。なお土壌・焼土等の遺構の覆土は、調査員の判断により適宜サンプリングを行った。

3 調査経過

9月 雑倉礎石実測後取り外し、雑倉周辺下層部調査を開始。26日米・文庫蔵の調査開始。米蔵盛土除去後、礎石の実測を行う。

10月 10日雑倉下の土層16を調査。14日文化財保護法制定50周年記念協賛行事で主屋解体修理現場並びに発掘現場公開。16日より重要文化財指定土蔵調査開始。

11月 文庫蔵下層の中世墓を調査。雑倉周辺下層の勝山館時代堀跡を調査。配石遺構を調査。重文土蔵のサヤ、北側石垣を調査。

12月15日現場後片づけを終え調査終了。

4 基本層序

基本的には勝山館跡中心部等調査の分類に依拠しているが、細分を行っている。

I層 近代以降の整地層。一部で細分される。

II層 3層に細分される。

a層 近世の整地層（1640年以降～近代）。

b層 白色火山灰（Ko-d 1640年降灰）。

c層 黒色土・砂層。葦を含み、木製品等を大量に含む。礫粒で構成される間層があり、細分される。中世末～近世初頭の遺物包含層。

III層 勝山館跡存続期に該当する中世の整地層。

IV層 中世以前の堆積層。3層に細分される。

a層 礫層

b層 黒色土層（縄文時代、恵山期相当の遺物包含層）。

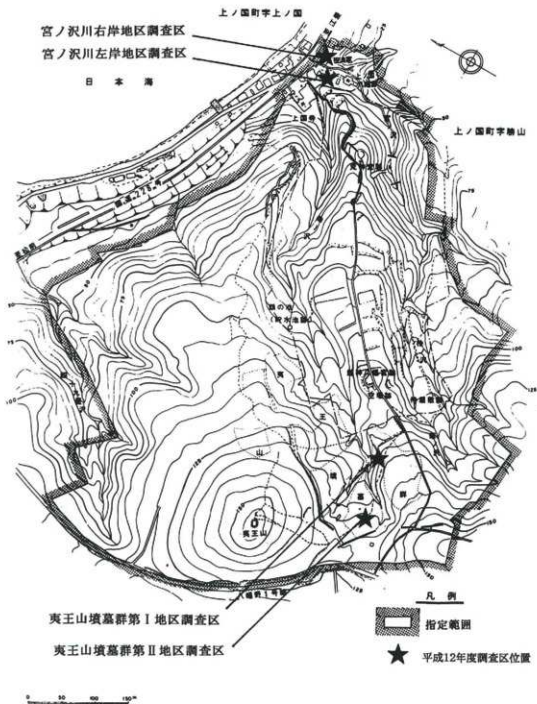
c層 黒色土層（縄文時代後・晩期、入江式・上ノ国式等の遺物包含層）。

V層 礫層（縄文時代後期以前）。

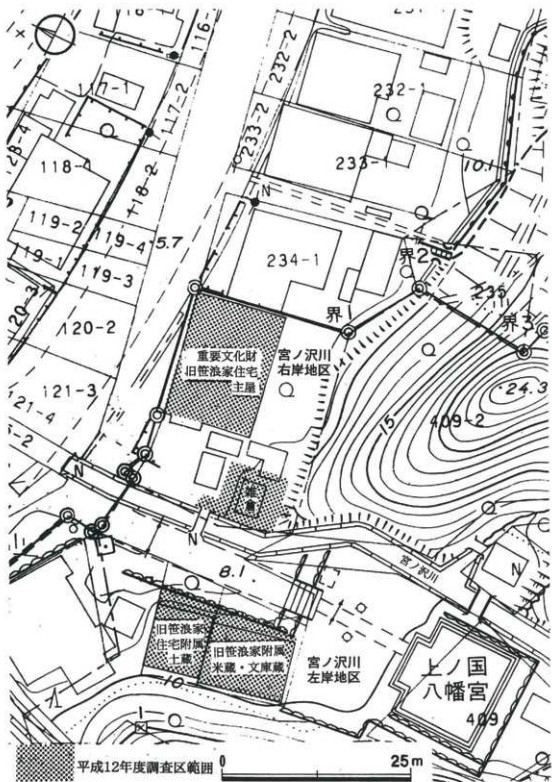
VI層 礫層、砂層。

なお、土層観察表にCと記したものは炭化物の細粒であり、炭化木片等と判る物と区別した。

（松田）



第1図 遺跡地形図・調査区位置図



第2図 宮ノ沢川両岸調査区位置図

II 遺構確認調査

1 調査の経緯と目的

平成11年11月から重要文化財旧笹浪家住宅の保存修理事業が始まった。同住宅には「天保年間」の創建で、「幕末に「はなれ」が南・背面に増設」され「明治20年頃に北・前通りが道路の拡幅に伴い三尺切り詰め」られたことが十一代当主故笹浪久美氏の覚え書とともに伝えられていた。

修理は半解体の上行われることとなり、それに伴う痕跡調査等から、同住宅の変遷が探られるところであるが、周辺の発掘調査による遺構確認も必要と考えられた。

一方同住宅の敷地は勝山館跡の史跡指定地内となっている。近年の字上之回市街地における個人住宅の建替えに先立つ緊急発掘調査や、町内遺跡分布調査事業による試掘調査によって、上ノ国市街地の現住宅下位には縄文時代前期以来、各時期を経て現在に到る遺跡が重層していることが推察されるところとなった。同住宅の北東30m、米沢光一氏宅（第2図116番地）の発掘調査（平成8年）では15世紀中頃の整地層や遺物、16世紀以降の柱穴や遺物が確認され、本住宅敷地内の試掘調査でも15、16世紀の陶磁器の出土が確認されていた。これらのことから、平成11年5月史跡整備事業の一環として遺構確認調査が行われることとなった。（本概報XXI）

明治20年頃の笹浪家住宅や、上ノ国八幡宮を描いた銅版画に同住宅南西部に蔵が描かれている。一枚は瓦葺きの土蔵として、今一枚は板倉として描かれる。又母屋から西宮ノ沢川まで片庇の屋根が竪木状に描かれ、南西隅の蔵前の附属も推察された。同住宅母屋周辺の景観整備を進める上でその遺構を確認することが必要となった。又、この蔵の位置は前年確認された勝山館跡併行期の堀跡の延長部が宮ノ沢川に取り付く場所にあり、その確認も必要であった。

宮ノ沢川を挟んだ左岸に明治18年建築の同住宅付属土蔵が主屋と同時に重文指定され、現存している。その南に嘉永元年建築の米・文庫倉一棟が隣接していたが、損傷が著しく（財）文化財建造物保存技術協会の指導の下に、平成3年解体、材を保管していた。この土蔵についても、先の銅版画に描かれていることから、平成12年度から開始

した、「史跡等活用特別事業」で、歴史的建造物の復元を行うこととした。本土蔵の解体時に、その基礎工事を知るべく試掘をしていたが、平成11年、その試掘環を精査したとして、土壌墓があるらしいことが推察された。又解体時にこの土蔵の北入口付近で青磁焼花皿が採集されており、更にはこの蔵の東5m、八幡宮参道の階段直下は昭和45年、防火水槽を設置した時に縄文時代晩期・縄文時代時代の遺物が出土し、宮ノ沢遺跡として埋蔵文化財包蔵地登録がなされていることなどから、これについても遺構確認調査を行うこととなった。

なお笹浪家住宅主屋内及び重文指定付属土蔵敷地内についても、前身遺構等確認のため調査を行った。これについては、重文の保存修復事業報告書に掲載の予定であるが、前年度調査並に本年度調査に関係するところが大きいので、重複を恐れつつ、関連資料として併せて記述することとした。

2 検出遺構と出土遺物

(イ) 旧笹浪家住宅主屋内（第8図）

1 調査区・層序：11年度調査で設定したグリッドを踏襲し、主屋内に南から北にC-E、東から西に1-4の4m区画を設定した（第3図）。更に通り庭、台所、下台所、ミセ、座敷、板間等に分けられている室内空間毎に、このグリッド軸を基準とする調査区を設定した。第8図中、通り庭西半中央の東西2.5×1メートルと同東半の南北3～5×1メートル程の5区画と通り庭、カマド、井戸周辺が当初設定の調査区である。調査区の設定とその後の拡張にあたっては、（財）文化財建造物保存技術協会笹浪家修理事務所所長 岸 茂氏と協議し、ご助言ご指導を頂戴した。

通り庭の敷石（第6・8図中央）、ミセ・板間の図が裏は修理事業に伴い撤去済みであった。

通り庭のタタキの形成を観察すべく掘り下げたところ、前身遺構と思われる柱穴列が見つかり、1640年降灰のKo-d（駒ヶ岳火山灰）の堆積が見られた（PL.6-1）。従前の調査では勝山館跡期の遺構や凹地に堆積が見られているものである。又部屋下C1区で瀬戸・美濃大窯の天目茶碗が表土直下の礫層中から出土した。この礫層は、各調査区にわたって堆積が見られ、前年の調査の知見からは、宮ノ沢川の氾濫堆積物とその整地層、及

び懸跡覆土として見られたものである。ところが座敷E1調査区北、東壁ではこの礫層は、30cm程と薄く、その直下に暗褐色土層が堆積し、調査区北壁では西へ傾斜し、下位に遺構の存在を窺わせた。

11年度主屋南背面の調査で堀跡を検出するとともにその覆土中に廃棄された鍛冶関連遺物について、主屋側からの廃棄によるものと推測した。又主屋西、宮ノ沢川べりの大量の遺物の廃棄についても、主屋敷地を含む東側を中心とする周辺一帯からのものと想定したところである。これらのことから岸所長の助言を受けて建物の修復に支障を来さない地区において、各調査区を繋ぐ拡張区を設定するとともにセクション面に沿って巾60cm程を60～80cm深掘りして層序を観察した。

2 遺構：想定された遺構は縄文時代～徳文時代、徳文時代終末～勝山館併行期、勝山館廃絶直後期、江戸時代前半～菅浪家住宅創建前、同創建期～幕末、幕末～明治20年代、明治20年代～昭和30年代、昭和30年代～現代の時代である(第4図、付図1)。

昭和30年代～現代(第5図)：既にカマドはなく、掘り抜き井戸枠の中央に電動ポンプで水を汲み上げた管が直立している。現地表下2m程の所に水脈(井戸底)があるらしく、管の先が濡れる。井戸木製側枠にはワイヤーロープが巻かれる。井戸跡東2m程の所に浅い柱穴P135～137がある。135は先行しP138、焼土2がこの期に下ることも推される。

明治20年代～昭和30年代(第6図)：通り庭南部分に敷き詰められた笏谷石、通り庭東西部分、下台所前に敷かれた四角の笏谷石、カマド基礎と推される笏谷石石組などが想定された(第6図等の南北部笏谷石図は菅浪家事務所から原図の提供を受け合成した)。昭和30年頃まで使用された釣瓶井戸は、現井戸枠真上の梁にその痕跡があり、遅くともこの期に付設されていると推されるが調査では確認できなかった。笏谷石敷設の年代や敷設に当たってのタタキ部分との取り合いについてはP138や焼土2との重複も含め今少し検討したい。

ミセ囲炉裏下部付近で炭化物の集中が見られ、樺皮の燃え残りと思われるものがあった。囲炉裏の付け木代りに使用したものであろうか。

菅浪家創建期～明治20年代(第7図)：とおり

にわ東西部土間の断面に厚さ20cm程のタタキの造成が見られた(PL.5-4)。これに比し通り庭南北部笏谷石下位のタタキは不明瞭である(第3図E-E'、PL.6-2)。或いは笏谷石の敷設時に手が増えられているのか、当初から笏谷石の敷設でこれに代えていたのか検討しなければならない。又、主屋南東部部屋下の土層C-C'に類似の堆積が見られたが、主屋床下全域で明瞭に確認されるとはできない。

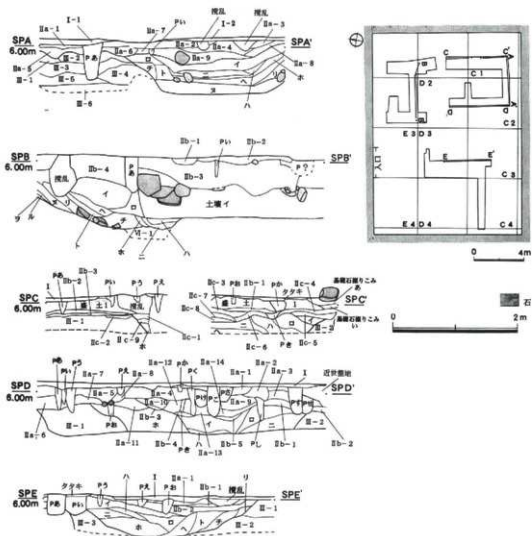
井戸跡北東・カマド基礎組石の北西に一部これと重複してカマド基礎が、更に組石北に別の一基が検出された(第7・8図、PL.5-6～9)。後者は完掘できなかった。前者のカマド南西隅は、井戸外縁掘り方で一部切られているようである。

勝山館廃絶～菅浪家創建期(第8図)：調査区E2、ミセ下部、第3図土層図B-B'中に土壌イと記した土層中より、17世紀前半の遺物が出土した(第21図8)。土壌底面は水平で一部粘土で張り床される。北東側に2m拡張したが更に北・北東側へ広がっている。西側も調査区外へ広がる。深さ約1mである。覆土上部に1640年降灰駒ヶ岳火山灰を含むII層が堆積しており、この直前に埋め戻され、廃されたと推される。

主屋正面入口から南へ通じる通り庭南北部の表土(タタキ?)下から、シテンドコ東側柱通りに平行する南北柱列を検出した(第8図)。現存柱穴はいずれも掘り込みが浅い。P142・148・149・151は柱間1.6m等間で柱筋が通る。P135はこの柱筋延長上にあり、同時期かも知れない。調査区D3南西部に駒ヶ岳火山灰の堆積があり、柱穴の殆んどはこの火山灰下での検出であることから、江戸初期を大きく下らないものと推される。又、その上限は後述のように、この火山灰堆積部分下に堀跡と推される落ちこみがあり、ほぼ勝山館跡期に併行すると推されるので、その堀が埋没・整地後間もない時期が想定される。昨年度の調査で検出された、宮ノ沢川右岸慶長期包含層に対応する遺構の一部かと推される。

なお、他の調査区においても、表土下で柱穴が検出されているが、部分的な検出であり詳しくは述べられない。又、P135～138・焼土2、焼土1・土壌3等は、近代以降と推している。

勝山館併行期(第9図)：〈堀跡II・III〉D3調査区の柱穴列東側の土層観察(第3図E-E')



第3図 宮ノ沢川右岸地区（旧笹浪家住宅主屋）土層堆積図

で、イ〜ホを覆土とする遺構が推測された。ホへの下位は完掘されていない可能性もあり、更に深くなることも推される。上部には前述のように1640年降灰の胸ヶ岳火山灰を含むⅡb層が堆積している。C1区焼土1付近上層から16世紀瀬戸・美濃天目茶碗が出土していたが、前述のように層序の年代決定にいたらなかった。他方11年4月、本住宅東隣りの森兼夫氏宅（第2図234-1）建替えに先立つ緊急発掘調査を実施したが、調査最終日、埋め戻し直前に調査区西壁でダム押しの確認

作業を重機で行ったところ、逆三角形の土層の堆積を見た。地表下20cm程に掘り込み面があり、深さ1.5、上巾4m弱の堀跡かとは推したが確証を得られなかった（PL.6-7）。図面等で、その位置を正確には押えていなかったが、写真等により、本年度調査区C1区付近と推された。C-C'土層観察面の掘り下げにより、イ〜ホを覆土とする遺構が想定された（第3図）。E-E'同様、その下部は未完掘であり、更に深いと推される。上部には火山灰を含むⅡb層が堆積する。E-

表1 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・板間東西セクション南壁土層観察表 (A-A')

1-1	10YR 3/2	黒褐色	玉砂利 砂 礫粒		
1-2	10YR 5/4	にぶい黄褐色	さらさら		ソフト
2a-1	10YR 4/3	にぶい黄褐色	小礫 砂利 ロームブロック やや粘質		
2a-2	10YR 3/4	暗褐色	砂質土		
2a-3	10YR 2/3	黒褐色	礫粒 砂 粘土混じり		ややハード
2a-4	10YR 4/4	褐色	礫粒 砂 基盤礫 ソフトローム混じり		黄土粒 炭化物少量
2a-5	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 砂利 ローム粒		ソフト
2a-6	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒 灰混じり		黄土粒少量
2a-7	10YR 2/3	暗褐色	砂		ややハード
2a-8	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒少量		黄土粒 炭化物少量
2a-9	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 砂 ローム粒少量		黄土粒 炭化物少量
2b-1	10YR 4/4	褐色	砂質土		
2b-2	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂粒少量 小礫少量 砂質		
2b-3	10YR 4/4	褐色	基盤礫少量 砂混じり		
2b-4	7.5YR 2/3	暗褐色	基盤礫 礫粒		
2b-5	10YR 4/3	にぶい黄褐色	小礫 砂少量 ローム やや粘り有る		
2b-6					
イ	10YR 3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒 砂 やや粘		炭化物少量 黄土粒
ロ	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂質土 礫粒少量		
ハ	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒 砂 火山灰		ややソフト
ニ	7.5YR 3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒少量 砂		炭化物 黄土粒
ヒ	10YR 1.5/1	黒色	(白くぬぐったもの)		
ヘ	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 砂少量		炭化物少量
ト	10YR 4/4	褐色	砂質土 礫粒少量		ソフト
チ	10YR 4/5	褐色	砂質土		ソフト
リ	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 砂少量		
レ	10YR 3/3	暗褐色	基盤礫少量 礫粒		
アハ赤	10YR 3/3	暗褐色	礫粒 ローム粒 砂利		ややソフト
アハ白			全面砂		炭化物 黄土粒

表2 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 座敷・店東西セクション南壁土層観察表 (B-B')

2b-1	7.5YR 3/2	黒褐色	砂粒主層	白色火山灰 しまり有るがさらさらしている		C少量
2b-2	7.5YR 3/3	暗褐色	砂粒主層	白色火山灰 しまり有るがさらさらしている		C少量
2b-3	7.5YR 4/3-3/3	褐色・暗褐色	砂粒主層	白色火山灰少量		適性 ソフト
2b-4						
イ	7.5YR 2/3	暗褐色	粘質主層	赤鉄 礫粒		適性 ソフト
ロ	7.5YR 2/1-2/2	黒色・黒褐色	粘質主層	(イ)より風ごり層し		適性 ソフト
ハ	7.5YR 2/1	黒色・黒褐色	炭化物主層			適性 ソフト
ニ	7.5YR 3/2	暗褐色	粘質主層	白色火山灰少量 砂粒		適性 ソフト
ホ	7.5YR 2/3	暗褐色	砂粒主層	さらさら		適性
ヘ	7.5YR 3/2	暗褐色	砂粒主層	赤鉄		適性 ソフト
ト	7.5YR 2/3	暗褐色	粘質主層	赤鉄 炭粒少量		適性
チ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色	灰・砂粒主層	赤鉄 ザラザラ		ソフト
リ	7.5YR 2/3	暗褐色	砂粒主層			適性 ソフト
レ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色	塊層・砂粒主層			適性 ソフト
ア	7.5YR 4/4	褐色	黄・灰・粘質主層	しまりなし		ソフト
ア	7.5YR 4/2-4/4	褐色	砂粒主層			ソフト
アハ赤						
アハ白	7.5YR 3/3	暗褐色	塊層主層	礫粒 玉砂利 基盤礫 ソフトローム しまり有る		ハード

表3 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・北南北セクション東壁土層観察表 (C-C')

1	10YR 3/2	黒褐色	玉砂利 砂少量		
1	10YR 4/4-4/4	褐色	小礫 小礫・礫粒・砂・砂ファイナック状 ローム混じり		少しハード
右の継り品	10YR 2/3	暗褐色	砂利		ソフト
2a	10YR 2/3	暗褐色	砂粒 礫粒少量 ローム粒少量		
2b-1	10YR 5/4	にぶい黄褐色	金剛石混入		
2b-2	10YR 5/4	にぶい黄褐色	金剛石混入		
2c-1	10YR 3/4	にぶい黄褐色	火山灰 火山灰混入?		黄土粒少量 炭化物少量
2c-2	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 火山灰 少しざらざらしている 火山灰混入?		黄土粒少量
2c-3	10YR 1.5/1-3/2	黒色・黒褐色	砂粒混じり 礫粒 玉砂利		ソフト
2c-4	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒少量 やや粘り有る		黄土粒 炭化物少量
2c-5	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 小礫 やや粘り有る		黄土粒 炭化物少量
2c-6	10YR 3/3	暗褐色	礫粒 玉砂利 (2c-3)よりザラザラしている		黄土粒 炭化物少量
2c-7	10YR 3/4	暗褐色	小礫		黄土粒 炭化物少量
2c-8	10YR 4/3	にぶい黄褐色	礫粒 砂 玉砂利		ソフト
2c-9	10YR 4/4	褐色	火山灰混じり 火山灰混入?		黄土粒 炭化物
2c-1	10YR 3/4	暗褐色	小礫 礫粒 礫粒 玉砂利		ソフト
2c-2	10YR 5/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量 砂粒 赤鉄 赤鉄・しまり有る		ソフト
イ	10YR 5/3-5/3	にぶい黄褐色	小礫 砂粒少量 (ロ)より灰色		ソフト
ロ	10YR 5/3	にぶい黄褐色	小礫 礫粒		ソフト
ハ			小礫 礫粒 (ロ)より黄褐色		
ニ			全面小礫 玉砂利層		
ホ	10YR 4/4	にぶい黄褐色	礫粒 玉砂利 砂混じり		黄土粒
ヘ	10YR 3/2	暗褐色	全面砂		
アハ赤	10YR 3/3	暗褐色	砂少量 ローム粒少量 赤鉄		ソフト
アハ白	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		ソフト
アハ5	10YR 3/2	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		黄土粒
アハ上	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		炭化物少量
アハ中	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		
アハ下	10YR 3/3	暗褐色	小礫 礫粒		黄土粒 炭化物少量

表4 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 板間南北セクション西壁土層観察表(D-D')

層	層厚	色	観察	特徴
Ea-1	10YR 5/2	にがい黄褐色		粒状 砂
Ea-2	10YR 5/4	暗褐色		全厚厚層
Ea-3	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 砂少量
Ea-4	10YR 5/2	暗褐色		小礫少量 砂少量
Ea-5	10YR 5/3	暗褐色		焼酎 ややしまり有る
Ea-6	10YR 5/3	暗褐色		焼酎 ややしまり有る
Ea-7	10YR 6/4	褐色		焼酎少量 やや砂質 ローム状
Ea-8	10YR 6/3	暗褐色		焼酎少量 砂 ローム状
Ea-9				
Ea-10	10YR 6/4	褐色		焼酎少量 全厚厚層
Ea-11	10YR 6/3	にがい黄褐色		焼酎少量 砂少量 ローム状
Ea-12	10YR 6/4	褐色		焼酎 多数砂少量 砂粒少量
Ea-13	7.5YR 6/4	暗褐色		焼酎 多数砂少量 砂粒少量 (Ea-12より赤味)
Ea-14	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 砂粒少量
Ea-15	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 火山灰状物
Ea-16	10YR 4/2	灰黄褐色		火山灰
Ea-17	10YR 5/2	灰黄褐色		火山灰 やや砂粒混じり
Ea-18	10YR 5/2	灰黄褐色		火山灰 やや砂粒混じり
Ea-19	10YR 6/2	灰黄褐色		火山灰
Ea-20	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層
Ea-21	7.5YR 4/4	褐色		赤土厚層
Ea-22	10YR 4/4	褐色		砂粒、小礫混り
Ea-23	10YR 4/4	褐色		赤土厚層 焼酎層
Ea-24	10YR 6/4-5/4	褐色		砂粒、小礫混り
Ea-25	7.5YR 5/4	暗褐色		小礫層
Ea-26	7.5YR 6/4	にがい黄褐色		赤土厚層
Fa-2a	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2b	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量 砂少量
Fa-2c	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2d	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2e	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2f	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2g	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2h	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2i	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2j	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2k	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2l	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2m	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2n	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2o	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2p	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2q	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2r	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2s	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2t	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2u	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2v	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2w	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2x	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2y	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量
Fa-2z	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物少量

表5 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 通り庭南北セクション東壁土層観察表(E-E')

層	層厚	色	観察	特徴
E-1	10YR 5/4	暗褐色		焼酎 砂 ソフトローム ややしまり有る
E-1-1				全厚火山灰(Ka-d)層
E-1-2				全厚火山灰(Ka-d)層
E-2	10YR 6/4	褐色		小礫 焼酎 ローム状 砂混じり
E-2-1	7.5YR 5/3	暗褐色		小礫 焼酎 ローム状 砂混じり
E-2-2	7.5YR 5/2	暗褐色		小礫 焼酎 (E-2より砂多量)
E-3				大礫 焼酎 (E-2より砂多量)
E-3-1	10YR 6/4	褐色		赤土厚層 焼酎 ローム 混じり
E-3-2	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎 やや砂質
E-3-3	10YR 6/4	褐色		砂層 焼酎
E-3-4	7.5YR 6/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎
E-3-5	7.5YR 6/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎 砂粒少量 ややしまり有る
E-3-6	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎 (E-3より砂多量)
E-3-7	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎
E-3-8	7.5YR 4/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎 やや砂質
E-3-9	7.5YR 4/3	褐色		焼酎少量 全厚砂質
Fa-2a	10YR 5/4	暗褐色		焼酎 ローム状 互砂粒少量
Fa-2b	10YR 6/3	にがい黄褐色		焼酎 ローム状 砂
Fa-2c	10YR 5/3	暗褐色		焼酎少量 砂 互砂粒少量
Fa-2d	10YR 5/3	暗褐色		焼酎少量 砂 ローム状
Fa-2e	10YR 6/2	灰黄褐色		焼酎少量 砂 ローム状 火山灰少量

C間の繁りを見るべく板間調査区西壁D-D'を掘り下げイ〜ホの覆土を想定したが、複雑で困難を来した。C-C'面 で北側の立ち上りを追求し、DE1区座敷下を調査中に東から西へ傾斜する土層の堆積があり、B-B'土層観察面を設け掘り下げたところ、イ〜ラの覆土が想定され、それを切る土壌イも確認された(同図)。これに伴い、土層観察面A-A'においてイ〜ヌの覆土を持つ

遺構が想定された。いずれの底面も掘り切っていない可能性が残るのは同じである。D-D'土層観察面調査区遺構覆土の出土遺物は珠洲V・VI期播鉢3片2個体、越前播鉢、挟り高台白磁皿、青磁碗・皿・盤、などであり、上部からは同珠洲播鉢、白磁皿、青磁皿、九州陶磁IV期の乗付、白磁皿などが出土した。C-C'面調査区遺構覆土中からは大濠I期の天目茶碗・灰細皿、青磁碗、

染付蓮子碗などが出土した。又唐津描鉢（九州陶磁Ⅱ？）もある。調査区全体では染付獅子皿、17世紀初頭末染付碗、九州陶磁Ⅳ・Ⅴ期のものも出土している。A-A'面調査区遺構覆土中からは明染付などが出土した。

これらのことから、これらの遺構は15、16世紀代の時間差を有する二条の堀跡と推される。その新旧はC2、D2区境界の東西小トレンチで堀跡Ⅱ（南北方向）の覆土が確認されたので、これが新しいと考えられる。（松崎）

（ロ）旧笹浪家住宅附属雑倉周辺

雑倉（第11・12図・PL.7-1）：A・B6区周辺に位置する。雑倉は昭和33年に建てられた板倉で、今回の主屋の解体修理に伴い解体された。雑倉周辺の地形は、東と北側で現地表面より約40cm程高く、東・北側では自然裸で石積みを行っている。聞き取りによると昭和33年に雑倉が建つ前、この場所は畑に利用されていたとのことである。また笹浪家古文書の中にある家の取寄り図には、この辺りに4間×3間の建物があつたことが記されている。さらに、明治20年頃の様子を描いた銅板画には、「クラ」と推される建物が見える。しかし、同じ明治20年頃銅版画でも笹浪家を中心に描いたものは、石垣の上に建つ瓦葺の土蔵の様に見えるが、小学校と八幡宮を中心に描いた銅版画では板倉になっており、構造の違いが推される。雑倉下層の調査は、上記の旧笹浪家関連遺構の確認を最初の目的とし、更に下層に想定される勝山館堀跡の検出までを行った。

調査は昭和33年築の雑倉の礎石から着手した（第11図上）。長軸（棟方向）5個、短軸3個の礎石が並ぶ（PL.7-1）。礎石の下には栗石を検出した（PL.7-4）。

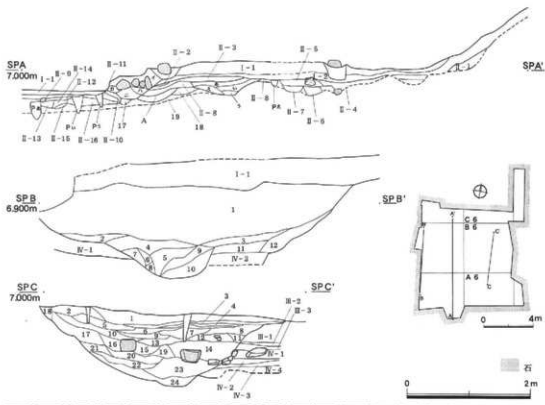
雑倉下層の遺構は掘りこみ面、切合い関係から以下の新旧関係が推される。土壌14は雑倉礎石の掘方精査時に確認したもので、下層遺構中最も新しい遺構である。雑倉築造直前期（第11図下）と推される。溝は4条検出した。溝7は南北方向に、溝8・9・10は東西方向である。いずれも杭穴と推される小柱穴が見られる。溝10は溝9に切られる。新旧関係は、溝10→溝9→溝8→溝7と推移したと想定される。溝8では縄状突帯がある肥前壺片が出土した。内面には当て具の痕跡と推される四角い凹みが僅かながら確認できた。年代は19

世紀と推される。柱穴は46基検出したが、建物跡を想定する事は出来なかった。ただP97・98・117・118～123は、主屋の柱列のほぼ延長線上にあり、（PL.7-6）、旧笹浪家住宅に關係があるとも推される。その内P118には礎盤が敷かれていた（PL.7-8）。その他の柱穴は、建物としての纏まりを想定できず、また細かな時期想定もできなかった。A6区で石列を検出した。石列は背後の山を削り平坦にした岩盤直上にあり、石列と岩盤間に堆積はほとんど認められないことから、岩盤削平直後に並べられたと推される。又、この石列周辺の岩盤直上で19世紀中頃の肥前磁器の皿が出土していることから、主屋創建期（19世紀前半）に周辺を造成したときに作られたものと推される。

発掘調査の結果では、石垣や基礎布石の掘方、抜き取りの痕跡は確認できなかったため、伝承の「クラ」は土蔵ではなく板倉であったと推されるが、銅版画の土蔵を否定する確たる証拠も得られなかったため、結論は留保する。また、古文書間取り図と合致するような建物跡も検出することが出来なかった。遺構の認識・精査不足もその一因といえるが、雑倉の周辺は、約170年以上位置を大きく変えることの無かった主屋に比べると畑地や倉などの付属屋の建替と、利用状況の変化も激しかったため、遺構が失われていると推される。

土壌16（第13図・PL.7-5）：B6区に位置する。東側は掘りこみ面から昭和の頃と推される土壌に壊されているため、当初の平面形は不明であるが、長軸5m、短軸1m強の長方形であったと推される。深さは70cm。溝底部で南北に並ぶ樽（結桶）2個を検出した。樽底板の経はいずれも90cm前後。また南側の樽底板上に蓋と推される木片を検出した。覆土は礫粒が混じる暗褐色土が主体で、覆土全体の土質が似ていることと堆積状況から樽を据えたまま一気に埋められたと推される。

覆土から肥前磁器丸筒茶碗・皿等の陶磁器31点が出土している。その内、覆土下位で出土した肥前磁器皿（第21図13）は、の年代は18世紀後半である。1点だけ覆土上部から瀬戸の染付と推される磁器片が出土しているが、それ以外は18世紀末～19世紀初頭の年代までに納まるものと推される。上部は攪乱を受けているので、一部新しい遺物が混じった可能性があり、またさらに産地・年代とも特定できなかった壺片があり、年代決定に検討



第10図 宮ノ沢川右岸地区（旧笹浪家住宅雑倉）土層堆積図

の余地はあるが、旧笹浪家主屋創建年代より若干古い遺構と推される。

勝山館期堀跡（第10図・PL.7-7・9）：A6区周辺に位置する。昨年度主屋裏の庭（A1～4区周辺）を調査時に検出した堀跡の延長部を検出した。堀の方向は昨年度検出部同様ほぼ東西方向である。断面形はV字状を呈し、上部幅は4mである。西部の宮ノ沢川に取り付く付近では、岩盤を削りこんでおり、沢の水を引き込んでいたと推される。なお堀下部は縄文時代後・晩期の遺物包含層を切る。覆土上面では唐津碗（第21図5）が出土している。覆土は茶盤粒や礫が混じり緻密であり、土質も似ていることから、一気に埋められたと推される。

遺物は、擾乱や整地により各層間を移動しているため、基本層からさらに細分された層序個々に年代を決定づけることは出来なかった。以下雑倉周辺から出土した陶磁器を列挙すると、越前掬鉢、

青磁椀花皿、白磁端反皿、染付碗・皿、唐津碗・胎土目積皿・砂目積皿、志野皿、17世紀～19世紀期代の肥前碗・皿・鉢・甕がある。（松田）

（ハ）宮ノ沢川左岸地区

宮ノ沢川左岸（西側）には旧笹浪家に附属する土蔵が南北に2棟並ぶ。南棟は内部を二分した土蔵である。南側が米蔵、北側が文庫蔵と称していたことが、出入口敷鴨居方立の墨書から判明している。出入口はいずれも東にある。平成3年老朽化により崩壊寸前の米・文庫蔵を文化財建造物協会に委託し解体工事を行った。解体工事時の調査により裏白戸裏面のへら書きに「嘉永元九月六日」（1848）とあり、築造年代が判明した。北棟は東入口の土戸の刻銘から明治18（1885）年造と判明している。北棟の土蔵は主屋と同時に重要文化財に指定され、平成12年、修理にあたり解体が行われた。またこれら土蔵の南側には明治9年勝山館跡から移設された八幡宮本殿と付設の押廂があり、

表6 旧笹浪家 雑倉南北セクション東壁土層観察表 (A-A')

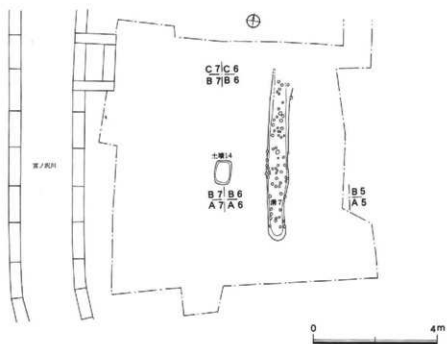
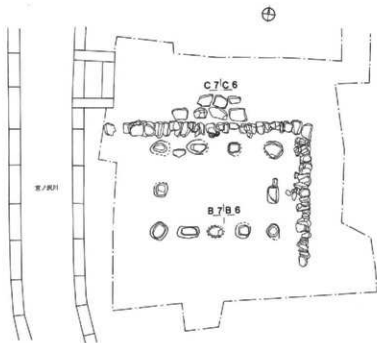
1-1	MYR	3/2-3/3	黒褐色・暗褐色	埋土・埋戻土層	礎 土のり 礎石 基礎礎 人前土土	中やハード ややソフト	灰化物少量	
1-2	MYR	3/2-3/3	暗褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎			
0-1					砂 礎礎			
0-2					礎石 礎礎10%			
0-3	MYR	3/2	黒褐色	埋土・埋戻土層		中やハード		
0-4								
0-5								
0-6								
0-7								
0-8	MYR	3/2	黒褐色	埋戻土層	礎 礎礎20% 基礎礎少量	ソフト		
0-9	T.MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎 礎礎少量 礎石20% 礎	ソフト		
0-10	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	玉砕砂少量 礎石 基礎礎少量 ロームブロック少量	中やソフト		
0-11	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	基礎礎少量	ややソフト	灰化物少量	
0-12	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	玉砕砂少量	ソフト		
0-13	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	基礎礎 礎石20%	ややソフト		
0-14								
0-15								
0-16	MYR	4/3	1.0-1.5黄褐色	埋土・埋戻土層		ソフト		
0-17								
0-18	MYR	4/3	灰黄色	埋戻土層	基礎礎少量 基礎礎少量	中やハード	灰化物少量	
0-19								
0-20	MYR	3/2	黒褐色	埋戻土層	礎少量 基礎礎少量	中やハード	灰化物少量1%	
0-21	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	玉砕砂10% 礎石 基礎礎	中やハード		
0-22	MYR	4/2	灰黄色	埋戻土層	玉砕砂10% 礎石 基礎礎少量	中やソフト		
0-23	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎			
埋土	0-24	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎 玉砕砂少量 礎石 基礎礎 木片	ソフト	
0-25	T.MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎 基礎礎少量 礎石少量	中やソフト		
0-26	MYR	3/2	黒褐色	埋戻土層	基礎礎少量 礎石少量	ソフト		
0-27	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	基礎礎少量 礎	ソフト	灰化物少量	
0-28	A	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	基礎礎少量 礎石少量 礎	ソフト	灰化物少量
0-29	MYR	4/2	灰黄色	埋戻土層	礎 土のり 礎石 基礎礎少量	ソフト		
0-30	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎 礎石少量	ソフト		
0-31	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎 礎石	ソフト		

表7 旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表 (B-B')

1-1	MYR	3/4	暗褐色	埋土	礎石 プレ		灰化物
0-1	MYR	4/3	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	基礎礎 礎		
0-2					砂層		
0-3	MYR	3/3	暗褐色	埋戻土層	埋戻土層(大堀)		
0-4					穴跡(30x30)		
0-5					穴跡(30x30)		
0-6	MYR	4/2-4/4	1.0-1.5黄褐色・褐色	埋戻土層	瓦 礎礎		
0-7	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	大堀 礎石 玉砕砂少量		
0-8	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	小堀 砂		
0-9	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	小堀 玉砕砂 砂		
0-10	MYR	4/4	褐色	埋戻土層	中堀 礎石 玉砕砂		
0-11					礎 礎石 玉砕砂少量		
0-12					10x10小堀		
0-13					礎石 基礎礎 砂		

表8 旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表 (C-C')

0-1	MYR	4/4	褐色	埋戻土層	ロームブロック 礎石 基礎礎 石 砕砂(20)	中やハード	灰化物少量
0-2	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 ローム礎	ソフト	
0-3	MYR	3/4	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	礎石 礎	ハード	
0-4	MYR	4/6	褐色	埋戻土層	礎石少量 基礎礎 砂 砂	ハード	
0-5	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	砂少量 基礎礎 礎石 砂コロロ	ソフト	灰化物少量
0-6	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	砂少量 砂コロロ 礎石 基礎礎		
0-7	MYR	4/2	褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石 基礎礎 砂 砂コロロ	中やソフト	
0-8	MYR	4/2-4/4	1.0-1.5黄褐色・褐色	埋戻土層	ロームブロック ローム礎 礎石 砂コロロ 基礎礎	中やハード	
0-9	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石少量 基礎礎	中やハード	
0-10	MYR	4/4-4/6	褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石少量 基礎礎	ソフト	
0-11	MYR	4/4-4/6	褐色	埋戻土層	ローム礎 砂 砂 礎石少量 基礎礎 砂コロロ	ソフト	
0-12	MYR	3/2-3/2	暗褐色	埋戻土層	ローム礎 砂 砂 礎石少量 基礎礎 砂コロロ	ソフト	
0-13	MYR	4/4-4/6	褐色	埋戻土層	礎・ローム土層	ハード	
0-14	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石少量 基礎礎 砂コロロ	ソフト	灰化物少量
0-15	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 基礎礎 礎石	ソフト	
0-16	MYR	4/4-4/6	褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 基礎礎 礎石 (1)玉砕ローム少量	ハード	
0-17	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 礎石	ソフト	
0-18	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 砂少量 玉砕ローム 基礎礎少量 砂 砂 砂	ハード	
0-19	MYR	4/4	褐色	埋戻土層	礎石 砂 ローム礎 基礎礎	ソフト	
0-20	MYR	4/4	褐色	埋戻土層	礎石 砂 ローム礎 基礎礎	ソフト	
0-21	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 ローム礎 砂 砂少量	ハード	
0-22	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石 基礎礎 中や基礎土	ソフト	
0-23	T.MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石少量 砂 ローム礎 基礎礎少量 中や基礎土	ソフト	
0-24	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎石 砂 ローム礎	ハード	
0-25	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	砂層 石少量		
0-26	T.MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石少量 砂 ローム礎 基礎礎 石少量 中や基礎土	ハード	
0-27	MYR	3/2	暗褐色	埋戻土層	礎石少量 基礎礎 基礎礎 石少量 中や基礎土	ソフト	



第11図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図1



第12図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図2

北側は大蔵伝説の若宮社があったと言われる所である。

米蔵・文庫蔵(第15図・PL.8)：A'・A12区周辺に位置する。長軸9.7m、短軸6.2m。基礎は上部は笏谷石と推される凝灰岩を2段、下部には軟質泥岩の切石を2段積み、布基礎とする(第14図)。文庫蔵の基礎内側には、礎石列が南北方向に7列並び、各列の礎石の数は、おおむね10~15個前後である。礎石列間の距離は、概ね50cm前後だが、入口に面する東1・2列間のみ20~30cmと狭い。また根太と床下間に厚さ10cm程で玉砂利を敷く。米蔵も文庫蔵同様、床下は根太の礎石が並び、砂利敷きの状態であったが、解体時調査では床板がはずされ砂利を覆う様に粘性の高い土が入られ、土間となった状態で検出されている。

米蔵下層に断面から4m×4m程と想定される大きな土塊を確認したが、土蔵の遺構保存を優先し、調査は行わなかったため、詳細は不明である。

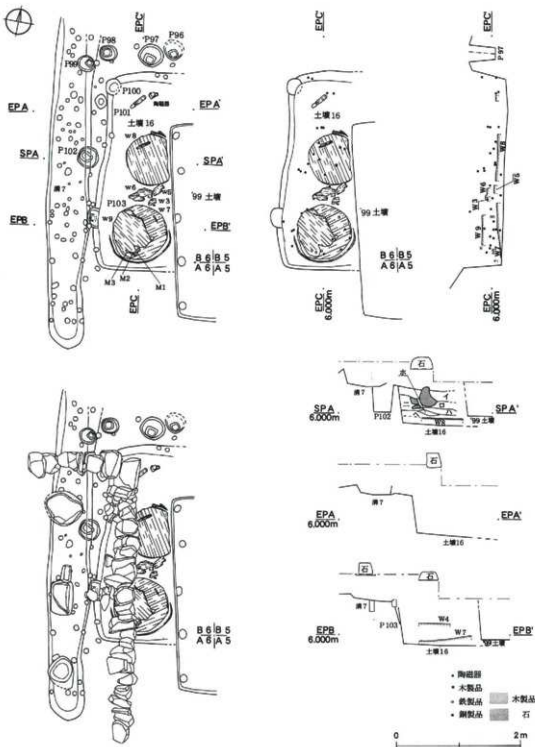
米・文庫蔵周辺では、近世~現代の肥前陶磁器・瀬戸磁器などが出土遺物の大半を占めるが、表

土中や攪乱中からのものを含むと、青磁椀皿(PL.4-3右)、青磁香炉、染付碗・皿、唐津胎土目積み皿等の中世~近世初頭の陶磁器も確認されている。変わったものでは、瓦質土器(火鉢?)が出土している。

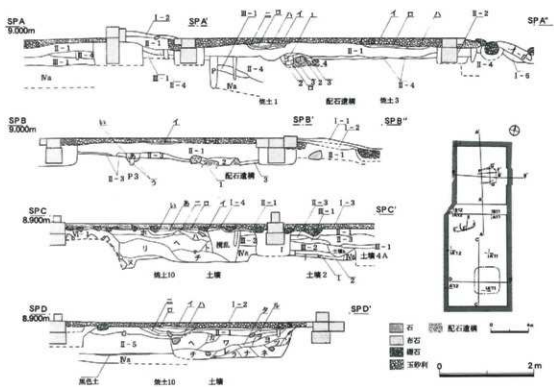
重要文化財土蔵(第15図・PL.8-9)：B・C12区に位置する。基礎の規模は長軸6.1m、短軸5.3m。東側が正面出入口となる。この土蔵には、桁行4間(7.0m)、梁間5間(7.3m)のサヤが伴う。

基礎は上から凝灰岩を2段、軟質泥岩を1段積み、布基礎とする。基礎周りの緑石の下には玉砂利を敷いており、水はけを良くするためと推される(第14図)。重文土蔵では米・文庫蔵と同様に基礎内側・床面には厚さ10cm程で玉砂利を敷く。重文土蔵では根太を受ける礎石がなく、玉砂利で受ける。また現存サヤの礎石と異なる位置に礎石が並ぶため、サヤの立替の可能性があると考えられる。

配石遺構(第20図・PL.8-10)：B・C12区



第13図 宮ノ沢川右岸地区土壌16平面図他



第14図 宮ノ沢川左岸地区(旧笹浪家住宅附属土蔵)土層堆積図

表9 旧笹浪家 土壌16土層観察表

イ	1971L	3/3	暗褐色土主体	土・腐植土体	腐 干砂利 腐植5%	ややハード	炭化物少量
ロ	1971L	3/3	暗褐色土主体	土・腐植土体	腐 腐植 腐植10%	ややソフト	
ハ	1971L	4/2	灰褐色土主体	土・腐植土体	腐 腐植 腐植5%	ややソフト	
ニ	1971L	4/2	灰褐色土主体	土・腐植土体	腐 腐植 腐	ややハード	
ホ	1971L	3/2	灰褐色土主体	土・腐植土体	腐植 腐植少量	ソフト	
ヘ	1971L	3/2	暗褐色土主体	土・腐植土体	腐植% 腐植	ややハード	

表10 旧笹浪家附属土蔵南北セクション東壁土層観察表 (A-A'-A'')

1-1					粘土		
1-2					玉砂利		
1-5	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	腐植 小石		
1-6	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色・褐色	腐・腐植土体	腐植 小石		
B-1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植・灰質土体	ロームブロック 玉砂利 腐植 基盤粒 乾葉と砂粒	湿性 ハード	炭化物
B-2	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土体	腐植 小石 玉砂利	ソフト	
B-4	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土体	腐植と乾葉と砂粒	ハード	
B-5	7.5YR	2/3-3/1	暗褐色	腐植・炭化物主体	腐植 7.5YR2/3乾葉とブロック状腐り しまり腐り	湿性 ソフト	腐土粒
B-6	7.5YR	3/3-4/4	暗褐色・褐色	腐植土体	腐植 ガラゴロ 小石と基盤粒	ソフト	
腐土1	イ				7.5YR6/5腐植腐り・5YR3/4暗褐色・7.5YR3.7/1腐植ゴッド	ハード	
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	ロームブロック 腐植 基盤粒 玉砂利	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	やや乾質 腐植 基盤粒 玉砂利	ソフト	
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 基盤粒	ソフト	
腐土2	イ				7.5YR6/5腐植腐り・5YR3/4暗褐色土粒7.5YR3.7/1(灰褐色ゴッド)	ハード	
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 玉砂利	ハード	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 干砂利(腐土粒・暗褐色土質あり)	ハード	
腐土3	1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植 基盤粒 玉砂利	ハード	
	2	7.5YR	4/4-4/3	暗褐色	腐植土体	ハード	
	3	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植	湿性 ソフト	C少量
	4	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 基盤粒 玉砂利	湿性 ソフト	
腐土4	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 小石 基盤粒	ハード	炭化物 腐土粒
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 基盤粒 玉砂利	ハード	

表11 旧笹浪家附属土蔵東西セクション南壁土層観察表 (B-B')

1-1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土体			
1-2					粘土		
1-3					玉砂利		
B-1	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色・褐色	腐植土体	腐植 玉砂利 ローム 小石 腐植	ハード	
B-2	7.5YR	4/4-4/3	暗褐色	腐植・砂粒土体	腐植 基盤粒 ローム粒	ハード	
腐土1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	腐植 玉砂利 (腐土粒・暗褐色土質あり)		
Fls.3	ホ	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色・褐色	腐植 基盤粒 玉砂利	ソフト	
	イ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植 基盤粒 干砂利	ソフト	
	ロ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植 基盤粒 玉砂利	ソフト	
腐土4	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植 基盤粒	ソフト	
(腐土) 2	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土体	腐植 基盤粒	ややハード	

表12 旧笹浪家附属土蔵南北セクション西壁土層観察表 (C-C')

1-2					玉砂利			
1-4	7.5YR	3/2	暗褐色	基盤粒土体	腐植	ハード	炭化物少量	
B-1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	砂粒 玉砂利 腐植 基盤粒 しまり腐り	ハード		
B-2	7.5YR	4/1-5/3-5/2	灰色・暗褐色・灰褐色	腐植・砂粒土体	砂粒 玉砂利 腐植 腐植 腐植とブロック状腐り	湿性 ソフト	C少量 炭化物 色の少ない	
B-3	7.5YR	3/1	暗褐色	腐植土主体	7.5YR3.7/3腐植 腐植とブロック状腐り しまり腐り	ソフト		
B-2	7.5YR	3/3-4/4-5/2	暗褐色・褐色・灰褐色	腐植・基盤粒土体	腐植 基盤粒 基盤粒 しまり腐り	湿性 ソフト		
B-6	7.5YR	3/3-4/4	暗褐色・褐色	腐植・腐植土体	腐植 玉砂利 腐植 砂 小石と基盤粒 ガラゴロ	ややハード	C微量	
B-1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植	全腐植	ハード		
土層	イ	7.5YR	4/3	暗褐色	基盤粒土体	干砂利 腐植	硬土層	
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	玉砂利 腐植	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	干砂利 腐植 基盤粒	ソフト	
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	玉砂利 腐植 基盤粒	ソフト	
	ホ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	玉砂利 腐植	ハード	
	イ	7.5YR	4/2-3/3	灰褐色・暗褐色	腐植土体	玉砂利 腐植	ソフト	
	ロ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土主体	玉砂利 腐植	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土体	腐植	ソフト	
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土主体	腐植	ソフト	
	ホ	7.5YR	4/2-1/2	灰褐色・灰褐色	腐植土体	干砂利 腐植 白色火山灰	ソフト	
	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土主体	腐植	ハード	
腐土5	ホ	7.5YR	4/1	暗褐色	腐植土主体	腐植	ハード	
	イ	7.5YR	2/1	灰色	腐植土主体	7.5YR6/5腐	ハード	
土層6	イ	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土主体	基盤粒 基盤粒 しまり腐り	ハード	
土層7	1	7.5YR	3/2	暗褐色	砂粒土体		湿性 ソフト	炭化物あり 島の半量ほど
	2	7.5YR	4/2	暗褐色	腐植土体		湿性 ソフト	炭化物あり 島の半量ほど
土層8	A	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土主体	小石と基盤粒	ハード	

表27 第Ⅰ地区第117・116号基・土壌4・第98号基南北セクション西壁土層観察表(E-E'-E'')

1-1	1.5YR 3/2	暗褐色	腐植土体	根粒少量	自然土山吹少量	ローム粒	ソフツ	
B-1	7.5YR 3/2	暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒 <td>大山吹少量 <td>ローム粒</td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td></td></td>	腐植土体 <td>根粒 <td>大山吹少量 <td>ローム粒</td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td></td>	根粒 <td>大山吹少量 <td>ローム粒</td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td>	大山吹少量 <td>ローム粒</td> <td>ややソフツ</td> <td></td>	ローム粒	ややソフツ	
B-2	7.5YR 4/3 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	玉砂利	ローム粒	ソフツ	
					玉砂利	ローム粒	ソフツ	
B-3	7.5YR 4/2-4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	ローム粒	ソフツ	C少量
V-1	7.5YR 3/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>小石等</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>小石等</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	小石等	ローム粒	ソフツ	
V-2	7.5YR 4/3 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	シルト		ソフツ	
V-3	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	
V-4	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	
山吹土層	7.5YR 4/2-4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	山吹土層		ソフツ	
マウンド	1 7.5YR 4/2-3/3	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒 <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	腐植土体 <td>根粒 <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	根粒 <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	ローム粒		ソフツ	C少量
	2 7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ローム粒		ソフツ	
	3 7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	山吹土層		ソフツ	
掘り方	イ 7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	ローム粒	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	やや多い根粒	ハードローム	ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	やや多い根粒	ソフツローム	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	やや多い根粒		ソフツ	
ヘ	7.5YR 4/1-3/4 <td>褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	やや多い根粒		ソフツ	
植付地帯	イ 7.5YR 4/1-3/4 <td>褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>しまり有り</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>しまり有り</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>しまり有り</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	根粒	しまり有り	ソフツ	
ロ	7.5YR 4/3-4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	やや多い根粒	ハードローム	ソフツ	
ハ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>小石</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>小石</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>小石</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	小石	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/4-3/4 <td>褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	やや多い根粒		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>やや多い根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	やや多い根粒		ソフツ	C少量
山吹土層	7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	山吹土層		ソフツ	
マウンド	1 7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>シルト</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	シルト		ソフツ	C少量
イ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ローム粒		ソフツ	
ロ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ローム粒		ソフツ	
ハ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ローム粒		ソフツ	
ニ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	
ホ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	根粒	玉砂利	ソフツ	
ヘ	7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	根粒	ハードローム	ソフツ	
土壌4	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	根粒	ハードローム	ソフツ	
マウンド1	7.5YR 4/2-3/3 <td>褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色・暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	根粒		ソフツ	
(山吹土層)	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
山吹土層	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
マウンド	1 7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	ローム粒	玉砂利	C少量
イ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>ローム粒</td> <td>玉砂利</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	ローム粒	玉砂利	C少量
ロ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	玉砂利	少量	C少量
ハ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	玉砂利	少量	C少量
ニ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td>	根粒	根粒	大山吹	C少量	
ヘ	7.5YR 4/4-4/3 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
植付地帯	イ 7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
植付地帯	イ 7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
植付地帯	1 7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量

表28 夷王山墳墓群第Ⅰ地区第98・123号基南北セクション東壁土層観察表(B-B')

1-1	7.5YR 3/2	暗褐色	腐植土体	根粒少量	自然土山吹少量	ローム粒	ソフツ	
B-1	7.5YR 3/2 <td>暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td></td>	暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ややソフツ</td> <td></td>	根粒	山吹土層		ややソフツ	
B-2	7.5YR 3/2 <td>暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	山吹土層		ソフツ	C少量
V	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ソフツローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ソフツローム		ソフツ	
山吹土層	7.5YR 4/2-4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>ハードローム</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td></td>	根粒	ハードローム		ソフツ	
マウンド	1 7.5YR 4/1 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ややソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ややソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ややソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ややソフツ	C少量
掘り方	イ 7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	山吹土層	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>山吹土層</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	山吹土層	ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒	玉砂利	少量	C少量
ニ	7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td>大山吹</td> <td>C少量</td> <td></td>	根粒	根粒	大山吹	C少量	
ヘ	7.5YR 4/4-4/3 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
植付地帯	イ 7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/1-4/2 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量
植付地帯	1 7.5YR 4/4 <td>褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td></td>	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>根粒</td> <td></td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	根粒		ソフツ	C少量

表29 第Ⅰ地区第126号基土層観察表

イ	7.5YR 4/4	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 3/4	暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 3/4	暗褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量
植付地帯	7.5YR 4/2	褐色 <td>腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	腐植土体 <td>根粒</td> <td>玉砂利</td> <td>少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	根粒	玉砂利	少量	ソフツ	C少量

鈎から10cmほどで一度欠失し、先端まで7cmほどを漆加工の上から皮(樹皮?)状の物を巻きつけている。先端(柄頭)は紡錘形で丸い飾鉢状の跡が残る。柄中央部に巾3mmの赤漆が帯状に10cmほどの長さにつく。鈎は銅製木瓜型、猪目透して、青海波地に菱形が四方につく。鞘は黒漆地に柄前同様に皮(樹皮)状のものが巻かれる。太刀柄頭から齒列南側に小刀(腰刀)が刃部を東に向けて副えられる。全長29cm。合口・柄側15cmの間に飾鉢が五個置かれる。柄頭の一は痕跡となっている。二つの鉢と鉢の間に帯状に皮(樹皮?)ないし金属が巻かれる。更にこの上に斜めに数条織線状のもの着が見られる。この小刀の柄部分北東方向に金属片があった。26図7の針がこれかと推する(後述)。漆器1は皮膜残片のみであるが、伏せられた状態の椀と推している。

東壁南寄り、歯列を検出し、頭部痕跡を認めた。歯列は上下に離れ、口が空いた状態である。上・下に2個の円形耳飾が検出され額は左・南横向きと推された。右耳飾一端には細いコイルが付く赤味を帯びた半透明の玉が付く。左耳飾は間が開いており、玉、コイル共に不明である。共に一端に穴が穿たれ、他端は丸味を帯びる。鉄筋は見られず、白ないし銀灰色を呈しており、銀又は錫製かと推される。左耳飾には首・下顎部?等の骨の一部が付着する。頭部南に太刀2が副えられる。鈎脇に骨が一部残るが、部位が特定できず、太刀が齒列1のように体の中央に副えたとは断定できない。

太刀は全長62.5cm、柄頭を若干欠失する。刀身部長42.5cm、巾4.5cm、柄部巾3.5cmほどである。鞘木質部は口金物付近に僅かに残るだけである。柄前は緑金物が付き、鈎から11cm程で欠失し、柄頭部分が残る。柄頭に近く欠失するのは蓋尻がほぼこの位置であることを示すと推される。前述の太刀1も同じである。鈎に近く、輪花状に八個小孔を通した2.5cmほどの台座中央に銚を打ち目貫とする。更に3cmほど間を置いた柄中央部に径2cmの銀製の丸い台座を三ヶ所で釘?止めしその中央に同じく銚が打たれる。第116号墓の太刀に目釘穴が2個見られることから、これも目貫と思われる。なおこの中央の銚は、調査取り上中に欠失した。先端柄頭に飾り銚が打たれる。鈎は銅製のやや長めの楕円形。耳の一部に白色が残り、或は

鍍銀されていたのかも知れない。両面に三つ?巴丸紋が八個据えられる。柄前には同様の大切刃がつく。南壁中央西寄りで漆器椀が出土した。殆ど皮膜のみであるが伏せて置かれているようである。南壁西隅で刀子と釘が出土した。床面直上の土を東から頭部、中央部、西端足元と分割して採取、水洗した。東頭部の土から26図6の鐵身と7の針を得た。針は前述のように調査中に小刀2の柄付近の金属片としていたものかと思われる。銚の出土地点は不明である。中央に骨製鐵身があり、それに鉄片がはめられ、鉄筋で止められている。勝山館跡出土の銚で骨と鉄(金属)を組み合わせた例は初出である(銚頭は1点出土している)。

98号墓を掘り下げ中、Ko-d火山灰を覆土に含む柱穴を検出し図示した。Pit 1、2は覆土上部からの掘り込みであり、墳墓構築後のものであろう。Pit 3は墓壇南壁中央際で墳底の精査中に検出したものである。墳底に設けられた何らかの埋納坑とも推し精査した結果、柱痕跡を確認するにいたった。土層図を再検討し壁際の軟らかで空疎な層とKo-d火山灰の存在から、埋葬後に封土上部から掘りこまれた柱穴を見逃したものと判断した。これは歯列2の被葬者の埋葬が傾伏状態で、太刀2の位置に遺骸があったとしてもPitの掘り方は遺骸ざりであり、埋葬時に遺骸を傷めずに掘り込み立柱したとするのは困難と推したことも一因である。従って墳墓構築後この墓壇の上から2~3回、穴が掘られ柱が建てられ、ある期間同時に残存し、腐朽陥没していたところにKo-d火山灰が堆積したと推される。何らかの追善供養のような儀式を想定すべきであろうか。第41図1の唐津皿は98、123号墓を覆うマウンドの表土・草根を除去中にその頂部北寄りで検出したものである。第1層と認識し、写真撮影等も行っていない。その後その斜面下、平坦面を被覆する砂利層中から同2が出土した。共に被熱のため釉が溶け肌荒れが著しい。検出状況から1の原位置を特定することには無理があるが、98号墓覆土上面の炭化物の広がりか或いはこれに関連するとも推しているが、類例もないので、柱穴同様、結論は留保しておきたい。(松崎)

第119号墓(第27図・PL.10-8): C12区に位置する。墓壇の長軸126cm、短軸110cm。平面形は一辺がややへこみ歪んだ隅丸長方形。釘の出土位

置から棺の規模は72cm×35cmと推される。副葬品は銅銭9点。銅銭は棺想定地内中央よりやや西寄りと南西から出土した。人骨が検出されなかったため、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。(松田)

第120号墓(第28図)：117号墓の東、通路北脇に99号墓の表示があり、通路南から土層観察面を設け精査中検出した。北部墳底に通路面が達し、雨水等で一部削られた状況である。土層の堆積を木棺の内外で弁別することは充分でなかった。マウンドを作っていたようである。推定木棺中軸線北端に漆器(皿・杯)が、中軸線東半に銅銭がある。なお、棺外南東墓壇埋め土中から銅銭一枚が出土した。

第121号墓(第23・29図)：トレンチ3北端、斜面下で検出された。土層図、観察表中のc、e、f等は棺外の墓壇埋め土、b、dは棺内の堆積土と推される。小柱穴状の穴があるが詳細は不明。棺の長軸を北西・南東に持ち、南東壁側に銅銭が比較的多い。

土壌2(第23・30図)：トレンチ3で検出された。I層下部に黒色土層が堆積している。この層は他では殆ど見られないことから、縄文時代等の堆積とも推されたが、その下位に江戸時代としているII層が堆積しており、微量ながらKo-d火山灰が覆土イ・トに見られることから他の遺構と同時代とした。黒色土層の出自は後考したい。

覆土の殆どが墓壇礫粒を主体としており、床・壁の識別が困難であった。29図の平面図は掘り過ぎの状態が作図されているもので同図A A'の土層図の断面が本来かとも推している。遺物の分布等も合せ再検討したい。土壌内東半から礫に混って北海道式石冠の下半残欠、擦石が出土した(第41図34・33)。(松崎)

第127号墓(第31図・PL.11-3・4)：C9区に位置する。墓壇の長軸は現存部で97cm、短軸78cm、人骨は検出されなかったため、墓壇の長軸から頭位は東乃至西と推される。副葬品は刀子1点、銅銭3点。刀子(第41図31)と銅銭は墓壇中央付近から出土した。第129号墓と切り合い関係にあり第129号墓より古い。釘は出土せず、堆積状況からも棺位置は想定できなかったので、木棺に納められない直葬と推される。

第129号墓(第31図・PL.11-4~6)：C9区

に位置する。墓壇の長軸153cm、短軸105cm、釘の出土位置から棺の規模は74cm×52cmと推される。歯、四肢骨の一部が出土。歯の出土位置から推定頭位は東。副葬品は漆器1点、銅銭17点。漆器と銅銭は棺想定位置の南側から出土した。第127号墓と切り合い関係にあり、第127号墓より新しい。

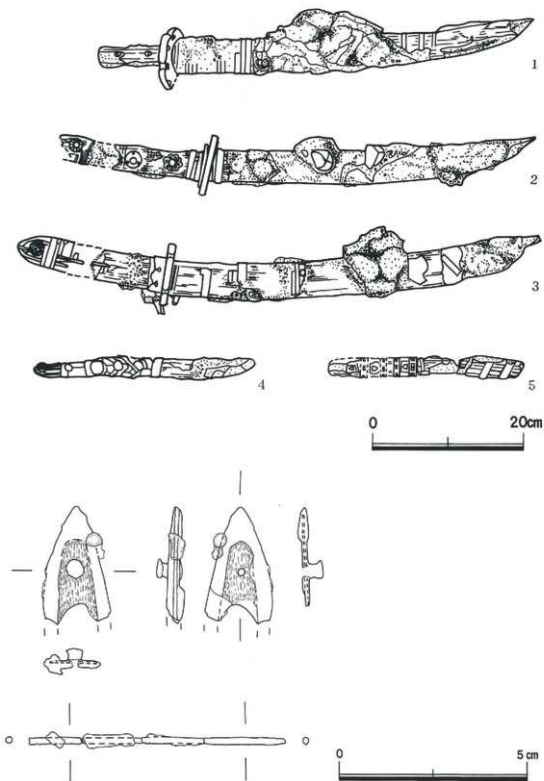
土壌5・6(第32図・PL.12-9)：C8区に位置する。土壌6は土壌5調査中に壁の位置が違うことから発見した。両者は切り合い関係にあり土壌6が新しい。土壌5は長軸134cm以上、短軸60cmの隅丸長方形。土壌6は長軸70cm、短軸62cmの歪な隅丸方形。遺物は無く、遺構の性格は不明である。

第97号墓(第33図・PL.10-1・2)：C10区に位置する。墓壇の長軸103cm、短軸70cm、釘の出土位置から棺の規模は71cm×33cmと推される。歯と部位不明の骨が出土。歯の出土位置から推定頭位は西。棺想定箇所中央西よりと東端で棺の一部と推される木片が出土した。

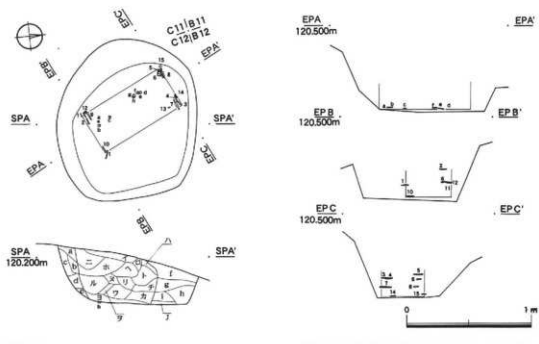
砂利敷遺構について(第34・35図・PL.3-1・2)：A・B・C・D14区周辺部に位置する。第I地区の台地から派生する小さな尾根を造成して作られた平坦面に玉石を敷いたものである。長軸は東西方向で約10m、短軸は南北方向で北側は後世に作られた土塁と溝により削り取られてしまっているため、現存部は約3mである。この砂利敷の平坦部で配石遺構2基と6基の墓を検出した。砂利の直上では白色火山灰(Ko-d)を検出している。又南東部で、唐津胎土目積皿(第41図2)が出土した。口縁は平らで、底部輪高台。被熱により軸索はただれている。白色火山灰が砂利直上に堆積することや唐津胎土目積皿が出土したことから砂利敷遺構は勝山館終末期頃のものと推される。

配石遺構1(第36図・PL.12-1)：B12区に位置する。上面が平滑な石を5個配置し、ほぼ正方形の平面形となることから建物の礎石と推される。石の各々の中心距離は91cm。3尺と想定できる。西側の石間に火葬骨が納められた墓壇(第128号墓)があり、石下に第124・125号墓がある。

配石遺構2(第35図・PL.12-3)：C12区に位置する。上面が平滑な石を7個配置しほぼ正方形の平面形となる。北側の石が第128号墓上にある、沈下している。石の各々の中心距離は76cm。



第26图 第I地区第98·116号墓出土遗物



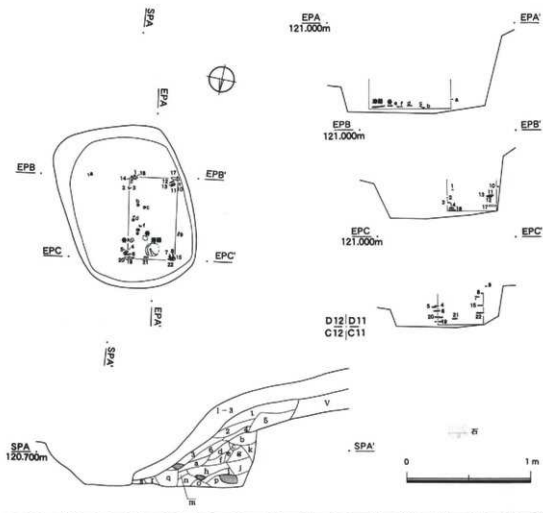
第27図 第I地区第119号墓平面図他

表30 第I地区119号墓土層観察表

層り方	a	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	b	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	c	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	d	7.5YR 4/3	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	e	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	f	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	g	7.5YR 4/2-4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	h	7.5YR 4/2-4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	i	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
経断部位	1	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	玉砂利中少量 ソフトローム	ややハード	C少量
	2	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	玉砂利少量	ソフト	C少量
	3	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	玉砂利少量 ソフトローム	ソフト	C少量
	4	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	玉砂利少量 ソフトローム	ソフト	C少量
	5	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	C少量
	6	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	7	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	8	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	9	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	10	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	11	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	12	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	13	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	14	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	15	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	16	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	17	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	18	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	19	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	20	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量

表31 第I地区第120号墓土層観察表

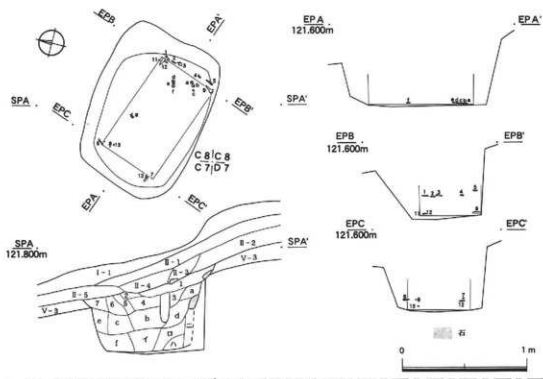
1-3	7.5YR 4/2-4/4	褐色	経断土体	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
4	7.5YR 4/4	褐色	軟土層	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
マウンド	1	7.5YR 4/3	褐色	軟土層	経断 玉砂利少量	ややハード	C少量
	2	7.5YR 4/4	褐色	軟土層	経断 ハードローム	ソフト	C少量
	3	7.5YR 4/4-5/4	褐色	軟土層	経断 ソフトローム	ソフト	C少量
	4	7.5YR 4/4	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	5	7.5YR 4/4	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	6	7.5YR 4/2-4/4	褐色	軟土層	経断 ソフトローム	ソフト	C少量
層り方	a	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	b	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	C少量
	c	7.5YR 4/4	褐色	経断土体	経断 ソフトローム	ソフト	C少量
	d	7.5YR 4/3	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	e	7.5YR 4/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム (ト)より暗い	ソフト	C少量
	f	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	暗褐色土体少量 ソフトローム	ソフト	C少量
	g	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	h	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	i	7.5YR 4/2	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	j	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム	ソフト	C少量
	k	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ソフトローム (へ)よりややしまり有り	ソフト	C少量
	l	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	経断 ソフトローム	ソフト	C少量
	m	7.5YR 4/2	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	n	7.5YR 4/3	褐色	軟土層	経断 ハードローム	ソフト	C少量
	o	7.5YR 4/3	褐色	軟土層	ソフトローム	ソフト	C少量
	p	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	経断 ローム しまり有り	経断 ソフト	C少量
	q	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ローム しまり有り	経断 ソフト	C少量
	r	7.5YR 2/2	暗褐色	経断土体	ローム しまり有り	経断 ソフト	C少量



第28図 第I地区第120号基平面図他

表32 第I地区第121号墓土層観察表

区画	層	土質	観察地点	地層主体	主要土層	特徴	土質
B-1	1	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	ローム状 五砂利中・多り	ややしまり有り	ソフト
	2	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状 中・しまり有り		ソフト
	3	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状		ソフト
	4	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状		ソフト
	5	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状	ローム状 火山区残層	ソフト
マウンド	1	T2YH 2/2・4/2	暗褐色	暗褐色土	ソフトローム 小石 礫状 無量		ソフト
	2	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	五砂利 小石混じり	ローム状	ややハード
	3	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	火山区少量 礫状 中・粘質		ソフト
	4	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状	ローム状	ややハード
	5	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	礫状		ソフト
	6	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	ソフトローム		ソフト
	7	T2YH 2/2	暗褐色	暗褐色土	ローム状 礫状		ソフト
溝り基	a	T2YH 2/2	暗褐色				ソフト
	b	T2YH 4/2・5/2	暗・暗褐色		小石少し混じり		ソフト
	c	T2YH 4/2・5/2	暗・暗褐色		灰・礫状 礫状 しまりなし		ソフト
	d	T2YH 4/2・5/2	暗・暗褐色		中・灰・礫状 灰・礫状 五砂利少量		ソフト
	e	T2YH 4/2	暗褐色		礫状 小石少量 ハードローム しまり有り		ややハード
	f	T2YH 4/2	暗褐色		礫状 ソフトローム		ソフト
埋戻土層	4	T2YH 4/2	暗褐色		礫状 小石少量 ソフトローム		ソフト
	11	T2YH 4/2	暗褐色		礫状 小石少量 ソフトローム		ソフト
	12	T2YH 4/2	暗褐色		礫状 しまりなし		ソフト
					ソフトローム		ソフト



第29図 第I地区第121号基平面図他

表33 第I地区土壌2土層観察表

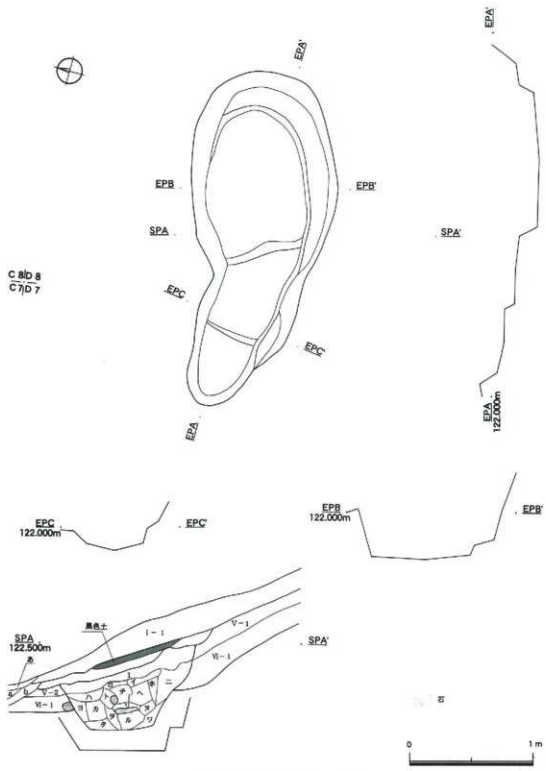
マウナブ	掘り方	土層	土質	掘り手	検出 大気中物質	土質	C数量
1	I-1	3/4	褐色	堀主	検出 ローム状 灰緑色腐葉	ソフト	C微量
2	I-2	3/2	暗褐色	堀主	ソフトローム	ソフト	C微量
3	I-3	4/4	暗褐色	堀主	検出 腐葉	ソフト	炭化物
4	I-4	4/2, 4/4	褐色	堀主	検出 ローム, しまり有り	ソフト	C微量
5	I-5	3/2	暗褐色	堀主	検出 ローム状	ソフト	C微量
6	I-6	3/2	暗褐色	堀主	ソフト	ソフト	C多量
7	I-7	3/2	暗褐色	掘主	ソフト	ソフト	炭化物
8	I-8	3/2	暗褐色	掘主	ソフト	ソフト	炭化物
9	I-9	2/1	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
10	I-10	2/1	褐色	掘主	ソフト	ソフト	炭化物
11	I-11	2/1	褐色	掘主	ソフト	ソフト	炭化物少量
12	I-12	3/2	暗褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
13	I-13	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
14	I-14	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
15	I-15	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
16	I-16	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
17	I-17	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
18	I-18	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量
19	I-19	4/2	褐色	掘主	ソフト	ソフト	C微量

表34 第I地区第127号土層観察表

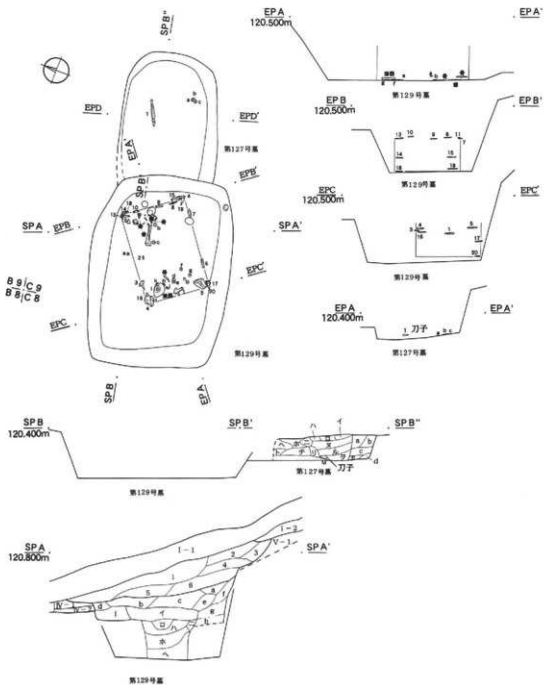
掘り方	土層	土質	掘り手	検出 大気中物質	土質	C数量
a	IV-1	3/4	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
b	IV-2	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
c	IV-3	2/4	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
d	IV-4	4/4	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
e	IV-5	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
f	IV-6	4/4	褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
g	IV-7	3/4	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
h	IV-8	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
i	IV-9	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
j	IV-10	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
k	IV-11	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
l	IV-12	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
m	IV-13	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
n	IV-14	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
o	IV-15	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
p	IV-16	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
q	IV-17	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
r	IV-18	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
s	IV-19	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
t	IV-20	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
u	IV-21	4/2	暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
v	IV-22	4/2	1.2A+暗褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量
w	IV-23	4/4	褐色	高放射少量	ソフト	炭化物少量

表35 第I地区第129号土層観察表

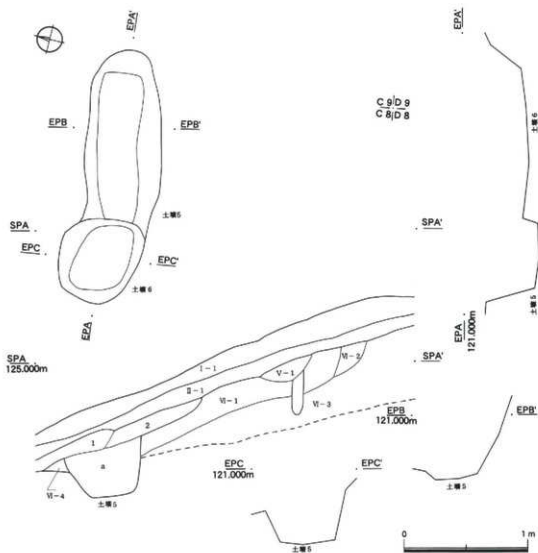
掘り方	土層	土質	掘り手	検出 大気中物質	土質	C数量
I-1	I-1	4/2	褐色	検出 ローム状	ハード	C微量
I-2	I-2	4/2	褐色	検出 ローム状	ハード	C微量
V-1	V-1	3/2, 4/2	暗褐色	検出 ローム状, 腐葉, 葉状物	ハード	C微量
V-2	V-2	3/2	暗褐色	検出 腐葉	ソフト	C微量
V-3	V-3	4/2	褐色	検出 ローム状	ソフト	炭化物少量



第30图 第I地区土壤2平面图他

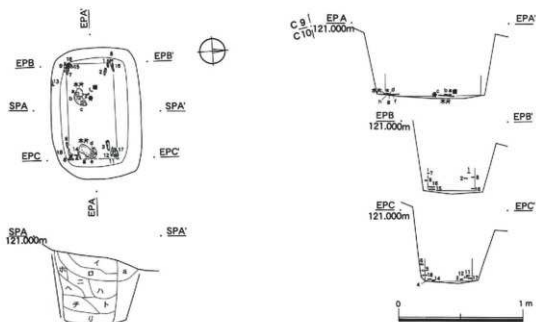


第31图 第I地区第127·129号基面图他



第32回 第I地区土壌5・6平面図他

マウンド	1	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ハード	C微量
	2	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ハード	C微量
	3	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ハードローム	ハード	C微量
	4	T3YR	1/3	暗褐色	砂質土体	粒粒	ソフト	C少量
	5							
	6	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ハードローム 基盤層	ハード	C微量
掘り方	a	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 土砂質少量	ソフト	C微量
	b	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒 (ハ)よりしまり有り	ソフト	C微量
	c	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	d	T3YR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ややハード	C微量
	e	T3YR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒	ソフト	炭化物少量 C微量
	f	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒	ソフト	C微量
	g	T3YR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒 玉砂利	ソフト	C微量
	h	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ややハード	C微量
植物立地	i	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ややハード	C微量
	j	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	k	T3YR	1/3	暗褐色	砂質土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	l	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	m	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	n	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	o	T3YR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量
	p	T3YR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C微量



第33図 第I地区97号基平面図他

表36 第I地区土壌6土層観察表

土-1	7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植多量、礫粒	ソフト	C含量
土-1	7BYR 4/2-4/2.4	褐色	腐植土層	腐植、ローム粒	ソフト	C含量
土-1	7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植少量	ソフト	
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植、基盤礫多量、石の再堆積?	ハード	
土-4	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植	ややハード	
マウンテ	1 7BYR 3/2	褐色	礫土層	基盤礫、ローム粒	ややハード	C含量
マウンテ	2 7BYR 3/2	褐色	礫土層	基盤礫、ローム粒	ややハード	
マウンテ	a 7BYR 4/2	褐色	礫土層	基盤礫、ローム粒	ソフト	

表37 第I地区第97号基土層観察表

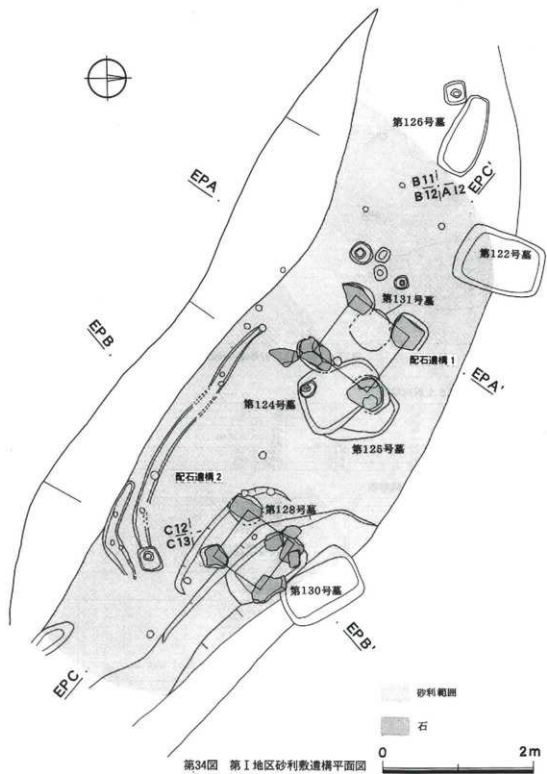
層の厚	a	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫多量、ローム	ハード	
腐植土層	c	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量、ローム	ハード	
	d	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量 (c)よりややソフト	ソフト	
	e	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫多量	ハード	
	f	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量	ソフト	
	g	7BYR 4/2	暗褐色	腐植	ソフト	
	h	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫少量、石コロロ	ソフト	
	i	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫少量	ややハード	
	j	7BYR 3/2	暗褐色	腐植	ソフト	
	k	7BYR 4/2	褐色	腐植、ローム粒	ソフト	

表38 第I地区配石遺構1 南北セクション西壁土層観察表

土-1	7BYR 4/2	褐色	腐植、ローム粒、玉砂利			
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植、全形粘土質			
土-3	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、玉砂利多量	ソフト		
土-4	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、基盤礫少量			
土-5	7BYR 4/2	暗褐色	腐植少量、玉砂利多量	ソフト		
土-6	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	ローム、ゴロ石			
土-7	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、やや粘土質			
土-8	7BYR 4/2	褐色	腐植少量、全形粘土質	ハード		
石土層南方	e	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量	ソフト	
石土層南方	f	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、基盤礫少量	ややソフト	
石土層南方	g	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、ローム粒少量	ソフト	

表39 第I地区配石遺構2 南北セクション東壁土層観察表

土-1	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	三砂利層	
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植、玉砂利少量、粘土質こり	
土-3	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植少量、粘土質こり	
土-4	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	基盤礫少量	[[土]]よりハード
土-5	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	基盤礫少量、基盤礫	ハード
土-6	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	腐植少量、基盤礫	ややソフト
土-7	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	腐植、腐植少量、腐植少量	ややソフト



第34图 第I地区砂利敷遺構平面図

2尺6寸と想定できる。配石遺構1同様、建物の礎石と推される。石下に第128・130号墓がある。

第131号墓(第36図・PL.12-2)：C9区に位置する。配石遺構1中に作られた火葬墓である。墓壇の規模は直径35cmのほぼ円形。火葬骨は小片であり、部位は特定できない。

第124・125号墓(第37図・PL.11-7・8)：B12区に位置する。墓壇の長軸114cm、短軸82cm。短軸一辺がやや広がり、台形状となる。今回の調査で新たに発見した墓である。副葬品は刀子1点(第41図32)。刀子は墓壇北寄り出土した。釘が検出されず、堆積状況にも明瞭な差が認められないことから、木棺に納められぬ直葬と推される。なお、124号墓に切られた土壌を東側に検出し、125号墓とした。

第126号墓(第25・34図・PL.12-9・10)：A11区に位置する。今回の調査に新たに発見した墓である。墓壇の長軸108cm、短軸は東側で50cm、西側で26cmと短辺の一方がやや広がり、平面は楔形を呈する。深さは12cmと墓の中ではきわめて浅い。墓壇の東側で骨の一部が出土した。副葬品は確認されなかった。墓壇の平面形からアイヌ墓と想定され、頭位は東と推される。

第128号墓(第38図・PL.12-4)：B13区に位置する。今回の調査で新たに発見した墓である。墓壇の長軸110cm、短軸62cm、推定頭位。釘の出土位置から棺の規模は56cm×33cmと推される。人骨が検出されなかったため、棺の長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。副葬品は点。西側を削り段を作っている。第130号墓より新しいと推される。

第130号墓(第38図・PL.12-5)：B13区に位置する。今回の調査で新たに発見した墓である。墓壇の長軸110cm、短軸78cm。後世の土層により北側の一部が削り取られている。墓壇北西側より歯が出土したので、推定頭位は北西。釘の出土は無く、土層の堆積状況からも棺の存在は想定できなかった。また副葬品も確認できなかった。遺構の切り合い関係から第128号墓より古いと推される。

第122号墓(第39図・PL.12-7)：A12区に位置する。墓壇の長軸116cm、短軸78cm、一部検出されなかった分もあり、釘の出土位置から棺の規模は64cm×38cmと推される。歯、頭蓋骨、椎骨、

肋骨の一部が出土し、頭位は北と推される。また人骨下には木棺の一部も残存していた。副葬品は漆器1点、銅銭31点以上。銅銭の中には所謂輪銭が18枚程含まれる。水楽通寶6枚。鏡種枚数は、人骨・木棺の出土状況を維持し、取り上げたため正確な数は不明である。鏡の分布は、棺想定地の中央付近で最も多く出土している。

第101号墓(第40図・PL.10-3)：C13区に位置する。墓壇の長軸114cm、短軸90cm。釘の出土位置から棺の規模は75cm×48cmと推される。副葬品は漆器1点、銅銭9点。漆器は棺想定地北側寄り、銅銭は北側から出土した。人骨が検出されなかったため、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。(松田)

土壌1(第22図)：道路南確認トレンチ8の西側で土壌2類似の黒色土の堆積があり精査した。明瞭な形状、土層の堆積を把握する事はできなかった。

土壌3(第23・24図)：トレンチ4北端で黒ずんだII層の堆積があり、遺構Noを付して精査したが遺構として認めることはできなかった。

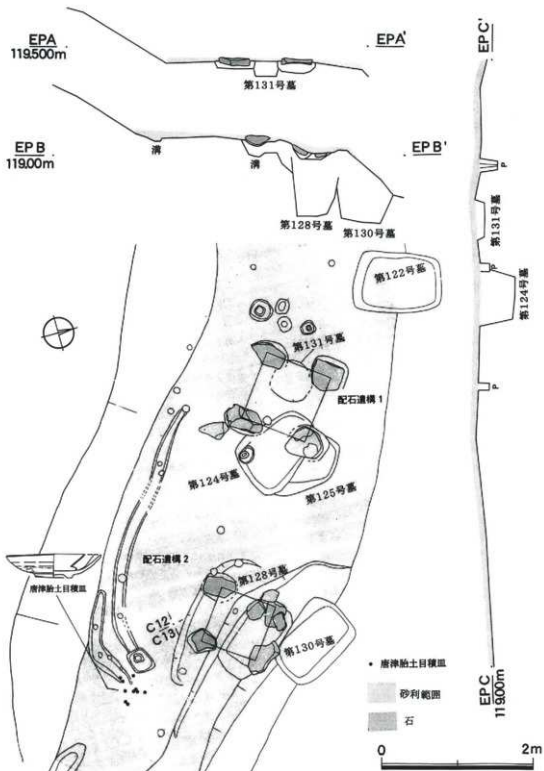
土壌4(第25図)：116号墓を精査中に検出した。浅い凹みであるが、銅銭が出土し、土壌とした。116号墓、123号墓より古いと推した。

第118号墓(第25図)：117号墓を精査中に検出した。調査時明確に形状を把握できず、土層図の検討も未了であるため概略の位置・形状を示した。漆器皮膜が出土したことから墓壇とした。

第119号墓(第27図)：98号墓の精査中に検出した。北東方向に傾斜し浅くなる。覆土の堆積が把握切れず北東隅の壁は掘り過ぎたかも知れない。釘の位置から想定した棺の形状に近いのが本来の墓壇掘り方かと推される。棺内南西半から銅銭が出土した。マウンドは不明である。

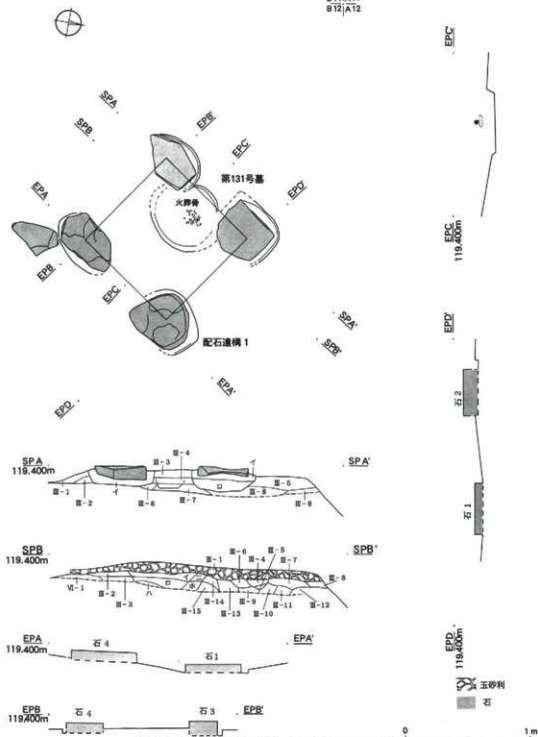
土壌7(第23、24図)：道路北側に99号墓の確識杭が表示されていた。少量の玉砂利、ローム、基盤礫からなる、固い盛土がありその下位に浅い掘り込みがあった。焼骨片が少量検出された。

第99号墓(同上)：斜面を削った浅い掘り込みが認められた。漆器皮膜が検出され、墓としたが詳細は把握されなかった。(松崎)

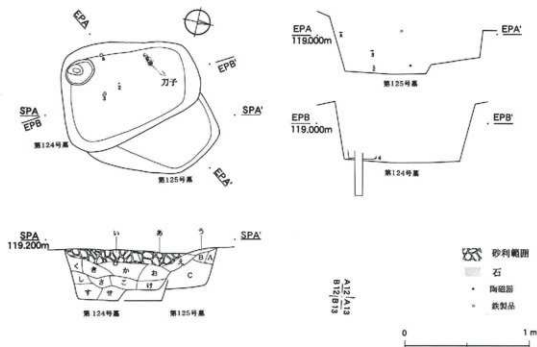


第35图 第I地区砂利敷遺構遺物分布図他

B11/A11
B12/A12



第36图 第I地区第131号墓・配石遺構1平面図他



第37図 第I地区第124・125号墓平面図他

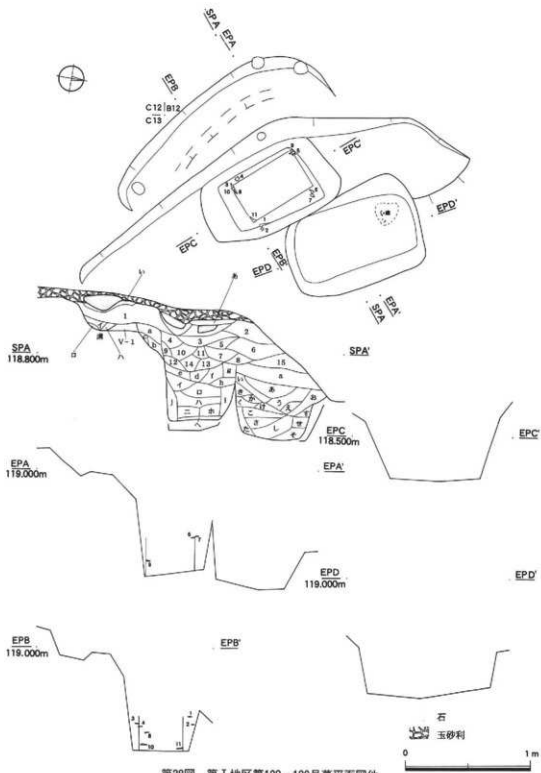
第-8	10YR	6/4	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒・輝石少量	中ヤマト	C層
第-9	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量	中ヤマト	
第-10	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 土砂粒	中ヤマト	
第-11	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 輝石少量 土砂粒	中ヤマト	
第-12							
第-13	10YR	6/4	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 高砂粒	中ヤマト	
第-14	10YR	6/4	褐色	輝石	輝石 粘土質		
第-15	10YR	6/4	褐色	輝石	輝石 多砂粒少量 粘土質 (B)と同質	中ヤマト	
イ	10YR	6/4・6/4	褐色・暗褐色		輝石少量 粘土質	中ヤマト	
ロ	10YR	6/4	褐色		輝石少量 高砂粒	中ヤマト	
ハ					輝石少量 高砂粒少量 粘土質 (ロ)より輝石少し多い		
ニ	10YR	6/4	褐色				
ホ	10YR	6/3	褐色				

表40 第I地区第124・125号墓土層観察表

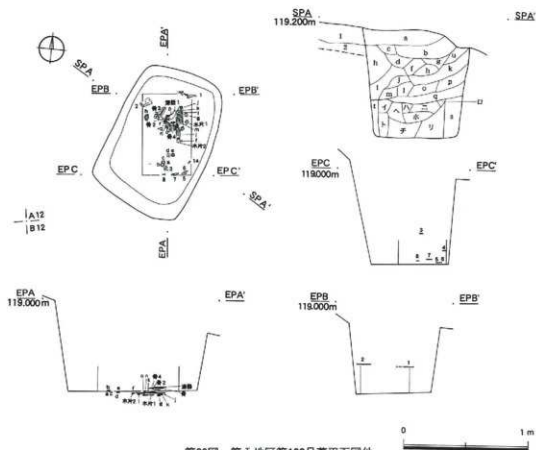
A	7.5YR	6/4	褐色	輝石	中ヤマト	
B	7.5YR	6/4	褐色	輝石	中ヤマト	
C	7.5YR	6/4	褐色	輝石	中ヤマト	
ホ	7.5YR	6/3・6/4	褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
イ	7.5YR	6/4	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ロ	7.5YR	6/4	褐色	輝石	中ヤマト	
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ニ	7.5YR	6/4	褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
イ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ロ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ニ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
イ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ロ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ニ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石 土砂粒	中ヤマト	

表41 第I地区第128号墓・130号墓土層観察表

表				石・土砂粒		
イ	7.5YR	6/4	褐色	ソフトローーム主体		
ロ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム	中ヤマト
ハ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム 白色土砂粒	中ヤマト
ニ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム 白色土砂粒	中ヤマト
中ヤマト						
1	7.5YR	6/3	褐色	輝石	輝石 ローム	中ヤマト
2	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石 ローム 高砂粒	中ヤマト
3	7.5YR	6/3	褐色	輝石	輝石 土砂粒 高砂粒	中ヤマト
4	7.5YR	6/4	褐色	輝石	ソフトローーム 中砂粒	中ヤマト
5	7.5YR	6/4	褐色	輝石	ソフトローーム 土砂粒 高砂粒	中ヤマト



第38图 第I地区第128・130号墓平面図他



第39図 Ⅰ地区第122号基平面図他

	6	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ハーフローム 焼付 漆喰	ハーフ
	7	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 漆喰	ソフ
	8	T5YH	3/3	中間色	焼燻土体	シムト ローム 漆	ソフ
	9	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ソフ 漆	ソフ
	10	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ソフ 漆	ソフ
	11	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ
	12	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ヤササ 漆	ソフ
	13	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ
	14	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ
	15	T5YH	4/4-4/3	焼色	焼土体	漆喰 焼付	ハーフ
南の方	a	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	焼付 焼付	ハーフ
	b	T5YH	4/4	焼色	焼土体	焼付 ハーフローム	ハーフ
	c	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ
	d	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	ローム (ヤ)29ヤササ	ソフ
	e	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	ローム	ソフ
	f	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	シムト	ソフ
	g	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	漆	ソフ
	h	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	シムト	ソフ
南側面	i	T5YH	4/4	焼色	漆燻土体	ソフトローム 白色石灰少塗	ソフ
	j	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	焼付	ヤササハーフ
	k	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	漆	ソフ
	l	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	漆	ソフ
	m	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	漆	ヤササハーフ
	n	T5YH	4/3	焼色	焼土体	漆	ソフ
1階分室	o	T5YH	4/3	焼色	焼土体	シムト 白色石灰少塗	ハーフ
	p	T5YH	3/3	焼燻色	焼燻土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	q	T5YH	4/3-4/4	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	r	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	s	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	t	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	u	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	v	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	w	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
	x	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフ
2階分室	y	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ
	z	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフ

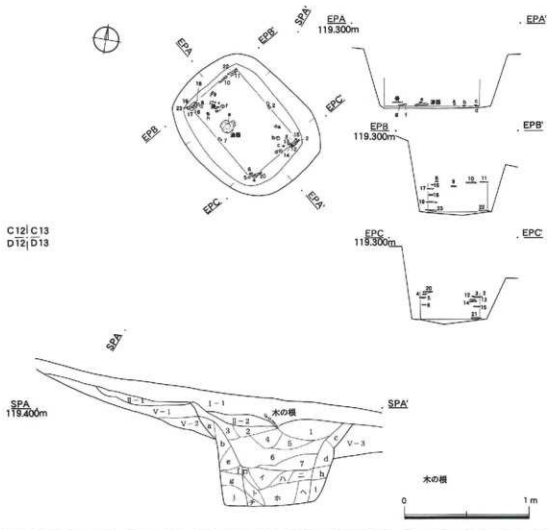
ニ	T3YH	4/3	褐色		ソフトローム 礫粒	ソフト	C層底
ホ	T3YH	4/3	褐色	礫粒主層	ソフトローム主層	ソフト	C層底
シ	T3YH	4/3-4/4	褐色	礫粒主層	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	C層底
サ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	
セ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	
ソ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層 灰山田	ソフト	
ト	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ハードローム 礫粒	ソフト	

表42 第I地区第122号基土層観察表

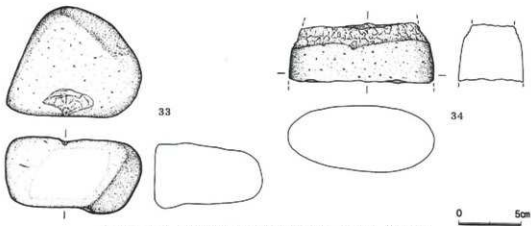
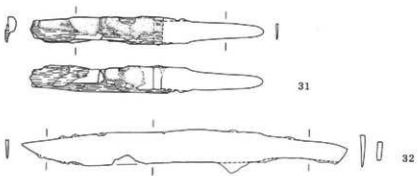
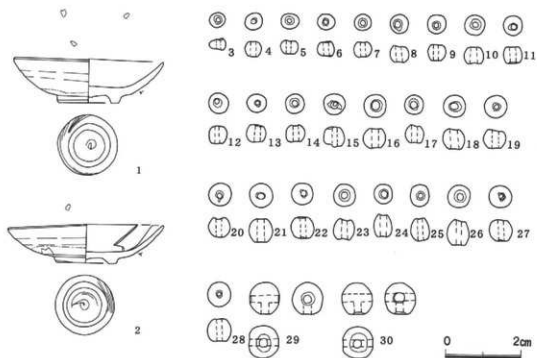
基土	イ	T3YH	4/3	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層 五砂粒	ハード	
	ロ	T3YH	4/3	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層	ハード	
掘り方	a	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ソフト	
	b	T3YH	4/4	褐色	基砂層主層	礫粒	ハード	C層底
	c	T3YH	4/3	礫粒	礫粒主層	しまりなし	ソフト	C層底
	d	T3YH	4/3	褐色	褐色土	五砂粒	ソフト	C層底
	e	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	f	T3YH	4/3	褐色	褐色土	五砂粒少量	ソフト	
	g	T3YH	4/4	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層	ハード	
	h	T3YH	3/4-4/3	褐色	礫粒 基砂層	礫粒 しまりなし	ソフト	C層底
	i	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	礫粒 ソフトローム	ソフト	
	j	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
掘り方	k	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 小礫 五砂粒	ソフト	
	l	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	礫粒 ローズアップ	ソフト	
	m	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 ソフトローム	ソフト	
	n	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	やや強い礫粒 サラサツしている	ソフト	
	o	T3YH	4/3	褐色	褐色土	やや強い礫粒 サラサツしている	ややハード	
	c	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	強い礫粒 サラサツしている	ソフト	C層底
	d	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	C層底
	e	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	C層底
	f	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	C層底
	g	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	C層底
掘り方	イ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	ロ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	ハ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	ニ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ソフト	
	ホ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	ヘ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	ト	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	チ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	リ	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	

表43 第I地区第101号基土層観察表

掘り方	1-1	T3YH	3/3	暗褐色	暗褐色土	Roの腐敗 五砂粒	ソフト	
	1-2	T3YH	4/3	褐色	褐色土	Roの腐敗	ややハード	
	1-3	RYR	4/3	にがい黄褐色	にがい黄褐色土	礫粒少量(ゴゴロップ状)	ハード	
	1-4	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層 粒20%	ハード	
	1-5	RYR	5/4	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層 粒20%	ハード	
	1-6	RYR	3/4	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層粒少量	ややハード	
マウンド	1	RYR	3/4-3/3	暗褐色	暗褐色土	礫粒少量	ややソフト	
	2	RYR	4/3	にがい黄褐色	にがい黄褐色土	礫粒少量 五砂粒少量	ハード	
	3	RYR	4/4	褐色	褐色土	礫粒少量 基砂層少量	ほぼ土壌ハード	
	4	RYR	4/4	にがい黄褐色	にがい黄褐色土	礫粒 基砂層 粘土質	ハード	
	5	RYR	4/3	にがい黄褐色	にがい黄褐色土	礫粒少量 Roム粒少量	ハード	C層底
	6	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	
	7	RYR	4/3	褐色	褐色土	基砂層少量 Ro20%	ハード	
掘り方	a	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ハード	C層底
	b	T3YH	4/2	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	c	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	C層底
	d	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	C層底
	e	T3YH	4/4	褐色	褐色土	(ロ)よりしまり有り	ソフト	C層底
	f	RYR	3/4	にがい黄褐色	黄褐色土	礫 基砂層粒	ハード	
	g	RYR	3/4	暗褐色	暗褐色土	基砂層多量 礫粒	ソフト	
	h	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	
掘り方	1	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層 礫粒 Roム少量	ややハード	
	2	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層少量	ハード	
	3	RYR	4/4	褐色	褐色土	基砂層 基砂粒少量	ハード	
	4	RYR	4/4	褐色	褐色土	基砂層10% 基砂粒少量	ハード	
	5	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	褐色土	ハード	
	6	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層40% 基砂粒少量	ハード	
	7	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層 礫粒少量	ソフト	
	8	RYR	4/3	にがい黄褐色	黄褐色土	基砂層10%	ハード	
	9	RYR	4/4	褐色	褐色土	基砂層少量	ハード	
	10	RYR	3/4	暗褐色	暗褐色土	基砂層粒	ややハード	



第40図 第I地区第101号基平面図他



第41回 第I・II地区遺構出土遺物(陶磁器・石製品・鉄製品)

(2) 夷王山墳墓群第Ⅱ地区

代参道路寺ノ沢湧水地点の調査(第42・43図、表45～50)：夷王山麓の駐車場から駒山跡へ到る路が墳墓群第Ⅱ地区南東端で寺ノ沢川を横断する地点の調査である。整備計画では、この地点に木橋を渡す予定であり、その事前調査である。

昭和30年代前半迄はこの地点中央上手に小さな木枠が据えられ、溜め井戸状を呈していた。小さな川ではあるが、ここを渡る橋礎や踏み石の検出、水汲み施設の遺などをもその目的とした。又、上述のようにここは、墳墓群第Ⅱ地区南東隅の斜面下にあたる。この地点の100mほど下流で井戸枠、木礎などを発掘し、寺ノ沢内用水施設として整備した。この時、川床の泥炭・湿地層から検出した木製品の中に塔婆状のものがあつた(本報Ⅲ～V)。このことから、この第Ⅱ地区における葬送儀礼に伴う諸品の廃棄集積の可能性も視野に入れ、調査を行った。A～Fの土層観察面を設け、現在使用中の通路とそれ以前の道の有無、位置を探った。A A' 中のaが現存の道路位置である。Aはここの層序では、Ko-dを含む層より後出の凹地として扱えられ、aに先行する遺跡と推した。これはF F' 面の層序1、2に続くものであり、ここではKo-d層に覆われ先行するものとして扱えられた。そしてこれはC C' 面の1、2層の堆積する凹みへと続くと解される。A A' 面のみKo-d層より上位からの確認となり矛盾があるが、両面は斜面の肩に位置しており、中央部が雨水の流路となることも考え、一連のものとしておきたい。このまま沢沿いに、南西に進むのであろうか。

B B' 面沢南東斜面直下に溝が検出された。苔小牧火山灰層に覆われた溝と解された。なお土層観察表及び土層図にⅡb層及びⅡ5～9層と記したものはⅣ層の誤りである。又V～2層はあ～きに続くものであろう。D D' 面で木枠を二基確認したが枠内に十円銅貨があるなど、いずれも新しいものであつた。古いものも見出し得なかつた。上部平坦面F 18区Ⅳ層などE F 18南東斜面、F 19で撥文土器が若干出土した。終末期に属するかと推した。(松崎)

第23号墓(第45・46図・PL.14-1・2)：M 6区に位置する。長軸23cm、短軸23cm。深さ15cm程の穴に焼骨を検出した。穴の大きさや表面観察からすると火葬骨の一部を埋葬したものと推され

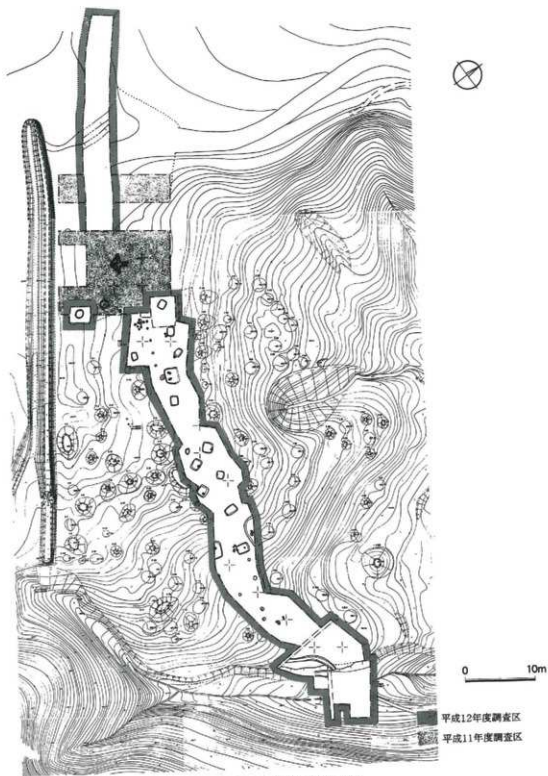
る。骨は無造作に散らばることもなく、あたかも積み上げられたような形で検出されたことから、箱か曲物などの容器に納められていたと推される。最上部にある骨は縫合があることから頭蓋骨と推される。付近から開元通寶が1枚出土した。

第30号墓(第47図・PL.14-3)：K・L 8区に位置する。墓塚の長軸222cm、短軸174cm。平面は長方形を呈する。墳丘上北側から南にかけて10～50cm大の礎が15個置かれる。墓塚中央部覆土中より焼骨が微量ながら出土したことから火葬墓と推される。南側に墓より古いと推される平面楕円形の土壇1がある。墳丘等周辺から銅銭が5枚出土している。墓塚中にある柱穴P 32～35は、いずれも昭和30～40年代前後頃に作られた楕円の柱穴であり、墓塚と直接関係する遺構ではない。

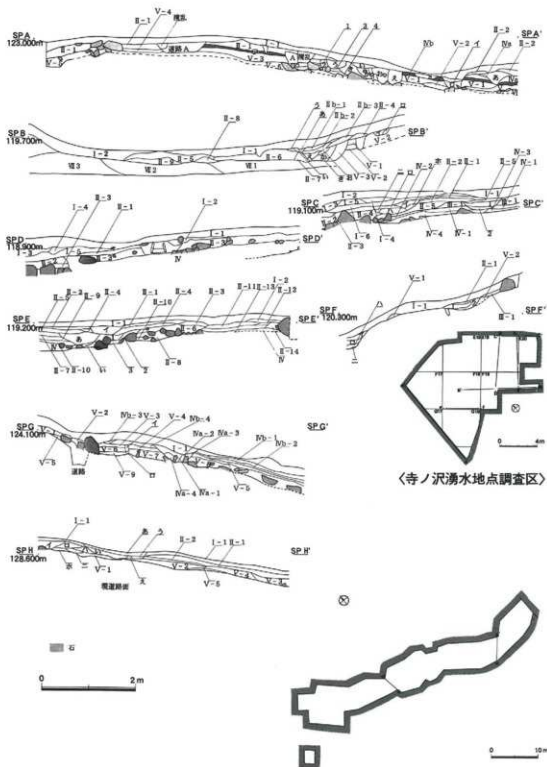
第33号墓(第48図・PL.14-4)：L 9区に位置する。墓塚の長軸138cm、短軸110cm、長軸方位。釘の出土位置から棺の推定規模は87cm×69cm。人骨が検出されなかつたので、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は東南と推される。副葬品は漆器1点、銅銭17点。漆器は棺想定北西側、銅銭は南東側で出土した。漆器は朱に塗られている。又、棺外と想定されるところからも銭が1枚出土した。

第35号墓(第49図・PL.14-5～7)：J 10区に位置する。墓塚の長軸154cm、短軸146cm。釘の出土位置から棺の規模は93cm×58cmと推される。頭蓋骨の一部と歯が残存していたことから、頭位は北西で夷王山方向になる(PL.14-7)。副葬品は漆器1点、銅銭14点。西側に柱穴P 36がある。墓塚内東側にP 37がある。柱礎は長方形であり、柱礎に接するように板状の石が立っていた。柱を支えるために意図的に入れた物と推される。漆器は外面朱塗り、高台部のみ黒塗り。棺中央右寄りの場所で出土した。

第37号墓(第50図・PL.14-8・9)：K 11区に位置する。墓塚の長軸166cm、短軸122cm。人骨が検出されなかつたので、棺の長軸方位から頭位を想定すると北乃至は南と推される。釘出土位置から棺の規模は85cm×61cmと推される。副葬品は漆器1点、水晶製と推される数珠玉36点(第41図3～30)。漆器は棺中央右寄りの場所で伏せた状態出土した。漆器は外面朱塗り、高台部のみ黒塗り。数珠玉は漆器付近にあつたと推される。内



第42図 第II地区調査区位置図



第43図 第Ⅱ地区調査区土層堆積図

表44 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(A-A')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量	ゾフト		
II-1	15YR 3/2	茶褐色		Ko-土層プロット状	ゾフト		
III-2	15YR 3/2	茶褐色		白色のり区少量	ゾフト	C少量	
IV-a	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体		ゾフト	C少量	
IV-b	15YR 4/2	褐色	成土状		ゾフト	C少量	
V-1	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	黒じり無し	ゾフト		
V-2	15YR 4/2	褐色	ハードローム主体		ハード	C少量	
V-3	15YR 2/2	1/2	茶褐色・緑褐色	黒じり無し	ゾフト		
V-4	15YR 4/4	褐色	ソフトローム主体		ゾフト		
V-5	15YR 3/2	茶褐色	ソフトローム主体	(中黒じり)			
VI	15YR 4/2	褐色	硬質・ソフトローム主体		ハード	C少量	
土層-1	1	15YR 3/2	茶褐色	全層にTmプロット状	ゾフト	C少量	
2	15YR 2/2	1/2	茶褐色・緑褐色	泥質主体	ゾフト	C少量	
3	15YR 4/2	褐色	硬土状	ローム状 やもしまり有り	ゾフト	C少量	
4	15YR 3/2	茶褐色	ハードローム主体	Ko-少量	ハード	C少量	
土層-2	A	15YR 2/2	茶褐色	泥質主体	Ro-少量	ゾフト	C少量 C少量
B	15YR 2/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 やもしまり有り			
C	15YR 4/2	褐色	ソフトローム主体	ソフトロームプロット状 しまり有り	中やハード		
F-1	1	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ro-少量	ゾフト	C少量
2	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量	
3	15YR 2/2	1/2	茶褐色・緑褐色	硬質主体	ゾフト	C少量	
4	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量	
5	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ro-少量	ゾフト	C少量	
6	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量	
7	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ro-少量	ゾフト	C少量	
8	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量	
9	15YR 2/2	1/2	茶褐色	泥質主体	Ro-少量	ゾフト	C少量
10	15YR 2/2	1/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量
11	15YR 2/2	1/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量
12	15YR 2/2	1/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	ゾフト	C少量

表45 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(B-B')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量		
I-2	15YR 3/2	茶褐色		粘質主体		
III-1	15YR 3/1	茶色		火山灰少量		C少量
III-2	15YR 3/2	茶褐色		全層火山灰 (Ro-Tm)		
III-3	15YR 2/2	1/2	茶褐色・緑褐色	火山灰少量 粘質 赤鉄	ゾフト	
III-4	15YR 4/2	褐色		粘質		
III-5	15YR 4/2	褐色	黒化した粘質と砂粒主体			
III-6	15YR 4/2	褐色	やや強い砂粒主体			
III-7	15YR 2/2	茶褐色	粘質主体	硬質		
III-8	15YR 4/2	褐色	やや強い砂粒主体			
III-9	15YR 3/2	茶褐色	黒化した土主体			
V-1	15YR 4/2	褐色	ソフトローム主体			
V-2	15YR 4/2	褐色		全層粘質土 火山灰少量		
V-3	15YR 3/4	1/2	1/2	茶褐色・黄褐色	粘質 赤鉄	ゾフト
V-4	15YR 4/2	褐色		少量粘質土		
VI-1	15YR 4/2	褐色		全層硬質		
VI-2	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-3	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-4	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-5	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-6	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-7	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-8	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-9	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-10	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-11	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-12	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-13	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-14	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-15	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-16	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-17	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-18	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-19	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-20	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-21	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-22	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-23	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-24	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-25	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-26	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-27	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-28	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-29	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-30	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-31	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-32	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-33	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-34	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-35	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-36	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-37	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-38	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-39	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-40	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-41	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-42	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-43	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-44	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-45	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-46	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-47	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-48	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-49	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-50	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-51	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-52	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-53	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-54	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-55	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-56	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-57	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-58	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-59	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-60	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-61	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-62	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-63	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-64	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-65	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-66	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-67	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-68	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-69	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-70	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-71	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-72	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-73	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-74	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-75	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-76	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-77	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-78	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-79	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-80	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-81	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-82	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-83	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-84	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-85	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-86	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-87	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-88	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-89	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-90	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-91	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-92	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-93	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-94	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-95	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-96	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-97	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-98	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-99	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-100	15YR 4/2	褐色		粘質		

表46 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(C-C')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量	ゾフト	
I-2	15YR 3/2	茶褐色		粘質主体	ハード	
I-3	15YR 3/2	茶褐色		粘質主体	ハード	
I-4	15YR 4/2	褐色		硬土の砂粒主体	ハード	
I-5	15YR 3/2	茶褐色		粘質主体	ハード	
I-6	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-7	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-8	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-9	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-10	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-11	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-12	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-13	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-14	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-15	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-16	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-17	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-18	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-19	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-20	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-21	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-22	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-23	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-24	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-25	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-26	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-27	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-28	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-29	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-30	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-31	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-32	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-33	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-34	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-35	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-36	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-37	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-38	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-39	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-40	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-41	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-42	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-43	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-44	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-45	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-46	15YR 4/2	褐色		粘質主体	ハード	
I-47						

表47 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (D-D')

I-1	7.5YR 3/2	黒褐色	全土層の砂粒主体	草屑多量 高級材	ソフト	炭化物 C少量
I-2	7.5YR 3/2	黒褐色			ソフト	
I-3	7.5YR 4/3	褐色	沢層の粘質土と赤褐色主体	シルト	適性 ソフト	
I-3a	7.5YR 4/3-5/3	褐色 暗褐色				
E-1	7.5YR 4/1-4/2	褐色 灰黒褐色		砂粒と粘質 腐植	適性 ソフト	
E-2	7.5YR 4/2	灰褐色	沢層の粘質土層	腐植	適性 ソフト	
E-3	7.5YR 4/2	灰褐色	沢層の砂粒主体	沢層の砂粒多量 高級材	適性 ソフト	
E	7.5YR 3/3	暗褐色		高級材		

表48 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (E-E')

I-1	7.5YR 3/3	暗褐色	沢層の砂粒主体	草屑多量 高級材	ソフト	炭化物 C少量
I-2	7.5YR 4/3	褐色			適性 ソフト	
E-1	7.5YR 4/3	褐色	沢層の粘質土層	しまり有り	ハード	
E-2	7.5YR 4/3	褐色	沢層の砂粒主体		ややソフト	
E-3	7.5YR 4/3	褐色	砂粒主体	赤腐植	ソフト	
E-4	7.5YR 4/2	暗褐色	赤腐植土層	赤腐植少量	ソフト	
E-5	2.5GY 4/1	暗黄緑色	暗緑土主体	黄腐植 7.5YR4/2(高)赤腐植	ハード	
E-6	2.5GY 4/1	暗黄緑色	暗緑土主体		ハード	
E-7	7.5YR 4/3	褐色	やや赤い粘質土層(赤腐)		適性 ソフト	
E-8	7.5YR 4/3	褐色	沢層の砂粒主体		ハード	
E-9	7.5YR 4/2	灰褐色	沢層土層	赤腐植少量	ハード	
E-10	7.5YR 4/2	暗褐色	赤腐植土層		ハード	
E-11	7.5YR 4/2	暗褐色	沢層の砂粒主体	腐植した自然土混入	適性 ソフト	
E-12	7.5YR 3/3	暗褐色	沢層の粘質土層	腐植した自然土混入	適性 ソフト	
E-13	7.5YR 3/3	暗褐色	沢層の粘質土層	腐植した自然土混入	適性 ソフト	
E-14	2.5GY 4/1	暗黄緑色	暗緑土主体	しまり有り	ソフト	
あ	7.5YR 4/1-4/2	灰黒 褐色	灰黒土主体	高級材	適性 ソフト	C微量
イ	7.5YR 4/2	暗褐色	沢層の粘質土層	高級材少量(赤腐)	適性 ソフト	
イ	7.5YR 4/3	褐色	沢層の砂粒主体	赤腐 高級材		
1	7.5YR 4/2	灰褐色	高級土主体	(赤腐)	ハード	
2	7.5YR 4/3	褐色	沢層の粘質土層	(赤腐)	適性 ソフト	
3	7.5YR 3/3	暗褐色	高級土主体	(赤腐)	適性 ソフト	

表49 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (F-F')

I-1	7.5YR 3/3	暗褐色	高級土主体	草屑多量	ソフト	炭化物 C微量
E-1	7.5YR 3/4	にがい黄褐色	高級土主体	中細灰土混入	ソフト	
V-1	7.5YR 4/3	褐色	高級土主体	腐植 シルト	ソフト	
V-2	7.5YR 4/3	褐色	粘土	腐植 シルト	ややハード	
イ	7.5YR 3/3	暗褐色	高級土主体	高級土多量 高級材	ソフト	
ロ	7.5YR 4/4 3/3	暗 暗褐色	高級土主体	火山灰多量 腐植	ソフト	
ハ	7.5YR 3/3	暗褐色	高級土主体	火山灰少量	ソフト	C少量
ニ	7.5YR 2/3	黒褐色	高級土主体		ソフト	
1	7.5YR 3/3	暗褐色	高級土主体	腐植 火山灰少量	ソフト	
2	7.5YR 4/3	褐色	粘土	腐植 火山灰やや多し	ソフト	

表50 第Ⅱ地区調査区土層観察表 (G-G')

I-1	10YR 3/3	灰褐色	高級土主体		ややソフト
あ-1	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体		
あ-2	10YR 4/3	にがい黄褐色	高級土主体	腐	ソフト
あ-3	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	腐	ソフト
あ-4	10YR 4/3	にがい黄褐色	高級土主体	腐	ソフト
あ-1	10YR 2/1	黒色	高級土主体	B-7aC少量	ややソフト
あ-2	10YR 4/4	褐色	腐、火山灰土層	腐 (B-7a)	ややハード
あ-3	10YR 2/2	暗褐色	高級土主体	B-7aCプロット少量	ややソフト
あ-4	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	B-7aCプロット少量 腐	ソフト
V-1	10YR 4/3	褐色	高級土主体	腐	ややソフト
V-2	10YR 4/3	にがい黄褐色	高級土主体		ややハード
V-3	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体		ややソフト
V-4	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体		ややハード
V-5	10YR 4/2 4/3	暗褐色 にがい黄褐色	腐植 高級土主体		ややソフト
V-6	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	腐	ややソフト
V-7	10YR 4/3	にがい黄褐色	高級土主体	腐	ややソフト
V-8	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	腐	ソフト
V-9	10YR 4/3	にがい黄褐色	高級土主体	腐	ややソフト
イ	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体		ややソフト
ロ	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体		ソフト

表51 第Ⅱ地区調査区土層観察表 (H-H')

I-1	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体		ややソフト
あ-1	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	Ko-0腐植	ややソフト
あ-2	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	Ko-0腐植	ややソフト
V-1	10YR 3/4	暗褐色	高級土主体	高級腐植	ややソフト
V-2	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	高級腐植 腐植腐植	ややソフト
V-3	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	腐 火山灰(Ko-0少)腐植	ややソフト
V-4	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	高級腐植 火山灰(Ko-0少)腐植	ややソフト
V-5	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	高級腐植	ややソフト
現代遺跡 あ	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	腐 Ko-0腐植	ややハード
う	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	腐 Ko-0腐植	ややハード
え	10YR 3/4	暗褐色	粘質土主体	腐	ややハード
築部基	イ 10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	ロームプロット(40%) 腐	ややハード
ロ	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体		ややソフト
ハ	10YR 2/3	暗褐色	高級土主体	腐付腐植	ややソフト
ニ	10YR 3/3	暗褐色	高級土主体	ロームプロット少量 腐	ややソフト
ホ	10YR 3/4	暗褐色	高級土主体	高級腐植	ややソフト

史 跡

上之國勝山館跡 XXII

—平成12年度発掘調査環境整備事業概報—



2001・3

上ノ国町教育委員会

史 跡

上之國勝山館跡 XXII

—平成12年度発掘調査環境整備事業概報—

2001・3

上ノ国町教育委員会

序

行きつ戻りつした遅い春も、ようやく渡島半島の南端に到達し、春の山菜目当ての人々がリュックを背負い、日本海沿いの国道の路傍をそぞろ歩く姿が眼につく季節になりました。

今年度新しく採択なった史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）の散策路整備工事に伴う補充発掘調査として、夷王山墳墓群第Ⅰ・Ⅱ地区の土壇頭の間を縫うように、夷王山山麓の駐車場から勝山館跡の背後へと続く踏み分け道周辺の調査を行いました。密集する墳墓と既存のルートとの切り合いを見極めるための確認調査は5月中旬から20名近い発掘スタッフの手により慎重に続けられました。

調査が1ヶ月ほど経過した初夏、第Ⅰ地区の土壇から太刀の鏝らしきものを発見したとの報を受け、発掘の行方を興味深く見守っていました。墓壇の完掘を終え、ほぼ中世のアイヌ墓に間違いのないとの確証を得た段階で、文化庁記念物課並びに北海道教育委員会の諒解を得、報道機関への公表公開に踏み切りました。その後も和人墓を挟む形でアイヌの合葬墓が発見され、最終的には3基4体を埋葬したアイヌ墓を検出することができました。

この間、文化庁記念物課の本中、磯村両調査官をはじめ、上ノ国町史跡整備検討委員の渡辺定夫、仲野 浩、宮本長二郎、田中哲雄、榎森 進、鈴木 亘の各先生、関係各機関の諸先生には遠路お越しいただきご指導ご助言を賜りました。心より御礼申し上げます。また調査を進めるにあたり、多くの地域住民の皆様のご支援ご協力を賜りました。衷心より厚く感謝申し上げます。

勝山館跡調査研究専門員の網野善彦先生が、勝山館内でのアイヌと本州人の混住を夙に説いていたせいか、地域住民の中にはさもありなんとの声も聞かれましたが、散策路整備のための補充発掘調査が、「和人」とアイヌの混住を裏付ける貴重な考古資料の発見という思いがけない成果をもたらしました。

現在、上ノ国の旧家の一つが能登屋笹浪家の旧蔵文書の調査を進めています。その中に眼を惹く一枚物の文書があります。二級河川天の川の中流に南から注ぐ厚志内（at-us-nay）の対岸にある集落・早瀬の住人が笹浪久右衛門にラシヨウ皮10貫目を代金80銭で売り渡した明治36年4月19日付けの証文です。

最終用途として厚司（アツシ）に織られたのか、文書は教えてくれませんが、オヒヨウ楡から繊維を採る技術が当地方に生きていたことを示唆してくれる文書です。資料に乏しいのですが、繊維として採り出すまでの一連の生産技術や知識がアイヌからもたらされたとするのは穿ちすぎるでしょうか。

勝山館跡のある町に日々暮らす者の一種の予感ですが、地域の歴史民俗の掘り起こしを丁寧に続けていけば、行き着くところ「和人」とアイヌの混住交錯によって形成された、若しくはアイヌ文化を基層で受容していると言いうような生活文化の諸相がほの見えてくるような気がしています。

継続して史跡勝山館跡の整備を鋭意進める傍ら、身近な地域史の発見に努めて参りたいと考えておりますので、関係各機関並びに諸先生方にはより一層のご助言ご叱正を賜りますようお願い申し上げます。刊行の挨拶といたします。

平成13年3月

北海道檜山郡上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀 勝

本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次

例言／引用参考文献

第1部 宮ノ沢川右岸・左岸地区の調査

I 調査の概要	1
II 遺構確認調査	4
1 調査の経緯と目的	4
2 検出遺構と出土遺物	4
(イ) 旧笹浪家住宅主屋内	4
(ロ) 旧笹浪家住宅附属雑倉周辺	21
(ハ) 宮ノ沢川左岸地区	22
III まとめ	39
1 重文笹浪家住宅主屋内の調査	39
2 旧笹浪家附属土蔵の調査	43

第2部 夷王山墳墓群第I・II地区の調査

I 調査の概要	44
II 遺構確認調査	
1 検出遺構と出土遺物	45
(1) 夷王山墳墓群第I地区	45
(2) 夷王山墳墓群第II地区	74
III まとめ	112
1 夷王山墳墓群第I・II地区の和人数	112
2 夷王山墳墓群のアイヌ墓	117

附篇 保存処理 120

挿図目次

第1図 遺跡地形図・調査区位置図	2
第2図 宮ノ沢川兩岸調査区位置図	3
第3図 宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋)土層堆積図	6
第4図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図1	9
第5図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図2(昭和30年代以降～現代)	11
第6図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図3(明治20年代～現代)	13
第7図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図4(旧笹浪家主屋創建期～天保年間～明治20年代)	15
第8図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図5(勝山館廃絶～旧笹浪家創建以前柱穴)	17

第9図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図6(勝山館併行期堀跡I・II・III-15・16世紀)	19
第10図 宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅雑倉)土層堆積図	22
第11図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図1	24
第12図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図2	25
第13図 宮ノ沢川右岸地区土壌16平面図他	26
第14図 宮ノ沢川左岸地区(旧笹浪家住宅附属土蔵)土層堆積図	27
第15図 宮ノ沢川左岸地区(旧笹浪家住宅附属土蔵)平面図	29
第16図 宮ノ沢川左岸地区焼土配置図	32
第17図 宮ノ沢川左岸地区中・近世遺構配置図	33
第18図 宮ノ沢川左岸地区焼土1～3・7・8・10・11平面図他	34
第19図 宮ノ沢川左岸地区焼土12・13平面図他	35
第20図 宮ノ沢川左岸地区配石遺構・墓1平面図他	36
第21図 宮ノ沢川左・右岸調査区出土遺物	38
第22図 第I地区調査区位置図	46
第23図 第I地区調査区土層堆積図	47
第24図 第I地区遺構配置図	50
第25図 第I地区第98・116～118・123・126号墓・土壌4平面図他	51
第26図 第I地区第98・116号墓出土遺物	56
第27図 第I地区第119号墓平面図他	57
第28図 第I地区第120号墓平面図他	58
第29図 第I地区第121号墓平面図他	59
第30図 第I地区土壌2平面図他	60
第31図 第I地区第127・129号墓平面図他	61
第32図 第I地区土壌5・6平面図他	62
第33図 第I地区第97号墓平面図他	63
第34図 第I地区砂利敷遺構平面図	64
第35図 第I地区砂利敷遺構遺物分布図他	66
第36図 第I地区第131号墓・配石遺構1平面図他	67
第37図 第I地区第124・125号墓平面図他	68
第38図 第I地区第128・130号墓平面図他	69
第39図 第I地区第122号墓平面図他	70

第40図	第Ⅰ地区第101号墓平面図他	72
第41図	第Ⅰ・Ⅱ地区遺構出土遺物(陶磁器・石製品・鉄製品)	73
第42図	第Ⅱ地区調査区位置図	75
第43図	第Ⅱ地区調査区土層地積図	76
第44図	第Ⅱ地区遺構配置図	79
第45図	第Ⅱ地区第23号墓平面図他	88
第46図	第Ⅱ地区第23号墓焼骨出土状況図	89
第47図	第Ⅱ地区第30号墓平面図他	91
第48図	第Ⅱ地区第33号墓平面図他	93
第49図	第Ⅱ地区第35号墓平面図他	94
第50図	第Ⅱ地区第37号墓平面図他	95
第51図	第Ⅱ地区第39号墓平面図他	97
第52図	第Ⅱ地区第54号墓平面図他	98
第53図	第Ⅱ地区第78号墓平面図他	99
第54図	第Ⅱ地区第115・117号墓平面図他	101
第55図	第Ⅱ地区第118号墓平面図他	102
第56図	第Ⅱ地区第119号墓平面図他	103
第57図	第Ⅱ地区第120号墓平面図他	104
第58図	第Ⅱ地区第121号墓平面図他	105
第59図	調査区遺構出土遺物(銅銭1)	106
第60図	調査区遺構出土遺物(銅銭2)	107
第61図	調査区遺構出土遺物(銅銭3)	108
第62図	調査区遺構出土遺物(鉄製品1)	109
第63図	調査区遺構出土遺物(鉄製品2)	110
第64図	調査区遺構出土遺物(鉄製品3)	111
第65図	調査区遺構出土遺物(鉄製品4)	112

表目次

表1	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・板間東西セクション南壁土層観察表(A-A')	7
表2	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 座敷・店東西セクション南壁土層観察表(B-B')	7
表3	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・北南北セクション東壁土層観察表(C-C')	7
表4	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 板間南北セクション西壁土層観察表(D-D')	8
表5	宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 通り庭南北セクション東壁土層観察表(E-E')	8
表6	旧笹浪家 雑倉南北セクション東壁土層観	

察表(A-A')	23	
表7	旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表(B-B')	23
表8	旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表(C-C')	23
表9	旧笹浪家 土壇16土層観察表	28
表10	旧笹浪家附属土蔵南北セクション東壁土層観察表(A-A'-A'')	28
表11	旧笹浪家附属土蔵東西セクション南壁土層観察表(B-B')	28
表12	旧笹浪家附属土蔵南北セクション西壁土層観察表(C-C')	28
表13	旧笹浪家附属土蔵東西セクション北壁土層観察表(D-D')	31
表14-1	重文蔵 焼土1土層観察表	31
表14-2	重文蔵 焼土2・3土層観察表	31
表14-3	文庫蔵 焼土7土層観察表	31
表14-4	文庫蔵 焼土8土層観察表	31
表14-5	米蔵 焼土10(口)土層観察表	31
表14-6	文庫蔵 焼土11土層観察表	31
表15-1	米蔵 焼土12土層観察表	31
表15-2	米蔵 焼土13土層観察表	31
表16-1	配石遺構土層観察表(A-A')	37
表16-2	配石遺構土層観察表(B-B')	37
表17	文庫蔵 墓1土層観察表	37
表18	遺物計測表	39
表19	宮ノ沢川右岸地区 旧笹浪家主屋内出土陶磁器集計表	41
表20	宮ノ沢川右岸地区 旧笹浪家雑倉下層出土陶磁器集計表	42
表21	第Ⅰ地区トレンチ1 南北セクション東壁土層観察表(A-A')	48
表22	第Ⅰ地区トレンチ4 南北セクション東壁土層観察表(B-B')	48
表23	第Ⅰ地区トレンチ5 南北セクション東壁土層観察表(C-C')	48
表24	第Ⅰ地区トレンチ6 南北セクション西壁土層観察表(D-D')	48
表25	第Ⅰ地区トレンチ8 南北セクション西壁土層観察表(F-F')	48
表26	第Ⅰ地区トレンチ11 南北セクション西壁土層観察表(G-G')	49
表27	第Ⅰ地区第117・116号墓・土壇4・第98号墓南北セクション西壁土層観察表(E-E'-E''-E''')	

E")	53
表28 第I地区第98・123号墓南北セクション東壁土層観察表(B-B')土層観察表	53
表29 第I地区第126号墓土層観察表	53
表30 第I地区第119号墓土層観察表	57
表31 第I地区第120号墓土層観察表	57
表32 第I地区第121号墓土層観察表	58
表33 第I地区土壇2土層観察表	59
表34 第I地区第127号墓土層観察表	59
表35 第I地区第129号墓土層観察表	59
表36 第I地区土壇5土層観察表	63
表37 第I地区第97号墓土層観察表	63
表38 第I地区配石遺構1 南北セクション西壁土層観察表	63
表39 第I地区配石遺構2 南北セクション東壁土層観察表	63
表40 第I地区第124・125号墓土層観察表	68
表41 第I地区第128・130号墓土層観察表	68
表42 第I地区第122号墓土層観察表	71
表43 第I地区第101号墓土層観察表	71
表44 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(A-A')	77
表45 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(B-B')	77
表46 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(C-C')	77
表47 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(D-D')	78
表48 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(E-E')	78
表49 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(F-F')	78
表50 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(G-G')	78
表51 第I・II地区寺ノ沢土層観察表(H-H')	78
表52 第II地区第23号墓土層観察表	81
表53 第II地区第30号墓土層観察表(A-A')	81
表54 第II地区第30号墓土層観察表(B-B')	81
表55 第II地区第30号墓土層観察表(C-C')	81
表56 第II地区第33号墓土層観察表	81

表57 第II地区第35号墓土層観察表(A-A')	82
表58 第II地区第35号墓土層観察表(B-B')	82
表59 第II地区第37号墓土層観察表(A-A')	82
表60 第II地区第37号墓土層観察表(B-B')	83
表61 第II地区第39号墓土層観察表	83
表62 第II地区第54号墓土層観察表	83
表63 第II地区第78号墓土層観察表(A-A')	84
表64 第II地区第78号墓土層観察表(B-B')	84
表65 第II地区第115号墓土層観察表	84
表66 第II地区第117号墓土層観察表	85
表67 第II地区第118号墓土層観察表	85
表68 第II地区第119号墓土層観察表	85
表69 第II地区第120号墓土層観察表(A-A')	85
表70 第II地区第120号墓土層観察表(B-B')	86
表71 第II地区第121号墓土層観察表(A-A')	86
表72 第II地区第121号墓土層観察表(B-B')	86
表73 第II地区第121号墓土層観察表(C-C')	86
表74 遺物計測表	113
表75 銅銭拓影一覧表	114
表76 墓出土銭一覧表	114
表77 遺構一覧表	115

写真図版

PL. 1 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I地区)
PL. 2 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I地区)
PL. 3 遺構検出状況(夷王山墳墓群第I・II地区)
PL. 4 出土遺物(宮ノ沢川左・右岸地区)
PL. 5 遺構検出状況(宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋内))
PL. 6 遺構検出状況(宮ノ沢川右岸地区(旧笹浪家住宅主屋内))

- PL. 7 遺構検出状況（宮ノ沢川右岸地区（旧笹浪家住宅附属雑倉周辺））
- PL. 8 遺構検出状況（宮ノ沢川左岸地区（旧笹浪家附属土蔵周辺））
- PL. 9 遺構検出状況（夷王山墳墓群）
- PL. 10 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 11 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 12 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅰ地区）
- PL. 13 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 14 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 15 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）
- PL. 16 遺構検出状況（夷王山墳墓群第Ⅱ地区）

附図1 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図

附図2 宮ノ沢川左岸地区遺構配置図

附図3 夷王山墳墓群第Ⅰ地区遺構配置図

附図4 夷王山墳墓群第Ⅱ地区遺構配置図

例 言

1. 本書は史跡等活用特別事業（ふるさと歴史の広場）に伴う平成12年度の宮ノ沢川右岸・左岸地区（重要文化財旧笹浪家住宅周辺）、夷王山墳墓群第Ⅱ地区の発掘調査について概要をまとめたものである。

2. 本年度の発掘調査は次の体制でのぞんだ。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

指導 上ノ国町勝山館跡調査研究専門員

鶴見大学客員教授 石井進

橘女子大学教授 朝尾直弘

歴史家 網野善彦

東北学院大学教授 榎森進

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

勝山館跡整備委員会

東北芸術工科大学特任教授 仲野浩

東北芸術工科大学教授 田中哲雄

東北芸術工科大学教授 宮本長二郎

東北学院大学教授 榎森進

文化学院講師 鈴木亘

東京大学名誉教授 渡辺定夫

主管 上ノ国町教育委員会文化財課 課長

渡部孝之 主任学芸員 松崎水穂 文化財

係長 齊藤邦典 博物館整備係 学芸員

松田輝哉 事務補 岡田俊一郎 嘱託発掘

調査員 三浦英俊 郷土館資料調査専門員

久米久義 臨時事務補 小林真澄

調査補助員 山崎洋子 笠谷奈智子 竹内江

美子

作業員 池田奈子 井越祥子 奥寺京子 川

口泰子 小滝あけみ 笹浪竹志 澤村司

鈴木千春 住吉泰子 沼沢国枝 八田揚子

藤谷ひろみ 松木津枝子 目黒加奈子

保存処理作業員 木村洋子 油谷和枝

3. 本書は松崎・松田で協議の上編集した。第1部、第2部各章節を松崎・松田の分担で執筆し、文末に文責を記した。

4. 挿図の作成は、宮ノ沢川右岸地区・夷王山墳墓群第Ⅱ地区を笠谷、宮ノ沢川左岸地区・夷王山墳墓群第Ⅰ地区を竹内が作成した。

5. 土層の土色は「新版標準土色帳」（農林水産技術会議事務局）を用い目測で比定した。

6. 調査時の写真は松崎、松田が撮影した。

7. 調査にあたっては、次の関係機関と各位に多大な御指導と御援助を賜った。

文化庁記念物課 本中真 磯村幸男 伊藤正

義 坂井秀弥 岸本直文 平沢毅 加藤真二、

建造物課 益田兼房 大和智 西和彦 下間

久美子、北海道教育庁文化課 畑宏明 大沼

忠春 千葉英一 工藤研二 田才雅彦 高橋

優 多田博昭 吉田種榮 上出秀信、(財)

元興寺文化財研究所所長 坪井清足、國學院

短期大学 近藤好和、(財)文化財建造物保

存協会 近藤光雄 岸茂 アイヌ文化振興・

研究推進機構 河野哲也、国立歴史民俗博

物館小野正敏、北海道開拓記念館 平川善祥、

(財)北海道埋蔵文化財センター 種市幸生

越田賢一郎 田中哲朗 田口尚 藤原秀樹

富永勝也 彭浦寛、市立図書館 長谷部

一弘 保科智士、苫小牧市立博物館 三村伸

銅路市立博物館 高橋勇人、三春町歴史民俗

資料館 平田植文、上磯町教育委員会 森靖

広、恵庭市教育委員会 上原眞一、平取町教

育委員会 森岡秀人、余市町教育委員会 乾

芳宏、市浦村教育委員会 榊原滋高、中里町

教育委員会 齋藤淳、豊田町教育委員会 清水

尚、米原町教育委員会 中井均、能登川町

教育委員会 植田文雄、(株)亀田工業、(株)

丸善工業

8. 保存処理は、鉄製品250点、銅製品100点、木製品300点の処理を行った。併せて、過年度に処理した鉄製品の内、再び錆が生じ破損の恐れがあるもの200点の処理を行った。

引用参考文献

『北蝦夷編纂』北門叢書第五冊 1972年 大友

喜作編

『蝦夷島奇観』1982年 谷澤尚一・佐々木利和

編

『要綱日本紋章學』1928年 沼田頼輔

『北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書』1924

年 北海道庁

- 『日本刀』 本間順治 1939年
 『アイヌ美術 金工漆工篇』 1943年 金田一京介・杉山寿栄男
 『毒矢の文化』 1963年 石川元助
 『日本の美術6 刀剣』 1966年 佐藤藤山編
 『日本の美術64 刀装具』 1971年 加藤進編
 『日本北方史の論理』 1974年 海保嶺夫
 『日本史小百科4 墳墓』 1978年 斎藤忠
 『昔から見た日本人のルーツ』 1983年 鈴木尚
 『1643年アイヌ社会探訪記 フリース船隊航海記録』 1983年 北橋保男
 『列島北方史研究ノート』 1986年 海保嶺夫
 『アイヌの歴史北海道の人びと(2)』 1982年 榎森進編
 『アイヌ文化成立史』 1988年 宇田川洋
 『中世の都市と墳墓』 1988年 網野善彦・石井進編
 『別冊太陽 古伊万里』 1988年 西田宏子・大橋康二監修
 『日本海域の土器・陶磁器 中世編』 1989年 吉岡康暢
 『肥前磁器』 1989年 大橋康二
 『よみがえる中世4 北の中世 津軽・北海道』 1989年 菊池徹夫・福田豊彦編
 『北からの日本人 第2集』 1990年 北海道東北史研究会編
 『中世の葬送・墓制』 1992年 水藤真
 『中世社会と墳墓』 1993年 石井進・萩野三雄編
 『亮昌寺資料目録』 1993年 (財)アイヌ民族博物館
 『アイヌ民族と日本人』 1994年 菊地勇夫
 『古伊万里の文様』 1994年 大橋康二
 『中世須恵器の研究』 1994年 吉岡康暢
 『日本出土銭総覧』 1996年 兵庫埋蔵銭調査会編
 『中・近世の北陸』 1997年 北陸中世土器研究会編
 『中世後期における東アジアの国際関係』 1997年 大隅和雄・村井章介編
 『北の内海世界—北奥羽・蝦夷ヶ島と地域諸集団—』 1999年 入間田宣夫・小林真人・斎藤利男編
 『九州陶磁の編年』 2000年 九州近世陶磁学会

編

- 『国史大辞典』 1984年～1998年
 『發寒村の遺跡発掘記』 河野広道 『蝦夷往来 第10号』 1933年
 『發寒村發寒の遺物に就いて』 高倉新一郎
 『蝦夷往来 第10号』 1933年
 『北海道檜山郡宮ノ沢遺跡』 渡辺兼磨・松崎水穂 『考古学雑誌第56巻第1号』 1970年
 『北海道の墓』 加藤邦一 『新版仏教考古学講座 第5巻 墳墓』 1974年
 『松前町字上川墳墓遺跡の調査』 久保泰 『松前藩と松前』 13号 1979年
 松崎水穂・中村公宣・百々幸生 『北海道洲崎館跡発見の中世遺物と頭首』 考古学雑誌第67巻第2号 1981年
 『北海道における近世の墓制』 田村俊之 『北海道考古学19』 1983年
 『静浦D遺跡と道南地方の摺文文化』 久保泰 1983年 月刊考古学ジャーナル№213
 『北海道出土の中国陶磁』 1984年 松下亘
 『北海道の研究2』
 『近世アイヌ墳墓の考古学的研究』 1984年 平川善祥 『北海道の研究2』
 『北海道の中世墓について』 加藤邦一 『北海道の研究』 考古編Ⅱ 1984年
 『続縄文土器様式』 大沼忠春 『縄文土器大観4』 小林達雄編 1989年
 『墳墓(2) 中世』 惠美昌之 1990年 『歴史考古学の問題点』 坂詰秀一編
 『中世の葬場』 惠美昌之 『季刊考古学第39号』 1992年
 『旧笹浪家住宅解説』 齊藤英俊 『月刊文化財』 平成4年2月号 1992年
 『アイヌ墓の成立過程』 1992年 宇田川洋
 『北の人類学』 岡田宏明・岡田淳子編
 『チャシとその墓 二風谷遺跡の例を中心にして』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』 北海道立北方民族博物館編
 『千歳川流域におけるアイヌ文化の成立』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』 北海道立北方民族博物館編
 『摺文以後をめぐって』 1996年 田中哲郎 『博物館フォーラム アイヌ文化成立を考える』

北海道立北方民族博物館編
「原始工芸・アイヌ工芸の研究者としての杉山寿
栄男（小伝）」 1997年 『東北歴史資料館研究
紀要第23巻』
「近世アイヌ墓址のいくつかの問題点」 1988年
豊原照司 『野村先生遷居記念論集 北方の考
古学』
「古代・中世京都の墓」 1996年 五十川伸矢
『国立歴史民俗博物館研究報告第68集』
「福山秘府」『新撰北海道史第5巻史料一』
1936年 北海道廳
『上ノ国村史』 1956年 松崎岩徳
『統上ノ国村史』 1962年 松崎岩徳
『弘前市史 資料編1 考古資料』 1995年
『中世北陸の寺院と墓地』 1994年 北陸中世土
器研究会
『シンポジウム資料集 中世の火葬—その展開と
地域性—』 東国歴史考古学研究所・帝京大学山
梨文化財研究所 1995年
『東北地方の中世出土貨幣』 東北中世考古学研
究会第5回研究会資料 1999年
『北海道上ノ国町 旧佐浪家附属土蔵解体調査報
告書』 1992年 財団法人文化財建造物保存技術
協会
『札幌遺跡』 1974年 木古内町教育委員会
『ユオイチャシ・ポロモイチャシ・二風谷遺跡』
1986年 (財)北海道埋蔵文化財センター
『福山城V』 1988年 松前町教育委員会
『美沢川流域の遺跡群XIII』 1989年 (財)北

海道埋蔵文化財センター
『美沢川流域の遺跡群XV』 1990・1991年
(財)北海道埋蔵文化財センター
『ライトコロ川口遺跡』 1980年 東京大学文学
部考古学研究室常呂研究室編
『ライトコロ川口遺跡』 1995年 東京大学大学
院人文社会系研究科文学部考古学研究室
『南川2遺跡』 1985年 瀬棚町教育委員会
『瀬棚南川遺跡』 1982年 瀬棚町教育委員会
『御幸町』 1985年 森町教育委員会
『浪岡城VII』 1984年 浪岡町教育委員会
『史跡七戸城跡北館V』 1996年 七戸町教育委
員会
『川内町埋蔵文化財発掘調査報告書 熊ヶ平(1)
遺跡 熊ヶ平(2)遺跡 韃越遺跡』 1997年
川内町教育委員会
『史跡 上之国勝山館跡I～XXI』 1980～
2000年 上ノ国町教育委員会
『夷王山墳墓群』 1984年 上ノ国町教育委員会
『夷王山墳墓群II』 1989年 上ノ国町教育委員
会
『上ノ国漁港遺跡』 1986年 上ノ国町教育委員
会
『町内遺跡発掘調査事業概報I・II』 1996・98
年 上ノ国町教育委員会
『町内遺跡発掘調査事業報告書III・IV』 2000・
2001年 上ノ国町教育委員会
『原歌遺跡S地点 附米澤屋敷遺跡・久末屋敷遺
跡』 1997年 上ノ国町教育委員会

第1部 宮ノ沢川右岸・左岸地区の調査

I 調査の概要

1 調査

史跡上之國勝山館跡は、昭和52年国史跡に指定され、同54年より環境整備に伴う発掘調査を行ってきた。特に昭和63年以来館中心部を調査し、「客殿」と比定し得る建物跡や鍛冶・鋳造作業場跡などの遺構が見つかり、勝山館の様子広がりが見えてきた。昨年度は史跡地内に所在する重要文化財旧笹浪家住宅の修理に伴い、その周辺部の調査を行った。重文旧笹浪家住宅は、館主体部直下の海岸に面する平地部の一面に位置し、根小屋などの施設が想定される箇所であり、勝山館の構造を考える上で重要な地点である。調査の結果、旧笹浪家住宅主屋南庭の下層に勝山館期と推される幅4m余りの堀を検出した。又、調査区西方の宮ノ沢川右岸縁で、駒ヶ岳由来の白色火山灰（Ko-d、1640年降灰）下層に、出土陶磁器から慶長期と推される遺物包含層を検出した。この遺物包含層からはイクバスイ、弓等のアイヌ文化遺物と矛形の形代等多種多様な遺物が出土した。調査面積は限られたものであったが、勝山館期の土地利用や勝山館廃絶直後期の様相を究明する上で重要な資料を得ることが出来た。

本年度は、重要文化財旧笹浪家住宅周辺地の発掘調査を行った。昨年に引き続き宮ノ沢川地区の旧笹浪家関連遺構、勝山館時代の遺構の確認調査を行った。調査箇所は旧笹浪家住宅主屋、附属雑倉、附属米・文庫蔵、附属重文指定土蔵である。また、附属雑倉以外は、解体修理との関係上トレンチ調査に留まった箇所もあり、調査区範囲・位置が複雑である為詳しくは遺構図を参照されたい。

2 調査法

旧笹浪家主屋東面に平行する史跡境界ラインを縦軸に利用し、4m×4mのグリッドを組み、調査区を設定した。南北ラインをアルファベット、東西ラインをアラビア数字で表記した。調査区の遺構配置・土層堆積図は1/20、土壌は平面・堆積を1/10、1/20で実測した。測量法は平板測量、遠方測量を適宜併用した。遺物は出土地点を1/20の分布図に記録し、レベルを付してから取り上げた。土壌は平面プラン確認後、半載し堆積状況

を撮影、実測した後に掘りあげた。なお土壌・焼土等の遺構の覆土は、調査員の判断により適宜サンプリングを行った。

3 調査経過

9月 雑倉礎石実測後取り外し、雑倉周辺下層部調査を開始。26日米・文庫蔵の調査開始。米蔵盛土除去後、礎石の実測を行う。

10月 10日雑倉下の土層16を調査。14日文化財保護法制定50周年記念協賛行事で主屋解体修理現場並びに発掘現場公開。16日より重要文化財指定土蔵調査開始。

11月 文庫蔵下層の中世墓を調査。雑倉周辺下層の勝山館時代堀跡を調査。配石遺構を調査。重文土蔵のサヤ、北側石垣を調査。

12月15日現場後片づけを終え調査終了。

4 基本層序

基本的には勝山館跡中心部等調査の分類に依拠しているが、細分を行っている。

I層 近代以降の整地層。一部で細分される。

II層 3層に細分される。

a層 近世の整地層（1640年以降～近代）。

b層 白色火山灰（Ko-d 1640年降灰）。

c層 黒色土・砂層。葦を含み、木製品等を大量に含む。礫粒で構成される間層があり、細分される。中世末～近世初頭の遺物包含層。

III層 勝山館跡存続期に該当する中世の整地層。

IV層 中世以前の堆積層。3層に細分される。

a層 礫層

b層 黒色土層（縄文時代、恵山期相当の遺物包含層）。

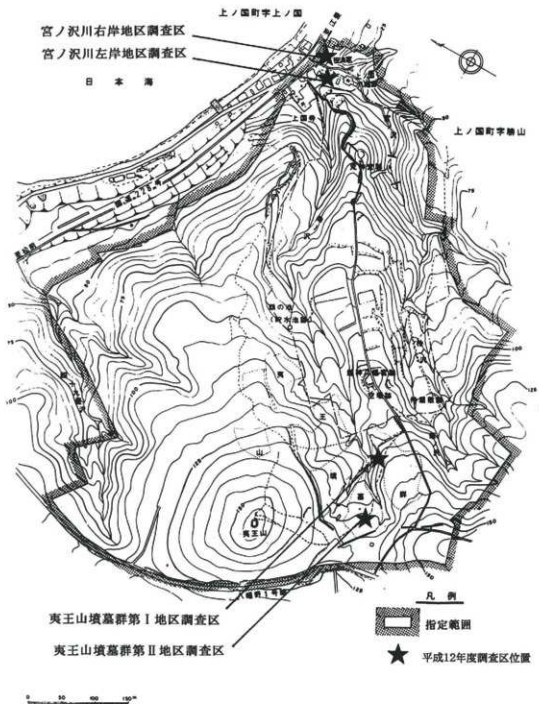
c層 黒色土層（縄文時代後・晩期、入江式・上ノ国式等の遺物包含層）。

V層 礫層（縄文時代後期以前）。

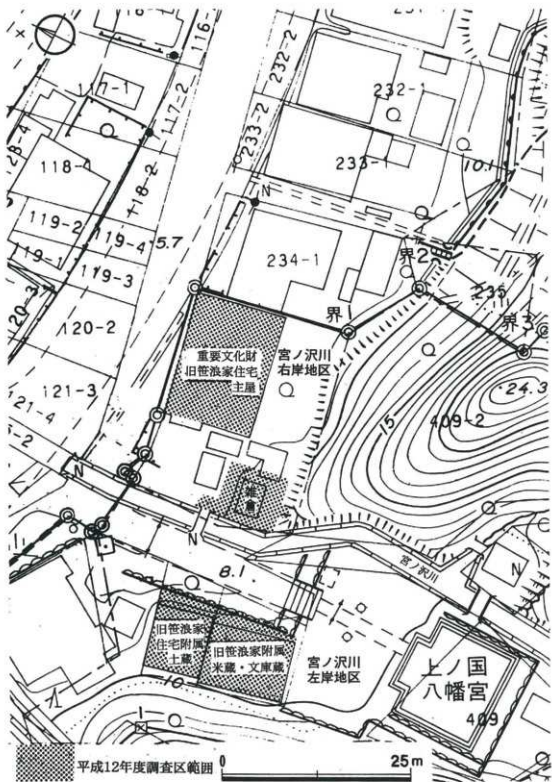
VI層 礫層、砂層。

なお、土層観察表にCと記したものは炭化物の細粒であり、炭化木片等と判る物と区別した。

（松田）



第1図 遺跡地形図・調査区位置図



第2図 宮ノ沢川両岸調査区位置図

II 遺構確認調査

1 調査の経緯と目的

平成11年11月から重要文化財旧笹浪家住宅の保存修理事業が始まった。同住宅には「天保年間の創建」で、「幕末に「はなれ」が南・背面に増設」され「明治20年頃に北・前通りが道路の拡幅に伴い三尺切り詰め」られたことが十一代当主故笹浪久美氏の覚え書とともに伝えられていた。

修理は半解体の上行われることとなり、それに伴う痕跡調査等から、同住宅の変遷が探られるところであるが、周辺の発掘調査による遺構確認も必要と考えられた。

一方同住宅の敷地は勝山館跡の史跡指定地内となっている。近年の字上之回市街地における個人住宅の建替えに先立つ緊急発掘調査や、町内遺跡分布調査事業による試掘調査によって、上ノ国市街地の現住宅下位には縄文時代前期以来、各時期を経て現在に到る遺跡が重層していることが推察されるところとなった。同住宅の北東30m、米沢光一氏宅（第2図116番地）の発掘調査（平成8年）では15世紀中頃の整地層や遺物、16世紀以降の柱穴や遺物が確認され、木住宅敷地内の試掘調査でも15、16世紀の陶磁器の出土が確認されていた。これらのことから、平成11年5月史跡整備事業の一環として遺構確認調査が行われることとなった。（本概報XXI）

明治20年頃の笹浪家住宅や、上ノ国八幡宮を描いた銅版画に同住宅南西部に蔵が描かれている。一枚は瓦葺きの土蔵として、今一枚は板倉として描かれる。又母屋から西宮ノ沢川まで片庇の屋根が竪木状に描かれ、南西隅の蔵前の附属も推察された。同住宅母屋周辺の景観整備を進める上でその遺構を確認することが必要となった。又、この蔵の位置は前年確認された勝山館跡併行期の堀跡の延長部が宮ノ沢川に取り付く場所にあり、その確認も必要であった。

宮ノ沢川を挟んだ左岸に明治18年建築の同住宅付属土蔵が主屋と同時に重文指定され、現存している。その南に嘉永元年建築の米・文庫倉一棟が隣接していたが、損傷が著しく（財）文化財建造物保存技術協会の指導の下に、平成3年解体、材を保管していた。この土蔵についても、先の銅版画に描かれていることから、平成12年度から開始

した、「史跡等活用特別事業」で、歴史的建造物の復元を行うこととした。本土蔵の解体時に、その基礎工事を知るべく試掘をしていたが、平成11年、その試掘環を精査したとして、土壌墓があるらしいことが推察された。又解体時にこの土蔵の北入口付近で青磁焼花皿が採集されており、更にはこの蔵の東5m、八幡宮参道の階段直下は昭和45年、防火水槽を設置した時に縄文時代晩期・縄文時代時代の遺物が出土し、宮ノ沢遺跡として埋藏文化財包蔵地登録がなされていることなどから、これについても遺構確認調査を行うこととなった。

なお笹浪家住宅主屋内及び重文指定付属土蔵敷地内についても、前身遺構等確認のため調査を行った。これについては、重文の保存修復事業報告書に掲載の予定であるが、前年度調査並に本年度調査に関係するところが大きいので、重複を恐れつつ、関連資料として併せて記述することとした。

2 検出遺構と出土遺物

(イ) 旧笹浪家住宅主屋内（第8図）

1 調査区・層序：11年度調査で設定したグリッドを踏襲し、主屋内に南から北にC-E、東から西に1-4の4m区画を設定した（第3図）。更に通り庭、台所、下台所、ミセ、座敷、板間等に分けられている室内空間毎に、このグリッド軸を基準とする調査区を設定した。第8図中、通り庭西半中央の東西2.5×1メートルと同東半の南北3～5×1メートル程の5区画と通り庭、カマド、井戸周辺が当初設定の調査区である。調査区の設定とその後の拡張にあたっては、（財）文化財建造物保存技術協会笹浪家修理事務所所長 岸 茂氏と協議し、ご助言ご指導を頂戴した。

通り庭の敷石（第6・8図中央）、ミセ・板間の図が裏は修理事業に伴い撤去済みであった。

通り庭のタタキの形成を観察すべく掘り下げたところ、前身遺構と思われる柱穴列が見つかり、1640年降灰のKo-d（駒ヶ岳火山灰）の堆積が見られた（PL.6-1）。従前の調査では勝山館跡期の遺構や凹地に堆積が見られているものである。又部屋下C1区で瀬戸・美濃大窯の天目茶碗が表土直下の礫層中から出土した。この礫層は、各調査区にわたって堆積が見られ、前年の調査の知見からは、宮ノ沢川の氾濫堆積物とその整地層、及

び懸跡覆土として見られたものである。ところが座敷E1調査区北、東壁ではこの礫層は、30cm程と薄く、その直下に暗褐色土層が堆積し、調査区北壁では西へ傾斜し、下位に遺構の存在を窺わせた。

11年度主屋南背面の調査で堀跡を検出するとともにその覆土中に廃棄された鍛冶関連遺物について、主屋側からの廃棄によるものと推測した。又主屋西、宮ノ沢川べりの大量の遺物の廃棄についても、主屋敷地を含む東側を中心とする周辺一帯からのものと想定したところである。これらのことから岸所長の助言を受けて建物の修復に支障を来さない地区において、各調査区を繋ぐ拡張区を設定するとともにセクション面に沿って巾60cm程を60～80cm深掘りして層序を観察した。

2 遺構：想定された遺構は縄文時代～徳文時代、徳文時代終末～勝山館併行期、勝山館廃絶直後期、江戸時代前半～菅浪家住宅創建前、同創建期～幕末、幕末～明治20年代、明治20年代～昭和30年代、昭和30年代～現代の時代である(第4図、付図1)。

昭和30年代～現代(第5図)：既にカマドはなく、掘り抜き井戸枠の中央に電動ポンプで水を汲み上げた管が直立している。現地表下2m程の所に水脈(井戸底)があるらしく、管の先が濡れる。井戸木製側枠にはワイヤーロープが巻かれる。井戸跡東2m程の所に浅い柱穴P135～137がある。135は先行しP138、焼土2がこの期に下ることも推される。

明治20年代～昭和30年代(第6図)：通り庭南部分に敷き詰められた笏谷石、通り庭東西部分、下台所前に敷かれた四角の笏谷石、カマド基礎と推される笏谷石石組などが想定された(第6図等の南北部笏谷石図は菅浪家事務所から原図の提供を受け合成した)。昭和30年頃まで使用された釣瓶井戸は、現井戸枠真上の梁にその痕跡があり、遅くともこの期に付設されていると推されるが調査では確認できなかった。笏谷石敷設の年代や敷設に当たってのタタキ部分との取り合いについてはP138や焼土2との重複も含め今少し検討したい。

ミセ囲炉裏下部付近で炭化物の集中が見られ、樟皮の燃え残りとも推されるものがあった。囲炉裏の付け木代りに使用したものであろうか。

菅浪家創建期～明治20年代(第7図)：とおり

にわ東西部土間の断面に厚さ20cm程のタタキの造成が見られた(PL.5-4)。これに比し通り庭南北部笏谷石下位のタタキは不明瞭である(第3図E-E'、PL.6-2)。或いは笏谷石の敷設時に手が増えられているのか、当初から笏谷石の敷設でこれに代えていたのか検討しなければならない。又、主屋南東部部屋下の土層C-C'に類似の堆積が見られたが、主屋床下全域で明瞭に確認されるとはできない。

井戸跡北東・カマド基礎組石の北西に一部これと重複してカマド基礎が、更に組石北に別の一基が検出された(第7・8図、PL.5-6～9)。後者は完掘できなかった。前者のカマド南西隅は、井戸外縁掘り方で一部切られているようである。

勝山館廃絶～菅浪家創建期(第8図)：調査区E2、ミセ下部、第3図土層図B-B'中に土壌イと記した土層中より、17世紀前半の遺物が出土した(第21図8)。土壌底面は水平で一部粘土で張り床される。北東側に2m拡張したが更に北・北東側へ広がっている。西側も調査区外へ広がる。深さ約1mである。覆土上部に1640年降灰駒ヶ岳火山灰を含むII層が堆積しており、この直前に埋め戻され、廃されたと推される。

主屋正面入口から南へ通じる通り庭南北部の表土(タタキ?)下から、シテンドコ東側柱通りに平行する南北柱列を検出した(第8図)。現存柱穴はいずれも掘り込みが浅い。P142・148・149・151は柱間1.6m等間で柱筋が通る。P135はこの柱筋延長上にあり、同時期かも知れない。調査区D3南西部に駒ヶ岳火山灰の堆積があり、柱穴の殆んどはこの火山灰下での検出であることから、江戸初期を大きく下らないものと推される。又、その上限は後述のように、この火山灰堆積部分下に堀跡と推される落ちこみがあり、ほぼ勝山館跡期に併行すると推されるので、その堀が埋没・整地後間もない時期が想定される。昨年度の調査で検出された、宮ノ沢川右岸慶長期包含層に対応する遺構の一部かと推される。

なお、他の調査区においても、表土下で柱穴が検出されているが、部分的な検出であり詳しくは述べられない。又、P135～138・焼土2、焼土1・土壌3等は、近代以降と推している。

勝山館併行期(第9図)：〈堀跡II・III〉D3調査区の柱穴列東側の土層観察(第3図E-E')

表1 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・板間東西セクション南壁土層観察表 (A-A')

1-1	10YR 3/2	黒褐色	玉砂利 砂 礫粒		
1-2	10YR 5/4	にぶい黄褐色	さらさら		ソフト
2a-1	10YR 4/3	にぶい黄褐色	小礫 砂利 ロームブロック やや粘質		
2a-2	10YR 3/4	暗褐色	砂質土		
2a-3	10YR 2/3	黒褐色	礫粒 砂 粘土凝り		ややハード
2a-4	10YR 4/4	褐色	礫粒 砂 凝結塊 ソフトローム凝り		黄土粒 炭化物少量
2a-5	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 砂利 ローム粒		ソフト
2a-6	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒 灰濁り		黄土粒少量
2a-7	10YR 2/3	暗褐色	砂		ややハード
2a-8	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒少量		黄土粒 炭化物少量
2a-9	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 砂 ローム粒少量		黄土粒 炭化物少量
2b-1	10YR 4/4	褐色	砂質土		
2b-2	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂粒少量 小礫少量 砂質		
2b-3	10YR 4/4	褐色	基盤礫多量 砂凝り		
2b-4	7.5YR 2/3	暗褐色	基盤礫 礫粒		
2b-5	10YR 4/3	にぶい黄褐色	小礫 砂多量 ローム やや粘り有る		
2b-6					
イ	10YR 3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒 砂 やや粘		炭化物少量 黄土粒
ロ	10YR 4/3	にぶい黄褐色	砂質土 礫粒少量		
ハ	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒 砂 火山灰		ややソフト
ニ	7.5YR 3/4	暗褐色	基盤礫 礫粒少量 砂		炭化物 黄土粒
ヒ	10YR 1.5/1	黒色	(白くぬぐうと白物)		
ヘ	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 砂多量		炭化物少量
ト	10YR 4/4	褐色	砂質土 礫粒少量		ソフト
チ	10YR 4/5	褐色	砂質土		ソフト
ツ	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 砂多量		
テ	10YR 3/3	暗褐色	基盤礫多量 礫粒		
アハ赤	10YR 3/3	暗褐色	礫粒 ローム粒 砂利		ややソフト
アハ白			全面砂		炭化物 黄土粒

表2 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 座敷・店東西セクション南壁土層観察表 (B-B')

2b-1	7.5YR 3/2	黒褐色	砂粒主層	白色火山灰 しまり有るがさらさらしている		C少量
2b-2	7.5YR 3/3	暗褐色	砂粒主層	白色火山灰 しまり有るがさらさらしている		C少量
2b-3	7.5YR 4/3-3/3	褐色・暗褐色	砂粒主層	白色火山灰多量		適性 ソフト
2b-4						
イ	7.5YR 2/3	暗褐色	粘質主層	赤粒 礫粒		適性 ソフト
ロ	7.5YR 2/1-2/2	黒色・黒褐色	粘質主層	(イ)より風じり層し		適性 ソフト
ハ	7.5YR 2/1	黒色・黒褐色	炭化物主層			適性 ソフト
ニ	7.5YR 3/2	暗褐色	粘質主層	白色火山灰少量 砂粒		適性 ソフト
ホ	7.5YR 2/3	暗褐色	砂粒主層	さらさら		適性
ヘ	7.5YR 3/2	暗褐色	砂粒主層	赤粒		適性 ソフト
ト	7.5YR 2/3	暗褐色	粘質主層	赤粒 炭粒少量		適性
チ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色	灰い砂粒主層	赤粒 ザラザラ		ソフト
ツ	7.5YR 2/3	暗褐色	砂粒主層			適性 ソフト
テ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色	塊層・砂粒主層			適性 ソフト
ア	7.5YR 4/4	褐色	黄・灰い粘質主層	しまりなし		ソフト
ア	7.5YR 4/2-4/4	褐色	砂粒主層			ソフト
アハ赤						
アハ白	7.5YR 3/3	暗褐色	塊層主層	礫粒 玉砂利 凝結塊 ソフトローム しまり有る		ハード

表3 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 部屋南・北南北セクション東壁土層観察表 (C-C')

1	10YR 3/2	黒褐色	玉砂利 砂多量		
1	10YR 4/4-4/4	褐色	小礫 小礫・礫粒・砂・砂ファイナック状 ローム凝り		少しハード
右の継り品	10YR 2/3	暗褐色	砂利		ソフト
2b-1	10YR 5/4	にぶい黄褐色	礫粒 凝り少量 ローム粒少量		
2b-2	10YR 5/4	にぶい黄褐色	全面火山灰		
2b-1	10YR 3/4	にぶい黄褐色	火山灰 火山灰凝入?		黄土粒少量 炭化物少量
2b-2	10YR 3/4	暗褐色	礫粒 火山灰 少しざらざらしている 火山灰凝入?		黄土粒少量
2b-3	10YR 1.5/1-3/2	黒色・黒褐色	砂粒凝り主層 礫粒 玉砂利		ソフト
2b-4	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 ローム粒少量 やや粘り有る		黄土粒 炭化物少量
2b-5	10YR 2/3	暗褐色	礫粒 小礫 やや粘り有る		黄土粒 炭化物少量
2b-6	10YR 3/3	暗褐色	礫粒 玉砂利 (2b-3)よりザラザラしている		黄土粒 炭化物少量
2b-7	10YR 3/4	暗褐色	小礫		黄土粒 炭化物少量
2b-8	10YR 4/3	にぶい黄褐色	礫粒 砂 玉砂利		ソフト
2b-9	10YR 4/4	褐色	火山灰凝り 火山灰凝入?		黄土粒 炭化物
2b-1	10YR 3/4	暗褐色	小礫 砂粒 礫粒 玉砂利		ソフト
2b-2	10YR 5/3	にぶい黄褐色	基盤礫少量 砂粒 赤いしまり有る		ソフト
イ	10YR 5/3-5/3	にぶい黄褐色	小礫 砂粒少量 (ロ)より灰色		ソフト
ロ	10YR 5/3	にぶい黄褐色	小礫 砂粒		ソフト
ハ			小礫 礫粒 (ロ)より黄色		
ニ			全面小礫 玉砂利層		
ホ	10YR 4/4	にぶい黄褐色	礫粒 玉砂利 砂凝り		黄土粒
ヘ	10YR 3/2	暗褐色	全面砂粒		
アハ赤	10YR 3/3	暗褐色	砂少量 ローム粒少量 凝結		ソフト
アハ白	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		ソフト
アハ5	10YR 3/2	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		黄土粒
アハ上	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		炭化物少量
アハ中	10YR 3/3	暗褐色	礫粒少量 ローム粒少量		
アハ下	10YR 3/3	暗褐色	小礫 礫粒		黄土粒 炭化物少量

表4 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 板間南北セクション西壁土層観察表(D-D')

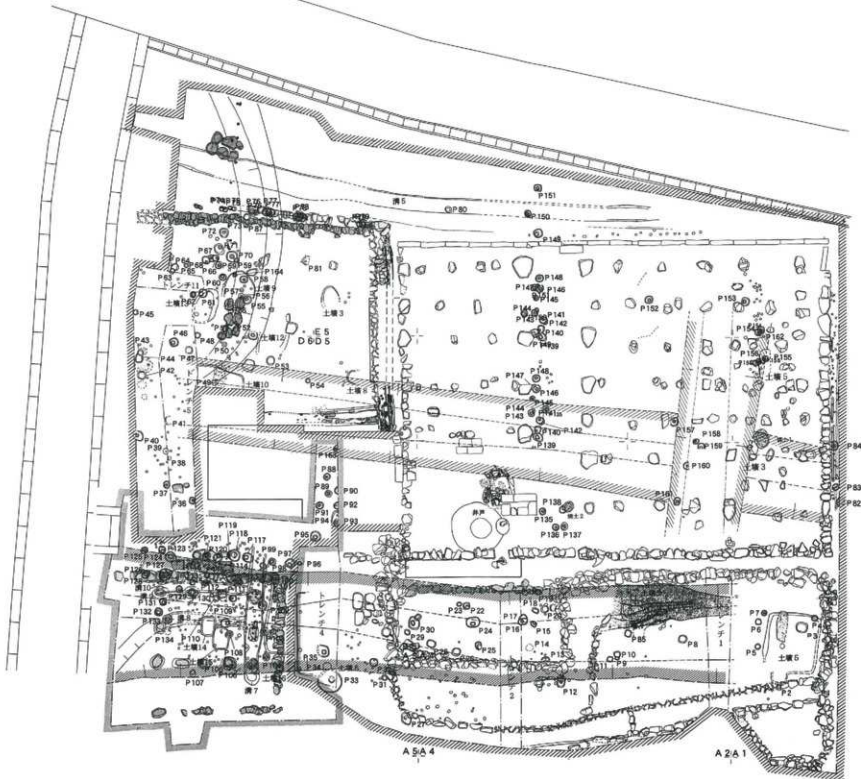
層	層厚	色	観察	特徴
Ea-1	10YR 5/2	にがい黄褐色		粒状 砂
Ea-2	10YR 5/4	暗褐色		全厚厚層
Ea-3	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 砂少量
Ea-4	10YR 5/2	暗褐色		小礫少量 砂少量
Ea-5	10YR 5/3	暗褐色		焼酎 ややしまり有る
Ea-6	10YR 5/3	暗褐色		焼酎 ややしまり有る
Ea-7	10YR 6/4	褐色		焼酎少量 やや砂質 ローム状
Ea-8	10YR 6/3	暗褐色		焼酎少量 砂 ローム状
Ea-9				
Ea-10	10YR 6/4	褐色		焼酎少量 全厚厚層
Ea-11	10YR 6/3	にがい黄褐色		焼酎少量 砂少量 ローム状
Ea-12	10YR 6/4	褐色		焼酎 多数砂少量 砂粒少量
Ea-13	7.5YR 6/4	暗褐色		焼酎 多数砂少量 砂粒少量 (Ea-12より赤味)
Ea-14	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 砂粒少量
Ea-15	10YR 5/2	暗褐色		焼酎少量 火山灰状物
Ea-16	10YR 4/2	灰黄褐色		火山灰
Ea-17	10YR 5/2	灰黄褐色		火山灰 やや砂粒混じり
Ea-18	10YR 5/2	灰黄褐色		火山灰 やや砂粒混じり
Ea-19	10YR 6/2	灰黄褐色		火山灰
Ea-20	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層
Ea-21	7.5YR 4/4	褐色		赤土厚層
Ea-22	10YR 4/4	褐色		砂粒、小礫混り
Ea-23	10YR 4/4	褐色		赤土厚層 焼酎層
Ea-24	10YR 6/4-5/4	褐色		砂粒、小礫混り
Ea-25	7.5YR 5/4	暗褐色		小礫層
Ea-26	7.5YR 6/4	にがい黄褐色		赤土厚層
Fa-2a	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2b	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り 砂少量
Fa-2c	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り 砂少量
Fa-2d	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2e	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2f	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2g	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2h	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2i	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2j	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2k	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2l	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2m	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2n	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2o	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2p	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2q	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2r	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2s	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2t	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2u	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2v	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2w	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2x	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2y	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り
Fa-2z	10YR 5/3	暗褐色		ローム状物混り

表5 宮ノ沢川右岸地区旧笹浪家主屋 通り庭南北セクション東壁土層観察表(E-E')

層	層厚	色	観察	特徴
E-1	10YR 5/4	暗褐色		焼酎 砂 ソフトローム ややしまり有る
E-1-1				全厚火山灰(Ka-d)層
E-1-2				全厚火山灰(Ka-d)層
E-2	10YR 6/4	褐色		小礫 焼酎 ローム状 砂粒混り
E-2-1	7.5YR 5/3	暗褐色		小礫 焼酎 ローム状 砂粒混り
E-2-2	7.5YR 5/2	暗褐色		小礫 焼酎 (E-2より砂多量)
E-3				大礫 焼酎 (E-2より砂多量)
E-3-1	10YR 6/4	褐色		赤土厚層 焼酎 ローム 混じり
E-3-2	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎 やや砂質
E-3-3	10YR 6/4	褐色		砂層 焼酎
E-3-4	7.5YR 6/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎
E-3-5	7.5YR 6/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎 ややしまり有る
E-3-6	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎 (E-3より砂多量)
E-3-7	7.5YR 5/4	暗褐色		赤土厚層少量 焼酎
E-3-8	7.5YR 4/4	褐色		赤土厚層少量 焼酎 やや砂質
E-3-9	7.5YR 4/3	暗褐色		焼酎少量 全厚砂質
Fa-2a	10YR 5/4	暗褐色		焼酎 ローム状 互砂粒少量
Fa-2b	10YR 6/3	にがい黄褐色		焼酎 ローム状 砂
Fa-2c	10YR 5/3	暗褐色		焼酎少量 砂 互砂粒少量
Fa-2d	10YR 5/3	暗褐色		焼酎少量 砂 ローム状
Fa-2e	10YR 6/2	灰黄褐色		焼酎少量 砂 ローム状 火山灰少量

C間の繁りを見るべく板間調査区西壁D-D'を掘り下げイ〜ホの覆土を想定したが、複雑で困難を来した。C-C'面 で北側の立ち上りを追求し、DE1区座敷下を調査中に東から西へ傾斜する土層の堆積があり、B-B'土層観察面を設け掘り下げたところ、イ〜ラの覆土が想定され、それを切る土壌イも確認された(同図)。これに伴い、土層観察面A-A'においてイ〜ヌの覆土を持つ

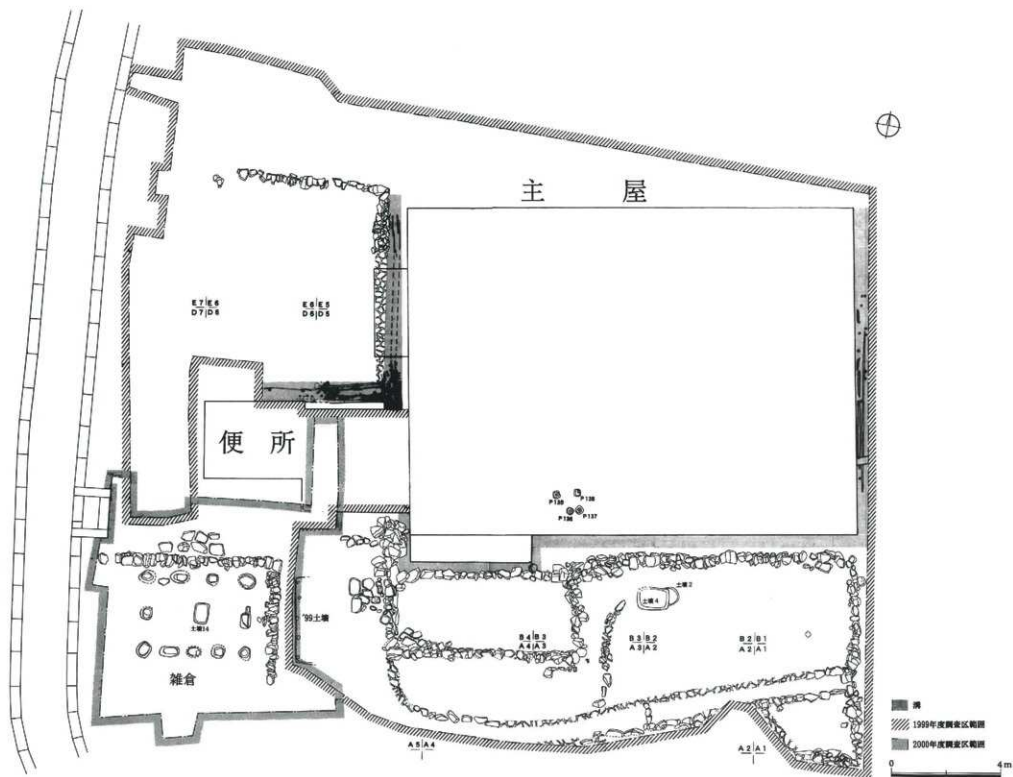
遺構が想定された。いずれの底面も掘り切っていない可能性が残るのは同じである。D-D'土層観察面調査区遺構覆土の出土遺物は珠洲V・VI期播鉢3片2個体、越前播鉢、挟り高台白磁皿、青磁碗・皿・盤、などであり、上部からは同珠洲播鉢、白磁皿、青磁皿、九州陶磁IV期の乗付、白磁皿などが出土した。C-C'面調査区遺構覆土中からは大濠I期の天目茶碗・灰細皿、青磁碗、



- 2000年代築設遺構
- 1900年代築設遺構
- 鎌倉時代築設の遺構
- 戦国時代～現代の区域
- 石
- 明治～戦国時代前半の区域
- 灰土層
- 粘土層
- 土層
- 1900年代築設遺構
- 2000年代築設遺構

0 4m

第4図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図1



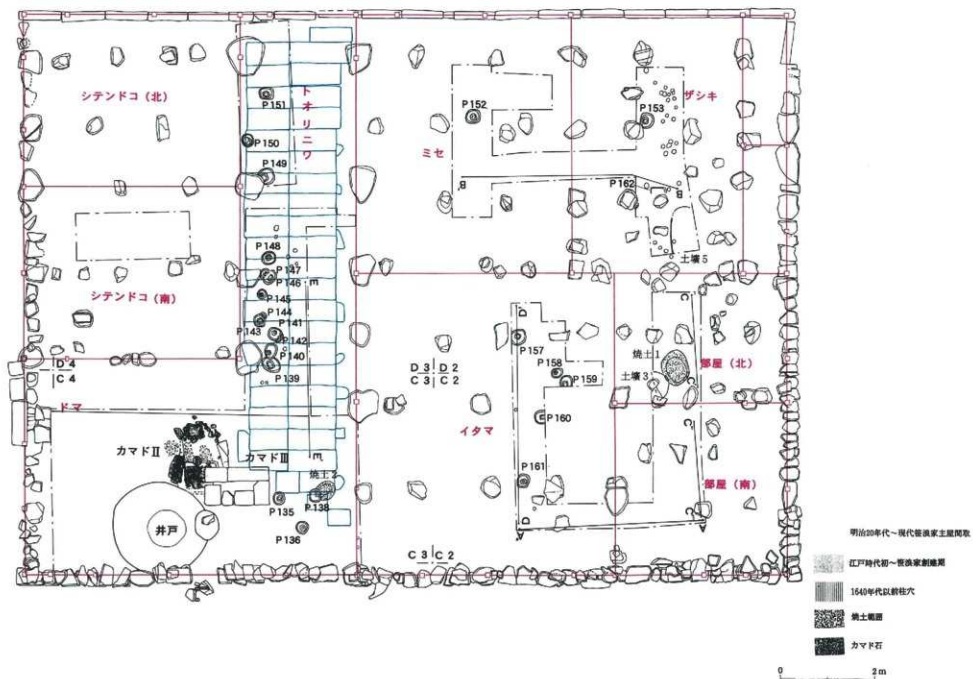
第5図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図2 (昭和30年代以降～現代)



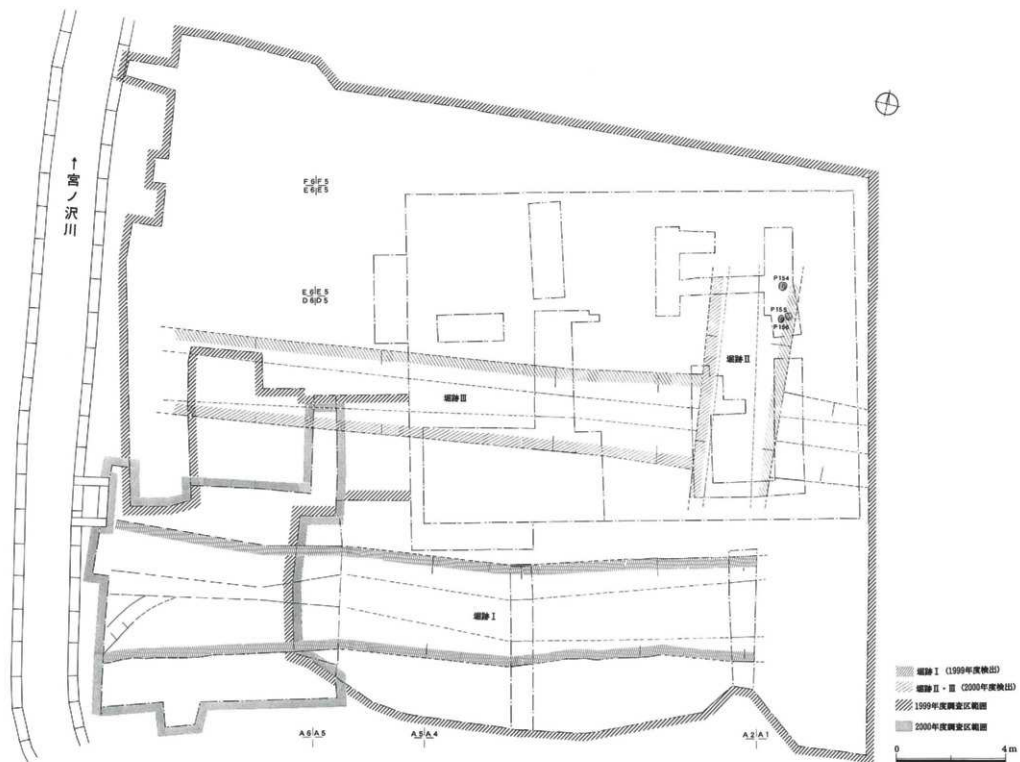
第6図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置圖3 (明治20年代~現代)



第7図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図4 (旧菅原家主屋創建期一天保年間～明治20年代)



第8図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図5 (勝山殿虎絶～旧世濱家創建以前柱穴)



第9図 宮ノ沢川右岸地区遺構配置図6 (勝山館併行期遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-15・16世紀)

染付蓮子碗などが出土した。又唐津描鉢（九州陶磁Ⅱ？）もある。調査区全体では染付獅子皿、17世紀初頭末染付碗、九州陶磁Ⅳ・Ⅴ期のものも出土している。A-A' 面調査区遺構覆土中からは明染付などが出土した。

これらのことから、これらの遺構は15、16世紀代の時間差を有する二条の堀跡と推される。その新旧はC2、D2区境界の東西小トレンチで堀跡Ⅱ（南北方向）の覆土が確認されたので、これが新しいと考えられる。（松崎）

（ロ）旧笹浪家住宅附属雑倉周辺

雑倉（第11・12図・PL.7-1）：A・B6区周辺に位置する。雑倉は昭和33年に建てられた板倉で、今回の主屋の解体修理に伴い解体された。雑倉周辺の地形は、東と北側で現地表面より約40cm程高く、東・北側では自然裸で石積みを行っている。聞き取りによると昭和33年に雑倉が建つ前、この場所は畑に利用されていたとのことである。また笹浪家古文書の中にある家の間取り図には、この辺りに4間×3間の建物があつたことが記されている。さらに、明治20年頃の様子を描いた銅板画には、「クラ」と推される建物が見える。しかし、同じ明治20年頃銅版画でも笹浪家を中心に描いたものは、石垣の上に建つ瓦葺の土蔵の様に見えるが、小学校と八幡宮を中心に描いた銅版画では板倉になっており、構造の違いが推される。雑倉下層の調査は、上記の旧笹浪家関連遺構の確認を最初の目的とし、更に下層に想定される勝山館堀跡の検出までを行った。

調査は昭和33年築の雑倉の礎石から着手した（第11図上）。長軸（棟方向）5個、短軸3個の礎石が並ぶ（PL.7-1）。礎石の下には栗石を検出した（PL.7-4）。

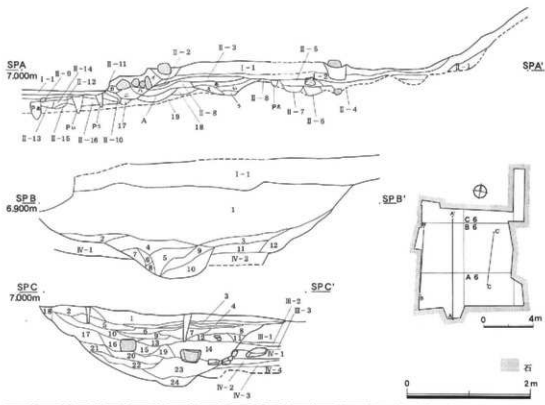
雑倉下層の遺構は掘りこみ面、切合い関係から以下の新旧関係が推される。土壌14は雑倉礎石の掘方精査時に確認したもので、下層遺構中最も新しい遺構である。雑倉築造直前期（第11図下）と推される。溝は4条検出した。溝7は南北方向に、溝8・9・10は東西方向である。いずれも杭穴と推される小柱穴が見られる。溝10は溝9に切られる。新旧関係は、溝10→溝9→溝8→溝7と推移したと想定される。溝8では縄状突帯がある肥前壺片が出土した。内面には当て具の痕跡と推される四角い凹みが僅かながら確認できた。年代は19

世紀と推される。柱穴は46基検出したが、建物跡を想定する事は出来なかった。ただP97・98・117・118～123は、主屋の柱列のほぼ延長線上にあり、（PL.7-6）、旧笹浪家住宅に關係があるとも推される。その内P118には礎盤が敷かれていた（PL.7-8）。その他の柱穴は、建物としての纏まりを想定できず、また細かな時期想定もできなかった。A6区で石列を検出した。石列は背後の山を削り平坦にした岩盤直上にあり、石列と岩盤間に堆積はほとんど認められないことから、岩盤削平直後に並べられたと推される。又、この石列周辺の岩盤直上で19世紀中頃の肥前磁器の皿が出土していることから、主屋創建期（19世紀前半）に周辺を造成したときに作られたものと推される。

発掘調査の結果では、石垣や基礎布石の掘方、抜き取りの痕跡は確認できなかったため、伝承の「クラ」は土蔵ではなく板倉であったと推されるが、銅版画の土蔵を否定する確たる証拠も得られなかったため、結論は留保する。また、古文書間取り図と合致するような建物跡も検出することが出来なかった。遺構の認識・精査不足もその一因といえるが、雑倉の周辺は、約170年以上位置を大きく変えることの無かった主屋に比べると畑地や倉などの付属屋の建替と、利用状況の変化も激しかったため、遺構が失われていると推される。

土壌16（第13図・PL.7-5）：B6区に位置する。東側は掘りこみ面から昭和の頃と推される土壌に壊されているため、当初の平面形は不明であるが、長軸5m、短軸1m強の長方形であったと推される。深さは70cm。溝底部で南北に並ぶ樽（結桶）2個を検出した。樽底板の経はいずれも90cm前後。また南側の樽底板上に蓋と推される木片を検出した。覆土は礫粒が混じる暗褐色土が主体で、覆土全体の土質が似ていることと堆積状況から樽を据えたまま一気に埋められたと推される。

覆土から肥前磁器丸筒茶碗・皿等の陶磁器31点が出土している。その内、覆土下位で出土した肥前磁器皿（第21図13）は、の年代は18世紀後半である。1点だけ覆土上部から瀬戸の染付と推される磁器片が出土しているが、それ以外は18世紀末～19世紀初頭の年代までに納まるものと推される。上部は攪乱を受けているので、一部新しい遺物が混じった可能性があり、またさらに産地・年代とも特定できなかった壺片があり、年代決定に検討



第10図 宮ノ沢川右岸地区（旧笹浪家住宅雑倉）土層堆積図

の余地はあるが、旧笹浪家主屋創建年代より若干古い遺構と推される。

勝山館期堀跡（第10図・PL.7-7・9）：A6区周辺に位置する。昨年度主屋裏の庭（A1～4区周辺）を調査時に検出した堀跡の延長部を検出した。堀の方向は昨年度検出部同様ほぼ東西方向である。断面形はV字状を呈し、上部幅は4mである。西部の宮ノ沢川に取り付く付近では、岩盤を削りこんでおり、沢の水を引き込んでいたと推される。なお堀下部は縄文時代後・晩期の遺物包含層を切る。覆土上面では唐津碗（第21図5）が出土している。覆土は茶盤粒や礫が混じり緻密であり、土質も似ていることから、一気に埋められたと推される。

遺物は、擾乱や整地により各層間を移動しているため、基本層からさらに細分された層序個々に年代を決定づけることは出来なかった。以下雑倉周辺から出土した陶磁器を列挙すると、越前掬鉢、

青磁椀花皿、白磁端反皿、染付碗・皿、唐津碗・胎土目積皿・砂目積皿、志野皿、17世紀～19世紀期代の肥前碗・皿・鉢・甕がある。（松田）

（ハ）宮ノ沢川左岸地区

宮ノ沢川左岸（西側）には旧笹浪家に附属する土蔵が南北に2棟並ぶ。南棟は内部を二分した土蔵である。南側が米蔵、北側が文庫蔵と称していたことが、出入口敷鴨居方立の墨書から判明している。出入口はいずれも東にある。平成3年老朽化により崩壊寸前の米・文庫蔵を文化財建造物協会に委託し解体工事を行った。解体工事時の調査により裏白戸裏面のへら書きに「嘉永元九月六日」（1848）とあり、築造年代が判明した。北棟は東入口の土戸の刻銘から明治18（1885）年造と判明している。北棟の土蔵は主屋と同時に重要文化財に指定され、平成12年、修理にあたり解体が行われた。またこれら土蔵の南側には明治9年勝山館跡から移設された八幡宮本殿と付設の拝殿があり、

表6 旧笹浪家 雑倉南北セクション東壁土層観察表 (A-A')

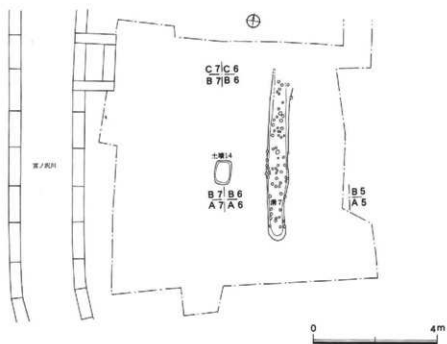
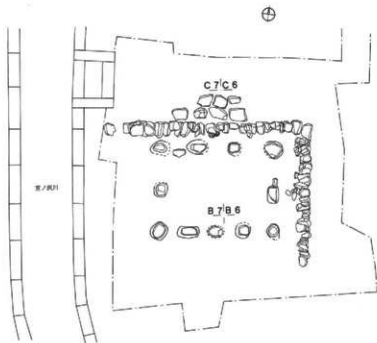
1-1	MYR	3/2-3/2	紫褐色・暗褐色	埋土・埋戻土層	礎 土のり 礎石 基礎礎 人前土土	中やハード ややソフト	灰化物少量	
1-2	MYR	3/2-3/2	紫褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎			
0-1					砂 礎礎			
0-2					礎石 礎石10%			
0-3	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色・基礎礎土層		ややハード		
0-4								
0-5								
0-6								
0-7								
0-8	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎 礎石20% 基礎礎少量	ソフト		
0-9	T.MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎石少量 礎石20%	ソフト		
0-10	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	玉砕砂少量 礎石 基礎礎少量 ロームブロック少量	ややソフト		
0-11	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	基礎礎少量	ややソフト	灰化物少量	
0-12	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	玉砕砂少量	ソフト		
0-13	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	基礎礎 礎石20%	ややソフト		
0-14								
0-15								
0-16	MYR	4/3	1.0-1.5黄褐色	埋土・埋戻土層		ソフト		
0-17								
0-18	MYR	4/3	灰黄色	灰黄色土層	基礎礎少量 基礎礎少量	ややハード	灰化物少量	
0-19								
1	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎少量 基礎礎少量	ややソフト	灰化物少量1%	
2	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	玉砕砂10% 礎石 基礎礎	ややハード		
3	MYR	4/2	灰黄色	灰黄色土層	玉砕砂10% 礎石 基礎礎少量	ややソフト		
4	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎 礎石 基礎礎			
5	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎 玉砕砂少量 礎石 基礎礎 木片	ソフト		
6	T.MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎 基礎礎少量 礎石少量	ややソフト		
7	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	基礎礎少量 礎石少量	ソフト		
8	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	基礎礎少量 埋	ソフト	灰化物少量	
9	A	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	基礎礎少量 礎石少量 礎	ソフト	灰化物少量
10a	MYR	4/2	灰黄色	灰黄色土層	礎 土のり 礎石 基礎礎少量	ソフト		
10b	MYR	3/2	紫褐色	紫褐色土層	礎 礎石 基礎礎 礎石少量	ソフト		
10c	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	礎 礎石 基礎礎 礎石	ソフト		

表7 旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表 (B-B')

1-1	MYR	3/4	暗褐色	埋土	礎石 プレ		灰化物
W-1	MYR	4/3	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	基礎礎 礎		
B-2					砂層		
1	MYR	3/3	紫褐色		埋土(大堀)		
2					穴跡(10-1)		
3					穴跡(10-2)		
4	MYR	4/3-4/4	1.0-1.5黄褐色・褐色		穴跡		
5					穴跡		
6	MYR	4/3	1.0-1.5黄褐色		大堀 礎石 玉砕砂少量		
7	MYR	3/4	暗褐色		小堀 砂		
8					小堀 玉砕砂 砂		
9	MYR	4/4	褐色		中堀 礎石 玉砕砂		
10					堀 礎石 玉砕砂少量		
11					10-5穴跡		
12					礎石 基礎礎 砂		

表8 旧笹浪家 雑倉下堀土層観察表 (C-C')

B-1	MYR	4/4	褐色	埋土	ロームブロック 礎石 基礎礎 石 砕砂(10)	ややハード	灰化物少量
B-2	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 ローム礎	ソフト	
B-3	MYR	3/4	1.0-1.5黄褐色		埋土 礎	ハード	
B-1	MYR	4/6	褐色		礎石少量 基礎礎 砂 砂	ハード	
B-2	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色		砂少量 基礎礎 礎石 穴跡	ソフト	灰化物少量
B-3	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色		砂少量 穴跡 礎石 基礎礎		
B-4	MYR	3/2	紫褐色				
1	MYR	4/4	褐色	埋土	ローム礎 礎石 基礎礎 砂 穴跡	ややソフト	
2	MYR	4/2-4/4	1.0-1.5黄褐色・褐色	埋土	ロームブロック ローム礎 礎石 穴跡	ややハード	
3	MYR	3/2	紫褐色	埋戻土層	ローム礎 礎石少量	ソフト	
4	MYR	4/4	褐色	埋土	ローム礎 礎石少量 基礎礎	ややハード	
5	MYR	4/4-4/6	褐色	埋土	ローム礎 礎石少量 基礎礎 穴跡	ソフト	
6	MYR	3/2-3/2	紫褐色	埋戻土層	ローム礎 砂 礎石少量 基礎礎 中や硬有り	ソフト	
7	MYR	4/4-4/6	褐色	埋土	ローム礎 礎石少量 基礎礎 砂	ハード	
8	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋土	ローム礎 礎石少量 基礎礎 礎石 中や硬有り	ソフト	礎石少量
9	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋土	基礎礎 基礎礎 穴跡	ソフト	
10	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎 穴跡 石	ハード	
11	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	ローム礎 砂 穴跡 基礎礎少量 礎石 (1)玉砕ローム少量	ハード	
12	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	ローム礎 基礎礎少量 礎石	ハード	
13	MYR	3/2	紫褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 ローム礎 砂	ソフト	
14	MYR	4/4-4/6	褐色	埋土	礎石 砂少量 穴跡 ローム礎 基礎礎少量 砂 穴跡	ハード	
15	MYR	4/4	褐色	埋土	礎石 砂 ローム礎 基礎礎	ソフト	
16	T.MYR	4/4	褐色	埋土	礎石 砂 ローム礎 基礎礎	ハード	
17	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 基礎礎少量 ローム礎 砂 穴跡	ハード	
18	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋土	ローム礎 礎石 穴跡 中や硬有り	ソフト	
19	T.MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石少量 砂 ローム礎 基礎礎少量 穴跡	ソフト	
20	MYR	4/2	1.0-1.5黄褐色	埋戻土層	礎石 砂 ローム礎	ハード	
21	T.MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石 砂 ローム礎	ハード	
22	MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	砂 穴跡	ハード	
23	T.MYR	3/4	暗褐色	埋戻土層	礎石少量 穴跡	ハード	
24	MYR	3/2	紫褐色	埋戻土層	埋土少量 ローム 基礎礎 穴跡 中や硬有り	ハード	
25	MYR	3/3	紫褐色	埋戻土層	礎石少量	ソフト	



第11図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図1



第12図 宮ノ沢川右岸地区(雑倉下)遺構配置図2

北側は大蔵伝説の若宮社があったと言われる所である。

米蔵・文庫蔵(第15図・PL.8) : A'・A12区周辺に位置する。長軸9.7m、短軸6.2m。基礎は上部は笏谷石と推される凝灰岩を2段、下部には軟質泥岩の切石を2段積み、布基礎とする(第14図)。文庫蔵の基礎内側には、礎石列が南北方向に7列並び、各列の礎石の数は、おおむね10~15個前後である。礎石列間の距離は、概ね50cm前後だが、入口に面する東1・2列間のみ20~30cmと狭い。また根太と床下間に厚さ10cm程で玉砂利を敷く。米蔵も文庫蔵同様、床下は根太の礎石が並び、砂利敷きの状態であったが、解体時調査では床板がはずされ砂利を覆う様に粘性の高い土が入られ、土間となった状態で検出されている。

米蔵下層に断面から4m×4m程と想定される大きな土塊を確認したが、土蔵の遺構保存を優先し、調査は行わなかったため、詳細は不明である。

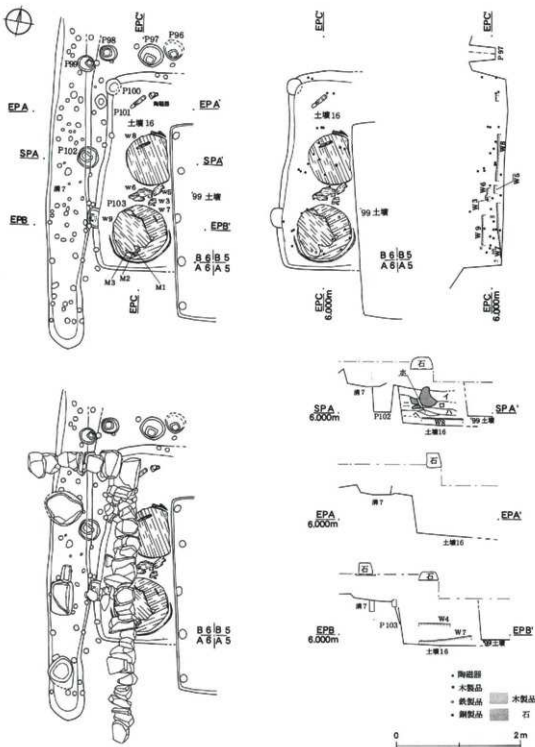
米・文庫蔵周辺では、近世~現代の肥前陶磁器・瀬戸磁器などが出土遺物の大半を占めるが、表

土中や攪乱中からのものを含むと、青磁椀皿(PL.4-3右)、青磁香炉、染付碗・皿、唐津胎土目積み皿等の中世~近世初頭の陶磁器も確認されている。変わったものでは、瓦質土器(火鉢?)が出土している。

重要文化財土蔵(第15図・PL.8-9) : B・C12区に位置する。基礎の規模は長軸6.1m、短軸5.3m。東側が正面出入口となる。この土蔵には、桁行4間(7.0m)、梁間5間(7.3m)のサヤが伴う。

基礎は上から凝灰岩を2段、軟質泥岩を1段積み、布基礎とする。基礎周りの緑石の下には玉砂利を敷いており、水はけを良くするためと推される(第14図)。重文土蔵では米・文庫蔵と同様に基礎内側・床面には厚さ10cm程で玉砂利を敷く。重文土蔵では根太を受ける礎石がなく、玉砂利で受ける。また現存サヤの礎石と異なる位置に礎石が並ぶため、サヤの立替の可能性があると推される。

配石遺構(第20図・PL.8-10) : B・C12区



第13図 宮ノ沢川右岸地区土壌16平面図他

表9 旧笹浪家 土壌16土層観察表

イ	1971L	3/3	暗褐色土主層	土、腐植土層	腐 干砂利 腐植5%	ややハード	炭化物少量
ロ	1971L	3/3	暗褐色土主層	土、腐植土層	腐 腐植 腐植10%	ややソフト	
ハ	1971L	4/2	灰褐色土主層	土、腐植土層	腐 腐植 腐植5%	ややソフト	
ニ	1971L	4/2	灰褐色土主層	土、腐植土層	腐 腐植 腐	ややハード	
ホ	1971L	3/2	暗褐色土主層	土、腐植土層	腐植 腐植少量	ソフト	
ヘ	1971L	3/2	暗褐色土主層	土、腐植土層	腐植% 腐植	ややハード	

表10 旧笹浪家附属土蔵南北セクション東壁土層観察表 (A-A'-A'')

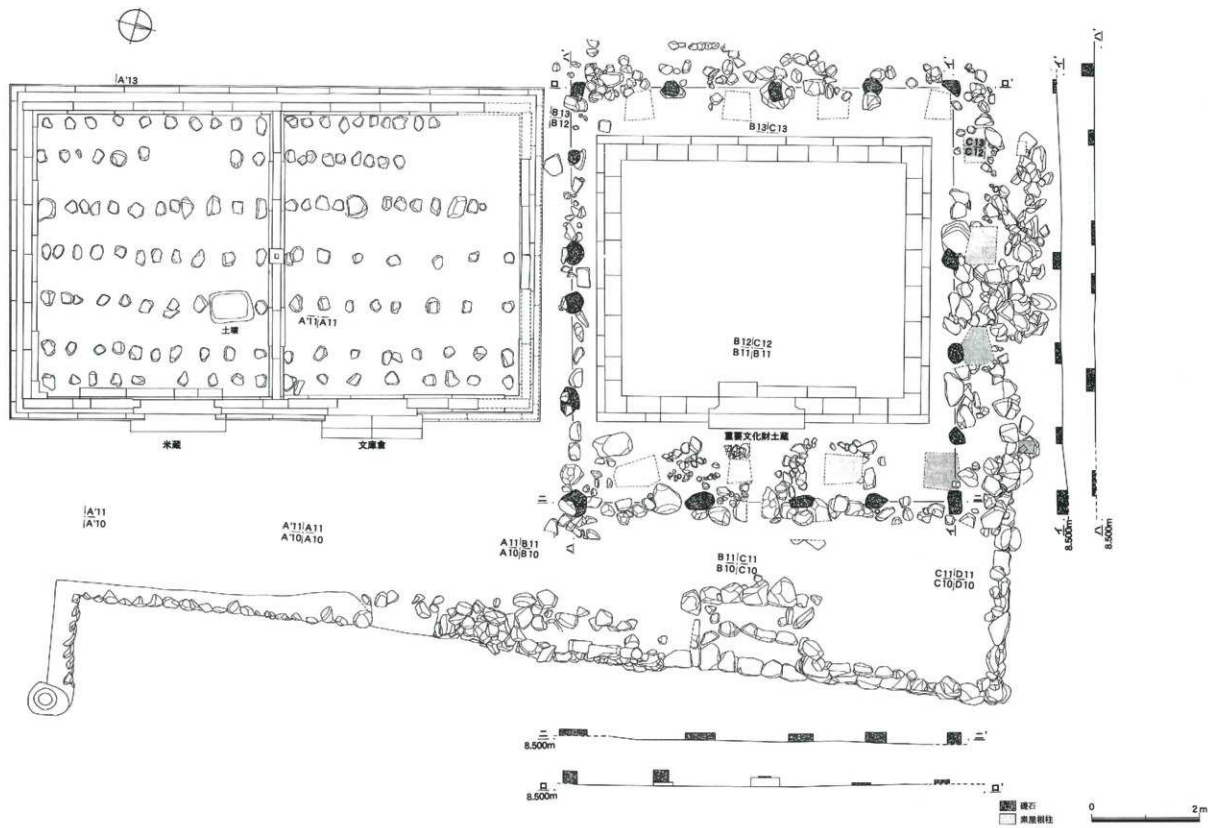
1-1					粘土			
1-2					玉砂利			
1-5	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 小石			
1-6	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色、褐色	腐、腐植土層	腐植 小石			
B-1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植、灰質土層	ロームブロック 玉砂利 腐植 腐植粒 腐植少量粒	湿性 ハード	炭化物	
B-2	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土層	腐植 小石 玉砂利	ソフト		
B-4	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土層	腐植土粒質ローム粒	ハード		
B-5	7.5YR	2/3-3/1	暗褐色	腐植、炭化物土層	腐植 7.5YR2/3腐植ローム粒有り しまり有り	湿性 ソフト	腐植粒	
B-6	7.5YR	3/3-4/4	暗褐色、褐色	腐植土層	腐植 ガラゴロ 小石と腐植粒	ソフト		
腐土1	イ				7.5YR6/5腐植粒、5YR3/4暗褐色、7.5YR3.7/1腐植粒ロームブロック	ハード		
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	ロームブロック 腐植 腐植粒 玉砂利	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	やや粘質 腐植 腐植粒 玉砂利	ソフト	
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒	ソフト	
腐土2	イ				7.5YR6/5腐植粒、5YR3/4暗褐色土粒7.5YR3.7/1腐植粒ローム粒	ハード		
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 玉砂利	ハード	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 玉砂利 腐植土粒、灰色土層あり	ハード	
腐土3	1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 玉砂利	ハード	
	2	7.5YR	4/4-4/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 玉砂利	ハード	
	3	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植	湿性 ソフト	C少量
	4	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 玉砂利	湿性 ソフト	
腐土4	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 小石 腐植粒	ハード	炭化物 腐植粒
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 玉砂利	ハード	

表11 旧笹浪家附属土蔵東西セクション南壁土層観察表 (B-B')

1-1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土層				
1-2					粘土			
1-3					玉砂利			
B-1	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色、褐色	腐植土層	腐植 玉砂利 ローム 小石 腐植	ハード		
B-2	7.5YR	4/4-4/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 ローム粒	ハード		
腐土1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 玉砂利 (腐植土、灰色土層あり)			
Fls.3	ホ	7.5YR	3/3-4/3	暗褐色、褐色	腐植 腐植粒 玉砂利	ソフト		
	イ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植 腐植粒 玉砂利	ソフト		
	ロ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植 腐植粒 玉砂利	ソフト		
腐土4	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒	ソフト	
(腐土) 2	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒	ややハード		

表12 旧笹浪家附属土蔵南北セクション西壁土層観察表 (C-C')

1-2					玉砂利			
1-4	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植粒土層	腐植	ハード	炭化物少量	
B-1	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植 玉砂利 腐植 腐植粒 しまり有り	ハード		
B-2	7.5YR	4/1-5/3-5/2	暗褐色、暗褐色、赤褐色	腐植、腐植土層	腐植 玉砂利 腐植粒 腐植 腐植ローム粒有り しまり有り	湿性 ソフト	C少量 炭化物 色の赤少量	
B-3	7.5YR	3/1	暗褐色	腐植土層	7.5YR3.7/3腐植 腐植ローム粒有り しまり有り	ソフト		
B-2	7.5YR	3/3-4/4-5/2	暗褐色、褐色、赤褐色	腐植、腐植土層	腐植 腐植粒 腐植粒 しまり有り	湿性 ソフト		
B-6	7.5YR	3/3-4/4	暗褐色、褐色	腐植、腐植土層	腐植 腐植土層 腐植 腐植粒 玉砂利	ややハード	C微量	
B-1	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植土層	全腐植	ハード		
土層	イ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植粒土層	玉砂利 腐植	ハード	腐土粒
	ロ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	玉砂利 腐植	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	玉砂利 腐植 腐植粒	ソフト	
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	玉砂利 腐植 腐植粒	ソフト	
	ホ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	玉砂利 腐植	ハード	
	イ	7.5YR	4/2-3/3	灰褐色、暗褐色	腐植土層	玉砂利 腐植	ソフト	炭化物
	ロ	7.5YR	4/3	暗褐色	腐植粒土層	玉砂利 腐植	ソフト	
	ハ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植	ソフト	炭化物少量
	ニ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植	ソフト	炭化物
	ホ	7.5YR	4/2-1/2	灰褐色、赤褐色	腐植土層	玉砂利 腐植 白色火山灰	ソフト	炭化物少量
	イ	7.5YR	3/3	暗褐色	腐植土層	腐植	ハード	炭化物少量
腐土5	ホ	7.5YR	4/1	暗褐色	腐植土層	7.5YR6/5腐	ハード	腐土粒
	イ	7.5YR	2/1	灰色	腐植土層		ハード	
土層6	イ	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒 しまり有り	ハード	
土層7	1	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植土層	腐植 腐植粒	湿性 ソフト	炭化物粒より 島の半量ほど
	2	7.5YR	4/2	暗褐色	腐植土層	腐植	湿性 ソフト	炭化物粒より 島の半量ほど
土層8	A	7.5YR	3/2	暗褐色	腐植粒土層	小石と腐植粒	ハード	



第16図 宮ノ沢川左岸地区（旧菅浪家住宅附属土蔵）平面図

表13 旧笹浪家附属土蔵東西セクション北壁土層観察表 (D-D')

1-2 1-3				焼土		
1-1	T5YR 3/2・3/2	暗褐色・赤褐色	焼成土・赤褐色	焼成土	焼成土	焼成土
1-2	T5YR 3/1・4/2	暗褐色・褐色	焼成土・暗褐色	焼成土	焼成土	焼成土
2-a	T5YR 4/1	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
焼土	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
土層	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2-a	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
4	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
4-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
5	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
5-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
6	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
6-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
7	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
7-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
8	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
8-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
9	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
9-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-1 重文蔵 焼土1土層観察表

1	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-2 重文蔵 焼土2・3土層観察表

1	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
1-a	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-3 文庫蔵 焼土7土層観察表

1	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-4 文庫蔵 焼土8土層観察表

1	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
1-a	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-5 米蔵 焼土10(口)土層観察表

1	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表14-6 文庫蔵 焼土11土層観察表 (B-B')

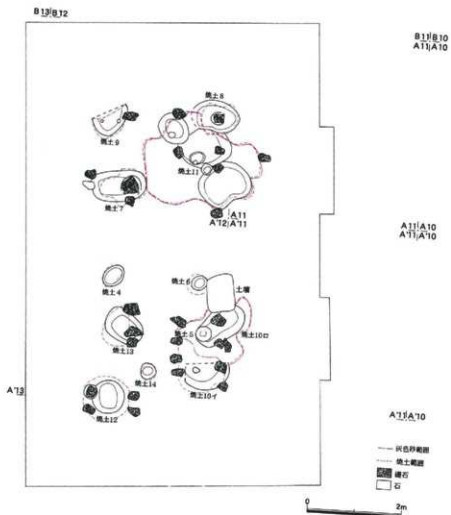
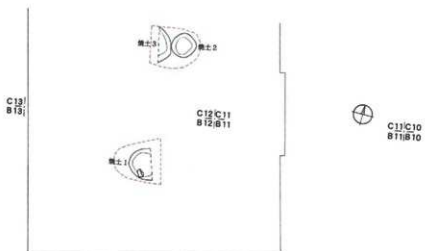
1	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
2-a	T5YR 3/1	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色	暗褐色
3	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
4	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
4-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
5	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
5-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表15-1 米蔵 焼土12土層観察表

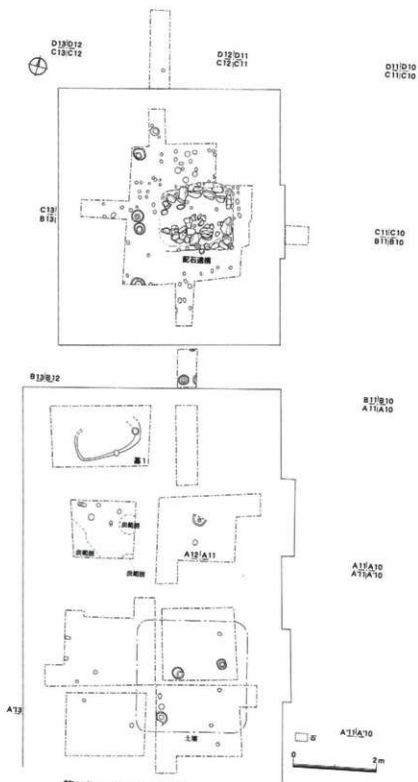
1	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 4/2	褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
3-a	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色

表15-2 米蔵 焼土13土層観察表

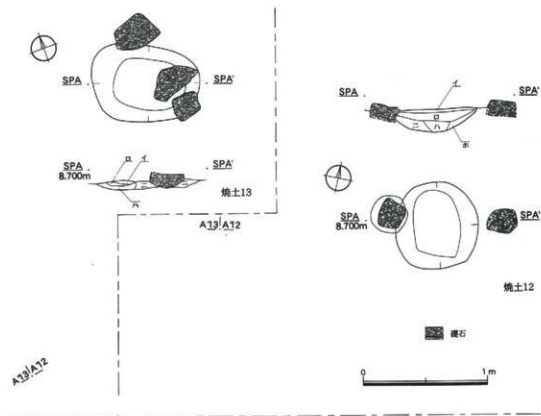
1	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
1-a	T5YR 4/1	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色
2	T5YR 3/2	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色	赤褐色



第16図 宮ノ沢川左岸地区焼土配置図



第17図 宮ノ沢川左岸地区中・近世遺構配置図



第19図 宮ノ沢川左岸地区焼土12・13平面図他

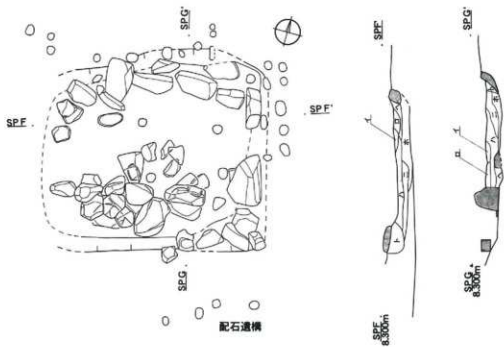
に位置する。重文土蔵下層の整地層中に1.7m×1.6mのほぼ正方形に近い形を掘りこみ、その内側に自然石を並べた遺構である。自然石の形状はやや柱状のものや、扁平な板状などがあり特定の形を選んではいない。配石内の覆土は、基盤・礫粒が混じり、しまりのある暗褐色～褐色土が主体で、若干炭化粒が混じる箇所がある。配石内壙底部で骨片と推されるものを検出したことから墓と推される。

墓1（第20図・PL.8-6～8）：A12区文庫蔵下層に位置する。試掘杭や文庫蔵布石の掘方により西側部分遺構の外形は確定出来なかったが、長軸160cm程、短軸80cm程の隅丸状の長方形と推される。壙底には上肢・下肢と推される骨を検出した。頭蓋骨こそ残ってはいなかったが、壙底部東側に頭蓋骨が風化し、空洞になったと推される土塊の一部を検出した。これらの骨・痕跡の検出状況から頭位は東で屈葬と推される。釘の出土は

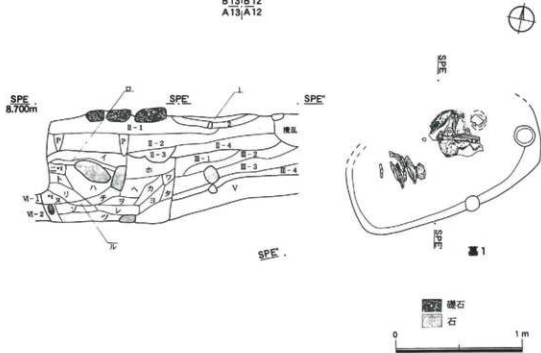
無く、堆積状況にも棺の痕跡と想定されるものは確認されなかったので、直葬と推される。副葬品は胸部と推される周辺から銅銭が出土している。銭種は明銭の永楽通寶と洪武通寶を確認した。覆土の遺物には青磁碗、白磁皿がある。何れも15世紀代と推される。覆土中に石を1個検出したが、意図的に入れられたものかは判断がつかなかった。

焼土（第16・18・19図）：A12～B12区に位置する。米・文庫蔵、重文土蔵の直下の南北10mの範囲で計12基検出した。いずれの焼土も同一面にあり、米・文庫蔵が造られる嘉永元（1848）年直前期に形成された焼土群と推される。焼土並びに周辺土はサンプリングしたが、洗浄・分別作業は未了であり、焼土の性格解明は今後の整理作業を待つ。

遺物（第21図・PL.4）前述の通り、各遺構の項で述べているものもあるが、以下実測図を掲載したものの解説を行う。1は青磁碗。直口縁で無



B13/B12
A13/A12



第20図 宮ノ沢川左岸地区配石遺構・基1平面図他

表16-1 配子遺構土層観察表 (A-A')

イ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 基磁粒	ハーブ	C磁土
ロ	7YR 6/3	褐色	ローム土体	礫粒 基磁粒	ハーブ	C磁土 焼土粒
ハ	7YR 6/3	褐色	ローム土体	礫粒 基磁粒		
ニ	7YR 2/3	暗褐色	粘質土体	礫粒	ハーブ	C磁土
ホ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 基磁粒		C磁土
ヘ	7YR 1.5/1	灰色	炭化土体	礫粒 ローム多し	ハーブ	C多量
ト	7YR 6/3	褐色	砂粒土体	礫粒	遺構 ソフト	C多量

表16-2 配子遺構土層観察表 (B-B')

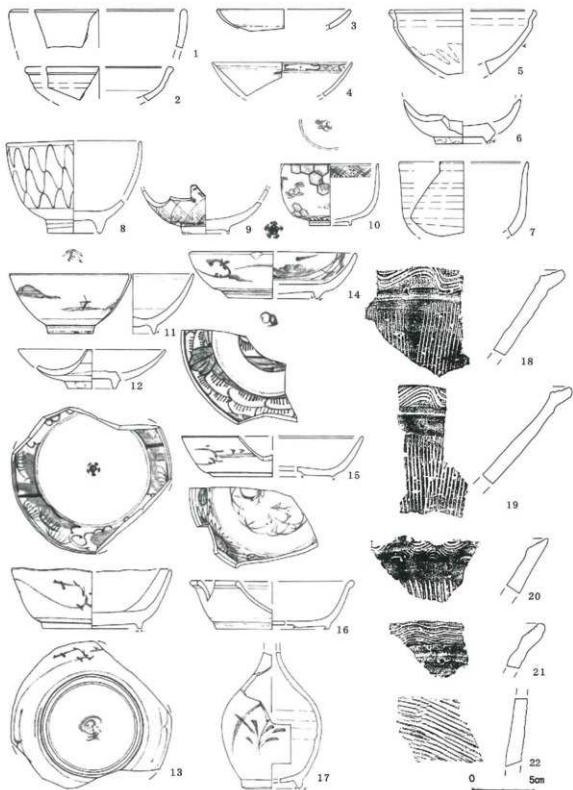
イ	7YR 6/3	褐色	基磁土体	礫粒	ハーブ	焼土粒
ロ	7YR 3/3	暗褐色	暗褐色粘土体		ソフト	
ハ	7YR 6/3	褐色	ローム土体	礫粒 基磁粒		
ニ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒	ハーブ	C磁土
ホ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 基磁粒		C磁土
ヘ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 基磁粒	ソフト	
ト	7YR 6/3	褐色	粘土体	礫粒 基磁粒	ハーブ	

表17 文庫蔵 墓1土層観察表

B-1						
B-2	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	玉砂利 青	ソフト	
B-3	7YR 3/3	暗褐色	砂粒土体	黒色土とサンド灰	ソフト	
B-4	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	玉砂利	ソフト	
B-5	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	ローム粒 礫粒 基磁粒 しまりなし	ソフト	灰化物
B-6	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	基磁粒 しまりなし	ソフト	灰化物
B-7	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	玉砂利 黒色土とロームサンド灰	ソフト	灰化物
B-8	7YR 3/2	暗褐色	黒色土体	ローム	ソフト	
V	7YR 6/3	褐色	ソフトローム土体	玉砂利 基磁粒	ソフト	灰化物
M-1	7YR 6/4	褐色	基磁土体		ハーブ	
M-2	7YR 3/3	暗褐色	基磁土体	玉砂利	ハーブ	灰化物
墓						
イ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体		ソフト	灰化物 焼土粒
ロ	7YR 3/2	暗褐色	灰化土体		ソフト	
ハ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 玉砂利 礫粒	ソフト	C磁土
ニ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 玉砂利 礫粒	ソフト	C磁土
ホ	7YR 2/3	暗褐色	粘質土体	粘質土 礫粒	ヤカソフト	焼土粒
ヘ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 ロームブロック (※)よりや明るい	ソフト	C少量
ト	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 玉砂利 礫粒	ソフト	C磁土
チ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	礫粒	ソフト	C少量
リ	7YR 3/2・3/3	暗褐色	粘質土体	基磁粒	ソフト	
レ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 ローム 礫粒	ソフト	
ロ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 礫粒	ソフト	C少量
ハ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 玉砂利 礫粒	ソフト	C磁土
ニ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	礫粒 ローム粒 しまり有り	ヤカソフト	C磁土
ホ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 ロームブロック	ヤカソフト	C少量
ヘ	7YR 3/3	暗褐色	粘質土体	礫粒 ローム粒	ヤカソフト	C少量
ト	7YR 3/2・3/3	暗褐色	粘質土体	基磁粒	ソフト	C少量 焼土粒
チ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 礫粒	ソフト	
リ	7YR 3/2	暗褐色	粘質土体	基磁粒 礫粒	ソフト	
焼土 1	5YR 6/3	赤黄色	赤土体		ヤカソフト	灰化物
2	5YR 3/1	暗褐色	黒土体	玉砂利	ヤカソフト	灰化物

文。表面には気泡が見られ、やや荒れているので被熱したと推される。15世紀代か。2はやや浅い青磁碗。口縁は端反。表面の釉薬は変色し、荒れている。被熱したと推される。15世紀代か。3は白磁皿。口縁は胴部から斜めに立ち上がり、盃状の器形。胴部下三分の一程が無軸。高台が輪高台ないし切高台になる15世紀代の皿と推される。4は明染付碗。口縁内側に四方禪文が描かれる。明末期(16世紀末~17世紀初頭)のものとして推される。5は唐津碗。口縁部が括れる。内外面に掛かる軸は緑色を呈し、胴下半部は無軸である。6は唐津碗。軸は灰色を呈する。覺付きのみ無軸。7は唐津碗。口縁部が僅かに外反する。軸は灰色を呈する。8は肥前磁器碗、胴部外面に一重割目文が描かれる。表面は軸が荒れ、被熱したと推される。

17世紀前半。9は肥前磁器碗。上部は失われていてよく分からないが、胴部がやや丸味を帯びているように見受けられ、高台は小さく作られることから、18世紀後半の丸碗と推される。胴部外面には草花文が描かれる。10は肥前磁器碗。内面には四方禪文、見込みには花卉、胴部外面に亀甲文と花が描かれる。18世紀後半。11は肥前磁器碗。見込みには崩れた昆虫文ないし草花文と推されるもの、胴部外面に船と山水が描かれる。18世紀後半。12は肥前(波佐見)磁器皿。見込み蛇の目軸はぎ。底部周辺と高台は無軸。17世紀末~18世紀。13は肥前磁器皿。口縁は輪花状に作られる。見込みに五弁花文のコンヤク印判があり、内側面に雪持笠と宝文、胴部外面に唐草文、高台内に満福文が描かれる。18世紀。14は肥前磁器皿。見込みに五弁



第21図 宮ノ沢川左・右岸調査区出土遺物

花文のコンニャク印判があり、内面に草花文、胴部外面に唐草文、高台内に渦福文が描かれる。18世紀代。15は肥前磁器皿。蛇の目凹形高台。胴部外面に唐草文が描かれる。年代は18世紀末～19世紀後半。16は肥前磁器皿。口縁部が僅かに端反、やや肥厚する。内側面に見込みには椀で円を描く。底部は蛇の目凹形高台。18世紀末～19世紀後半。17は肥前磁器徳利。胴部に草文が描かれる。表面は釉が荒れ、被熱したと推される。17世紀中頃。18は珠洲摺鉢。口唇部に4条一単位の歯状波状文が施される。卸目は11条一単位。珠洲V期に相当。19は珠洲摺鉢、口唇部に6条一単位の歯状波状文が施される。卸目は残存状態が悪いので断定は出来ないが11条一単位と推される。珠洲V期に相当。20は珠洲摺鉢。口縁部は先細り気味になる。口唇

部に6条一単位の歯状波状文が施される。小さな破片であるため推測の域を出ないが卸目は9条以上一単位。珠洲V期に相当。21は珠洲摺鉢。口縁部はやや肥厚し、口唇部に8条一単位の歯状波状文が施される。前三者よりもうねりが少なく卑調である。珠洲VI期に相当。22は珠洲壺ないし壺と推される。外面には7条以上一単位の叩き痕がある。内面に当具の痕跡はないが、指で押さえたと推される凹みが二、三みられる。小片であり断定は出来ないが、他の遺物の年代から推してV期相当と推される。

なお実測図掲載以外の遺物を列挙すると、青磁稜花皿・香炉、瀬戸美濃灰釉皿、越前摺鉢、唐津壺、備前摺鉢などがある。

表18 遺物計測表

図版番号	器種	口径mm	底径mm	器高mm	出土地点
第21図1	青磁碗	142.0	—	—	文庫蔵 I 層
第21図2	青磁碗	118.0	—	—	文庫蔵 I 層
第21図3	白磁皿	—	—	107.0	文庫蔵 A12 墓・土壇2
第21図4	唐津碗	112.0	—	—	米蔵 A12 II(2)
第21図5	唐津碗	118.0	—	—	B6 II
第21図6	唐津碗	—	—	43.0	B7 トレンチ I
第21図7	唐津碗	—	—	102.0	B6 3 I
第21図8	肥前碗	108.0	42.0	74.0	主屋・店 附 トレンチ3土壇覆土
第21図9	肥前碗	—	—	38.0	重文蔵外 C11 II(1)
第21図10	肥前碗	75.0	34.0	49.0	重文蔵外入口 I
第21図11	肥前碗	98.0	35.0	48.0	B7 P22堀方
第21図12	肥前皿	118.0	38.0	31.5	P6 溝1
第21図13	肥前皿	127.5	78.0	48.5	P6 土壇3
第21図14	肥前皿	134.0	72.0	37.5	A'11 I
第21図15	肥前皿	146.0	94.0	32.5	主屋・土間 C3 II
第21図16	肥前皿	132.0	90.0	39.0	A6 溝1
第21図17	肥前皿	—	—	43.0	主屋・飯間 D2 P22堀方 P21柱敷
第21図18	珠洲摺鉢	—	—	—	飯間 C2 II トレンチ2
第21図19	珠洲摺鉢	—	—	—	飯間 C2 II トレンチ2
第21図20	珠洲摺鉢	—	—	—	坐敷 E1 廊下
第21図21	珠洲摺鉢	—	—	—	飯間 C2 I トレンチ2
第21図22	珠洲壺	—	—	—	坐敷 E1 III

(松田)

III まとめ

1 重文笹浪家住宅主屋内の調査

(1) 笹浪家創建期以降：現存笹浪家住宅は天保年間五代目久右衛門により創建された。幕末には「ハナレ」が付され、安政4・5年には土台替・屋根葺替の記録がある。明治20年頃、道路拡張に伴い前通り三尺が詰められ現在の形になった。尚ハナレは分家笹浪某氏に住宅として譲られる。年代は明治から大正時代のものようである。

解体調査で検出（保存修理事業の中で実測・撤去済み）の笏谷石が通り庭南部に敷設された時

期を明治20年以降としておきたい。これは前通りの切り詰めに伴い、正面土台基礎として石積が三段、60cmほどなされ、その上に笏谷石の切り石が二段積み、土台が掘えられていることから、この時に一緒に用意された笏谷石が通り庭に敷設されたと仮定することによる。これには通り庭に面した柱を支える礎石がこの笏谷石の下位になることも考慮した。但し、笏谷石は遅くとも江戸時代には既に建築資材として搬入されていると推されるところであり、遺物等の検討後に再考したい。

三基のカマドが作り替えられたと推するが、その時期については、一基が未完掘でもあり、遺物等を検討し、後考したい。これに関連することとして井戸の設置年代がある。笹浪家の井戸には鴨川の石を運んで入れたとの伝えがあり、その真偽はおいても当初からのものと推されてきた。しかしながら、前述の如く、その作業空間とも推される外縁部で、カマドの一部を壊していることが推された。井戸と外縁の作業空間設置との間の時間差等も視野に入れ更に検討しなければならない。

明治20年代以降はニシン漁の衰退期となり、末年以降には当主が千鳥、カムチャッカ方面に出稼ぎし、客死するような状態になる。十一代当主久英氏が教員として各地を転動し、母キサ氏はミセ・座敷部分を貸渡し、部屋或いはシテンドコに居たようである。昭和20年以降は久英氏義弟竹内茂氏がシテンドコに居し、これは平成10年まで続いた。久英氏は昭和30年代に教員を退職して当家ミセ、座敷に居し、屋外南西の一角に木製の倉（雑倉）を建設した。この頃暖房用にオガクズストーブを導入しており、このためカマド南東と主屋南壁の間を仕切り、その燃料用オガクズの貯蔵所とした。その後は薪や雑物を収納する物置として使用された。P135～138のうちこれに関連するものがあるかと推される。いずれにしても遺物の更なる検討が必要であるが、明治以降の陶磁器の細かい年代づけについては浅学の筆者には困難が多く、確かな見とおしが無い。

〔2〕笹浪家創建期以前：18世紀以降の陶磁器が出土し、屋外雑倉東で土壌が検出されているが、主屋内の柱穴等から遺構を推することはできなかった。

駒ヶ岳火山灰下位の土壌や柱列は慶長期～江戸初期に属するものであろう。11年度の発掘調査で慶長期前半の大量の遺物が出土した。捨て場とも推された宮ノ沢川べりの遺物も含め、その帰属は主屋敷地内を中心とする周囲一帯と推した。遺物集計表に17世紀とした陶磁器の多くはこの期に相当するものである。表中の数量も最多となっており、先の推測を裏付けたかと推するが、部分的な調査のこともあり遺構等は明らかにできなかった。只、駒ヶ岳火山灰の堆積が所々に見られたことは、この敷地内に露地部分があったことを示すものであり、大きな建物などが建つ景観ではなかったか

とも推される。

勝山館跡期併行と推される堀跡が二条検出された。主屋内東半部で南北方向に検出されたより新しい堀跡Ⅱはその南、主屋外で昨年検出された堀跡Ⅰが直角に折れ曲ったものとも推したが、昨年検出の第1トレンチとの間に屈曲して接続することは無理であろう。むしろ第1トレンチ内に堀Ⅱの延長が見出し得ないことから堀Ⅰにより壊された、先行する堀かと推される。

堀ⅢはⅡに先行するものであり東は森氏宅の発掘調査で、調査区西壁で地表下20cmほどから下に出現、結論を留保していた深さ1.5m、上巾4m弱の断面逆三角形の落ち込み（PL.6-7）に続くものであろう。その調査知見によれば、東草間純二氏宅（第2図233番地）との間の小路を北へ大きくカーブして（同図中234番地地籍北東角・電柱マーク付近）抜けるようである。また、西は堀跡Ⅰ同様宮ノ沢川に取り付くかと想定した（第9図）が、昨年度調査区C・D7区での土層観察では慶長期遺物包含層Ⅱc・d層の把握が主となり、加えて、狭い調査区のこともあり把握されていない（本概報XXI-第3図SPD-D'、D'）。同図a～o、i～kの堆積が位置的にはほぼ近いが、層位的には矛盾している。再考したい。

勝山館跡期（15・16世紀）に属する陶磁器は47片であるがこの中に6片の珠洲焼鉢片がある。また、中国製の柴付と青磁は7点づつと同数であり、白磁皿の多くは高台を挟る丸小皿である。

勝山館跡では4万点をこえる陶磁器の中で珠洲焼は20片足らずである。又柴付は青磁の3倍強の出土量を示している。柴付の比率が高くなるのは16世紀代の特徴とされていることは周知のことであろう。小面積の少量の出土遺物から全体を推するのは危険であるが、この数量比からは主屋内の本調査区が勝山館跡の形成初期ないしはそれに先行する15世紀中葉頃に既に機能しているらしいこと、三基の堀のうちには勝山館跡に先行するものがあるかも知れないことを示唆しているようである。先にも述べたが、本調査区北東40mの米沢光一氏宅（第2図116番地）の住宅建て替えに伴う発掘調査でも15世紀中葉の整地層とそれに伴う遺物が出出されていることは、この推測を補足するものであろう。勿論その時に勝山館跡の入口部となるこの地区に堀がつくられたということになれ

表19 宮ノ沢右岸地区 旧笹浪家主屋内出土陶磁器集計表

時 期	器 種	新 瓦		瀬 戸 美 濃			国 産						総 計			
		中 国		灰 胎	鉄 胎	志 野	鉄 胎	越 前	津 州	備 前	香 積	肥 前		不 明		
		青 磁	白 磁												染 付	志 野
①15世紀後半 ～ 16世紀末 (九州陶磁 Ⅰ-1含む)	瓦	5	2	2	1	1										9
	瓦	1	12	0	2			2		4						20
	壺	1														1
	磁鉢										5	6				11
	計	7	12	2	3	1	2	4	0	4	5	6				47
②17世紀 (九州陶磁 Ⅰ-2,Ⅲ,Ⅳ)	瓦			14					1	2					27	44
	瓦			6						8					18	30
	磁鉢									2					2	2
	壺・甕・鉢 袋物・瓦									8					8	8
	計			30			1	20							13	53
③18世紀 (九州陶磁 Ⅴ主体)	瓦				1										5	6
	瓦														2	9
	袋物・瓦														4	5
	計				1										11	22
④18世紀中葉 (九州陶磁 Ⅴ主体)	瓦					1			1						30	49
	瓦														6	11
	瓦														1	1
	壺・甕・鉢 袋物・瓦									6					3	6
	計				1		7						1	1	2	4
⑤江戸時代	瓦		1												3	3
	瓦														7	7
	壺・甕・鉢 袋物・瓦														3	3
	不明														2	2
	計		1												12	23
⑥享和～明治	瓦														1	1
	瓦														6	6
	壺・甕・鉢 袋物・瓦														12	14
	不明														1	1
	計														8	20
⑦明治	瓦					6			2						6	13
	瓦					4									2	10
	瓦														1	1
	香伊														1	1
	磁鉢														3	3
	壺・甕・鉢 袋物・瓦														10	13
	小瓶					3									4	11
	不明														1	1
	計					15		2							23	39
	⑧大正～昭和	瓦														36
瓦															2	2
壺・甕・鉢 ガラス															5	5
計															44	44
⑨時期不明		瓦														1
	瓦														3	3
	壺・甕・鉢 袋物・瓦														1	1
	不明														1	1
	計														6	6
総 集 計	瓦	5	1	16	1	2	7	1	5						29	44
	瓦	1	12	11	2		4	2		12					30	52
	瓦														1	1
	壺	1													1	1
	香伊														1	1
	磁鉢									2	5	6			3	16
	壺・甕・鉢 袋物・瓦									14					26	33
	小瓶					3									4	11
	ガラス														1	1
	不明						2								1	1
	計	7	13	27	3	2	16	2	1	33	5	6			133	181

- 注・1 ①は15世紀後半から野山類聚の編纂期である16世紀末期を想定し、津津(野前陶磁)のⅠ-1(粘土目)までを含むものとした。
 ・2 ②は17世紀中として豊津の範囲は肥前Ⅰ-2(1594年頃～1610年)までが大部分である。他は、肥前Ⅱ・Ⅲ期(～1690年)までに対応する。
 ・3 ③は18世紀中として肥前Ⅳ期に対応させる事を旨とした。又、④は19世紀中葉までとし肥前Ⅴ期に対応させることを旨とした。
 しかし、④・⑤の分別は懸念不足があり十全ではない。これは⑥と⑦にもあてはまる。他日を願したい。

表20 宮ノ沢右岸地区 旧笹浪家雑倉下層出土陶磁器集計表

時 期	部 類	高 敷						国 産							計	
		青磁	白磁	灰付	灰物	鉄物	土器	磁物	陶物	雑物	骨 目	肥前	不明			
①10世紀前半 ～ 10世紀末 (九州陶磁 Ⅰ-1含む)	碗	2	3	3	5	1			2							16
	皿	1	7	3	1				12							24
	壺								1							1
	磁鉢						1				2					13
	甕・壺・鉢					1			1							2
計	3	10	6	6	2	1		16	2						45	
②11世紀 (九州陶磁 Ⅰ-2,Ⅲ,Ⅳ)	碗			8	2		1	8			1	19	3		39	
	皿			3	3			16			1	8			31	
	杯											1			1	
	壺							1				1			2	
	磁鉢														5	
	甕・壺・鉢														8	
	灰物・鉄							1	4					4	9	
	計			11	5		2	1	36			2	33	3	95	
③12世紀 (九州陶磁 Ⅲ未定)	碗							1				18	2		21	
	皿											12	6		18	
	磁鉢							6		1			1		8	
	甕・壺・鉢							3					1		4	
	灰物・鉄											10	2		12	
	計							10		1		40	12		63	
④13世紀前半 (九州陶磁 Ⅳ未定)	碗		1			9						25		1	36	
	皿							1			6	1	2		10	
	磁鉢											1			1	
	甕・壺・鉢							2				2			4	
	灰物・鉄													1	1	
計		1			9		3				31	4	4	52		
⑤14世紀	碗											4	3		7	
	皿										1	4			5	
	甕・壺・鉢								1			3	2		6	
	灰物・鉄											3	1	2	6	
	不明											2			2	
計							1				22	11	9	49		
国産未定	碗											4	3		7	
	皿										1	4			5	
	甕・壺・鉢											5			5	
	灰物・鉄													1	1	
	計											5	12	1	18	
⑦15世紀	碗		2			1	13					3	6		35	
	皿		1				6					4	1		12	
	杯						1								1	
	甕・壺・鉢						1					6			7	
	灰物・鉄						3					2	7		12	
	計		3			1	24					9	6	14	57	
⑧16世紀	碗						4								4	
	皿						1								1	
	香伊						1								1	
	灰物・鉄													1	1	
	計						7								8	
⑨時期不明	碗											3	6		9	
	皿										1	3	4		8	
	甕・壺・鉢						1						1		2	
	灰物・鉄						1						5		6	
	不明						1							2	3	
	計						2					3	5	16	27	
総集計	碗	2	6	11	7	2	26	1	8		1	81	14	21	150	
	皿	1	8	6	4		7		20		1	39	15	9	118	
	杯						1					1			2	
	壺							1	1						3	
	香伊						1								1	
	磁鉢						1		11	2			3		17	
	甕・壺・鉢					1	2		15				17	3	36	
	灰物・鉄						4		1	4			19	5	17	
	不明						2					2		4	6	
	計	3	14	17	11	3	44	2	1	66	2	1	2	143	51	54

※・1 ⑤中、産地不明の碗に鉄物1個ある。同様に鉢に灰伊1、肥前碗中に灰物6がある。

・2 ⑤中、瀬戸碗に型物1個を含めた。

・3 ⑤中、瀬戸碗に型物2、蓋足物1、碗(7)の蓋つまみ1を含めた。又、有田碗中に蓋物1がある。同産地不明の碗中にも蓋物1がある。

・4 ⑤中、産地不明碗に蓋物1を含めた。

・5 ⑤中、産地不明の碗に型物1と同産地に灰物1がある。

ば、筆者らが今まで想定してきた「花沢館」の形成、そして「洲崎館・勝山館」への変遷と、勝山館直下のこの地区の性格などについて、改めて検討しなければならないと推すところである。小面積の限られた調査であり、追証の機会も最早ない今、一つの可能性を述べたとする。（松崎）

2 旧笹浪家附属土蔵の調査

(1) 旧笹浪家時代：右岸地区では明治の銅板画に見える倉と笹浪家文書に伝わる古絵図（間取り図）に関する遺構の調査を主目的とした。しかし、倉などの付属屋建替や畑地利用などに伴い後世土地改変が多かったためか層が乱れ、遺構の掘りこみ面が捉えにくい状況であり、結局両者に関する遺構は検出できなかった。しかしその一方で、背面の屋と敷地を両する目的で並べられたと推される笹浪家創建期の石列を崖際で検出し、当初の景観復原に資する情報が得られた。また主屋の柱筋に平行する東西・南北の溝や柱列を検出した。これらの溝や柱穴は掘り込み面が細分出来ないものもあるため、時期決定に不明な点が多いが、その配置から主屋と何らかの関わりを持つことが想定される。遺構の掘りこみ面が捉えにくいほど土地改変（擾乱）が多いということは、主屋周辺部が時代の状況に応じて度々手が加えられていたものと推される。

左岸地区では八幡宮本殿・拝殿と社務所に挟まれるテラス上にある旧笹浪家附属土蔵2棟の基礎構造を確認した。南棟の米・文庫蔵と北棟の重文指定土蔵の建造年には50年程の開きがあるためか、構造に変化が見られた。まず地下部分の基礎石は米・文庫蔵では3段、重文指定土蔵では2段となる。根太を受ける礎石が並べられるが、砂利の上に転ばし根太を置くだけで礎石は無かった。以上の点から嘉永建造の米・文庫蔵の方が、手間の掛

かる仕事をしていることが窺われた。しかし基礎石の上段は凝灰岩、下段は軟質泥岩とするなど石材の使い分けが同じであることも認められ、共通の技術があったことも窺えた。

また米・文庫・重文土蔵の床面には焼土が多数見られた。このことから土蔵建造直前には火を多用した場所であること、両土蔵を載せるテラスは少なくとも嘉永建造の米・文庫蔵以前には作られていたことが推される。

(2) 中世：左岸地区の文庫蔵下で土葬墓1基を検出した。覆土の遺物は15世紀代であり、この年代の墓と想定される。勝山館存続期である15世紀後半～16世紀末の夷王山墳墓群の土葬墓では、棺痕跡検出例が多いが、本例は直葬である。時代により葬送法に違いがあるのか、今後の課題とされる。周辺では墓を覆うように炭化物を含む黒色土を検出し、やはり15世紀代の青磁皿・白磁皿が出土した。15世紀代の整地層に相当すると推される。勝山館直前期に土地利用がされていたことが推される。

また近世の遺物と同一層や表土からの出土ではあるが、15世紀～16世紀末の瀬戸美濃灰釉皿・唐津胎土目積皿等を確認している。勝山館期、この周辺に人々の暮らしがあったことが推される。

(3) 中世以前：中世遺物包含層下には、縄文時代後・晩期から続縄文時代の恵山先行型式（下添山式）の遺物包含層があり、左岸地区はかつて宮ノ沢遺跡として資料紹介されている。中世の遺構の下層にあるため、今回調査対象にはならなかったが、テストピット中より数個体の続縄文期の深鉢片が出土している。本報では紙幅を費やし、述べることは出来ないが、上ノ国町内では数少ない続縄文時代の遺跡であり、天の川流域とその周辺の遺跡の動態を考察する上で重要な遺跡であることを付言しておく。（松田）

第2部 夷王山墳墓群第I地区・第II地区の調査

I 調査の概要

1 調査

夷王山墳墓群は、標高159mの夷王山麓周辺に広がる中世墓群で、勝山館の人々の葬送地と推される。今高マウンド状に墓の封土が残り、地表面からでも、その位置が容易に確認できる。

発掘調査は、昭和29年に行われた明治大学後藤守一教授の調査を嚆矢に、昭和37年北海道大学高倉新一郎・大場利夫教授等による北海道教育委員会・村(当時)教委の調査、昭和56年から3か年にわたる町教委分布調査、平成元年の現駐車場付近の町教委調査、平成11年の第II地区西側の町教委調査が行われてきた。昭和58年の分布調査では地形測量調査の結果663基の墓が想定された。地表上からも確認出来る例を見ない大規模な遺跡として知られる。

しかし、大正13年に刊行された北海道史蹟名勝天然記念物調査報告書では、武田信広等嶋崎一族との関係が疑問視され、その重要性は顧みられることは無かった。その後、前述の明治大学考古学研究室による発掘調査、上ノ国村史中での史料検討、勝山館跡の発掘調査、及び昭和56～58年度に文化庁の補助を受けて実施した同墳墓群の詳細分布調査により、勝山館との強い関連性が明らかとなり、昭和63年史跡指定地として追加指定を受け現在に至る。今年度は第I地区、第II地区の調査を行った。

2 調査法

第II地区では北東～南西方向をアルファベット、北西～南東方向をアラビア数字で表記し、4m×4mのグリッドを設定した。第I地区では当初6箇所の特レンチ調査を予定していた。しかし、C11区周辺に設定した特レンチ調査で太刀が見つかり、調査面積を拡張し精査の結果、中世アイヌ墓と確認された。遺構の重要性もさることながら、当初墓域と認識されていなかった箇所からも墓が検出されたことにより、面的精査を行う必要が生じ、急遽2つの基準軸を設け2m×2mグリッド設定を行った。C・D間に端数の出る区画が生じたのは、2つの基準軸が存在するためである。本概報では、整理作業が未了である点もあり、調査当

初のグリッド配置をそのまま掲載したことをお断りしておく。

墓の調査手順は、遺構プラン確認後、堆積状況を確認するため半裁し、堆積状況を撮影・実測した。その過程で土葬墓と判明した遺構は、棺位置を想定し、先ず棺内想定部を調査し、遺物出土状況を撮影・実測した後、棺外側部分を調査し、撮影・実測を行った。覆土は棺内想定箇所と棺外想定箇所に分けサンプリングした。

3 調査経過

5月10日 調査開始。第II地区K7区～L9区周辺表土除去。G18区周辺寺ノ沢上流部周辺表土除去。第I地区トレンチ設定後調査開始。第II地区第30号墓より調査開始。平行して第121・33号墓調査を行う。第118号墓発見・調査。第23号墓調査。火葬骨を検出。第119号墓発見・調査6月第35・37号墓調査。21日第II地区第37号墓数珠玉出土。下旬第I地区トレンチ調査中、太刀を発見。調査区を拡張し、精査を行ったところ中世アイヌ墓であると判明。第II地区第54・39号墓調査。第120号墓発見・調査。7月15日 発掘調査現地説明会開催。第I地区第116号墓北側で、第98号合葬中世アイヌ墓検出。第I地区中世アイヌ墓が見つかったトレンチ付近の拡張調査開始。第II地区第78号墓調査。第II地区全景写真撮影。第I地区第101号墓調査。第119号墓調査。8月9日第I地区第98・116号墓写真撮影。第97号墓・砂利敷遺構周辺調査。第124・125号墓調査。9月 第I地区全景写真撮影。29日遺構を埋め戻し、機材を撤収し調査終了。

4 基本層序

- I層 表土 黒褐色土、褐色土。(近・現代に相当)。
- II層 2層に細分される(近世に相当)。
- a層 黒褐色土、褐色土。
- b層 白色火山灰(Ko-d 1640年降灰)
- III層 黒褐色土、暗褐色土、盛土(中世後期に相当)。
- IV層 3層に細分される(中世前期以前に相当)。
- a層 黒褐色土、暗褐色土。

b層 褐色火山灰 (B-Tm 10世紀中頃降灰)。

V層 ソフトローム。礫が混じる箇所もある。

VI層 ハードローム。礫が混じる箇所もある。

なお、土層観察表にCと記したものは炭化物の細粒であり、炭化木片等と判る物と区別した。

II 遺構確認調査

1 検出遺構と出土遺物

(1) 夷王山墳墓群第I地区：当初の計画は、寺ノ沢川を横断して第I地区北西側縁を東漸する現通路を10~20m毎に横断するトレンチを設定し、道路面構築状況を抑えることが主眼であった。先行した、第II地区の調査では、道路面構築状況の検出は顕著ではなく、むしろその直下にも墓墳が検出された。

道路跡：道路遺構を確認すべくトレンチ1~9を設定し、1~7について断面図を作成した(第22・23・25図)。A~Fの各土層断面図中には現道路面の下に1~数枚のやや固めの、時に砂利層を含む堆積が見られた。トレンチ1・AA'面のイ、ロ、II4層、トレンチBB'面の土壌8、同3CC'面のabc、同4DD'面の土壌9、同5EE'面のII3(第25図)などがそれぞれである。これは恐らく現道路面に先行する路の跡を示すものであろう。CC'面abcの堆積はII-1層(Ko-d火山灰をブロック状に含む)より古い堆積を示すが他はそれよりは新しいものが多い。勝山館跡主体部の中央通りのような明瞭な道の構築は認められないが現有道路に類した踏み分け道程度の道の使用が続いていたものと推される。第22図中央1に示した古道跡は昭和58年夷王山墳墓群の分布調査時に確認したものである。江差町在住の布施忠男氏(62才)が子供の頃は、氏の生家が寺ノ沢下の畑への通路として利用したとのことである。それが墳墓群第II地区を経て夷王山へと連なった可能性を述べたこともある(夷王山墳墓群)が未だ確かめ得ていない。

墳墓・土壌：道路面確認のためトレンチの掘り下げを実施中、3、5、6トレンチ内で土壌墓を検出した。特に5、6区の117号墓、120号墓は現道路面の直下に位置していた。この南側は墳墓群第I地区の中心部であり、園路位置を変更する余地はないと推された。このためその北半部へ調査

遺構平面図については、

1 凡例は各図に記した。

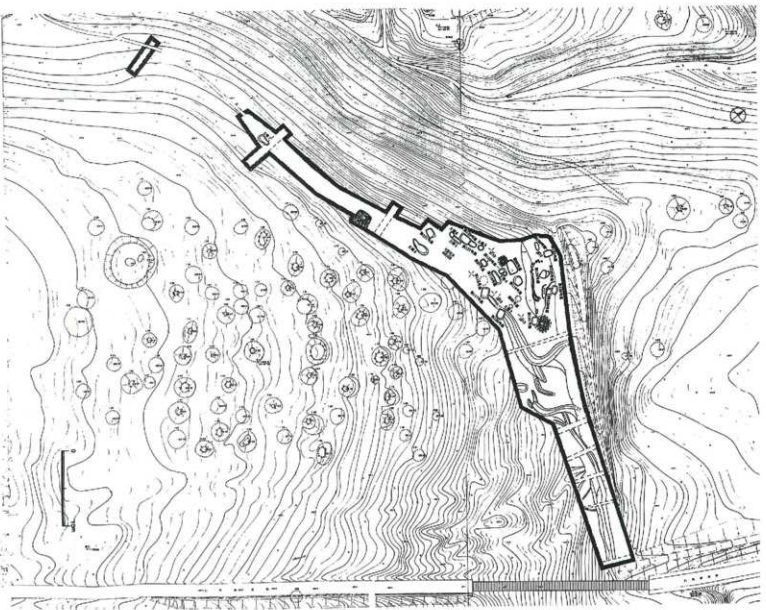
2 釘が検出された土葬墓の墓壇内に引かれた線は棺想定地を表す。(松田)

区を拡張し、ルートを探ることとした。なお、夷王山墳墓群は少なくとも1m前後のマウンドを持つ墓として認識されてきたものであり、踏査のみでもそのルートは探り得る筈との指摘もあるとは思われるが、昨11年度の調査、本年度の第II地区の調査、第I地区121・117・120号墓等、マウンドを看取し得ない地点で墓壇が検出されたことなどから発掘調査を行って最終確認せざるを得なかった。なお墓壇等に関する数値等は別表一覧とした。

第117・116・123・98号墓、土壌4(第25図)：道路北にI-96号墓の標示があり、トレンチ5を設定し確認を行った。外観は古道の屑に類した僅かな高まりが見られる程度であった。

第117号墓：道路面直下に墓壇が検出された。中央底面の木片、周囲の釘、北半部の歯列等から、木棺屈葬土葬墓とした。頭位は北方向である。北西隅に漆器(皮袋)、南西壁際に銅銭8枚があった。北西寄りで長さ1cmほどの針状のもの2点が底面直上で出土した。当初は墳丘が作られていたが棺及び内部の腐朽により、中央頂部が陥没し南北両側が高い形状を呈したと推される。封土の西側は未完埋である。棺外覆土イニホへは作図段階では掘り切れていない。又、封土3(117号墳丘3)は、調査時の知見では封土2を切る新しい遺構の存在と捉えて北に拡張、116号墓を検出するきっかけとなったものであり、今なお116号墓の封土の可能性は高いと考えているものである(116-1)。調査者間で解釈の分れたところである。

第116号墓：117号墓上の道の変更ルートを求め北へトレンチを延長し、検出した。外観は斜面地であった。封土については上述のとおり、117号墓3層もその可能性があることを付記しておく。長軸をほぼ東西にし東側がやや巾広の長台形を呈する。周縁に柱穴・溝等は検出し得なかった。土層図II-2をその一部とも想定したが、封土1を削っていること、墓壇に近接し、全周しないこと



第22图 第I地区调查区位置图

第23图 第I地区調査区土壤横断面

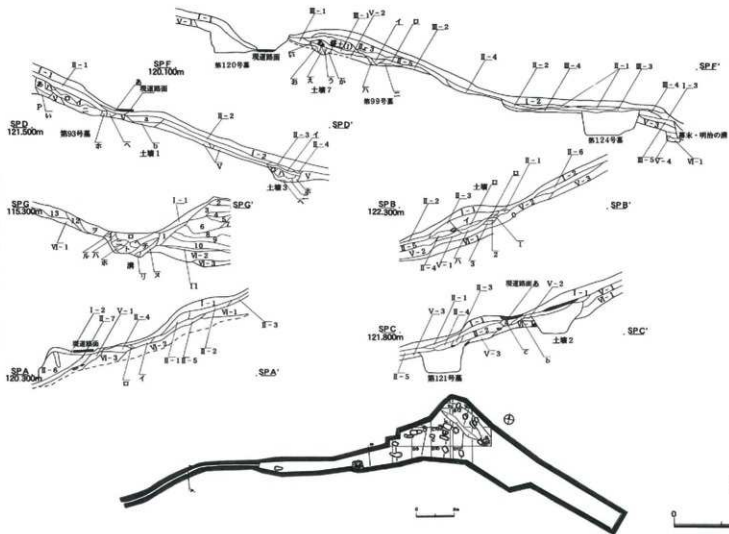


表26 第I地区トレンチ11南北セクション西壁土層観察表 (G-G')

層	土層	土質	特徴	観察	備考	
I-1	1	1FV1E	3/4	褐色	腐敗少量	ややツツ
	2	1FV1E	4/4	黄、に濃い黄褐色	多量腐敗 腐粒 粘土混じり	ハード
	3	1FV1E	5/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ややツツ
	4	1FV1E	6/4	褐色	腐粒少量 腐粒 ツツとローム混じり	ハード
	5	1FV1E	7/4	褐色	腐粒少量 腐粒 ツツとローム混じり	ややツツ
	6	1FV1E	8/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ややハード
	7	1FV1E	9/4	に濃い黄褐色	多量腐敗 腐粒 粘土混じり	ややハード
	8	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ややツツ
	9	1FV1E	5/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ハード
	10	1FV1E	6/4	褐色	腐粒少量 腐粒 ツツとローム混じり	ハード
	11	1FV1E	7/4	褐色	腐粒少量 腐粒 ツツとローム混じり	ややハード
	12	1FV1E	8/4	褐色	多量腐敗 腐粒 粘土混じり	ややハード
	13	1FV1E	9/4	褐色	多量腐敗 腐粒 粘土混じり	ツツ
II	14	1FV1E	4/4	に濃い黄褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム	ハード
	15	1FV1E	4/4	に濃い黄褐色	腐粒少量 多量腐敗 粘土混じり	ハード
	16	1FV1E	3/4	褐色	腐粒少量 ローム混じり	ややツツ
	17	1FV1E	4/4	褐色	腐粒少量 ツツとローム混じり	ツツ
	18	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 粘土混じり	ややハード
	19	1FV1E	4/4	に濃い黄褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ややハード
	20	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ
	21	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ
	22	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ
	23	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ
	24	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ
	25	1FV1E	4/4	褐色	多量腐敗 腐粒 ツツとローム混じり	ツツ

など否定的である。南壁に接して、東半部に、切先を東、刃部を南やや斜め上向きにして太刀が置かれる。その東に小刀(腰刀?)状のものが置かれる(第25図1、5)。床面上5~10cm程のところにはほぼ水平に置かれる。北側中位、壁に接して漆器が置かれる。皮膜のみ残存しており詳細は不明であるが柄3個であろう。太刀は全長58cm、刀身部47.5cm、刀身部外巾5cm、身巾3.2、柄部葉巾2.2cm程を計り、目釘穴2個を見る。刀身右側に棒樋が1条走る。刀身部には鞘木質部が残存し、4mm巾ほどの革(樹皮)ないし繊維状のものが間隔を置いて巻かれる。柄前に漆皮膜が残り、漆で仕上げられていたらしい。鐔は銅製、木瓜形猪目透して一部鍍金が残る。両面青海波地に銀象嵌の丸紋を四個打つ。上下には丸に輪透・中央に花芯状に4本の刻線を交差させたものを、左右には丸に上部に菱形を三個繋げ、立炎風に葉柄を付したものを配する。柄前に同型の大切刃が着く。左右に鐔同様に丸文を打つ。左には鐔の上下と同じものが、右には八本の細い線が放射状に刻まれる。太刀切先部付近に合口小刀が刃先を西にして添えられる。全長約25cm、柄前11.5cm程である。刀身先端は欠損する。柄には巾5cmほどの銅製板金が四ヶ所ほど巻かれ、その間に猪目透し文様の飾金具が二個相対して付く。刀身部は鞘の木質部が残存し、螺旋状に5mm巾の樹皮状のものが巻かれる。太刀、小刀共に錆化、付着物が多いため、保存処理後に再述したい。封土3から117号墓より新しいかと推する。

第123号墓: 116号墓北隣りの土壌4を一部覆う

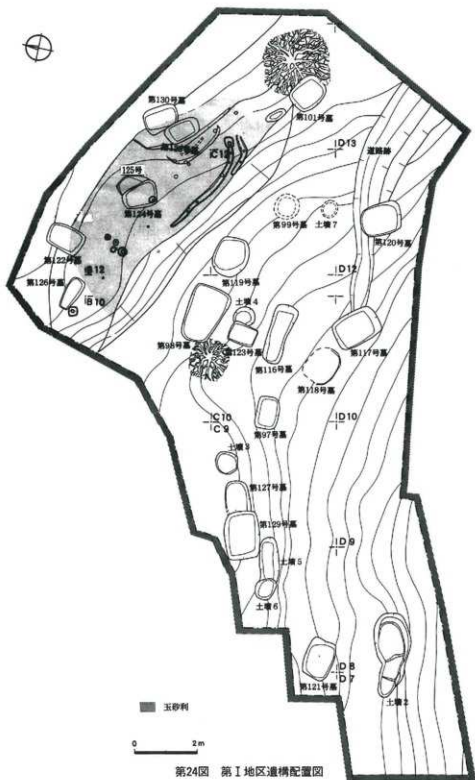
封土があり、検出された。土層図BB'、EE'で見ると墓壇の上が平坦になっているが、原地形が斜面であるため、外観上は123号墓、98号墓の上の大きなマウンドとして認められた。

壇底の木片、四周の釘から木棺墓、大きさ、棺内中央北の歯列、骨などから、北頭位、土葬墓と推した。北・南端に銅銭が14枚、中央に1枚、北東半に漆器が添えられている。いずれも壇底、棺底板材直上である。116号墓、土壌4に先行し、98号墓より新しい。

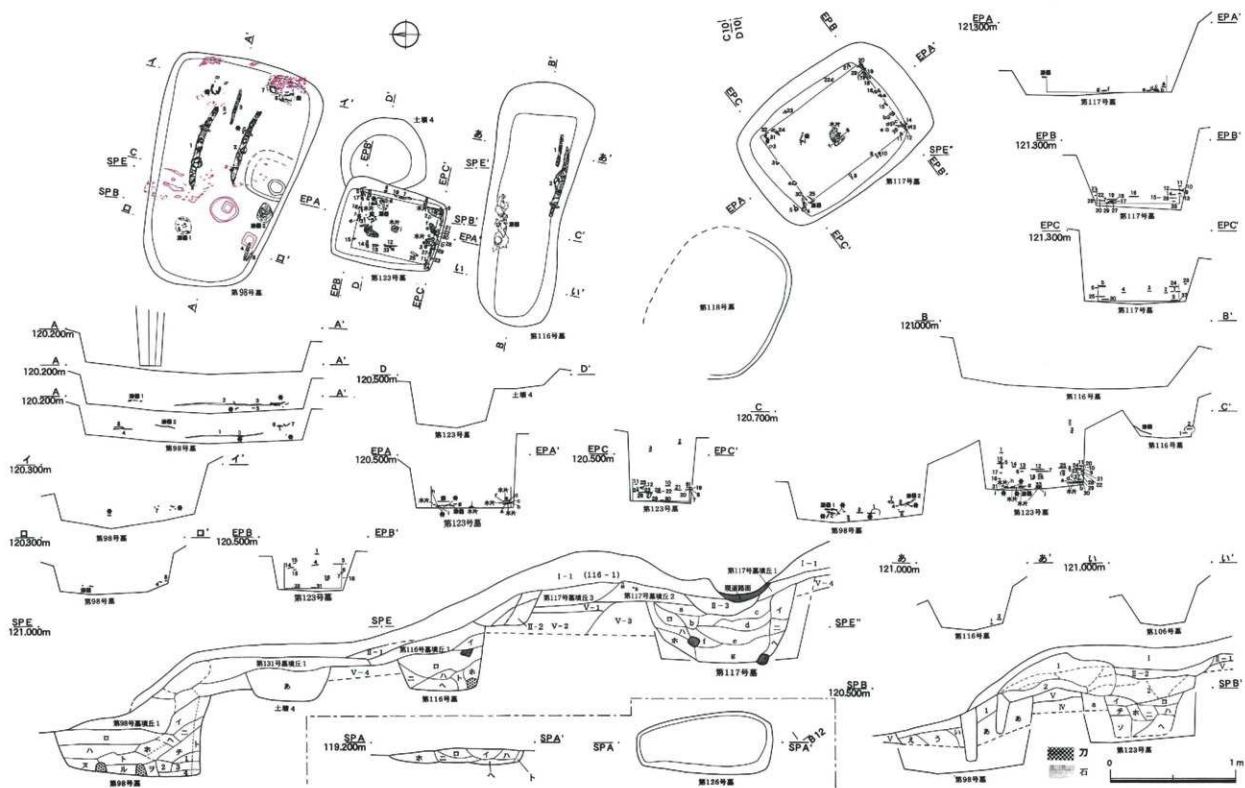
第98号墓: 123号墓の北に位置する。123号墓の封土が二基の墓を覆うマウンド状を呈する。土層観察では棺、木柙等は認められなかった。墓壇覆土上位、掘り込み面直下東半に炭化物がほぼ水平に薄く分布していた。周辺の土に熟変は見られない。

東西に長軸を持ち、東側が広がる長台形を呈す。長軸東北半で歯列・太刀・漆器・小刀、東南半で頭部痕跡と歯列・太刀・漆器・小刀・釘が出土した。北側の歯列は口を閉じた状態で上下が噛合う。鉋子状咬合か。太刀1の銜下位に脊椎骨と肋骨の一部があり、仰臥伸展で太刀が体の中心に置かれたことを示す。歯列・太刀中軸線上、歯列西1mのところは漆器柄が伏せて置かれる。成人であれば下肢、脛骨の上あたり位置する。あるいは、足先を開いているのかも知れない。足先に副えられたとすれば、身長120cm程度ということになる。

太刀は全長68cm、刀身部長48cm、巾(鞘共)5cmほどである。柄前は銀?製の薄い縁金物が付き、



第24图 第I地区遺構配置図



第25图 第I地区第98、116~118、123、126号基·土壤4平面图例

表27 第I地区第117・116号基・土壌4・第98号基南北セクション西壁土層観察表(E-E'-E'')

1-1	1.5YR 3/2	暗褐色	腐植土体	腐植少量 自然土の少量 ローム状	ソフツ	
B-1	7.5YR 3/2	暗褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土 ローム状</td> <td>ややソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土 ローム状</td> <td>ややソフツ</td> <td></td>	火山灰質土 ローム状	ややソフツ	
B-2	7.5YR 4/3	褐色 <td>粘土体 <td>玉砂利 ローム状 ソフトローム 火山灰質土 腐植少量 K₂O少量 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>玉砂利 ローム状 ソフトローム 火山灰質土 腐植少量 K₂O少量 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	玉砂利 ローム状 ソフトローム 火山灰質土 腐植少量 K ₂ O少量 玉砂利少量	ソフツ	C少量
1-3	7.5YR 4/2-4/1	褐色 <td>腐植土体 <td>腐植 少量</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	腐植土体 <td>腐植 少量</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植 少量	ハード	
V-1	7.5YR 3/2	暗褐色 <td>粘土体 <td>小石等含有 ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>小石等含有 ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	小石等含有 ローム状	ソフツ	
V-2	7.5YR 4/3	褐色 <td>粘土体</td> <td>シルト</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	粘土体	シルト	ソフツ	
V-3	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	ソフトローム	ソフツ	
V-4	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td>	火山灰質土	ハード	
山頂部	7.5YR 4/2-4/4	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td>	火山灰質土	ハード	
マウンド	1 7.5YR 4/2-3/3	褐色	粘土体	ローム状	ソフツ	C少量
2	7.5YR 4/2	褐色	粘土体	ローム状 腐植	ソフツ	
3	7.5YR 4/2	褐色	粘土体	火山灰質土の少量	ソフツ	
掘り方	イ 7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 ローム状 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 ローム状 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 ローム状 玉砂利少量	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>やや強い腐植 ハードローム</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>やや強い腐植 ハードローム</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td>	やや強い腐植 ハードローム	ハード	C少量
ハ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>やや強い腐植 ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>やや強い腐植 ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	やや強い腐植 ソフトローム	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	ソフトローム	ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>やや強い腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>やや強い腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	やや強い腐植	ソフツ	
ヘ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>やや強い腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>やや強い腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	やや強い腐植	ソフツ	
植付部	イ 7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色 <td>粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植 しまり有り	ハード	
ロ	7.5YR 4/3-4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植 しまり有り	ハード	
ハ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 小石</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 小石</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td>	腐植 小石	ハード	C少量
ニ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色 <td>粘土体 <td>腐植 小石</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 小石</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 小石	ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	火山灰質土	ソフツ	
ヘ	7.5YR 4/4-3/4	褐色・暗褐色 <td>粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	ソフトローム	ソフツ	C少量
植付部	イ 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	火山灰質土	ソフツ	
山頂部	1 7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>シルト</td> <td></td> <td></td> </td>	粘土体 <td>シルト</td> <td></td> <td></td>	シルト		
マウンド	イ 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	ローム状	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	ローム状	ソフツ	
ハ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	ローム状	ソフツ	
ニ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	火山灰質土	ソフツ	
ホ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利含有</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利含有</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植 玉砂利含有	ソフツ	
ヘ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 ハードローム</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 ハードローム</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植 ハードローム	ハード	
植付部	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>ハードローム</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>ハードローム</td> <td>ハード</td> <td></td>	ハードローム	ハード	
土壌4	7.5YR 4/2-3/2	暗褐色・暗褐色 <td>腐植・腐植土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	腐植・腐植土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植	ソフツ	
マウンド1 (山頂部)	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
山頂部	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
マウンド	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 ローム状 玉砂利少量 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 ローム状 玉砂利少量 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td>	腐植 ローム状 玉砂利少量 しまり有り	ややハード	C少量
イ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ハード</td> <td>C少量</td>	腐植 玉砂利少量	ハード	C少量
ハ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 K ₂ O少量	ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
植付部	1 7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
2	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
イ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植	ハード	
ロ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ややハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ややハード</td> <td></td>	腐植	ややハード	
ハ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td></td>	腐植 しまり有り	ややハード	
ニ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td>	腐植 玉砂利	ややソフト	C少量
植付部	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 ローム状</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植 ローム状	ソフツ	
2	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植 玉砂利少量	ソフツ	
3	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植	ソフツ	
4	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	腐植 K ₂ O少量	ソフツ	

表28 夷王山墳墓群第I地区第98・123号基南北セクション東壁土層観察表(B-B')

1-1	7.5YR 3/2	暗褐色	腐植土体	腐植少量 自然土の少量 ローム状	ソフツ	
B-1	7.5YR 3/2	暗褐色 <td>粘土体 <td>腐植 少量</td> <td>ややハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植 少量</td> <td>ややハード</td> <td></td>	腐植 少量	ややハード	
B-2	7.5YR 3/2	暗褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
V	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>ソフトローム</td> <td>ソフツ</td> <td></td>	ソフトローム	ソフツ	
山頂部	7.5YR 4/2-4/4	褐色 <td>粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>火山灰質土</td> <td>ハード</td> <td></td>	火山灰質土	ハード	
マウンド	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td>	腐植 玉砂利少量	ややソフト	C少量
掘り方	イ 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 腐植	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ハ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 玉砂利少量	ソフツ	C少量
ニ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ホ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 K₂O少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 K ₂ O少量	ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
植付部	1 7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
2	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
イ	7.5YR 4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ハード</td> <td></td>	腐植	ハード	
ロ	7.5YR 4/4-4/3	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td>	腐植	ややソフト	C少量
山頂部	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植 腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植 腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	高腐植 腐植	ソフツ	C少量
2	7.5YR 4/4-4/2	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 玉砂利少量 K₂O少量 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 玉砂利少量 K₂O少量 しまり有り</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td>	腐植 玉砂利少量 K ₂ O少量 しまり有り	ややハード	C少量
掘り方	イ 7.5YR 4/2-4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植 玉砂利少量</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	高腐植 玉砂利少量	ソフツ	C少量
ロ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td>	高腐植	ややハード	C少量
ハ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植 しまり有り</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植 しまり有り</td> <td>ややソフト</td> <td>C少量</td>	高腐植 しまり有り	ややソフト	C少量
ニ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 高腐植 玉砂利</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 高腐植 玉砂利</td> <td>ややハード</td> <td>C少量</td>	腐植 高腐植 玉砂利	ややハード	C少量
ホ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植	ソフツ	C少量
ヘ	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植</td> <td>ハード</td> <td></td> </td>	粘土体 <td>高腐植</td> <td>ハード</td> <td></td>	高腐植	ハード	
植付部	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植 (へ)より暗い</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植 (へ)より暗い</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	高腐植 (へ)より暗い	ソフツ	C少量
2	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植 (い)より暗い</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植 (い)より暗い</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	高腐植 (い)より暗い	ソフツ	C少量
3	7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>高腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>高腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	高腐植	ソフツ	C少量
山頂部	1 7.5YR 4/4	褐色 <td>粘土体 <td>腐植 高腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td> </td>	粘土体 <td>腐植 高腐植</td> <td>ソフツ</td> <td>C少量</td>	腐植 高腐植	ソフツ	C少量

表29 第I地区第126号基土層観察表

イ	7.5YR 4/4	褐色	粘土体	高腐植少量	ソフツ	
ロ	7.5YR 3/4	暗褐色	腐植土体	高腐植 腐植	ソフツ	
ハ	7.5YR 4/2	褐色	腐植土体	高腐植少量 腐植	ソフツ	
ニ	7.5YR 4/2	褐色	腐植土体	高腐植少量 腐植	ソフツ	
ホ	7.5YR 4/4	褐色	粘土体	高腐植少量 玉砂利	ソフツ	
ヘ	7.5YR 3/4	暗褐色	腐植土体	高腐植少量 高腐植	ソフツ	
植付部	7.5YR 4/2	褐色	腐植土体	高腐植少量 腐植	ソフツ	

鈎から10cmほどで一度欠失し、先端まで7cmほどを漆加工の上から皮(樹皮?)状の物を巻きつけている。先端(柄頭)は紡錘形で丸い飾鉢状の跡が残る。柄中央部に巾3mmの赤漆が帯状に10cmほどの長さにつく。鈎は銅製木瓜型、猪目透して、青海波地に菱形が四方につく。鞘は黒漆地に柄前同様に皮(樹皮)状のものが巻かれる。太刀柄頭から齒列南側に小刀(腰刀)が刃部を東に向けて副えられる。全長29cm。合口・柄側15cmの間に飾鉢が五個置かれる。柄頭の一は痕跡となっている。二つの鉢と鉢の間に帯状に皮(樹皮?)ないし金属が巻かれる。更にこの上に斜めに数条織線状のもの着が見られる。この小刀の柄部分北東方向に金属片があった。26図7の針がこれかと推する(後述)。漆器1は皮膜残片のみであるが、伏せられた状態の椀と推している。

東壁南寄り、歯列を検出し、頭部痕跡を認めた。歯列は上下に離れ、口が空いた状態である。上・下に2個の円形耳飾が検出され額は左・南横向きと推された。右耳飾一端には細いコイルが付く赤味を帯びた半透明の玉が付く。左耳飾は間が開いており、玉、コイル共に不明である。共に一端に穴が穿たれ、他端は丸味を帯びる。鉄鉾は見られず、白ないし銀灰色を呈しており、銀又は錫製かと推される。左耳飾には首・下顎部?等の骨の一部が付着する。頭部南に太刀2が副えられる。鈎脇に骨が一部残るが、部位が特定できず、太刀が齒列1のように体の中央に副えたとは断定できない。

太刀は全長62.5cm、柄頭を若干欠失する。刀身部長42.5cm、巾4.5cm、柄部巾3.5cmほどである。鞘木質部は口金物付近に僅かに残るだけである。柄前は緑金物が付き、鈎から11cm程で欠失し、柄頭部分が残る。柄頭に近く欠失するのは蓋尻がほぼこの位置であることを示すと推される。前述の太刀1も同じである。鈎に近く、輪花状に八個小孔を透した2.5cmほどの台座中央に鉾を打ち目貫とする。更に3cmほど間を置いた柄中央部に径2cmの銀製の丸い台座を三ヶ所で釘止めしその中央に同じく鉾が打たれる。第116号墓の太刀に目釘穴が2個見られることから、これも目貫と思われる。なおこの中央の鉾は、調査取り上中に欠失した。先端柄頭に飾り鉾が打たれる。鈎は銅製のやや長めの楕円形。耳の一部に白色が残り、或は

鍍銀されていたのかも知れない。両面に三つ?巴丸紋が八個据えられる。柄前には同様の大切刃がつく。南壁中央西寄りで漆器椀が出土した。殆ど皮膜のみであるが伏せて置かれているようである。南壁西隅で刀子と釘が出土した。床面直上の土を東から頭部、中央部、西端足元と分割して採取、水洗した。東頭部の土から26図6の鐵身と7の針を得た。針は前述のように調査中に小刀2の柄付近の金属片としていたものかと思われる。鐵の出土地点は不明である。中央に骨製鐵身があり、それに鉄片がはめられ、鉄鉾で止められている。勝山館跡出土の鐵で骨と鉄(金属)を組み合わせた例は初出である(鉄頭は1点出土している)。

98号墓を掘り下げ中、Ko-d火山灰を覆土に含む柱穴を検出し図示した。Pit 1、2は覆土上部からの掘り込みであり、墳墓構築後のものであろう。Pit 3は墓壇南壁中央際で墳底の精査中に検出したものである。墳底に設けられた何らかの埋納坑とも推し精査した結果、柱痕跡を確認するにいたった。土層図を再検討し壁際の軟らかで空疎な層とKo-d火山灰の存在から、埋葬後に封土上部から掘りこまれた柱穴を見逃したものと判断した。これは歯列2の被葬者の埋葬が傾伏状態で、太刀2の位置に遺骸があったとしてもPitの掘り方は遺骸ざりであり、埋葬時に遺骸を傷めずに掘り込み立柱したとするのは困難と推したことも一因である。従って墳墓構築後この墓壇の上から2~3回、穴が掘られ柱が建てられ、ある期間同時に残存し、腐朽陥没していたところにKo-d火山灰が堆積したと推される。何らかの追善供養のような儀式を想定すべきであろうか。第41図1の唐津皿は98、123号墓を覆うマウンドの表土・草根を除去中にその頂部北寄りで検出したものである。第1層と認識し、写真撮影等も行っていない。その後その斜面下、平坦面を被覆する砂利層中から同2が出土した。共に被熱のため釉が溶け肌荒れが著しい。検出状況から1の原位置を特定することには無理があるが、98号墓覆土上面の炭化物の広がりか或いはこれに関連するとも推しているが、類似もないので、柱穴同様、結論は留保しておきたい。(松崎)

第119号墓(第27図・PL.10-8): C12区に位置する。墓壇の長軸126cm、短軸110cm。平面形は一辺がややへこみ歪んだ隅丸長方形。釘の出土位

置から棺の規模は72cm×35cmと推される。副葬品は銅銭9点。銅銭は棺想定地内中央よりやや西寄りと南西から出土した。人骨が検出されなかったため、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。(松田)

第120号墓(第28図)：117号墓の東、通路北脇に99号墓の表示があり、通路南から土層観察面を設け精査中検出した。北部墳底に通路面が達し、雨水等で一部削られた状況である。土層の堆積を木棺の内外で弁別することは充分でなかった。マウンドを作っていたようである。推定木棺中軸線北端に漆器(皿・杯)が、中軸線東半に銅銭がある。なお、棺外南東墓壇埋め土中から銅銭一枚が出土した。

第121号墓(第23・29図)：トレンチ3北端、斜面下で検出された。土層図、観察表中のc、e、f等は棺外の墓壇埋め土、b、dは棺内の堆積土と推される。小柱穴状の穴があるが詳細は不明。棺の長軸を北西・南東に持ち、南東壁側に銅銭が比較的多い。

土壌2(第23・30図)：トレンチ3で検出された。I層下部に黒色土層が堆積している。この層は他では殆ど見られないことから、縄文時代等の堆積とも推されたが、その下位に江戸時代としているII層が堆積しており、微量ながらKo-d火山灰が覆土イ・トに見られることから他の遺構と同時代とした。黒色土層の出自は後考したい。

覆土の殆どが墓壇礫粒を主体としており、床・壁の識別が困難であった。29図の平面図は掘り過ぎの状態が作図されているもので同図A A'の土層図の断面が本来かとも推している。遺物の分布等も合せ再検討したい。土壌内東半から礫に混って北海道式石冠の下半残欠、擦石が出土した(第41図34・33)。(松崎)

第127号墓(第31図・PL.11-3・4)：C9区に位置する。墓壇の長軸は現存部で97cm、短軸78cm、人骨は検出されなかったため、墓壇の長軸から頭位は東乃至西と推される。副葬品は刀子1点、銅銭3点。刀子(第41図31)と銅銭は墓壇中央付近から出土した。第129号墓と切り合い関係にあり第129号墓より古い。釘は出土せず、堆積状況からも棺位置は想定できなかったので、木棺に納められない直葬と推される。

第129号墓(第31図・PL.11-4~6)：C9区

に位置する。墓壇の長軸153cm、短軸105cm、釘の出土位置から棺の規模は74cm×52cmと推される。歯、四肢骨の一部が出土。歯の出土位置から推定頭位は東。副葬品は漆器1点、銅銭17点。漆器と銅銭は棺想定位置の南側から出土した。第127号墓と切り合い関係にあり、第127号墓より新しい。

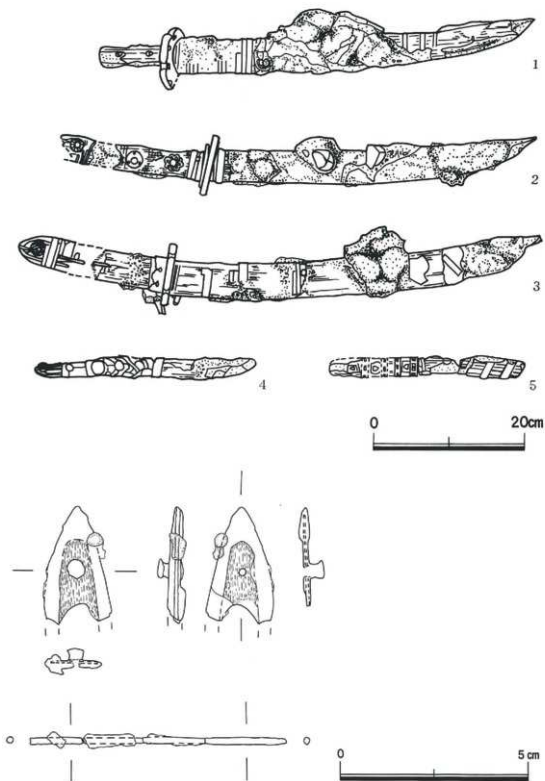
土壌5・6(第32図・PL.12-9)：C8区に位置する。土壌6は土壌5調査中に壁の位置が違うことから発見した。両者は切り合い関係にあり土壌6が新しい。土壌5は長軸134cm以上、短軸60cmの隅丸長方形。土壌6は長軸70cm、短軸62cmの歪な隅丸方形。遺物は無く、遺構の性格は不明である。

第97号墓(第33図・PL.10-1・2)：C10区に位置する。墓壇の長軸103cm、短軸70cm、釘の出土位置から棺の規模は71cm×33cmと推される。歯と部位不明の骨が出土。歯の出土位置から推定頭位は西。棺想定箇所中央西よりと東端で棺の一部と推される木片が出土した。

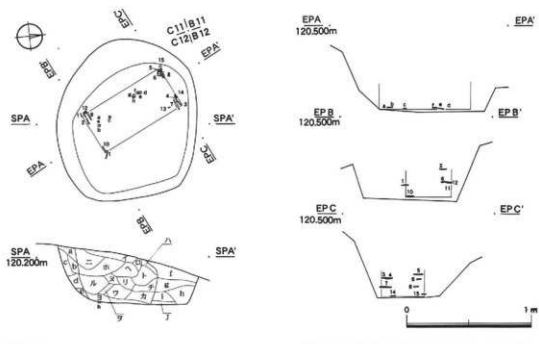
砂利敷遺構について(第34・35図・PL.3-1・2)：A・B・C・D14区周辺部に位置する。第I地区の台地から派生する小さな尾根を造成して作られた平坦面に玉石を敷いたものである。長軸は東西方向で約10m、短軸は南北方向で北側は後世に作られた土塁と溝により削り取られてしまっているため、現存部は約3mである。この砂利敷の平坦部で配石遺構2基と6基の墓を検出した。砂利の直上では白色火山灰(Ko-d)を検出している。又南東部で、唐津胎土目積皿(第41図2)が出土した。口縁は平らで、底部輪高台。被熱により軸索はただれている。白色火山灰が砂利直上に堆積することや唐津胎土目積皿が出土したことから砂利敷遺構は勝山館終末期頃のものと推される。

配石遺構1(第36図・PL.12-1)：B12区に位置する。上面が平滑な石を5個配置し、ほぼ正方形の平面形となることから建物の礎石と推される。石の各々の中心距離は91cm。3尺と想定できる。西側の石間に火葬骨が納められた墓壇(第128号墓)があり、石下に第124・125号墓がある。

配石遺構2(第35図・PL.12-3)：C12区に位置する。上面が平滑な石を7個配置しほぼ正方形の平面形となる。北側の石が第128号墓上にあり、沈下している。石の各々の中心距離は76cm。



第26图 第I地区第98·116号墓出土遗物



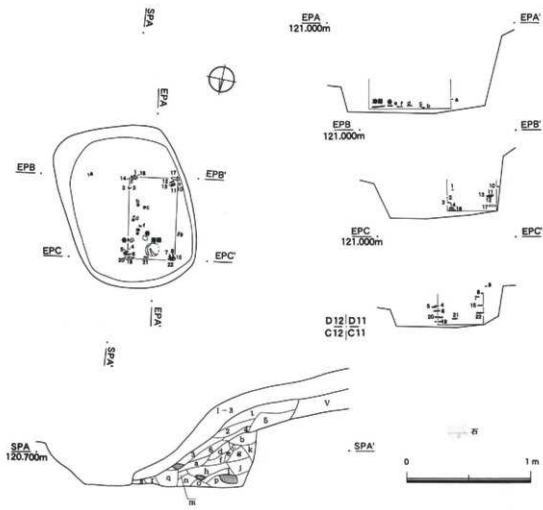
第27図 第I地区第119号墓平面図他

表30 第I地区119号墓土層観察表

層り方	a	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	b	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	c	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	d	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	e	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	f	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	g	7.5YR 4/2-4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	h	7.5YR 4/2-4/4	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
	i	7.5YR 4/2	褐色	ソフトローム	まじりなし	ソフト	C少量
埋蔵品	j	7.5YR 2/2	灰褐色	灰褐色土	玉砂利中少量	ソフトローム	ソフト
	k	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	玉砂利中少量	ソフトローム	ソフト
	l	7.5YR 2/2	灰褐色	灰褐色土	玉砂利中少量	ソフトローム	ソフト
	m	7.5YR 4/4	褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	n	7.5YR 2/2	灰褐色	灰褐色土	ソフトローム	ソフト	ソフト
	o	7.5YR 2/2	灰褐色	灰褐色土	ソフトローム	ソフト	ソフト
	p	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	q	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	r	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	s	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	t	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	u	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	v	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	w	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	x	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	y	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト
	z	7.5YR 2/2	灰褐色	ソフトローム	ソフトローム	ソフト	ソフト

表31 第I地区第120号墓土層観察表

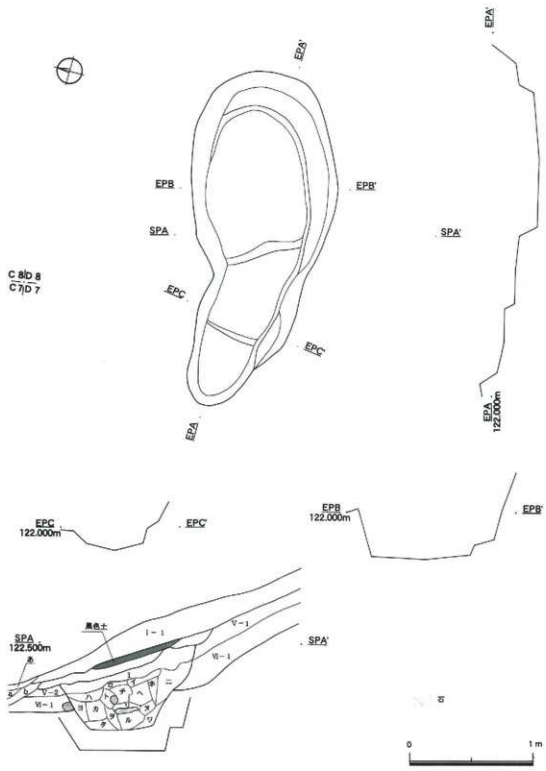
マウンド	1	7.5YR 4/2-4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	2	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	3	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	4	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	5	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	6	7.5YR 4/2-4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
層り方	a	7.5YR 2/2	灰褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	b	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	c	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	d	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	e	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	f	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	g	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	h	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	i	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	j	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	k	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	l	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	m	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	n	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	o	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	p	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	q	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量
	r	7.5YR 4/4	褐色	埋蔵品	埋蔵品	ソフト	C少量



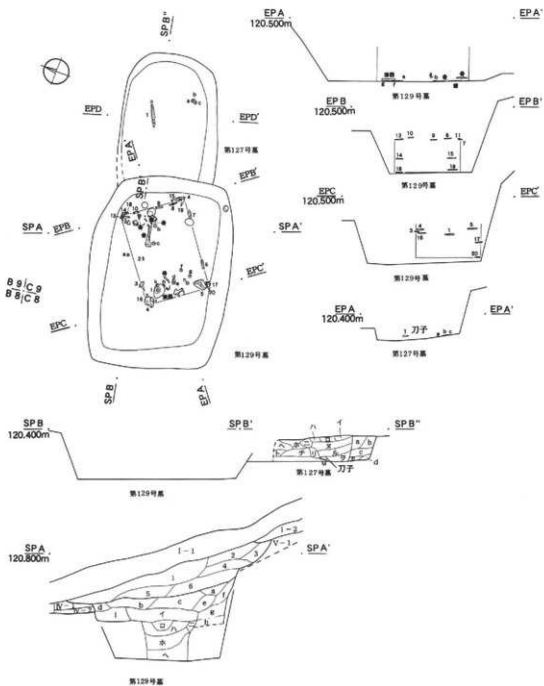
第28図 第I地区第120号基平面図他

表32 第I地区第121号墓土層観察表

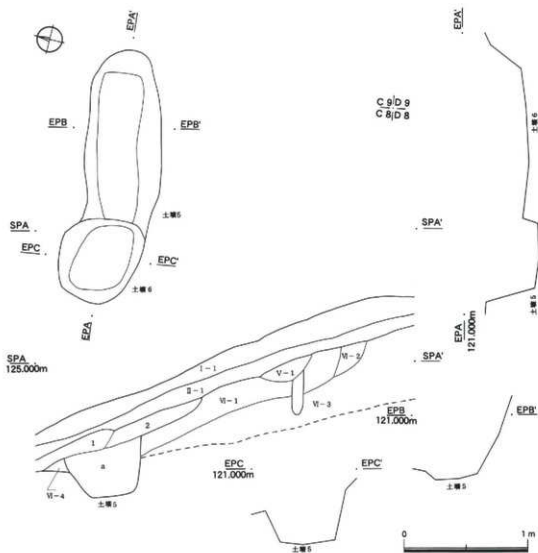
区画	測点	土層	観察地点	地層主体	主要土層	特徴	土層		
B-1	1	T2YH	3/2	暗褐色	ローム状	五砂利中・有り	ややしまり有り	ソフト	
	2	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	礫粒	ややしまり有り	ソフト	
	3	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	礫粒		ソフト	
	4	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	玉砂利		ソフト	
	5	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	礫粒	ローム粒	火山区残層	ソフト
マウンド	1	T2YH	3/2・4/2	暗褐色	暗褐色土層	ソフトローム	小石・礫粒	無量	
	2	T2YH	4/3	褐色	暗褐色土層	五砂利	小石混じり	ローム状	ややハード
	3	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	五砂利	少量	礫粒	ややソフト
	4	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	礫粒	ローム状	ややハード	
	5	T2YH	3/2	暗褐色	暗褐色土層	礫粒		ソフト	
	6	T2YH	2/2	暗褐色	暗褐色土層	ソフトローム		ソフト	
	7	T2YH	4/3	褐色	暗褐色土層	ローム状	礫粒	ソフト	
墓り基	a	T2YH	3/2	暗褐色				ソフト	
	b	T2YH	4/3・5/3	暗褐色		小石少し混じり		ソフト	
	c	T2YH	4/3・5/3	暗褐色		灰・暗褐色	礫粒	しまりなし	ソフト
	e	T2YH	4/3・5/3	暗褐色		やや灰・礫粒	五・暗褐色	五砂利少量	ソフト
	f	T2YH	4/3	暗褐色		礫粒	小石少量	ハードローム	しまり有り
埋蔵土層	イ	T2YH	4/3	暗褐色		礫粒	ソフトローム	ソフト	
	ロ	T2YH	4/3	暗褐色		礫粒	小石少量	ソフトローム	ソフト
	ハ	T2YH	3/2・4/2	暗褐色		礫粒	しまりなし	ソフト	
	ニ	T2YH	4/3	暗褐色		ソフトローム		ソフト	



第30图 第I地区土壤2平面图他

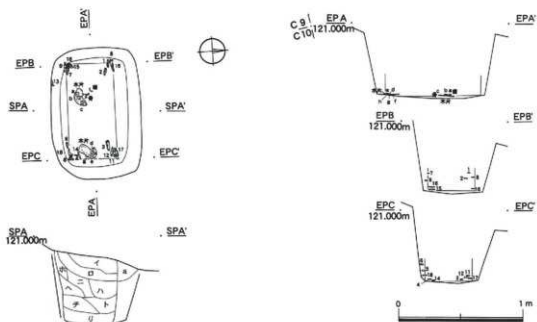


第31图 第I地区第127·129号基面图他



第32回 第I地区土壌5・6平面図他

マウンド	1	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ハード	C濃度
	2	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ハード	C濃度
	3	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ハードローム	ハード	C濃度
	4	7SYR	6/3	暗褐色	砂質粘土体	粒粒	ソフト	C少量
	5							
	6	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ハードローム 基盤層	ハード	C濃度
掘り方	a	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 土砂質少量	ソフト	C濃度
	b	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒 (ハ)より少量有り	ソフト	C濃度
	c	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度
	d	7SYR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ややハード	炭化物質 C濃度
	e	7SYR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒	ソフト	C濃度
	f	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒	ソフト	C濃度
	g	7SYR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒 玉砂利	ソフト	C濃度
	h	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ややハード	C濃度
	i	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ややハード	C濃度
掘削位置	イ	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 基盤層	ソフト	C濃度
	ロ	7SYR	6/3	暗褐色	砂質粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度
	ハ	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度
	ニ	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度
	ホ	7SYR	6/3	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度
	ヘ	7SYR	6/3-4/4	褐色	粘土体	粒粒 ローム粒	ソフト	C濃度



第33図 第I地区97号基平面図他

表36 第I地区土壌6土層観察表

土-1	7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植多量、礫粒	ソフト	C含量
土-1	7BYR 4/2-4/2	褐色	腐植土層	腐植、ローム粒	ソフト	C含量
土-1	7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植少量	ソフト	
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植、基盤礫多量	ハード	
土-4	7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植、基盤礫30% 砂の再堆積?	ハード	
マウンテ	1 7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植、ローム粒	ややハード	
マウンテ	2 7BYR 3/2	暗褐色	腐植土層	腐植、ローム粒	ややハード	C含量
マウンテ	a 7BYR 4/2	褐色	腐植土層	腐植、ローム粒	ソフト	

表37 第I地区第97号基土層観察表

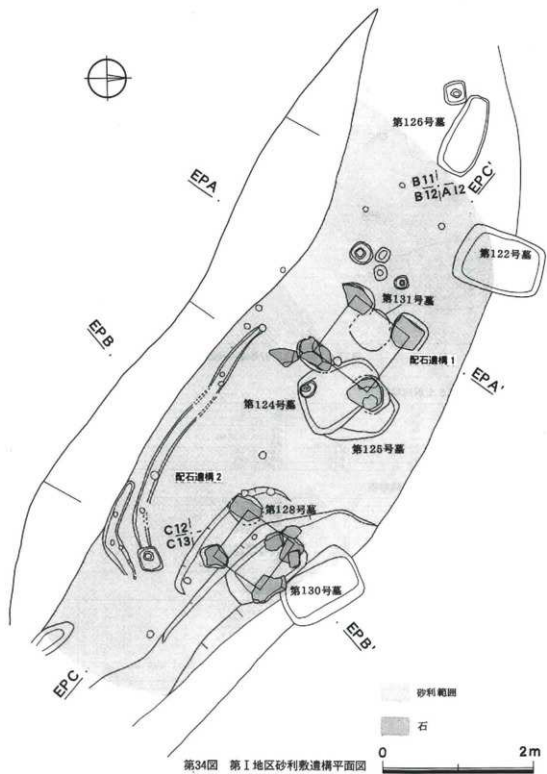
腐り方	a	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫多量、ローム	ハード	
腐植土層	c	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量、ローム	ハード	
	d	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量 (c)よりややソフト	ソフト	
	e	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫多量	ソフト	
	f	7BYR 4/2	暗褐色	腐植、基盤礫少量	ソフト	
	h	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫少量、ローム粒	ソフト	
	i	7BYR 4/2	褐色	腐植、基盤礫多量、ローム粒	ややハード	
	j	7BYR 4/2	暗褐色	腐植	ソフト	
	k	7BYR 4/2	褐色	腐植、ローム粒	ソフト	

表38 第I地区配石遺構1 南北セクション西壁土層観察表

土-1	7BYR 4/2	褐色	腐植、ローム粒、玉砂利			
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植、全形粘土質	ソフト		
土-3	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、玉砂利多量	ソフト		
土-4	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、基盤礫少量	ソフト		
土-5	7BYR 4/2	暗褐色	腐植少量、玉砂利多量	ソフト		
土-6	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	ローム、ゴロ石	ソフト		
土-7	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、やや粘土質	ソフト		
土-8	7BYR 4/2	褐色	腐植少量、全形粘土質	ハード		
石土層南方	i	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量	ソフト	
石土層南方	ii	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、基盤礫少量	ややソフト	
石土層南方	iii	7BYR 3/2	暗褐色	腐植少量、ローム粒少量	ソフト	

表39 第I地区配石遺構2 南北セクション東壁土層観察表

土-1	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量、粘土質		
土-2	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量、粘土質		
土-3	7BYR 4/2	褐色	腐植、玉砂利少量、粘土質		
土-4	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	基盤礫少量	[[土]]よりハード
土-5	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	基盤礫少量、基盤礫	ハード
土-6	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	腐植、玉砂利少量	ややソフト
土-7	7BYR 4/2	こぶし黄褐色	腐植土層	腐植、腐植少量、腐植多量	ややソフト



第34图 第I地区砂利敷遺構平面図

2尺6寸と想定できる。配石遺構1同様、建物の礎石と推される。石下に第128・130号墓がある。

第131号墓(第36図・PL.12-2)：C9区に位置する。配石遺構1中に作られた火葬墓である。墓壇の規模は直径35cmのほぼ円形。火葬骨は小片であり、部位は特定できない。

第124・125号墓(第37図・PL.11-7・8)：B12区に位置する。墓壇の長軸114cm、短軸82cm。短軸一辺がやや広がり、台形状となる。今回の調査で新たに発見した墓である。副葬品は刀子1点(第41図32)。刀子は墓壇北寄り出土した。釘が検出されず、堆積状況にも明瞭な差が認められないことから、木棺に納められぬ直葬と推される。なお、124号墓に切られた土壌を東側に検出し、125号墓とした。

第126号墓(第25・34図・PL.12-9・10)：A11区に位置する。今回の調査に新たに発見した墓である。墓壇の長軸108cm、短軸は東側で50cm、西側で26cmと短辺の一方がやや広がり、平面は楔形を呈する。深さは12cmと墓の中ではきわめて浅い。墓壇の東側で骨の一部が出土した。副葬品は確認されなかった。墓壇の平面形からアイヌ墓と想定され、頭位は東と推される。

第128号墓(第38図・PL.12-4)：B13区に位置する。今回の調査で新たに発見した墓である。墓壇の長軸110cm、短軸62cm、推定頭位。釘の出土位置から棺の規模は56cm×33cmと推される。人骨が検出されなかったため、棺の長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。副葬品は点。西側を削り段を作っている。第130号墓より新しいと推される。

第130号墓(第38図・PL.12-5)：B13区に位置する。今回の調査で新たに発見した墓である。墓壇の長軸110cm、短軸78cm。後世の土層により北側の一部が削り取られている。墓壇北西側より歯が出土したので、推定頭位は北西。釘の出土は無く、土層の堆積状況からも棺の存在は想定できなかった。また副葬品も確認できなかった。遺構の切り合い関係から第128号墓より古いと推される。

第122号墓(第39図・PL.12-7)：A12区に位置する。墓壇の長軸116cm、短軸78cm、一部検出されなかった分もあり、釘の出土位置から棺の規模は64cm×38cmと推される。歯、頭蓋骨、椎骨、

肋骨の一部が出土し、頭位は北と推される。また人骨下には木棺の一部も残存していた。副葬品は漆器1点、銅銭31点以上。銅銭の中には所謂輪銭が18枚程含まれる。水楽通寶6枚。鏡種枚数は、人骨・木棺の出土状況を維持し、取り上げたため正確な数は不明である。鏡の分布は、棺想定地の中央付近で最も多く出土している。

第101号墓(第40図・PL.10-3)：C13区に位置する。墓壇の長軸114cm、短軸90cm。釘の出土位置から棺の規模は75cm×48cmと推される。副葬品は漆器1点、銅銭9点。漆器は棺想定地北側寄り、銅銭は北側から出土した。人骨が検出されなかったため、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推される。(松田)

土壌1(第22図)：道路南確認トレンチ8の西側で土壌2類似の黒色土の堆積があり精査した。明瞭な形状、土層の堆積を把握する事はできなかった。

土壌3(第23・24図)：トレンチ4北端で黒ずんだII層の堆積があり、遺構Noを付して精査したが遺構として認めることはできなかった。

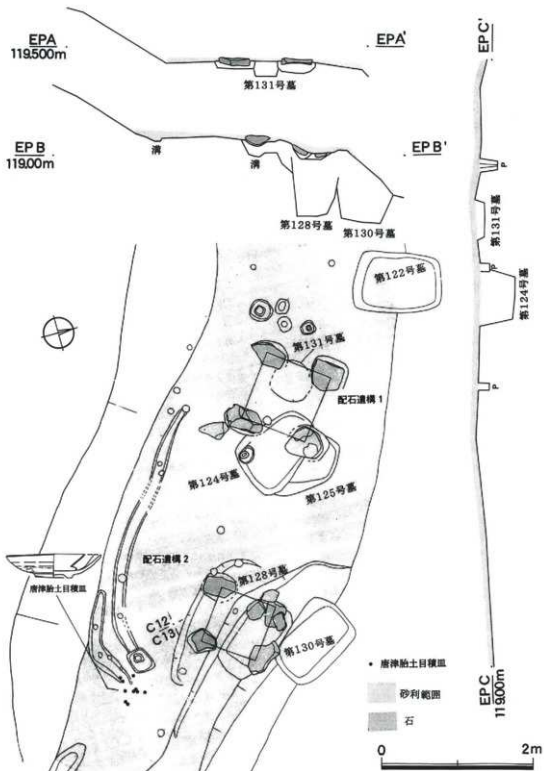
土壌4(第25図)：116号墓を精査中に検出した。浅い凹みであるが、銅銭が出土し、土壌とした。116号墓、123号墓より古いと推した。

第118号墓(第25図)：117号墓を精査中に検出した。調査時明確に形状を把握できず、土層図の検討も未了であるため概略の位置・形状を示した。漆器皮膜が出土したことから墓壇とした。

第119号墓(第27図)：98号墓の精査中に検出した。北東方向に傾斜し浅くなる。覆土の堆積が把握しきれず北東隅の壁は掘り過ぎたかも知れない。釘の位置から想定した棺の形状に近いのが本来の墓壇掘り方かと推される。棺内南西半から銅銭が出土した。マウンドは不明である。

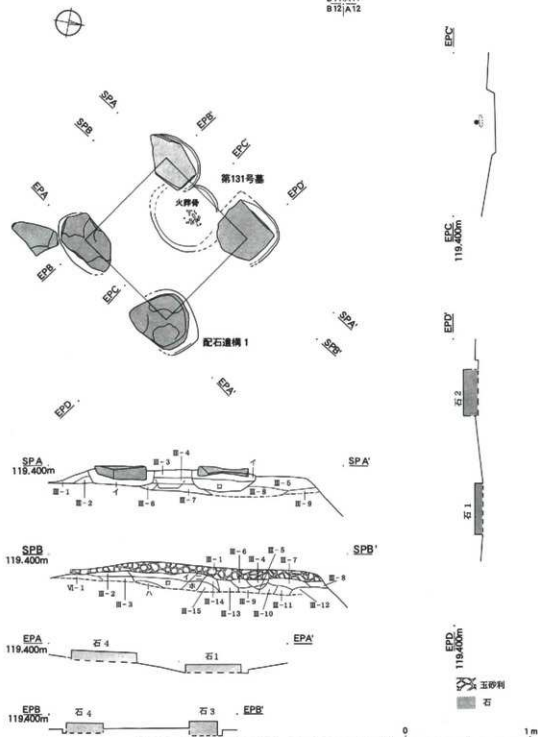
土壌7(第23、24図)：道路北側に99号墓の確識杭が表示されていた。少量の玉砂利、ローム、基盤礫からなる、固い盛土がありその下位に浅い掘り込みがあった。焼骨片が少量検出された。

第99号墓(同上)：斜面を削った浅い掘り込みが認められた。漆器皮膜が検出され、墓としたが詳細は把握されなかった。(松崎)

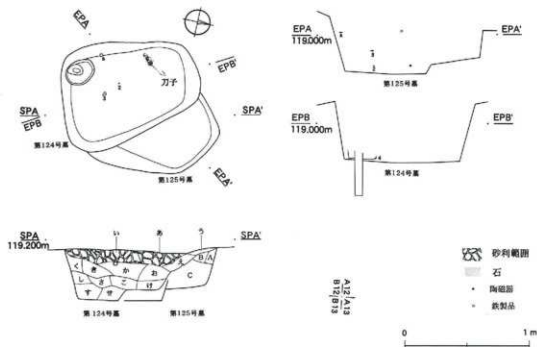


第35图 第I地区砂利敷遺構遺物分布図他

B11/A11
B12/A12



第36图 第I地区第131号墓・配石遺構1平面図他



第37図 第I地区第124・125号墓平面図他

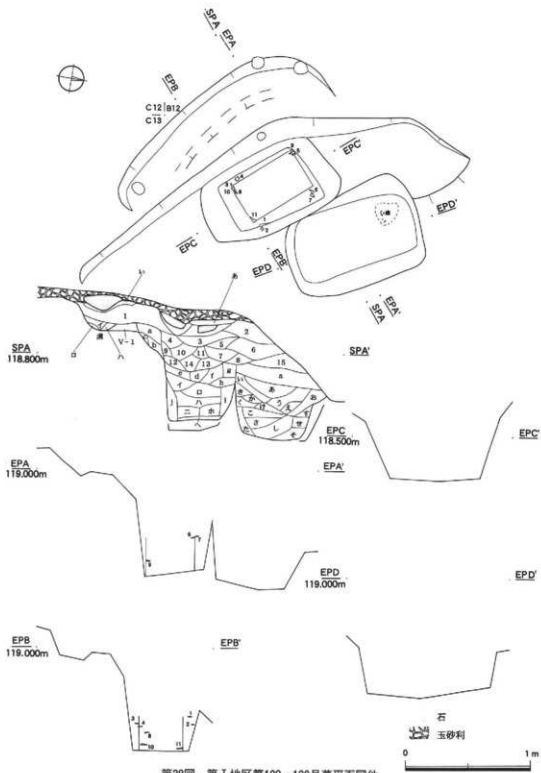
第-8	10YR	6/4	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒・輝石少量	中ヤマト	C層
第-9	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量	中ヤマト	
第-10	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 玉砂利	中ヤマト	
第-11	10YR	6/3	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 輝石少量 玉砂利	中ヤマト	
第-12	10YR	6/4	紅土・黄褐色	灰褐色土	高砂粒少量 高砂礫	中ヤマト	
第-13	10YR	6/4	紅土	輝石 粘土質	輝石 粘土質		
第-14	10YR	6/4	紅土	輝石 多砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	輝石 多砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	
第-15	10YR	6/4	紅土	輝石 多砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	輝石 多砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	
イ	10YR	6/4・5/4	紅土・暗褐色		輝石少量 高砂礫少量 粘土質 (B)より輝石少し多い	中ヤマト	
ロ	10YR	6/4	紅土		輝石少量 高砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	
ハ	10YR	6/4	紅土		輝石少量 高砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	
ニ	10YR	6/4	紅土		輝石少量 高砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	
ホ	10YR	6/4	紅土		輝石少量 高砂礫少量 粘土質 (B)と同じ	中ヤマト	

表40 第I地区第124・125号墓土層観察表

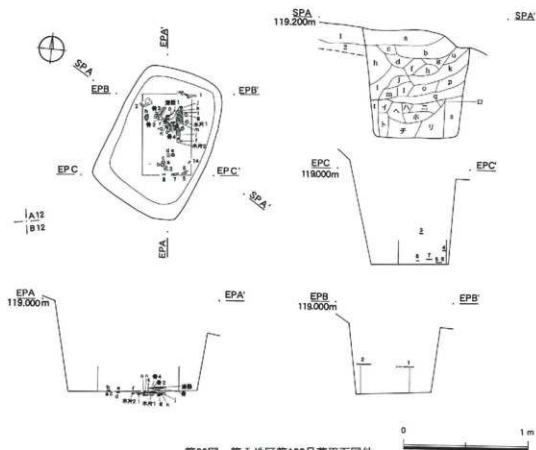
A	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石	中ヤマト
B	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石	中ヤマト
C	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石	中ヤマト
ホ	7.5YR	6/3・6/4	褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
イ	7.5YR	6/4	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ロ	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石	中ヤマト
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ニ	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
イ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ロ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ニ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
イ	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ロ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ハ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ニ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト
ホ	7.5YR	6/3	暗褐色	輝石	輝石 玉砂利	中ヤマト

表41 第I地区第128号墓・130号墓土層観察表

表				石・土層		
イ	7.5YR	6/4	褐色	ソフトローーム主体		
ロ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム	中ヤマト
ハ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム 白色土層	中ヤマト
ニ	7.5YR	6/3	褐色	輝石	ソフトローーム 白色土層	中ヤマト
中ヤマト						
1	7.5YR	6/3	褐色	輝石	輝石 ローム	中ヤマト
2	7.5YR	6/4	褐色	輝石	輝石 ローム 高砂礫	中ヤマト
3	7.5YR	6/3	褐色	輝石	輝石 玉砂利 高砂礫	中ヤマト
4	7.5YR	6/4	褐色	輝石	ソフトローーム 中砂粒	中ヤマト
5	7.5YR	6/4	褐色	輝石	ソフトローーム 玉砂利 高砂礫	中ヤマト



第38图 第I地区第128・130号墓平面図他



第39図 第I地区第122号基平面図他

	6	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ハーフローム 焼付 漆喰層	ハーフ
	7	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 漆喰層	ソフト
	8	T5YH	3/3	中間色	焼燻土体	シムト ローム 漆	ソフト
	9	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ソフト ボタボタ	ソフト
	10	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ソフト 玉砂利	ソフト
	11	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	12	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム (10)29ヤヤ焼付 ボタボタ	ソフト
	13	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	14	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	15	T5YH	4/4-4/3	焼色	焼土体	瓦敷層 焼付	ハーフ
南方向	a	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	焼付 積層	ハーフ
	b	T5YH	4/4	焼色	焼土体	焼付 ハーフローム	ハーフ
	c	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	d	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	ソフトローム (ヤ)29ヤヤ中層	ソフト
	e	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	ローム	ソフト
	f	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	シムト	ソフト
	g	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	ボタボタ	ソフト
南側面図	h	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	シムト	ソフト
	i	T5YH	4/4	焼色	瓦敷層下地	ソフトローム 白色火山灰少量	ソフト
	j	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	焼付	ヤヤハーフ
	k	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	ボタボタ	ソフト
	l	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	漆 玉砂利	ソフト
	m	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	漆 ローム	ヤヤハーフ
	n	T5YH	4/3	焼色	焼土体	漆 ローム	ヤヤハーフ
1階平面	o	T5YH	3/3	焼燻土体	焼燻土体	ローム 玉砂利	ソフト
	p	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ローム 焼付	ヤヤハーフ
	q	T5YH	4/3-4/4	焼色	焼土体	シムト 白色火山灰 漆	ハーフ
	r	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフト
	s	T5YH	4/4	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフト
	t	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフト
	u	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付	ソフト
南方向	v	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム 焼付 漆喰層	ソフト
	w	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	x	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	y	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	z	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	aa	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト
	ab	T5YH	4/3	焼色	焼土体	ソフトローム	ソフト

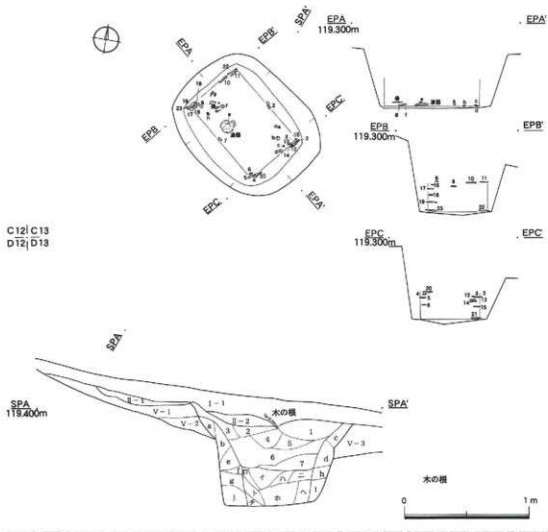
ニ	T3YH	4/3	褐色		ソフトローム 礫粒	ソフト	C層底
ホ	T3YH	4/3	褐色	礫粒主層	ソフトローム主層	ソフト	C層底
シ	T3YH	4/3-4/4	褐色	礫粒主層	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	C層底
サ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	
セ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層	ソフト	
ソ	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ソフトローム 礫粒 基砂層 灰山田	ソフト	
ト	T3YH	4/3	褐色	褐色土	ハードローム 礫粒	ソフト	

表42 第I地区第122号基土層観察表

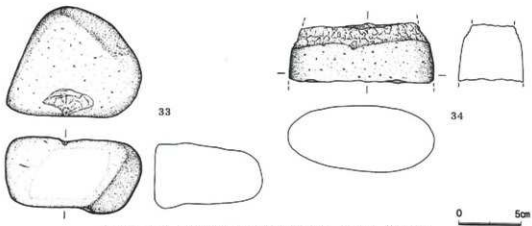
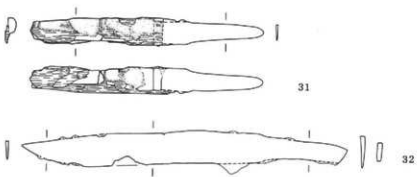
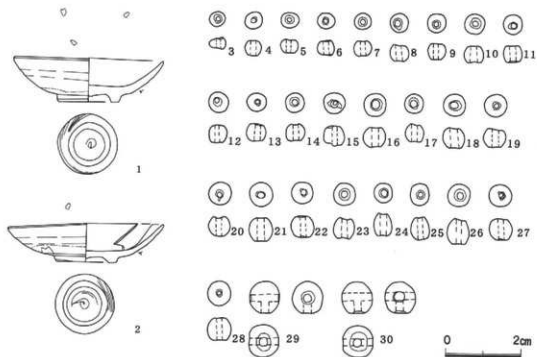
基土	イ	T3YH	4/3	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層 五砂粒	ハード	
	ロ	T3YH	4/4	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層	ハード	
掘り方	1	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ソフト	
	2	T3YH	4/4	褐色	基砂層主層	礫粒	ハード	C層底
	3	T3YH	4/3	褐色	礫粒主層	しまりなし	ソフト	C層底
	4	T3YH	4/3	褐色	褐色土	五砂粒	ソフト	C層底
	5	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	6	T3YH	4/3	褐色	褐色土	しまりなし	ソフト	
	7	T3YH	4/4	褐色	ハードローム主層	礫粒 基砂層	ハード	C層底
	8	T3YH	3/4-4/3	褐色色 礫粒	同層・褐色土	礫粒 しまりなし	ソフト	
	9	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 ソフトローム	ソフト	C層底
	10	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	礫粒 ローズアップ	ソフト	
掘り方	11	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	12	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 ソフトローム	ソフト	
	13	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 小礫 五砂粒	ソフト	
	14	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒 ローズアップ	ソフト	
	15	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	16	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	やや強い礫粒 サラサラしている	ソフト	中やハード
	17	T3YH	4/3	褐色	褐色土	やや強い礫粒 サラサラしている	ソフト	C層底
	18	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	強い礫粒 サラサラしている	ソフト	C層底
	19	T3YH	4/3	褐色	褐色土	褐色土	ソフト	C層底
	20	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
掘り方	21	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	22	T3YH	4/3	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	23	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	24	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ソフト	
	25	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	26	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	27	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	28	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	
	29	T3YH	4/4	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	
	30	T3YH	4/4	褐色	褐色土	粒の強い礫粒	ソフト	

表43 第I地区第101号基土層観察表

1-1	T3YH	3/3	暗褐色	暗褐色土	50%の腐葉 五砂粒	ソフト		
1-2	T3YH	4/3	褐色	褐色土	10%の腐葉	中やハード		
1-3	RYR	4/3	1:1の黄褐色	1:1の黄褐色土	礫粒少量(ローズアップ状)	ハード		
1-4	RYR	4/3	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層 粒20%	ハード		
1-5	RYR	5/4	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層 粒20%	ハード		
1-6	RYR	3/4	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉粒少量	中やハード		
マウンド	1	RYR	3/4-3/3	暗褐色	暗褐色土	礫粒少量	中やソフト	
	2	RYR	4/3	1:1の黄褐色	1:1の黄褐色土	礫粒少量 五砂粒少量	ハード	
	3	RYR	4/4	褐色	褐色土	礫粒少量 五砂粒少量	ハード	
	4	RYR	4/4	1:1の黄褐色	1:1の黄褐色土	礫粒 基砂層 粒土質	ハード	
	5	RYR	4/3	1:1の黄褐色	1:1の黄褐色土	礫粒少量 ローム粒少量	ハード	C層底
	6	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	
	7	RYR	4/4	褐色	褐色土	腐葉層少量 50%腐葉	ハード	
掘り方	1	T3YH	4/3-4/4	褐色	褐色土	礫粒 基砂層	ハード	C層底
	2	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ソフト	C層底
	3	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	C層底
	4	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫粒	ハード	C層底
	5	T3YH	4/4	褐色	褐色土	10%しまりなし	ソフト	C層底
	6	T3YH	4/3	褐色	褐色土	礫 基砂層	ハード	
	7	RYR	3/4	暗褐色	暗褐色土	腐葉層少量 礫粒	ソフト	
	8	T3YH	4/3	褐色	褐色土	腐葉層 礫少量	ソフト	
	9	T3YH	4/3	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層 礫粒 ローム少量	中やハード	
	10	T3YH	4/3	褐色	褐色土	腐葉粒少量	ハード	
掘り方	11	RYR	4/4	褐色	褐色土	腐葉層 基砂粒少量	ハード	
	12	RYR	4/4	褐色	褐色土	腐葉層10% 基砂粒少量	ハード	
	13	RYR	4/3	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層	ハード	
	14	RYR	4/3	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層40% 基砂粒少量	ハード	
	15	RYR	4/3	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層 礫少量	ソフト	
	16	RYR	4/4	1:1の黄褐色	黄褐色土	腐葉層10%	ハード	
	17	T3YH	4/4	褐色	褐色土	腐葉層少量	中やハード	



第40図 第I地区第101号基平面図他



第41回 第I・II地区遺構出土遺物(陶磁器・石製品・鉄製品)

(2) 夷王山墳墓群第Ⅱ地区

代参道路寺ノ沢湧水地点の調査(第42・43図、表45～50)：夷王山麓の駐車場から駒山跡へ到る路が墳墓群第Ⅱ地区南東端で寺ノ沢川を横断する地点の調査である。整備計画では、この地点に木橋を渡す予定であり、その事前調査である。

昭和30年代前半迄はこの地点中央上手に小さな木枠が据えられ、溜め井戸状を呈していた。小さな川ではあるが、ここを渡る橋礎や踏み石の検出、水汲み施設の遺などをもその目的とした。又、上述のようにここは、墳墓群第Ⅱ地区南東隅の斜面下にあたる。この地点の100mほど下流で井戸枠、木礎などを発掘し、寺ノ沢内用水施設として整備した。この時、川床の泥炭・湿地層から検出した木製品の中に塔婆状のものがあつた(本報Ⅲ～V)。このことから、この第Ⅱ地区における葬送儀礼に伴う諸品の廃棄集積の可能性も視野に入れ、調査を行った。A～Fの土層観察面を設け、現在使用中の通路とそれ以前の道の有無、位置を探った。A A'中のaが現存の道路位置である。Aはここの層序では、Ko-dを含む層より後出の凹地として扱えられ、aに先行する遺跡と推した。これはF F'面の層序1、2に続くものであり、ここではKo-d層に覆われ先行するものとして扱えられた。そしてこれはC C'面の1・2層の堆積する凹みへと続くと考えられる。A A'面のみKo-d層より上位からの確認となり矛盾があるが、両面は斜面の肩に位置しており、中央部が雨水の流路となることも考え、一連のものとしておきたい。このまま沢沿いに、南西に進むのであろうか。

B B'面沢南東斜面直下に溝が検出された。苦小牧火山灰層に覆われた溝と解された。なお土層観察表及び土層図にⅡb層及びⅡ5～9層と記したものはⅣ層の誤りである。又V～2層はあ～きに続くものであろう。D D'面で木枠を二基確認したが枠内に十円銅貨があるなど、いずれも新しいものであつた。古いものも見出し得なかった。上部平坦面F 18区Ⅳ層などE F 18南東斜面、F 19で撤文土器が若干出土した。終末期に属するかと推した。(松崎)

第23号墓(第45・46図・PL.14-1・2)：M 6区に位置する。長軸23cm、短軸23cm。深さ15cm程の穴に焼骨を検出した。穴の大きさと表面観察からすると火葬骨の一部を埋葬したものと推され

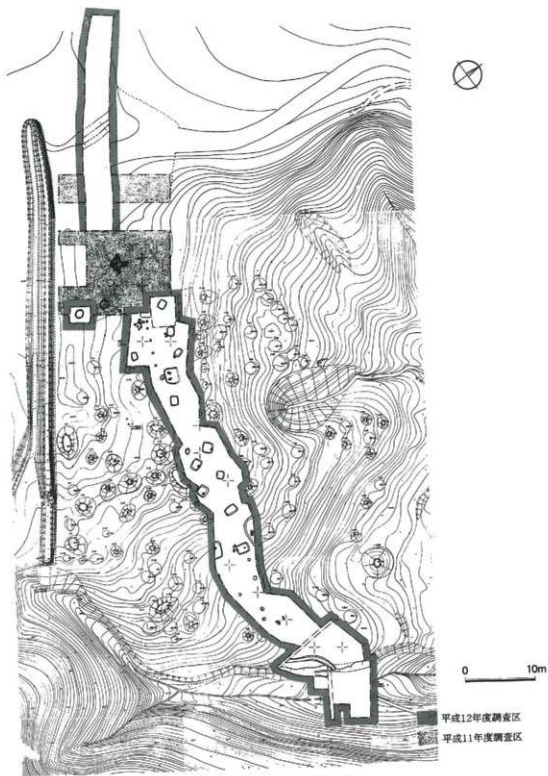
る。骨は無造作に散らばることもなく、あたかも積み上げられたような形で検出されたことから、箱か曲物などの容器に納められていたと推される。最上部にある骨は縫合があることから頭蓋骨と推される。付近から開元通寶が1枚出土した。

第30号墓(第47図・PL.14-3)：K・L 8区に位置する。墓塚の長軸223cm、短軸174cm。平面は長方形を呈する。墳丘上北側から南にかけて10～50cm大の礎が15個置かれる。墓塚中央部覆土中より焼骨が微量ながら出土したことから火葬墓と推される。南側に墓より古いと推される平面楕円形の土壇1がある。墳丘等周辺から銅銭が5枚出土している。墓塚中にある柱穴P 32～35は、いずれも昭和30～40年代前後頃に作られた楕円の柱穴であり、墓塚と直接関係する遺構ではない。

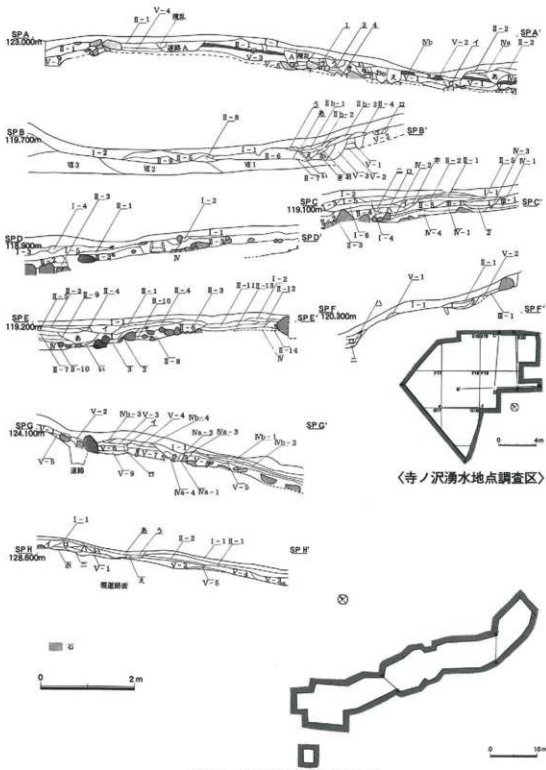
第33号墓(第48図・PL.14-4)：L 9区に位置する。墓塚の長軸138cm、短軸110cm、長軸方位。釘の出土位置から棺の推定規模は87cm×69cm。人骨が検出されなかったので、棺長軸方位から頭位を想定すると北西乃至は東南と推される。副葬品は漆器1点、銅銭17点。漆器は棺想定北西側、銅銭は南東側で出土した。漆器は朱に塗られている。又、棺外と想定されるところからも銭が1枚出土した。

第35号墓(第49図・PL.14-5～7)：J 10区に位置する。墓塚の長軸154cm、短軸146cm。釘の出土位置から棺の規模は93cm×58cmと推される。頭蓋骨の一部と歯が残存していたことから、頭位は北西で夷王山方向になる(PL.14-7)。副葬品は漆器1点、銅銭14点。西側に柱穴P 36がある。墓塚内東側にP 37がある。柱礎は長方形であり、柱礎に接するように板状の石が立っていた。柱を支えるために意図的に入れた物と推される。漆器は外面朱塗り、高台部のみ黒塗り。棺中央右寄りの場所で出土した。

第37号墓(第50図・PL.14-8・9)：K 11区に位置する。墓塚の長軸166cm、短軸122cm。人骨が検出されなかったため、棺の長軸方位から頭位を想定すると北乃至は南と推される。釘出土位置から棺の規模は85cm×61cmと推される。副葬品は漆器1点、水晶製と推される数珠玉36点(第41図3～30)。漆器は棺中央右寄りの場所で伏せた状態出土した。漆器は外面朱塗り、高台部のみ黒塗り。数珠玉は漆器付近にあつたと推される。内



第42図 第II地区調査区位置図



第43図 II地区調査区土層堆積図

表44 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(A-A')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量	ゾフト	
II-1	15YR 3/2	茶褐色		Ko-土層プロット状	ゾフト	
III-1	15YR 3/2	茶褐色		自然のり区少量	ゾフト	C少量
IV-a	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体		ゾフト	C少量
IV-b	15YR 4/2	褐色	成土状		ゾフト	C少量
V-1	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	混じり無し	ゾフト	
V-2	15YR 4/2	褐色	ハーローーム主体		ハーブ	C少量
V-3	15YR 2/2	1/3	茶褐色・緑褐色	混じり無し		
V-4	15YR 4/4	褐色	粘質主体		ゾフト	
V-5	15YR 3/2	茶褐色	ゾフトハーーム主体	(中層混じり)		
VI	15YR 4/2	褐色	硬質・ゾフトハーーム主体		ハーブ	C少量
土層-1	1	15YR 3/2	茶褐色		ゾフト	C少量
	2	15YR 2/2	1/3	茶褐色・緑褐色	粘質主体	C少量
	3	15YR 4/2	褐色	硬土状	ローム 混じり有り	C少量
	4	15YR 3/2	茶褐色	ハーローーム主体	Ko-少量	C少量
土層-2	A	15YR 2/2	茶褐色	泥質主体	Har-少量	C少量 C少量
	B	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 中じり有り	
	C	15YR 4/2	褐色	ゾフトハーーム主体	ハーローームプロット状 しまり有り	中中ハーブ
F-1	1	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	ハーーム状	ゾフト
	2	15YR 3/2	茶褐色	泥質主体	Ko-少量	C少量
	3	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量	C少量
土層	A	15YR 3/2	1/3	茶褐色・緑褐色	粘質主体	ゾフト
	B	15YR 3/2	茶褐色	硬土状	ゾフト	C少量 粘土状
ホ	15YR 2/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 火山灰(H-Tm)プロット状	ゾフト	
イ	15YR 1/2	1	茶褐色	ローム 混じり有り	ゾフト	C少量 C少量
ロ	15YR 2/2	茶褐色	粘質主体	Har-少量 Ko-少量	ゾフト	C少量
ハ	15YR 3/2	1/3	茶褐色・緑褐色	Har-少量プロット状 ローム粘質	ゾフト	C少量
ニ	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 ローム混	ゾフト	C少量
ホ	15YR 2/2	1/3	茶褐色・緑褐色	Ko-少量 ローム混	ゾフト	C少量
ヘ	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 ローム混	ゾフト	C少量
ト	15YR 3/2	茶褐色	粘質主体	Ko-少量 ローム混	ゾフト	C少量

表45 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(B-B')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量		
I-2	15YR 4/2	褐色		粘質主体		
III-1	15YR 3/2	茶褐色		火山灰少量		C少量
III-2	15YR 3/2	茶褐色		火山灰(H-Tm)		
III-3	15YR 2/2	1/3	茶褐色・緑褐色	火山灰少量 粘質 赤紋	ゾフト	
III-4	15YR 4/2	褐色		粘質		
III-5	15YR 4/2	褐色	凝縮した粘質と砂粒主体			
III-6	15YR 4/2	褐色	中や強い砂粒主体			
III-7	15YR 2/2	茶褐色	粘質主体	硬質		
III-8	15YR 4/2	褐色	中や強い砂粒主体			
III-9	15YR 3/2	茶褐色	凝縮した粘質主体			
V-1	15YR 4/2	褐色	ゾフトハーーム主体			
V-2	15YR 4/2	褐色		全面粘質土		
V-3	15YR 3/4	1/3	1/3	茶褐色・黄褐色	粘質 赤紋 火山灰少量	ゾフト
V-4	15YR 4/2	褐色		少量粘質土		
VI-1	15YR 4/2	褐色		全面硬質		
VI-2	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-3	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-4	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-5	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-6	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-7	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-8	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-9	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-10	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-11	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-12	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-13	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-14	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-15	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-16	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-17	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-18	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-19	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-20	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-21	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-22	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-23	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-24	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-25	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-26	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-27	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-28	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-29	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-30	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-31	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-32	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-33	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-34	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-35	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-36	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-37	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-38	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-39	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-40	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-41	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-42	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-43	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-44	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-45	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-46	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-47	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-48	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-49	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-50	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-51	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-52	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-53	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-54	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-55	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-56	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-57	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-58	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-59	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-60	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-61	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-62	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-63	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-64	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-65	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-66	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-67	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-68	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-69	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-70	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-71	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-72	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-73	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-74	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-75	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-76	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-77	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-78	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-79	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-80	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-81	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-82	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-83	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-84	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-85	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-86	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-87	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-88	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-89	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-90	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-91	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-92	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-93	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-94	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-95	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-96	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-97	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-98	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-99	15YR 4/2	褐色		粘質		
VI-100	15YR 4/2	褐色		粘質		

表46 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表(C-C')

I-1	15YR 3/2	茶褐色		草部多量		
I-2	15YR 4/2	褐色		粘質主体		
I-3	15YR 3/2	茶褐色		硬質 しまり有り		
I-4	15YR 4/2	褐色		硬質の砂粒主体		
I-5	15YR 3/2	茶褐色		粘質		
I-6	15YR 4/2	褐色		粘質		
I-7	15YR 3/2	茶褐色		粘質		
I-8	15YR 4/2	褐色		粘質		
I-9	15YR 4/4	褐色		硬質の砂粒主体		
I-10	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-11	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-12	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-13	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-14	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-15	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-16	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-17	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-18	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-19	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-20	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-21	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-22	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-23	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-24	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-25	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-26	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-27	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-28	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-29	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-30	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-31	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-32	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-33	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-34	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-35	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-36	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-37	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-38	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-39	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-40	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-41	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-42	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-43	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-44	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-45	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-46	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-47	15YR 3/2	茶褐色		硬質		
I-						

表47 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (D-D')

1-1	7.5YR 3/2	黒褐色	全土層の砂粒主体	草屑多量 腐植	ソフト	炭化物 C少量
1-2	7.5YR 3/2	黒褐色			ソフト	
1-3	7.5YR 4/3	褐色	沢内の結石と赤褐色主体	シルト	ソフト	
1-4	7.5YR 4/3	褐色			ソフト	
1-5	7.5YR 4/3-5/3	褐色			ソフト	
E-1	7.5YR 4/1-4/2	褐色、灰褐色		砂粒と結石 腐植	ソフト	炭化物 C少量
E-2	7.5YR 4/2	灰褐色		腐植	ソフト	
E-3	7.5YR 4/2	灰褐色	沢内の砂粒多量、腐植付		ソフト	
E-4	7.5YR 3/3	暗褐色		腐植	ソフト	
E-5	7.5YR 3/3	暗褐色		腐植	ソフト	

表48 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (E-E')

1-1	7.5YR 3/3	暗褐色	沢内の砂粒主体	草屑多量 腐植	ソフト	炭化物 C少量
1-2	7.5YR 4/3	褐色			ソフト	
E-1	7.5YR 4/3	褐色	やや赤い赤褐色主体	しまり有り	ハード	
E-2	7.5YR 4/3	褐色	沢内砂粒主体		ややソフト	
E-3	7.5YR 4/3	褐色	砂粒主体	赤腐植	ソフト	
E-4	7.5YR 4/2	褐色	赤褐色主体	赤腐植少量	ソフト	炭化物 C少量
E-5	7.5YR 4/2	褐色	暗褐色主体	赤腐植、7.5YR4/2(赤)赤腐植	ハード	
E-6	2.5GY 4/1	暗グレイ系白土			ハード	
E-7	7.5YR 4/3	褐色	やや赤い赤褐色(赤腐)		ソフト	
E-8	7.5YR 4/3	褐色	沢内砂粒主体		ソフト	
E-9	7.5YR 4/2	灰褐色	沢内主体	赤腐植少量	ハード	
E-10	7.5YR 4/2	褐色	赤褐色主体		ハード	
E-11	7.5YR 4/2	褐色	沢内の砂粒主体	腐植した自然土混入	ソフト	炭化物 C少量
E-12	7.5YR 3/3	暗褐色	沢内の砂粒主体	腐植した自然土混入	ソフト	
E-13	7.5YR 3/3	暗褐色	沢内結石主体	腐植した自然土混入	ソフト	
E-14	2.5GY 4/1	暗グレイ系白土	赤褐色主体	しまり有り	ソフト	
E-15	7.5YR 4/2-4/3	灰褐色、褐色	灰褐色主体		ソフト	
F	7.5YR 4/2	褐色	沢内の結石主体	赤褐色主体	ソフト	炭化物 C少量
G	7.5YR 4/2	褐色	沢内の結石主体	赤褐色主体	ソフト	
H	7.5YR 4/2	褐色	沢内の砂粒主体	赤腐 腐植	ハード	
I	7.5YR 4/2	灰褐色	赤褐色主体	(砂質)	ハード	
J	7.5YR 4/3	褐色	沢内結石主体	(砂質)	ソフト	
K	7.5YR 3/3	暗褐色	暗褐色	(砂質)	ソフト	

表49 第Ⅰ・Ⅱ地区寺ノ沢土層観察表 (F-F')

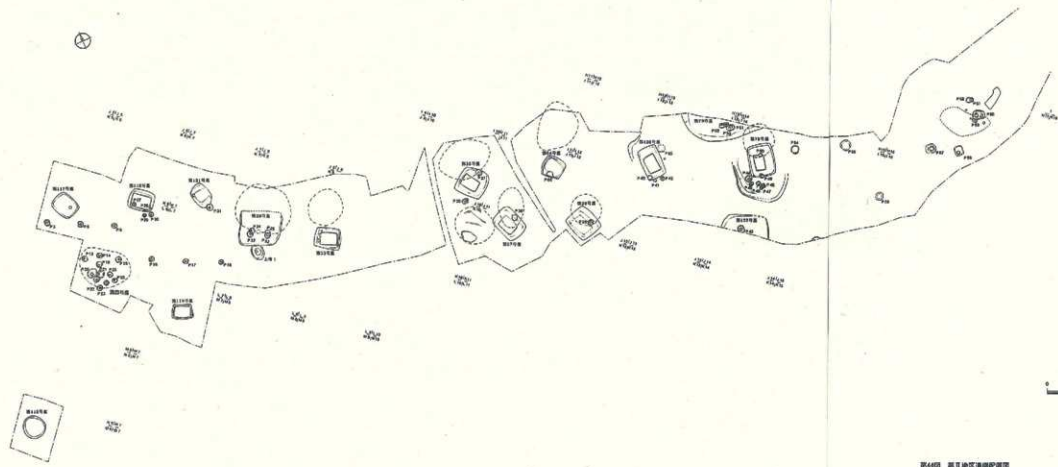
1-1	7.5YR 3/3	暗褐色	沢内主体	草屑多量	ソフト	炭化物 C少量
E-1	7.5YR 3/4	にがい褐色	中細灰土混		ソフト	
E-2	7.5YR 3/4	暗褐色	腐植 砂土混	腐植、砂土混	ソフト	
V-1	7.5YR 4/3	褐色	腐植主体	腐植 シルト	ソフト	
V-2	7.5YR 4/3	褐色	腐植主体	腐植 シルト	ややハード	
I	7.5YR 3/2	暗褐色	腐植主体	腐植多量 腐質	ソフト	炭化物 C少量
II	7.5YR 4/4 3/3	暗、暗褐色	腐植主体	火山灰多量 腐植	ソフト	
III	7.5YR 3/3	暗褐色	腐植主体	火山灰少量	ソフト	
IV	7.5YR 2/2	黒褐色	腐植主体		ソフト	
1	7.5YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐植 火山灰少量	ソフト	
2	7.5YR 4/3	褐色	腐植主体	腐植 火山灰やや多	ソフト	

表50 第Ⅱ地区調査区土層観察表 (G-G')

1-1	10YR 3/3	灰褐色	腐植主体		ややソフト	炭化物 C少量
IIa-1	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体		ソフト	
IIa-2	10YR 4/3	にがい黄褐色	黄褐色主体		ソフト	
IIa-3	10YR 4/3	暗褐色	腐植主体		ソフト	
IIa-4	10YR 4/2	にがい黄褐色	黄褐色主体		ソフト	
IIIa-1	10YR 2/1	黒色	腐植主体	B-7aC少量	ややソフト	炭化物 C少量
IIIa-2	10YR 4/4	褐色	腐、火山灰主体	腐 (B-7a)	ややハード	
IIIa-3	10YR 2/2	暗褐色	腐植主体	B-7aCプロット少量	ややソフト	
IIIa-4	10YR 2/2	暗褐色	腐植主体	B-7aCプロット少量 腐	ソフト	
V-1	10YR 4/2	灰褐色	腐植主体		ソフト	
V-2	10YR 4/2	にがい黄褐色	黄褐色主体		ややソフト	
V-3	10YR 3/2	暗褐色	腐植主体		ややソフト	
V-4	10YR 3/2	暗褐色	腐植主体		ややハード	
V-5	10YR 4/2 4/3	灰褐色、にがい黄褐色	腐植主体	腐植、赤褐色主体	ややソフト	
V-6	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体		ややソフト	
V-7	10YR 4/2	にがい黄褐色	黄褐色主体		ややソフト	
V-8	10YR 3/2	暗褐色	腐植主体		ソフト	
V-9	10YR 4/2	にがい黄褐色	黄褐色主体		ややソフト	
I	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体		ややソフト	炭化物 C少量
II	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体		ソフト	

表51 第Ⅱ地区調査区土層観察表 (H-H')

1-1	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体		ややソフト	炭化物 C少量
II-1	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐 K ₂ O混	ややソフト	
II-2	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐 K ₂ O混	ややソフト	
V-1	10YR 3/4	暗褐色	腐植主体	腐腐植	ややソフト	
V-2	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐腐植 腐植腐植	ややソフト	
V-3	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐 火山灰(K ₂ O少) 腐腐	ややソフト	炭化物 C少量
V-4	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐腐植 火山灰(K ₂ O少) 腐腐	ややソフト	
V-5	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐腐植	ややソフト	
現代遺跡 a	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐 K ₂ O混	ややハード	
b	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐 K ₂ O混	ややハード	
c	10YR 3/4	暗褐色	腐植主体	腐	ややハード	
築地基	10YR 2/3	黒褐色	腐植主体	ロームプロット(40%) 腐	ややハード	
II	10YR 2/2	暗褐色	腐植主体		ややソフト	
III	10YR 2/2	暗褐色	腐植主体	腐腐腐	ややソフト	
IV	10YR 3/3	暗褐色	腐植主体	腐腐腐	ややソフト	
V	10YR 3/4	暗褐色	腐植主体	腐腐腐	ややソフト	



RND BINCREE



3	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
4	10YR	2/3	黒褐色土主体	褐色火山灰 (B-Tm) 少量	ソフト
5	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
6	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
7	10YR	2/1	黒色土主体	褐色火山灰 (B-Tm) 少量	ソフト
8	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
9	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ロームブロック少量
10	10YR	2/2	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
11	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
12	10YR	2/1	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
13	10YR	2/3	黒褐色土主体	褐色火山灰 (B-Tm) ブロック少量	ソフト
14	10YR	2/3	黒褐色土主体		ソフト
15	10YR	2/3	黒褐色土主体	褐色火山灰 (B-Tm) ブロック少量	ソフト
16	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
17	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
18	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	ソフト
19	10YR	2/1	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
20	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ハード
21	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック少量	ハード
22					
23	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック	ソフト
地層区分					
○	10YR	2/3	黒褐色土主体		ソフト
△	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック60%	中硬ハード
△	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック60%	中硬ハード
●					
●	10YR	4/3	黒褐色土主体		中硬ハード

表57 第Ⅱ地区第35号墓土層観察表 (A-A')

層番号	1	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック	硬
2	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック	白色火山灰 (Ka-d) 多い	中硬
3	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック		ソフト
4	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム少量	褐色火山灰	3より粗重
5	10YR	4/3	にんい黄褐色土主体	ローム少量		ソフト
6	10YR	4/3	にんい黄褐色土主体	ローム少量		ソフト
7	10YR	4/4	褐色土主体	ローム少量		粗重
8	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒	白色火山灰 (Ka-d) 少量	
地層区分						
○	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒	粗粒少量	ソフト
○	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒	ロームブロック少量	ソフト
△	10YR	2/3	黒褐色土主体	粗粒少量		ソフト
△	10YR	2/3	黒褐色土主体	褐色火山灰 (B-Tm) 少量		ソフト
●	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒	ロームブロック 粗粒少量	ソフト 粗
●	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒少量		
●	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒	ロームブロック少量	ソフト
●	10YR	2/4	黒褐色土主体	ローム粒	ロームブロック	粗重
●	10YR	4/3	にんい黄褐色土主体	ローム粒少量		粗重
●	10YR	4/3	にんい黄褐色土主体	ローム粒少量	白色火山灰 (Ka-d) 少量	粗重

表58 第Ⅱ地区第35号墓土層観察表 (B-B')

I-1	10YR	2/3	黒褐色土主体			
I-2	10YR	2/3	黒褐色土主体			
II-1	10YR	2/4	褐色土主体	白色火山灰 (Ka-d) 10%		
II-2	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粒 多い		
ヤマトI						
1	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粒少量	ソフト	
2	10YR	2/3	褐色土主体	粗粒少量		
3	10YR	2/2	黒褐色土主体	粗粒少量	ローム粒少量	
4	10YR	2/2	黒褐色土主体	粗粒少量	ローム粒少量	
5	10YR	2/3	黒褐色土主体	粗粒少量	ローム粒少量	
6	10YR	2/3	黒褐色土主体	ロームブロック		
7	10YR	2/2	黒褐色土主体	粗粒	ローム粒 黒粒少量 白色火山灰 (Ka-d) 少量	
8	10YR	2/2	黒褐色土主体			
9	10YR	2/4	褐色土主体	ローム粒		
10	10YR	2/2	黒褐色土主体		ややソフト	
11	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒 粗粒	やや硬	
12	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック少量 粗粒	粗重 ソフト	
13	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒少量	ソフト 粗	
14	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック少量 粗粒少量	粗重	
15	10YR	2/4	褐色土主体	ロームブロック	ややハード	
16	10YR	2/4	褐色土主体	ロームブロック	ハードほど粗重	

表59 第Ⅱ地区第37号墓土層観察表 (A-A')

I-1	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粗重	粗粒少量	
V-1	10YR	4/4	ソフトローム主体			
V-2	10YR	4/4	ローム主体	黒色土盛り		硬
ヤマトI						
1	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粒少量		粗重
2	10YR	2/2	褐色土主体	ローム粒少量		ソフト
3	10YR	2/2	褐色土主体	ローム粗重		ソフト
4	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒少量	白色火山灰 (Ka-d) 粗重	
5	10YR	4/4	ローム主体	粗粒	黒粒 粗重	
6	10YR	4/4	褐色土主体	ローム粒	粗粒	ロームブロック
7	10YR	2/3	黒褐色土主体			硬
8	10YR	2/3	黒褐色土主体			ややザラしい
9	10YR	2/2	褐色土主体			
10	10YR	2/1	褐色土主体	ローム粒少量		
11	10YR	2/3	褐色土主体	粗粒	ローム粒	
12	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粗重		
13	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粗重		
14	10YR	4/4	ローム主体	粗粒	ロームブロック少量	
15	10YR	2/3	黒褐色土主体	ローム粒	粗粒	ややソフト
16	10YR	2/2	褐色土主体	ローム粒	褐色火山灰 (B-Tm) 少量	
17	10YR	4/4	褐色土主体	褐色土盛り		硬
18	10YR	2/1	褐色土主体			ソフト
19	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粒少量	粗粒少量	ソフト
20	10YR	2/3	褐色土主体			ソフト
21	10YR	2/3	褐色土主体	ローム粒	粗粒	粗重
層番号						
41	10YR	4/4	褐色土主体	粗粒少量	ロームブロック 黒粒粗	ソフト 粗

ハ	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ロームブロック多量	やや粘性
ニ	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ロームブロック多量 礫粒	粘質
ホ	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量	ハード
ヘ	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫	ハード
ト	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫 礫多量	ソフト 粘
チ	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫 礫多量	ソフト 粘
リ	3FYR	3/4	暗褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫 礫	粘質
ル	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫	粘質
レ	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫	粘質
ロ	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒少量 ロームブロック 多量礫	ソフト 粘
預定観測A	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ロームブロック ローム粒 礫粒	ソフト 粘
B	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ローム粒少量 礫粒少量	ソフト
C	3FYR	1/3	赤褐色土主層	ローム粒少量	ソフト
D	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒少量	やや粘性
E	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
F	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
G	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
H	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
I	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
J	3FYR	4/4	褐色土主層	ローム粒多量	ソフト
K	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒多量	粘質
L	3FYR	4/4 4/4	褐色土主層	ローム粒多量	ソフト
M	3FYR	2/2 2/2	赤褐色土主層	ローム粒多量	ソフト
B-1	3FYR	4/4	赤褐色土主層	ローム粒 白色大礫 (Ka-d) ブロック	ややソフト
B-2	3FYR	2/4	赤褐色土主層	ローム粒少量 白色大礫 (Ka-d) 少量	ソフト
イ	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒少量	ソフト
ロ	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ロームブロック 礫粒少量	粘質
ハ	3FYR	1/4	赤褐色土主層	礫粒 ローム粒	ハード
ニ	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒	ソフト
ホ	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒 礫粒少量	やや粘
ヘ	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒 礫粒少量	やや粘

表60 第II地区第37号墓土層観察表 (B-B')

1-1	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒少量 礫粒少量	
B-1	3FYR	4/4	褐色土主層	礫粒中多量 ローム粒 礫	
B-2	3FYR	2/4	暗褐色土主層	礫粒 ローム粒	1よりソフト
マダナフ1	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒 礫粒 白色大礫 (Ka-d) 少量	ややハード
2	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒少量 白色大礫 (Ka-d) 少量	
3	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒少量	粘質
4	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ローム粒少量 白色大礫 (Ka-d) 礫量	ソフト
5	3FYR	2/4	暗褐色土主層	ローム粒少量 ロームブロック	1よりハード
6	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒少量	やや粘
7	3FYR	4/4	褐色土主層	ローム粒 礫粒 ロームブロック	粘
8	3FYR	4/4	赤褐色土主層	ローム粒 礫粒少量	
9	3FYR	2/4	暗褐色土主層	ロームブロック多量	
10	3FYR	4/4 4/4	ローム主層	礫粒 ロームブロック多量	
11	3FYR	2/4	暗褐色土主層	ローム粒多量 礫粒少量	
12	3FYR	2/4	褐色土主層	ローム粒少量	
13	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒 礫粒	
A	3FYR	4/4	ハードローム主層	礫粒 礫量	ハード
B	3FYR	2/4	暗褐色土主層	礫粒 ローム粒	ややハード
C	3FYR	2/4	暗褐色土主層	礫粒 ローム粒	粘質 ハード

表61 第II地区第39号墓土層観察表

1-1	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ローム粒少量 礫粒少量	
1-2	3FYR	2/3	ローム主層	礫粒 ローム粒	
マダナフ1	3FYR	2/3	赤褐色土主層	礫粒少量 ローム粒少量 白色大礫少量	
2	3FYR	2/3	暗褐色土主層	礫粒少量 ローム粒	やや粘性
3	3FYR	2/3	赤褐色土主層	礫粒少量 3FYR5/4(赤褐色土主層)ロームやや多い	
4	3FYR	2/3	暗褐色土主層	礫粒少量 ローム粒少量	
5	3FYR	2/3	暗褐色土主層	礫粒 ローム粒 4よりローム粒多い	
6	3FYR	2/2	赤褐色土主層	ローム粒少量 褐色土主層 (B-7m) 少量	ソフト
7	3FYR	4/6	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)混入	粘質
8	3FYR	4/4	褐色土主層	ロームブロック多量 1よりロームブロック少ない	C少量
9	3FYR	4/4 4/4	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)混入	ややソフト
10	3FYR	2/3	暗褐色土主層	礫粒少量 ローム粒少量	C少量
11	3FYR	4/4 4/4	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)混入	
12	3FYR	2/4	暗褐色土主層	礫粒 ローム粒 ロームブロック多い	ハード 粘質
13	3FYR	4/4	ローム主層	白色大礫 (Ka-d) 少量	
14	3FYR	2/4	ローム主層	ロームブロック多量	1よりソフト
15	3FYR	4/4	ローム主層	礫粒少量	粘質
16	3FYR	4/6	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)混入	
17	3FYR	4/6	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)混入	
18	3FYR	4/4	ローム主層	3FYR2/3(暗褐色土主層)少量 礫粒少量	粘質

表62 第II地区第54号墓土層観察表

1-1	3FYR	2/3	赤褐色土主層		ややソフト
1-2	3FYR	2/3	赤褐色土主層		ややソフト
B-1	3FYR	2/3	赤褐色土主層	白色大礫 (Ka-d) 礫量	ソフト
V-1	3FYR	2/3	暗褐色土主層	ローム粒少量	粘
V-2	3FYR	2/4	暗褐色土主層	ローム粒少量	ソフト
マダナフ1	3FYR	2/3	赤褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 礫量	ソフト
2	3FYR	2/3	赤褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 少量	ややソフト
3	3FYR	2/3	赤褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 礫量	ソフト
4	3FYR	2/3	赤褐色土主層	ロームブロック少量	ソフト
5	3FYR	2/3	褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 少量	ソフト
6	3FYR	2/4	暗褐色土主層	ローム粒少量 礫粒少量	ソフト
7	3FYR	2/2	赤褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 少量	ソフト
8	3FYR	2/3	暗褐色土主層	褐色土主層 (B-7m) 少量	ソフト
イ	3FYR	4/6	褐色土主層	ロームブロック少量	V層内埋没
ロ	3FYR	4/6	褐色土主層	ロームブロック少量	ソフト
ハ	3FYR	2/4	褐色土主層	ロームブロック少量	ソフト
ニ	3FYR	4/6	褐色土主層		V層内埋没
ホ	3FYR	4/4	褐色土主層	ロームブロック	ややソフト
ヘ	3FYR	4/6	褐色土主層	ロームブロック	ソフト
ト	3FYR	4/4	褐色土主層	ロームブロック	V層内埋没
マダナフ	3FYR	4/6	褐色土主層		ソフト
イ					

表63 第II地区第78号基土層観察表 (A-A')

層	層厚	土質	観察土土体	備考	判定
第-1	0YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 腐植少量	ロームアロック	やや粘性 数層
第-2	0YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 腐植少量	ロームアロック	やや粘性 数層
第-3	0YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 腐植少量	ロームアロック	やや粘性 数層
マウンド	1	10YR 3/3	暗褐色土土体	白色火砕灰 (Ks-d) 80% 腐植	ややソフト
	2	10YR 3/4	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 腐植	ややハード
	3	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 腐植	ややソフト
	4	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 腐植	ややソフト
	5	10YR 2/2	黒褐色土土体	腐植 0.5% (B-Tn) 少量	ややハード
	6	10YR 2/2	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	粘質
	7	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック	ハード
	8	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック80%	ソフト
	9	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	よりハード
	10	10YR 2/2	暗褐色土土体	腐植少量 ローム粒少量 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	やや硬
	11	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック少量 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト
	12	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック50% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト
	13	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ややハード
	14	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック50% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト
	15	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック50%	ややハード
	16	10YR 3/4	暗褐色土土体	ロームアロック少量 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト
	17	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 ロームアロック少量	ややソフト
	18	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック50%	ソフト
	19	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒 白色火砕灰 (Ks-d) やや多量	ハード
	20	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒	
	21	10YR 3/2	暗褐色土土体	褐色土土体 (B-Tn) 多量	
	22	10YR 3/2	暗褐色土土体	白色火砕灰 (Ks-d) 腐植	ソフト
	23	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植10%	粘質
	24	10YR 3/2	ロームアロック主体	ロームアロック50%	ややソフト
	25	10YR 3/2	暗褐色土土体	ロームアロック50%	ソフト
	26	10YR 4/3	ハードローム土体		ソフト
	27	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック	ソフト
第A	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック50% 褐色土土体 (BYB2/1) 5%	ややソフト	
B	10YR 2/1	褐色土土体	ロームアロック15%	ソフト	
C	10YR 4/2	ロームアロック主体	ロームアロック50%	ややハード	
D	10YR 3/2	暗褐色土土体	ロームアロック50%	ややソフト	
E	10YR 2/1	褐色土土体	褐色土土体 (B-Tn) アロック10%	ソフト	
F	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック5% 褐色土土体 (10YB2/1) 30%	ややソフト	
G	10YR 4/4	褐色土土体	褐色土土体 (10YB2/1) 10% 10YB2/3暗褐色土土体10%	ややハード	
観察区	1	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ソフト
	2	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック少量	ややソフト
	3	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒 腐植少量	ソフト
	4	10YR 3/1	褐色土土体 (B-Tn) 少量	ロームアロック少量	ややハード
	5	10YR 3/4	暗褐色土土体	ロームアロック少量	ソフト
	6	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 ロームアロック 褐色土土体 (B-Tn)	ハード
	7	10YR 3/4	褐色土土体	ロームアロック少量	ソフト
	8	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 腐植少量	ソフト
	9	10YR 3/4	褐色土土体	ロームアロック少量	ソフト
	10	10YR 2/1	褐色土土体	褐色土土体 (B-Tn) 少量	やや硬
11	10YR 3/1	褐色土土体	ローム粒少量 褐色土土体 (B-Tn)	ソフト	
12	10YR 2/2	暗褐色土土体	褐色土土体 (B-Tn) 少量	やや硬	
13	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 褐色土土体 (B-Tn)	ソフト	
14	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ソフト	

表64 第II地区第78号基土層観察表 (B-B')

層	層厚	土質	観察土土体	備考	判定	
第-1	10YR 3/4	暗褐色土土体	ロームアロック 白色火砕灰 (Ks-d)		ややハード	
第-2	10YR 3/4	暗褐色土土体	ロームアロック 腐植 白色火砕灰 (Ks-d)		ハード	
第-3	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 白色火砕灰 (Ks-d)		ややソフト	
マウンド	1	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒 ロームアロック 白色火砕灰 (Ks-d)	ややソフト	
	2	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植少量 ローム粒少量 白色火砕灰 (Ks-d) 腐植	ややソフト	
	3	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト	
	4	10YR 3/2	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト	
	5	10YR 3/4	暗褐色土土体	ローム粒少量	ややソフト	
	6	10YR 3/4	暗褐色土土体	ローム粒少量 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト	
	7	10YR 3/2	暗褐色土土体	ロームアロック50% 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ハード	
	8	10YR 3/4	暗褐色土土体	腐植 0.5% 白色火砕灰 (Ks-d)	ややハード	
	9	10YR 3/4	暗褐色土土体	ローム粒 白色火砕灰 (Ks-d)	ややハード	
	10	10YR 3/4	暗褐色土土体	ロームアロック	ハード	
	11	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 ロームアロック少量	ややソフト	
	12	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒や中量 白色火砕灰 (Ks-d) 少量	ややソフト	
	13	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ややソフト	
	14	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 腐植少量	ややソフト	
	15	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ややソフト	
	16	10YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒少量	ソフト	
	17	10YR 4/4	褐色土土体	ロームアロック50%	ハード	
	18	10YR 2/2	暗褐色土土体	ロームアロック50%	ややソフト	
	19					
	20	10YR 3/4	ロームアロック主体	ロームアロック70%	ハード	
	21	10YR 3/2	暗褐色土土体	ローム粒少量 白色火砕灰 (Ks-d)	ソフト	
	22	10YR 3/1	褐色土土体	ローム粒少量 褐色土土体 (B-Tn) 少量	ソフト	

表65 第II地区第115号基土層観察表

層	層厚	土質	観察土土体	備考	判定
第-1	7.5YR 2/1	暗褐色土土体	白色火砕灰 (Ks-d) 2%		ソフト
第-2	7.5YR 2/1	暗褐色土土体	7.5YR2/1暗褐色土土体 (B-Tn) 腐植		ソフト
ロ	10YR 2/1	褐色土土体			ソフト
ハ	7.5YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒		ソフト
ニ	7.5YR 1/1	褐色土土体	ローム粒		ソフト
ヘ	7.5YR 1.5/1	褐色土土体			ソフト
ト	7.5YR 2/2	暗褐色土土体	ローム粒		ソフト
チ	7.5YR 1.5/1	褐色土土体			ソフト
リ	7.5YR 2/1	褐色土土体	ローム粒		ソフト
ヌ	10YR 4/2	褐色土土体	ソフトローム		ソフト

表66 第Ⅱ地区第117号墓土層観察表

層	深さ	土層	白色土層(No.4) 主層	白色土層(No.4) 副層	ハード、裏
Ep-1			ソフトローム		
Ep-2			ソフトローム		
ロ	7.5YR 3/3	暗褐色土主体	白色土層(No.4) プロット少量		ややソフト C少量 黄土粒少量
ハ	7.5YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト C少量 黄土粒少量
ロ	7.5YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト Cやや多量 黄土粒
ロ	7.5YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト Cやや多量 黄土粒中程度
ハ	7.5YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト
ホ		黄土主体			
ト		黄土主体			
チ		黄土主体			
リ	5YR 4/6	黄土主体	炭 微多		ハード
レ	5YR 4/6	黄土主体	炭 微多		ソフト
ル	5YR 4/6	黄土主体	炭 微多		ソフト
ロ					
サ	10YR 2/3	黄褐色土主体			ソフト
シ	5YR 4/6	黄土主体			ソフト
ソ	10YR 4/4	褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
タ	10YR 4/4	褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト

表67 第Ⅱ地区第118号墓土層観察表

層	深さ	土層	白色土層(No.4) 10%		
Ep-1	10YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト
Ep-2	10YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト
Ep-3	10YR 4/4	ハードローム			ややソフト
Ep-4	10YR 4/4	ハードローム			ハード
ヤラド1	10YR 3/2	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
1	10YR 3/2	黄褐色土主体			ソフト
2	10YR 2/3	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
3	10YR 2/3	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
4	10YR 4/3	黄褐色土主体	ロームプロット多量		ややハード
5	10YR 3/1 2/1	黒 暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
6	10YR 3/2	黄褐色土主体	ロームプロット多量		ソフト
7	10YR 3/2 4/3	暗褐色土 黄褐色土主	ロームプロット多量 ローム粒		ややソフト
8	10YR 2/3	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
9	10YR 2/2	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) 少量		ソフト
10	10YR 3/4	暗褐色土主体			ソフト
11	10YR 2/3	黄褐色土主体	ローム粒少量		ソフト
12	10YR 4/4	褐色土主体	V層(ソフト)ローム)の高程度		ソフト
13	10YR 3/3	暗褐色土主体	ローム粒		ソフト
14	10YR 3/3	暗褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
15	10YR 3/3	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) 少量 石灰質(黒色土) プロット少量		ソフト
16	10YR 2/1 2/1	黒 暗褐色土主体			ソフト
17	10YR 2/3	黄褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
18	10YR 2/1	褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
19	10YR 2/1	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
20	10YR 3/2	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量 ロームプロット少量		ソフト
21	10YR 3/2	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) 少量		ややソフト
22	10YR 3/2	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量 炭		ソフト
23	10YR 3/3	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
24	10YR 2/2 3/3	黄褐色土主体	ロームプロット少量 ローム粒少量		ソフト
25	10YR 2/3	黄褐色土主体	ロームプロット少量 ローム粒少量		ソフト
26	10YR 3/2	暗褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ややソフト
27	10YR 4/4	褐色土主体	ロームプロット多量 炭微多		ハード
28	10YR 4/2	黄褐色土主体	ロームプロット多量		ハード
29	10YR 4/6	褐色土主体	ロームプロット多量 炭微多		ハード
30					
31					
32	10YR 4/4	褐色土主体	ロームプロット多量		ややソフト
33	10YR 3/2	黄褐色土主体			ソフト
34	10YR 3/1	褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
35	10YR 4/3	黄褐色土主体	ロームプロット		ソフト
36	10YR 4/2	黄褐色土主体	ロームプロット多量		ややソフト

表68 第Ⅱ地区第119号墓土層観察表

層	深さ	土層	白色土層(No.4)		
Ep-1	10YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト
Ep-2	10YR 3/2	暗褐色土主体			ややソフト
1	10YR 3/2	白色土層(No.4) 少量	白色土層(No.4)		ハード、裏
2	10YR 3/2	暗褐色土主体	白色土層(No.4) 微多		ソフト
3	10YR 3/2	暗褐色土主体	炭		ややソフト
4	10YR 3/2	暗褐色土主体	ロームプロット少量		ややソフト
5	10YR 3/2	暗褐色土主体	白色土層(No.4) 微多		ややソフト
6	10YR 3/2	暗褐色土主体	ロームプロット少量	白色土層(No.4) プロット少量	ややソフト
7	10YR 3/2	暗褐色土主体	ロームプロット少量	白色土層(No.4) プロット少量	ソフト
8	10YR 3/4	黄褐色土主体	ローム粒少量		ソフト
9	10YR 4/6	黄土主体	ロームプロット少量 炭		ややソフト
10	10YR 2/2	褐色土主体	褐色土層(No.4) 少量		ハード
11	10YR 4/4	褐色土主体	炭		ソフト
12	10YR 3/4	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ややソフト
13	10YR 3/3	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
14	10YR 3/2	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
15	10YR 3/2	黄褐色土主体	白色土層(No.4) プロット少量		ソフト
16	10YR 3/2	暗褐色土主体	白色土層(No.4) プロット		ソフト
17	10YR 3/2	暗褐色土主体	白色土層(No.4) 少量		ソフト
18	10YR 3/2	暗褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト

表69 第Ⅱ地区第120号墓土層観察表 (A-A')

層	深さ	土層	白色土層(No.4)		
Ep-1			ソフトローム		
Ep-2			ソフトローム		
ヤラド1	10YR 3/1	褐色土主体	褐色土層(No.7m) プロット少量		ソフト
2	10YR 3/2	黄褐色土主体	ローム粒少量 褐色土層(No.7m) 微多		ややソフト
3	10YR 3/2	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
4	10YR 3/2	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ややハード
5	10YR 3/4	暗褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト
6	10YR 2/3	黄褐色土主体	ロームプロット少量		ソフト

7	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量	ヤセソフト
8	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック50%	ヤセハード
9	10YR	2/3	暗褐色土主体		ヤセソフト
10	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
11	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
12	10YR	2/3	黄褐色土主体	褐色山灰 (In-Ts) 微量	ソフト
13					
14					
15	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック50%	ソフト

表70 第II地区第120号墓土層観察表 (B-B')

マウンド1	10YR	2/3	黄褐色土主体	白色山灰 (Ka-d) 少量	ヤセソフト
2	10YR	2/3	黄褐色土主体		ソフト
3	10YR	2/3	赤褐色土主体	褐色山灰 (In-Ts) ブロック微量	ソフト
4	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量	ヤセソフト
5	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量	ヤセソフト
6	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
7					
8	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
9	10YR	2/3	暗褐色土主体		ヤセソフト
10	10YR	4/6	褐色土主体	ロームブロック 石灰黒色土ブロック	ヤセソフト
11	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック	ソフト
12	10YR	2/3	赤褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト
13	10YR	2/3	黄褐色土主体		ソフト
14	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック50%	ヤセソフト
15					
16					

表71 第II地区第121号墓土層観察表 (A-A')

マウンド1	10YR	2/3	黄褐色土主体	褐色山灰 (In-Ts) 少量	ソフト	
2	10YR	2/3	黄褐色土主体		ソフト	
3	10YR	2/3	黄褐色土主体	ローム粒少量	ハード	
4	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック少量	ヤセソフト	
5	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ヤセハード	
6	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック多量	ソフト	
7	10YR	2/4	暗褐色土主体	ロームブロックやや多量	ハード	
8	10YR	2/3	暗褐色土主体	ローム粒やや多量	ヤセソフト	
掘方 a	10YR	2/2	1/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ヤセソフト
b	10YR	4/2	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック	ヤセハード
c	10YR	2/3	2/3	暗褐色土主体	ローム粒微量	ソフト
d	10YR	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック多量	ソフト	
e	10YR	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック多量	ヤセハード	
f	10YR	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック多量	ソフト	
g	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック多量	ハード	
h	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック ローム粒	ヤセハード	
i	10YR	2/2	黄褐色土主体	ロームブロック	ハード	
j	10YR	2/2	黄褐色土主体		ハード	
k	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロックやや多量	ヤセソフト	
l	10YR	2/3	暗褐色土主体	ローム粒少量	ソフト	
m	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト	
n	10YR	2/4	暗褐色土主体	ロームブロック少量	ソフト	
o	10YR	4/4	褐色土主体	ロームブロック少量 ローム粒	ソフト	
p					C微量	
q	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロックやや多量	ソフト	
掘方掘り	10YR	2/2	黄褐色土主体		ヤセソフト	
r	10YR	2/2	黄褐色土主体	ローム粒やや多量	ソフト	
s	10YR	2/2	黄褐色土主体	ローム粒少量	ソフト	
t	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロックやや多量	ヤセソフト	
u	10YR	2/3	暗褐色土主体		ハード	

表72 第II地区第121号墓土層観察表 (B-B')

1-1	10YR	2/3	暗褐色土主体	高鉄粒多量	ヤセソフト
マウンド1	10YR	4/3	黄褐色土主体	高鉄粒やや多量	ハード
2	10YR	2/3	暗褐色土主体	高鉄粒やや多量	ヤセハード
3	10YR	2/3	暗褐色土主体		ヤセソフト
4	10YR	2/3	暗褐色土主体		ヤセソフト
5	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック少量	ヤセソフト
6	10YR	2/3	暗褐色土主体		ヤセソフト
7	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック微量	ヤセソフト
8	10YR	4/3	黄褐色土主体		ヤセソフト
9	10YR	2/2	黄褐色土主体	ロームブロック	ヤセソフト
10	10YR	2/2	黄褐色土主体	ロームブロック微量	ソフト
11	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロックやや多量 高鉄粒微量	ヤセソフト
12	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック微量	ソフト
13					

表73 第II地区第121号墓土層観察表 (C-C')

1-1	10YR	2/3	暗褐色土主体	高鉄粒微量	ヤセソフト
1-1	10YR	2/3	黄褐色土主体		ソフト
1-1	10YR	2/3	黄褐色土主体	白色山灰 (Ka-d) 50%	ソフト
マウンド1	10YR	2/2	黄褐色土主体		ソフト
2	10YR	4/3	黄褐色土主体	高鉄粒やや多量	ハード
3	10YR	2/3	黄褐色土主体	高鉄粒やや多量	ヤセソフト
4	10YR	2/3	暗褐色土主体	高鉄粒やや多量	ヤセハード
5	10YR	2/3	暗褐色土主体	ロームブロック	ヤセソフト
6	10YR	2/2	黄褐色土主体		ソフト
7	10YR	2/2	黄褐色土主体	ロームブロック微量	ソフト
8	10YR	4/3	黄褐色土主体	ロームブロック多量	ソフト
9	10YR	2/3	黄褐色土主体	ロームブロック微量	ヤセソフト

二つは、孔がT字状にあげられたものである。墳丘東側縁周辺に礫があり、葺き石かとも考えられたが、下層のソフトローム（V層）に礫が混じる箇所があり、このソフトロームを墳丘の盛土に使っているため、意識的に並べた可能性は低いと推される。頭位は第35号墓同様北西で夷王山の方角にあたる（PL.14-7）。墓室内東側にはP38がある。

火葬骨：南東側墳丘中より焼骨を検出した（第50図右上・PL.14-9）。墳丘調査中、予期せぬ状態で出土した。掘りこみを確認するため、慎重に精査を行ったが、遂に確認することは出来なかった。出土した焼骨は小片の塊であり、部位の特定は出来なかった。

第23号墓のような焼骨の一部を納めた火葬墓が、第37号墓の墳丘中に作られたと推される。

第39号墓（第51図・PL.15-2・3）：J12区に位置する。墓壇の長軸151cm、短軸135cm、長軸方位。釘の出土位置から棺の規模は91cm×78cmと推される。北側で歯、頸椎と推される骨が出土し、また頭蓋骨こそ残ってはいなかったが、頭蓋骨が風化した結果空洞になったと推される土塊の一部を検出し、位置を特定できた。頭位は北と推される。副葬品は漆器1点、銅銭5点。漆器は朱塗りで、塗膜の一部が頭部付近で出土した。鏡は中央と足下と推される南側で出土した。墓室内東側には性格不明の柱穴P39がある。

第54号墓（第52図・PL.15-1）：J11区に位置する。墓壇の長軸120cm、短軸110cm。一面が飛び出たような不正方形を呈する。釘の出土位置から棺の規模は92cm×60cmと推される。副葬品は銅銭17点。後世の道路により南東側の一部を削り取られる。当初は北側にある墳丘と推される高まりの直下に墓壇があると想定し、トレンチを入れ墓壇を位置を探ったが確認できず、その後僅かに現道路直下で発見した。道路により削り取られ、墳丘の南東部を大きく削り取られてしまったと推される。北西側縁の釘の位置を良好な状態で検出することが出来た（PL.3-7）。左右端に上下5段に並ぶ。棺想定地北西部分で歯の一部が出土したことから頭位は北西と推される。墓室内西側にはP66がある。

第78号墓（第53図・PL.15-4～6）：I14区に位置する。墓壇の長軸172cm、短軸136cm。釘の

出土位置から棺の規模は95cm×65cmと推される。歯の出土位置から推定頭位は北。墳丘周囲は白色火山灰に覆われていた。周辺長軸3.5m程の楕円形気味の掘りこみがある。これは西側の斜面を削り墓壇本体周辺を平坦にするために行われたものと推される。副葬品は漆器1、銅銭28点。墓壇は棺の2倍以上の大きさで、棺の位置は墓壇内の西寄りである。棺材の一部と推される木片が残存する。南東側で柱穴を7基検出した。何れの柱痕も方形である。柱痕部覆土に白色火山灰が含まれる。漆器は棺中央の西壁寄り出土。漆器の高台内面は黒塗りで、中央に朱塗で「一」とも読める記号様のものが書かれる。銅銭は棺想定地中央と漆器の側から出土した。

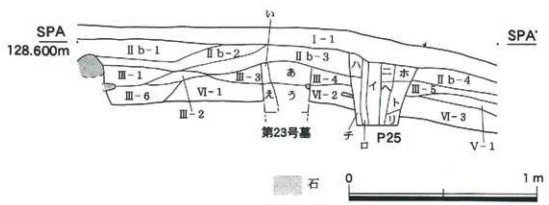
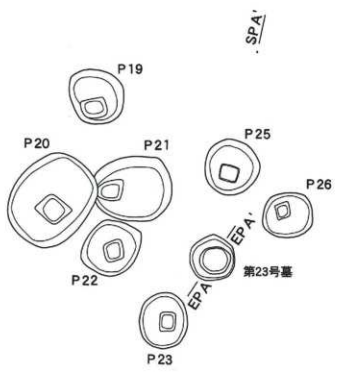
第115号墓（第54図・PL.15-7）：O5・6区に位置する。墓壇の長軸120cm、短軸115cm、深さ22cm。ほぼ円形に近い平面形である。昨年度概要報告書で土壇2と報告した遺構と同一遺構で、今年度残りの東半分を調査した。覆土上部に白色火山灰（Ko-d、1640年降灰）を確認、その下部に高まりが無いことから墳丘が無い墓と推される。覆土に骨片や炭化物が含まれる。銅銭が出土していることから棺に納められたものを火葬・取骨し、埋葬したと推される。他に銅銭が覆土中より出土した。墳丘を持たないこの種の火葬墓は、昨年度の調査で3基確認している。

第117号墓（第54図・PL.15-8・9）：L5区に位置する。昨年度調査で土壇とした遺構の続きである。墓壇深度中程まで白色火山灰（1640年降灰Ko-d）が約20cm堆積する。その下には骨片混じりの焼土が約30cm堆積する。白色火山灰と焼土間には特に間層が確認されなかったため、墳丘は作られなかったと推される。墓壇の長軸136cm、短軸120cm、焼土中には焼骨が多数検出され、火葬したまま、捨骨することなく葬られたと推される。副葬品は銅銭14点。釘が出土したことから、棺に納めて火葬したものと推される。覆土中には焼けた礫が見られた。

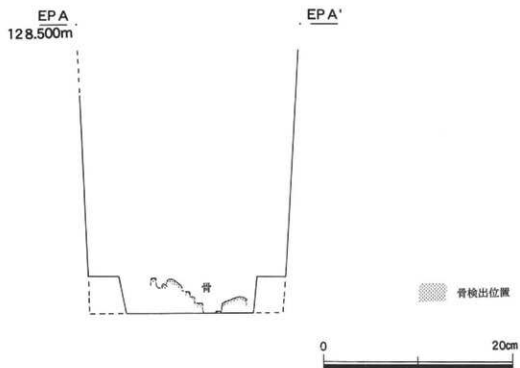
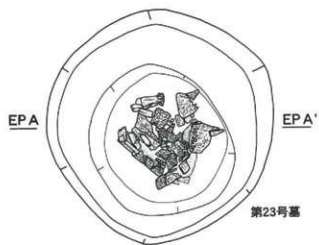
第118号墓（第55図・PL.16-1・2）：K・L6区に位置する。今回の調査で新たに発見した土葬墓である。

第121号墓調査中西側に盛土を発見し、遺構確認のためトレンチを入れたところ、盛土下に掘りこみがあることを確認し、墓と想定した。墓壇の

L5 | L6
M5 | M6



第45图 第II地区第23号墓平面图他



第46图 第II地区第23号墓烧骨出土状况图

長軸132cm、短軸108cm。人骨が検出されなかった
ので、棺の長軸方位から頭位を想定すると北西乃至
東南と推される。釘の出土位置から棺の規模は
90cm×65cmと推される。副葬品は漆器1点、銅銭
11点。漆器は棺想定地内西側、銅銭は同中央から
南東側で出土した。棺想定範囲に墳丘部の土が落
ち込む様子が見え観察できた(PL.12-1)。
その後、周辺を精査し、北側墳丘部の一部の範囲
を検出した。墓域南と北側で柱穴ないしは杭穴と
推される穴を4基検出した。その内P28・29は棺
想定範囲内にある。

第119号墓(第56図・PL.16-3・4) : M7
区に位置する。今回の調査で新たに発見した土葬
墓である。墓域の長軸110cm、短軸78cm、深さ43
cmと浅い。人骨が検出されなかったため、棺の長
軸方位から頭位を想定すると北西乃至は南東と推
される。釘の出土位置から棺の規模85cm×60cmと
推される。副葬品は漆器1点、銅銭3点。上部に
白色火山灰(1640年降灰Ko-d)が約30cm堆積す
る。火山灰下には墳丘の落ち込みと推される土層
が殆ど見られないため、墳丘が埋葬時から無いと
推される。覆土中に礫が13個見られるが、周囲に
も礫の分布が見られ意図的に入れられたものかは
断定出来ない。棺想定地内北東側から漆器、東側
から銅銭が出土した。漆器は内面朱漆が施される。
副葬品の銅銭には繊維が付着しており、袋か着衣
と推される。

第120号墓(第57図・PL.16-5・6) : I13
区に位置する。今回の調査で新たに発見した土葬
墓である。墓域の長軸168cm、短軸108cm。釘の出
土位置から棺の規模93cm×70cmと推される。棺想

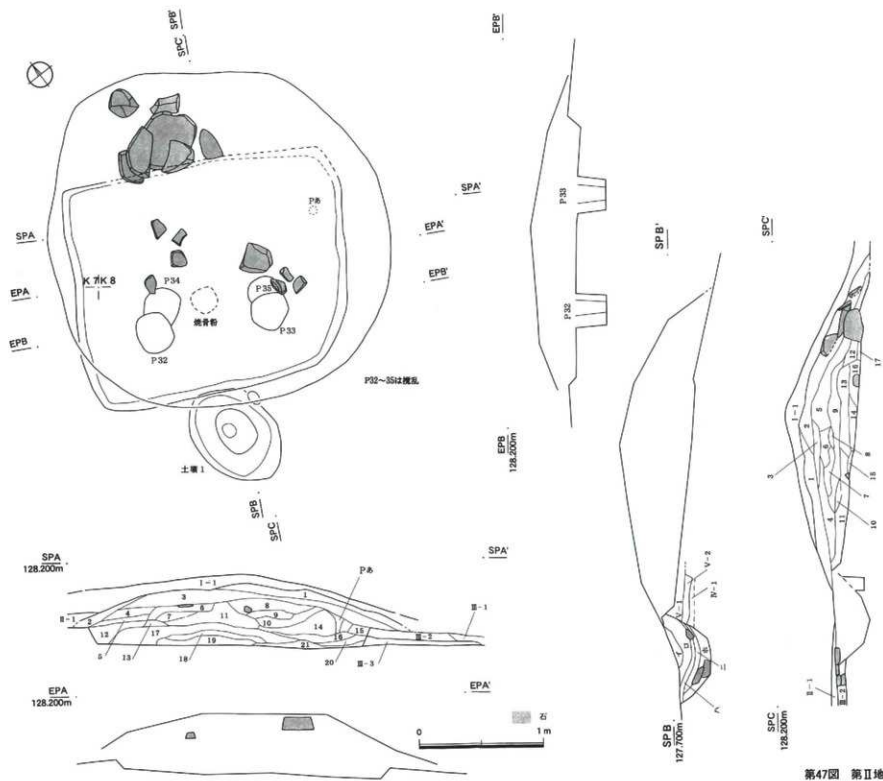
定地北側から頭蓋骨・歯の一部が出土したことか
ら頭位は北と推される。副葬品は漆器1、銅銭16
点。墓域内にP40、南側に柱穴が2基ある。後世
の道により南東側の一部を削り取られる。北西部
側に浅い掘りこみが見られ、78号墓同様、墓周
辺の整地がなされたと推される。漆器は内面朱漆で
ある。銅銭の側には繊維状のものが出土したが、
製品であるかは不明である。漆器は頭部側、銅銭
は頭部側と足下から出土した。

第121号墓(第58図・PL.16-7・8) : K7
区に位置する。今回の調査で新たに発見した土葬
墓である。墓域の長軸130cm、短軸90cm。平面は
やや南側が膨らむ不正長方形を呈する。釘の出土
位置から棺の規模は70cm×60cmと推される。土葬
墓、北部分に歯の一部が出土したことから頭位は
北と推される。南東方向に柱穴(P31)が1基あ
る。副葬品は漆器1点、銅銭3点。棺中央付近で
漆器、その周辺で銅銭が出土した。漆器は外面朱
塗りである。

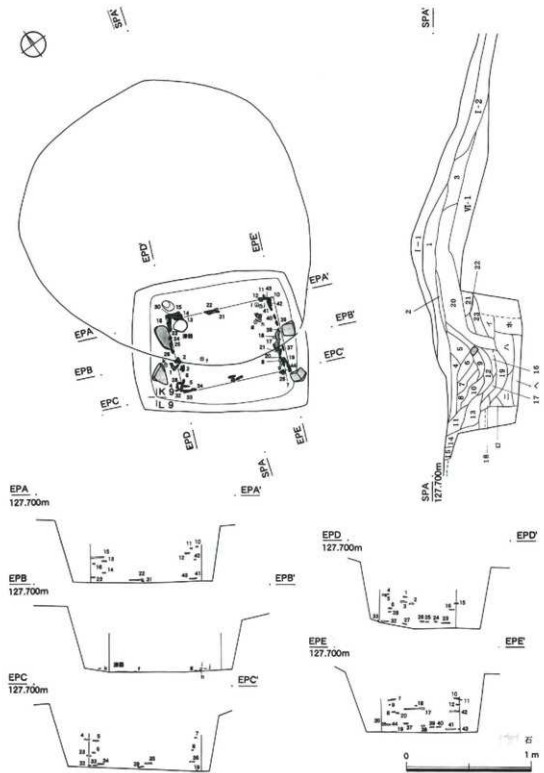
第79号墓(第44図) : I13区に位置する。掘り
こみの一部を検出した。第78・120号墓同様と推
される。柱穴基を検出した。柱痕は長方形と正方
形がある。柱痕覆土中には白色火山灰が含まれて
おり、柱存在時は1640年以前と推される。

第122号墓(第44図) : J14区に位置する。今
回の調査で新たに発見した墓である。78号墓調査
中南側に柱穴(P43)と、掘りこみを検出した。
落ち込み覆土中には白色火山灰(1640年降灰Ko-
d)が混じることから、年代も周辺の墓と同様、
勝山館期と推される。120・121号墓同様に斜面を
掘りこみ、周囲を整地した墓と推測される。

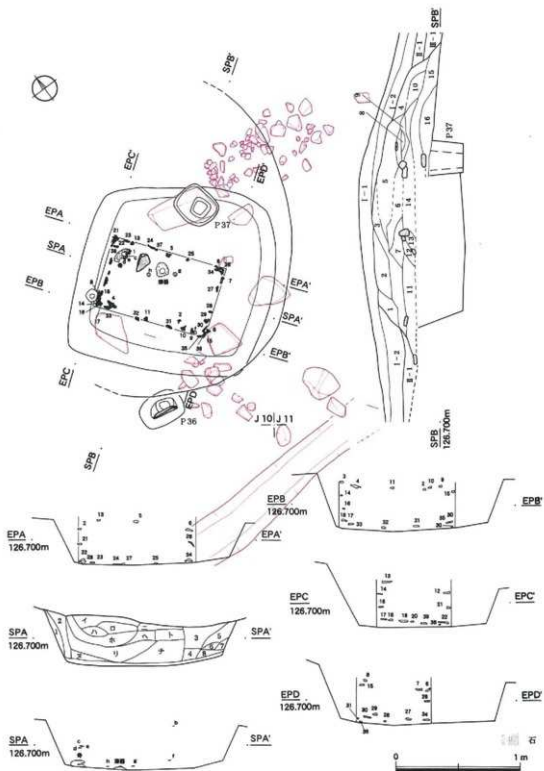
(松田)



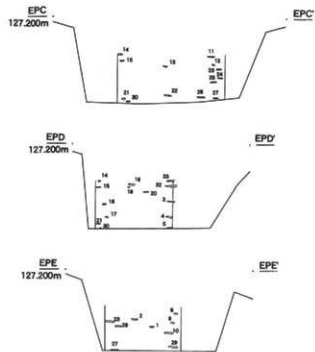
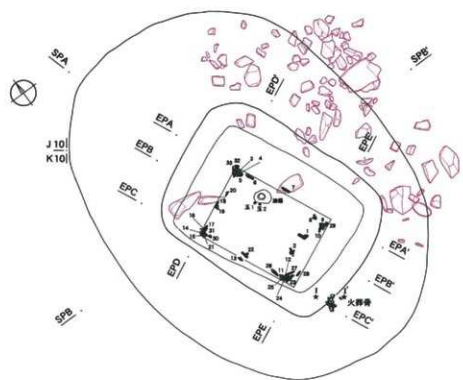
第47图 第II地区第30号墓平面图他



第48图 第II地区第33号基平面图他



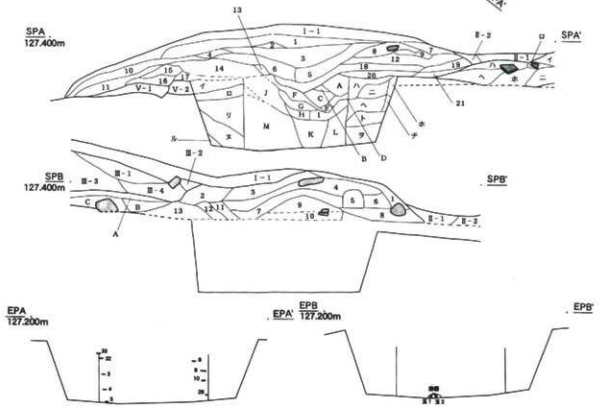
第49图 第II地区第35号基平面图他



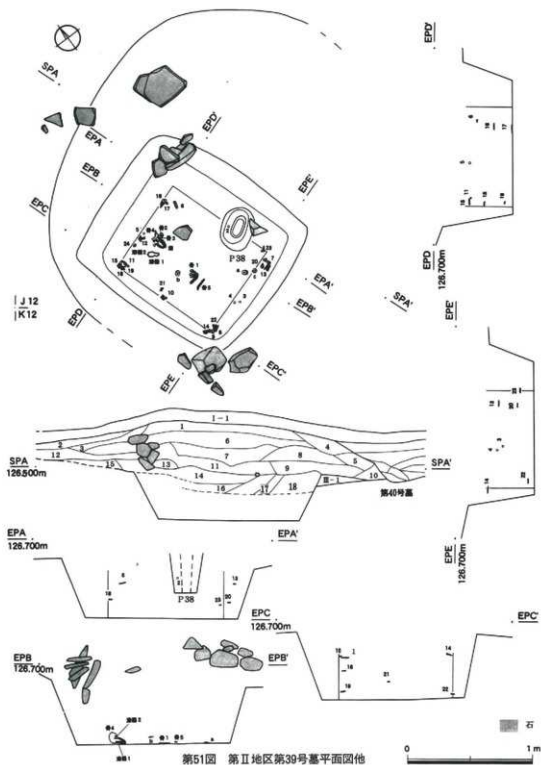
I *

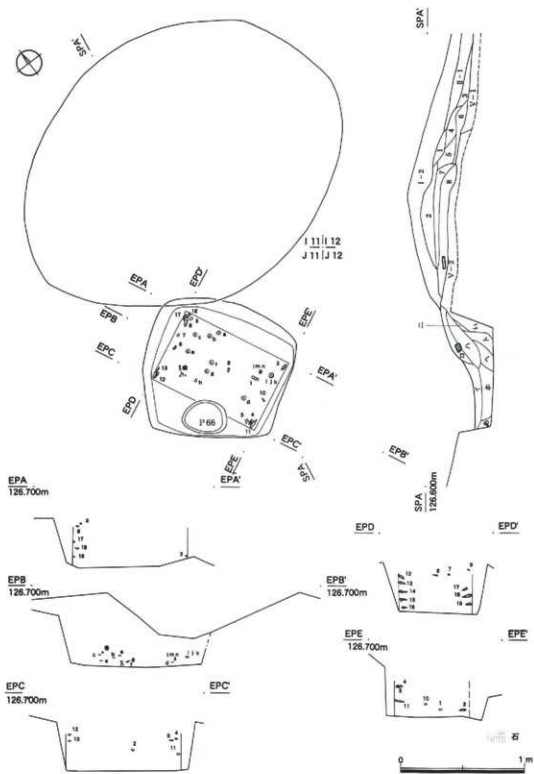


I *

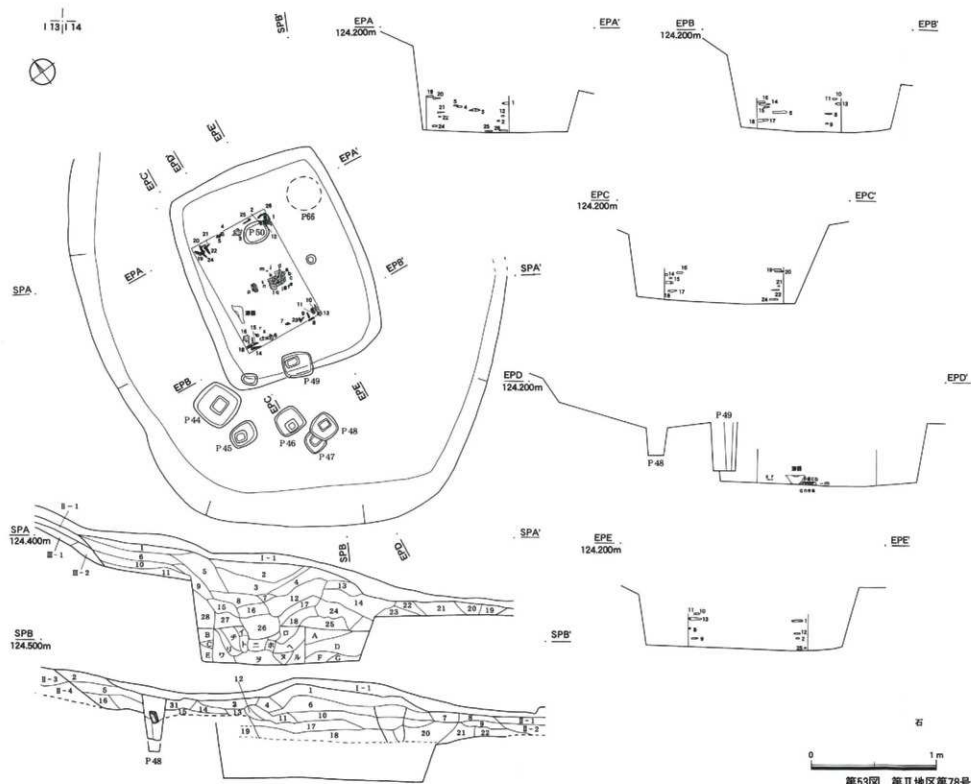


第50图 第Ⅱ地区第37号墓平面图他

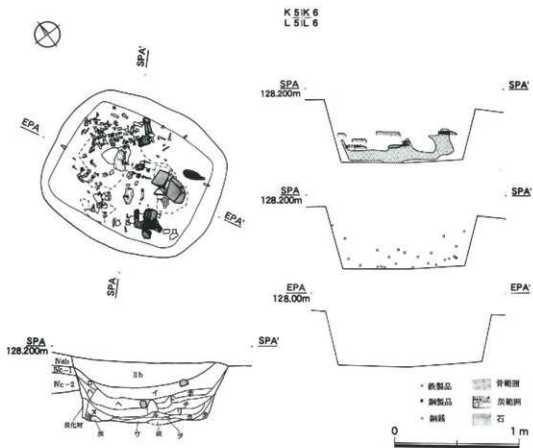
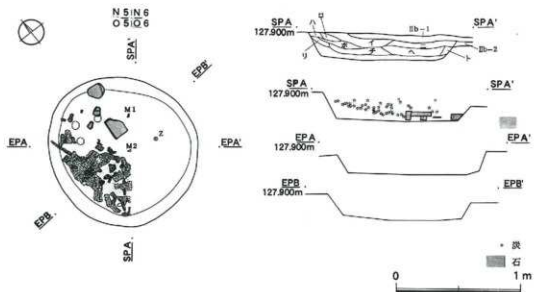




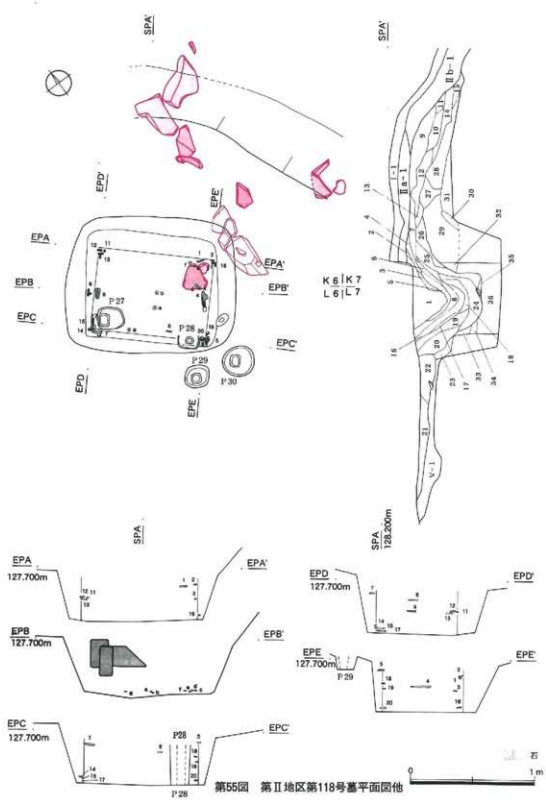
第52图 第II地区第54号墓平面图他



第53图 第II地区第78号基平面图



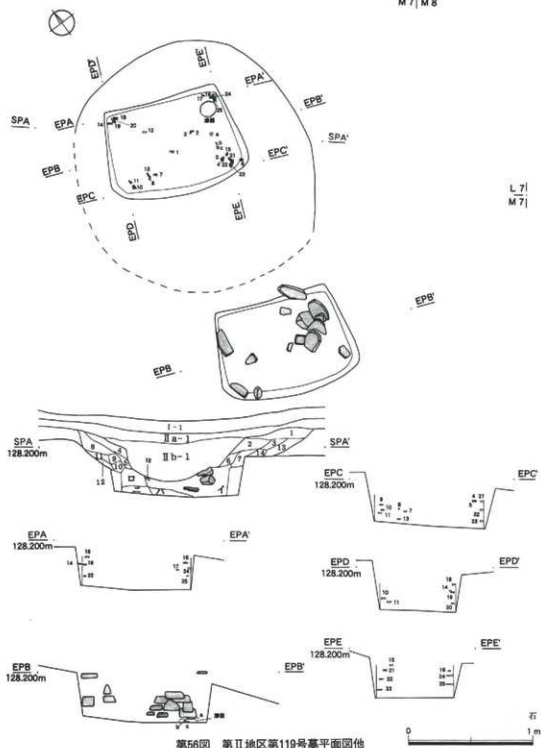
第54图 第Ⅱ地区第115·117号墓平面图他



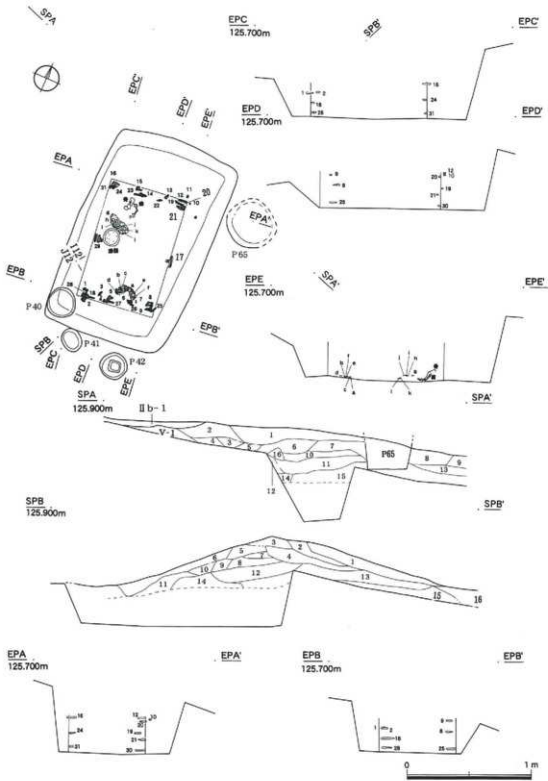
第55图 第II地区第118号基平面图他

L 7 | L 8
M 7 | M 8

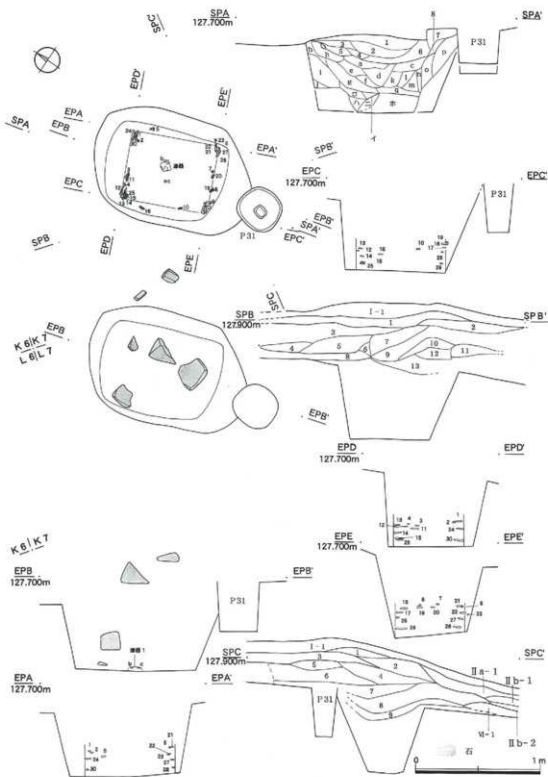
L 7 |
M 7 |



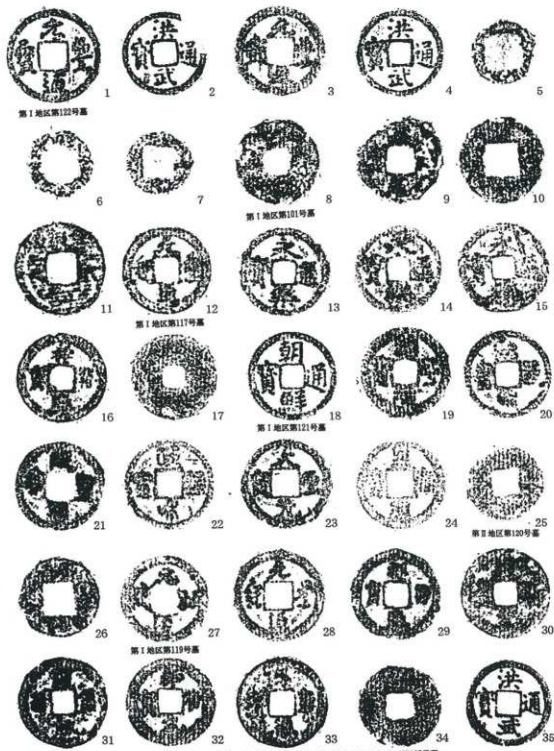
第56图 第II地区第119号墓平面图他



第57图 第II地区第120号基平面图他



第58图 第II地区第121号基平面图他



第1地区第122号墓

第1地区第101号墓

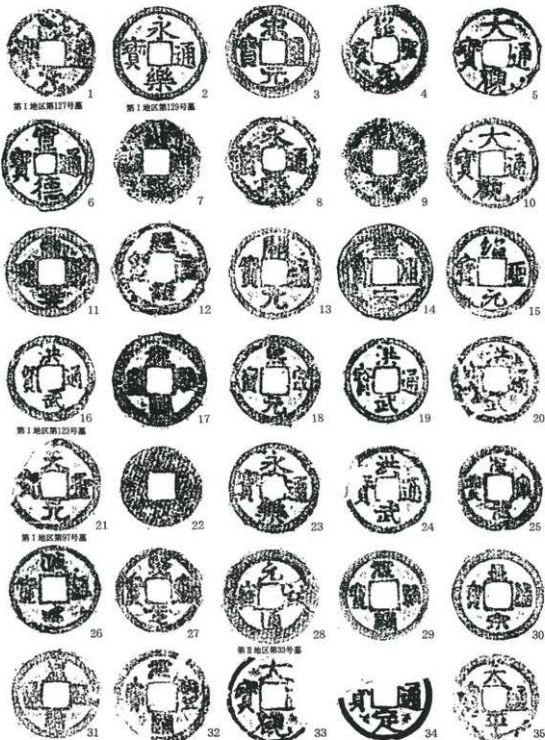
第1地区第117号墓

第1地区第121号墓

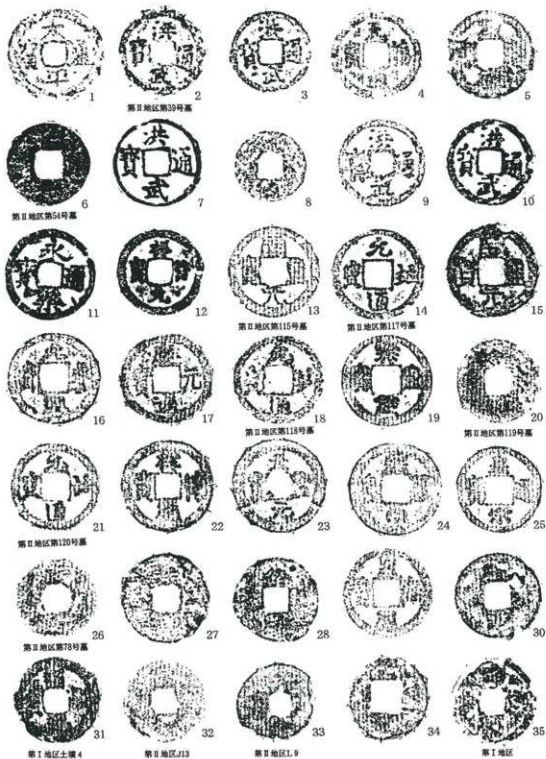
第2地区第120号墓

第1地区第119号墓

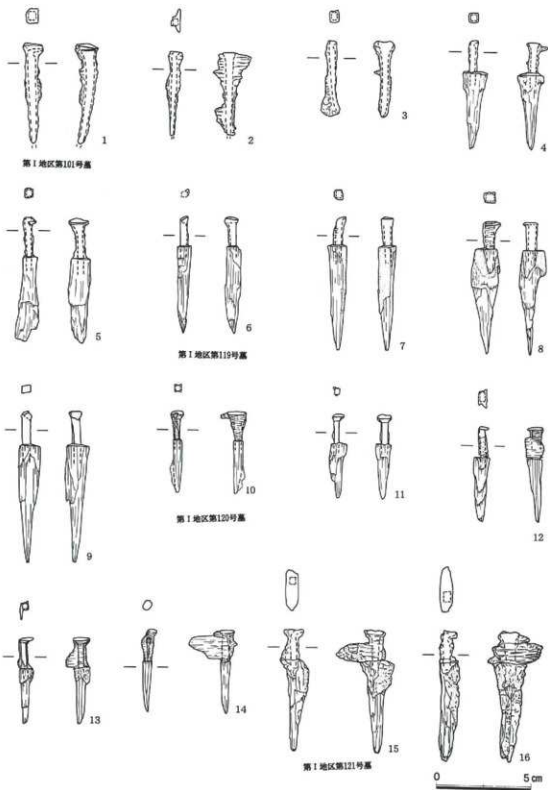
第50团 調查区遺構出土遺物 (銅錢1) 第1地区第127号墓



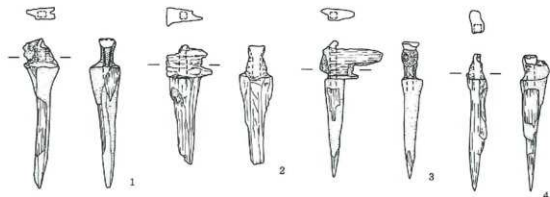
第 60 图 调查区遗物出土遗物 (铜钱 2)



第61图 調查区濠構出土遺物(銅錢3)



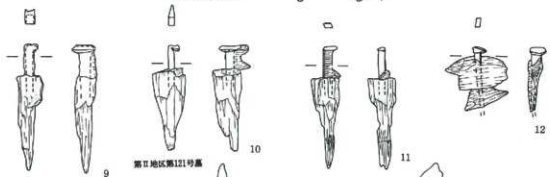
第62图 調査区遺構出土遺物（鉄製品1）



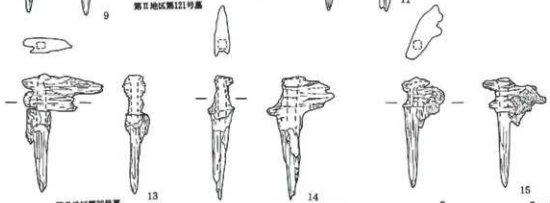
第I地区第128号基



第II地区第37号基



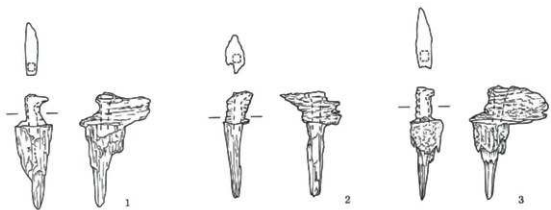
第II地区第121号基



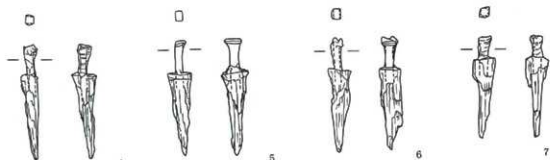
第II地区第39号基

第63图 調査区遺構出土遺物(鉄製品2)

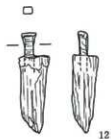
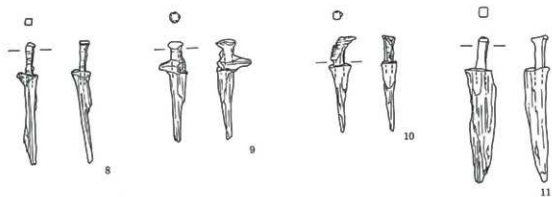




第II地区第30号墓

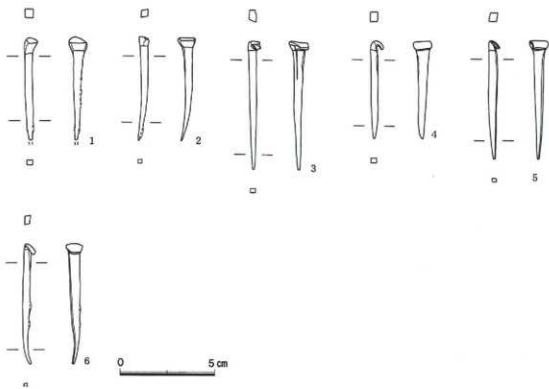


第II地区第54号墓



第64图 调查区遺構出土遺物(鉄製品3)





第65図 調査区出土遺物（鉄製品4）

IV まとめ

1 夷王山墳墓群第Ⅰ・Ⅱ地区の和人墓

ここでは、第Ⅰ地区で検出された中世アイヌ墓以外の墓について、若干のまとめを行う。

従来、発掘調査により葬送法が判明する墓29基が確認されていた。内16基は火葬墓である。

火葬墓：昨年度は5基、今年度は第Ⅰ地区1基、第Ⅱ地区で3基を確認した。過去の調査例を含めると25基となる。第Ⅱ地区の第23・30・115・117号墓の火葬墓は同地区墓分布の西限、火葬施設がある西側に分布する傾向にある。火葬墓は墓境内で火葬したもの、火葬後、収骨したものの一部を墓境内に納めるものの2種がある。第Ⅱ地区第117号墓の様に茶毘にふした土壌をそのままを墓とするものを茶毘墓といい、静岡県一の谷遺跡でも検出されているという。

土葬墓：第Ⅰ地区14基、第Ⅱ地区11基を確認した。過去の調査例を含めると34基となる。その内

棺に納められ埋葬されたと推されるものは両地区合わせて20基確認した。土葬墓は棺や墓壇の大きさからすると屈葬と推されるが、骨の残存度が低いので、側臥屈葬か仰臥屈葬かは判断出来なかった。

第Ⅰ地区第124号墓は土葬墓中でも数少ない直葬で、副葬品に刀子がある。平面形は一辺がやや広がる楔形をしており、アイヌ墓の平面形に似るが、頭位は不明であり、アイヌ墓とするには躊躇されるものであり、今後の検討課題としたい。

頭位：頭骨や歯の出土位置、また人骨の出土が無かった墓は、棺ないし掘方長軸方向から頭位を推定すると、北方向は第Ⅰ地区2例、第Ⅱ地区3例、計5例。北西方向は第Ⅰ地区6例、第Ⅱ地区5例、計11例、西方向は第Ⅰ地区1例、第Ⅱ地区2例、計3例となる。最も多いのは、北西方向で、次いで北、西方向となり、西から北方向を強く意

表74 遺物計測表

国庫番号	器種	口径mm	底径mm	器高mm	出土地点	
第41国1	唐津皿	119.0	48.0	36.0	第Ⅱ地区Ⅱ	
第41国2	唐津皿	126.0	47.5	37.0	第Ⅱ地区砂利敷遺構Ⅱ	
国庫番号	器種	長さmm	高さmm	器重g	出土地点	
第41国3	玉	3.5	0.1	4.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国4	玉	4.0	0.1	4.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国5	玉	3.5	0.1	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国6	玉	4.0	0.1	4.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国7	玉	4.0	0.1	4.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国8	玉	4.5	0.2	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国9	玉	4.0	0.1	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国10	玉	4.0	0.2	5.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国11	玉	4.5	0.2	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国12	玉	4.5	0.3	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国13	玉	4.5	0.1	5.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国14	玉	4.5	0.1	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国15	玉	5.0	0.2	5.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国16	玉	5.5	0.2	5.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国17	玉	4.5	0.2	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国18	玉	5.5	0.3	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国19	玉	5.0	0.2	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国20	玉	5.0	0.2	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国21	玉	6.5	0.3	6.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国22	玉	5.5	0.3	6.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国23	玉	5.5	0.3	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国24	玉	5.0	0.2	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国25	玉	6.0	0.3	5.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国26	玉	7.0	0.5	6.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国27	玉	5.0	0.2	5.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国28	玉	6.0	0.4	6.5	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国29	玉	8.5	0.9	8.0	第Ⅱ地区第37号墓	
第41国30	玉	8.5	0.9	8.5	第Ⅱ地区第37号墓	
国庫番号	器種	長さmm	厚さmm	器重g	出土地点	
第41国31	刀子	22.0	7.5	186.0	26.9	第Ⅱ地区第127号墓
第41国32	刀子	34.5	4.0	261.0	48.5	第Ⅱ地区第124号墓
国庫番号	器種	長さmm	厚さmm	器重g	出土地点	
第41国33	磨石	109.0	98.0	59.0	第Ⅱ地区第120号墓	
第41国34	石瓦	116.0	51.0	48.0	第Ⅱ地区第120号墓	
国庫番号	器種	長さmm	厚さmm	器重g	出土地点	
第62国1	釘	12.0	11.0	33.0	4.5	第Ⅱ地区第101号墓
第62国2	釘	17.0	7.5	43.0	3.1	第Ⅱ地区第101号墓
第62国3	釘	11.0	16.0	43.0	2.3	第Ⅱ地区第101号墓
第62国4	釘	14.0	13.0	36.0	3.3	第Ⅱ地区第101号墓
第62国5	釘	11.0	11.5	66.0	3.7	第Ⅱ地区第101号墓
第62国6	釘	12.0	11.0	80.0	3.6	第Ⅱ地区第119号墓

国庫番号	器種	長さmm	厚さmm	長さmm	器重g	出土地点
第62国7	釘	10.0	9.0	70.5	4.5	第Ⅱ地区第119号墓
第62国8	釘	15.0	14.0	70.0	5.7	第Ⅱ地区第119号墓
第62国9	釘	12.0	11.0	80.0	4.6	第Ⅱ地区第119号墓
第62国10	釘	13.0	6.0	43.5	2.5	第Ⅱ地区第120号墓
第62国11	釘	8.0	8.0	44.5	2.2	第Ⅱ地区第120号墓
第62国12	釘	10.0	8.5	50.0	2.4	第Ⅱ地区第120号墓
第62国13	釘	12.5	7.0	45.5	2.1	第Ⅱ地区第120号墓
第62国14	釘	25.0	6.5	44.0	1.9	第Ⅱ地区第120号墓
第62国15	釘	22.0	11.0	65.0	5.9	第Ⅱ地区第121号墓
第62国16	釘	27.0	10.0	70.0	6.8	第Ⅱ地区第121号墓
第63国1	釘	15.5	18.0	79.0	7.5	第Ⅱ地区第129号墓
第63国2	釘	17.0	24.0	63.0	6.7	第Ⅱ地区第129号墓
第63国3	釘	11.0	31.0	72.0	6.5	第Ⅱ地区第129号墓
第63国4	釘	13.0	9.0	72.0	4.5	第Ⅱ地区第129号墓
第63国5	釘	20.0	17.0	70.0	8.7	第Ⅱ地区第129号墓
第63国6	釘	13.0	12.5	67.0	4.8	第Ⅱ地区第37号墓
第63国7	釘	20.0	18.0	80.0	7.7	第Ⅱ地区第37号墓
第63国8	釘	29.0	8.0	45.0	5.5	第Ⅱ地区第37号墓
第63国9	釘	12.0	10.0	67.0	6.6	第Ⅱ地区第37号墓
第63国10	釘	17.0	14.5	56.0	3.6	第Ⅱ地区第121号墓
第63国11	釘	14.5	14.0	64.5	5.2	第Ⅱ地区第121号墓
第63国12	釘	33.0	7.5	34.0	2.4	第Ⅱ地区第121号墓
第63国13	釘	42.5	13.0	62.0	6.4	第Ⅱ地区第39号墓
第63国14	釘	28.0	13.0	65.0	6.5	第Ⅱ地区第39号墓
第63国15	釘	28.0	19.0	58.0	5.6	第Ⅱ地区第39号墓
第64国1	釘	28.0	10.8	61.0	6.3	第Ⅱ地区第39号墓
第64国2	釘	28.0	13.0	65.0	5.2	第Ⅱ地区第39号墓
第64国3	釘	40.0	17.0	60.0	6.5	第Ⅱ地区第39号墓
第64国4	釘	13.0	8.0	61.0	2.5	第Ⅱ地区第54号墓
第64国5	釘	15.0	13.0	61.0	3.3	第Ⅱ地区第54号墓
第64国6	釘	11.0	12.0	61.0	3.1	第Ⅱ地区第54号墓
第64国7	釘	12.0	12.0	54.0	2.7	第Ⅱ地区第54号墓
第64国8	釘	10.0	11.0	64.0	1.4	第Ⅱ地区第54号墓
第64国9	釘	18.0	14.0	53.0	2.6	第Ⅱ地区第54号墓
第64国10	釘	8.0	11.0	50.0	1.6	第Ⅱ地区第54号墓
第64国11	釘	13.0	14.0	72.0	5.1	第Ⅱ地区第54号墓
第64国12	釘	13.0	16.0	53.0	3.2	第Ⅱ地区第54号墓
第65国1	釘	5.0	4.0	54.0	3.1	第Ⅱ地区第117号墓
第65国2	釘	4.5	4.0	55.0	2.9	第Ⅱ地区第117号墓
第65国3	釘	6.0	4.0	68.0	5.8	第Ⅱ地区第117号墓
第65国4	釘	6.0	4.0	51.5	4.2	第Ⅱ地区第117号墓
第65国5	釘	5.0	4.0	62.5	4.8	第Ⅱ地区第117号墓
第65国6	釘	5.5	4.0	63.5	5.0	第Ⅱ地区第117号墓

識していると推される。

棺の推定規模と作り方：釘の位置から推定される棺の規模は、長辺56～95cm、短辺33～78cm。高さに関しては上部の釘が内側に落ち込み原位置がわからないため、具体的な数字は出せないが、釘の原位置が良好に確認された第Ⅱ地区第54号墓等から推定すると30～50cmと推される。長軸と短軸の比は短軸を1とすると長軸は1.5となるものが多いが、あまり揃わず、強い規則性は認められない。釘の原位置と検出位置の差が生じていることもあろうが、被葬者個々の体軀に合わせ作られているため、この様な結果になったのであろう。

釘の打ち方は、第54号墓の検出状況や、各墓出

土の釘の観察により次のように復元できる。長辺から短辺に向かって打ち付ける。よって短辺の木口は見えなくなる状態となる。但し底板と蓋がどのように打ち付けられていたかは不明である。第Ⅱ地区第37・120号墓のように四隅ばかりでなく中間に打ち付けてあったと推されるものがある。位置からすると蓋を打ち付けたものと推される。しかし、全ての墓でこの位置から検出されているわけではなく、蓋の打ち付けを含め、釘の打ち付け方法は更なる検証を必要とする。

墓に伴う柱穴：第Ⅱ地区第35・78・119・120・121号墓に柱穴を検出した。第Ⅱ地区第78号墓の柱穴では柱根に白色火山灰が検出されることから、

表75 銅錢拓影一覽表

圖章番号	錢種	出土地点	圖章番号	錢種	出土地点	圖章番号	錢種	出土地点
第59001	元龜通寶	第I地区第122号墓	第60001	利祿不能	第I地区第127号墓	第61001	太平清寶	第II地区第35号墓
第59002	洪武通寶	●	第60002	水寧通寶	第I地区第129号墓	第61002	洪武通寶	第II地区第39号墓
第59003	元龜通寶	●	第60003	元龜通寶	●	第61003	洪武通寶	●
第59004	洪武通寶	●	第60004	順元寶	●	第61004	天祐通寶	●
第59005	無文	●	第60005	大統通寶	●	第61005	利祿不能	●
第59006	無文	●	第60006	宣德通寶	●	第61006	無文	第II地区第54号墓
第59007	無文	●	第60007	利祿不能	●	第61007	洪武通寶	●
第59008	利祿不能	第I地区第101号墓	第60008	水寧通寶	●	第61008	無文	●
第59009	利祿不能	●	第60009	利祿不能	●	第61009	洪武通寶	●
第59010	無文	●	第60010	大統通寶	●	第61010	洪武通寶	●
第59011	利祿不能	第I地区第117号墓	第60011	利祿不能	●	第61011	水寧通寶	●
第59012	元龜通寶	●	第60012	大寧元寶	●	第61012	淳祐元寶	●
第59013	水寧通寶	●	第60013	開元通寶	●	第61013	開元通寶	第II地区第115号墓
第59014	水寧通寶	●	第60014	皇宋通寶	●	第61014	元祐通寶	第II地区第117号墓
第59015	水寧通寶	●	第60015	順寧元寶	●	第61015	開元通寶	●
第59016	淳祐通寶	●	第60016	洪武通寶	第I地区第123号墓	第61016	元龜通寶	●
第59017	利祿不能	●	第60017	元祐通寶	●	第61017	慶元通寶	●
第59018	朝祐通寶	第I地区第121号墓	第60018	無寧元寶	●	第61018	元祐通寶	第II地区第118号墓
第59019	治平通寶	●	第60019	洪武通寶	●	第61019	無寧元寶	●
第59020	政和通寶	●	第60020	洪武通寶	●	第61020	利祿不能	第II地区第119号墓
第59021	元龜通寶	●	第60021	天聖元寶	第II地区第97号墓	第61021	元祐通寶	第II地区第120号墓
第59022	政和通寶	●	第60022	利祿不能	●	第61022	淳祐元寶	●
第59023	天聖元寶	●	第60023	水寧通寶	●	第61023	天聖元寶	●
第59024	皇宋通寶	●	第60024	洪武通寶	●	第61024	皇宋通寶	●
第59025	無文	●	第60025	皇宋元寶	●	第61025	皇宋通寶	●
第59026	無文	●	第60026	政和通寶	●	第61026	利祿不能	第II地区第78号墓
第59027	元祐通寶	第I地区第119号墓	第60027	無寧元寶	●	第61027	利祿不能	●
第59028	元龜通寶	●	第60028	元祐通寶	第II地区第33号墓	第61028	利祿不能	●
第59029	淳祐通寶	●	第60029	元祐通寶	●	第61029	皇宋通寶	●
第59030	利祿不能	●	第60030	皇宋通寶	●	第61030	皇宋通寶	●
第59031	淳祐通寶	●	第60031	皇宋通寶	●	第61031	利祿不能	第I地区上層4
第59032	淳祐通寶	●	第60032	元龜通寶	●	第61032	利祿不能	第II地区J 13
第59033	淳祐通寶	●	第60033	大統通寶	●	第61033	利祿不能	第II地区L 9
第59034	無文	第I地区第127号墓	第60034	龜元通寶	●	第61034	利祿不能	第II地区L 9
第59035	洪武通寶	●	第60035	太平通寶	●	第61035	利祿不能	第I地区東部

表76 墓出土錢一覽表

遺構番号	錢種	枚数	備考	遺構番号	錢種	枚数	備考	遺構番号	錢種	枚数	備考	
第I地区第97号墓	天聖元寶	1		第I地区第123号墓	洪武通寶	7		第II地区第54号墓	無文	5		
	順寧元寶	1			利祿不能	6			利祿不能	7		
	皇宋元寶	1		第I地区第127号墓	洪武通寶	1		第II地区第78号墓	皇宋通寶	1		
	政和通寶	1			無文	1			政和通寶	1		
	洪武通寶	1			利祿不能	1			洪武通寶	2		
	水寧通寶	1		第I地区第129号墓	開元通寶	1			利祿不能	24		
	利祿不能	3			皇宋通寶	1			利祿不能	6	組片	
第I地区第101号墓	無文	5			天聖元寶	1		第II地区第115号墓	開元通寶	1		
	利祿不能	4			皇宋通寶	1		第II地区第117号墓	開元通寶	1		
第I地区第117号墓	淳祐通寶	1			順寧元寶	2			太平通寶	1		
	元龜通寶	1			大統通寶	2			元龜通寶	1		
	水寧通寶	2			水寧通寶	2			慶元通寶	1		
	水寧通寶	1	利祿不能		宣德通寶	2			洪武通寶	1		
	利祿不能	3			淳祐通寶	4			無文	1		
第I地区第119号墓	淳祐通寶	5			利祿不能	1			利祿不能	7		
	元龜通寶	2			第I地区第131号墓	洪武通寶	1		第II地区第118号墓	天聖元寶	1	
	元祐通寶	1			第II地区第123号墓	開元通寶	1			開元通寶	1	
	利祿不能	1		第II地区第33号墓	皇宋通寶	2			元龜通寶	1		
第I地区第120号墓	無文	4			元祐通寶	3			元祐通寶	1		
	利祿不能	3			太平清寶	12				利祿不能	1	
第I地区第121号墓	天聖元寶	1		第II地区第35号墓	大統通寶	2				利祿不能	6	
	治平元寶	1			元龜通寶	1				利祿不能	2	組片
	元龜通寶	1			皇宋通寶	2			第II地区第119号墓	開元通寶	1	
	政和通寶	2			大統通寶	2			第II地区第120号墓	隆元通寶	1	
	水寧通寶	1			龜元通寶	1				咸平元寶	1	
	朝祐通寶	1			利祿不能	8				淳祐通寶	3	
第I地区第122号墓	元龜通寶	2		第II地区第39号墓	天祐通寶	1				天聖元寶	2	
	洪武通寶	3			洪武通寶	2				皇宋通寶	3	
	水寧通寶	2			無文	1				元祐通寶	1	
	無文	18			利祿不能	1				利祿不能	5	
	利祿不能	6		第II地区第54号墓	淳祐元寶	1			第II地区第121号墓	龜元通寶	1	
第I地区第123号墓	無寧元寶	1			洪武通寶	3				利祿不能	2	
	元祐通寶	1			水寧通寶	1						

も同様に卒塔婆と推される。

配石遺構：第Ⅰ地区では配石を2基検出した。この配石の石は上面が平滑に近いもので、ほぼ矩形をなす配置状況から建物の礎石と推される。配石1の下部には第131・124号墓、配石2の下には第128号墓がありそれを意識し作られたものと考えられる。墓と関連する建物では堂屋といったものが推される。しかし、建物の礎石とし、墓に伴うものと考え、墓の被葬者は手の込んだ墓を作る事の出来る身分となり、副葬品も当然多種多様なものが推される。しかし配石下の墓には、特筆すべき副葬品も見受けられず、遺構からは被葬者像を推察するには困難が多く、同時代の類例の発見を待ちたい。

副葬品：副葬品は土葬墓で漆器、銅銭、数珠、刀子、火葬墓で銅銭が確認された。

土葬墓では漆器が副葬される例が第Ⅰ地区6基、第Ⅱ地区9基、計15基確認された。銅銭について、多い副葬品である。内面朱塗り、外面は黒塗りないし朱塗りである。何れも木地は完全に腐蝕してしまい、塗膜のみが残る状態である。器形は何れも碗か杯と推されるものである。勝山跡では黒地に模様が描かれるものが散見されたが、夷王山墳墓群の副葬品には模様が認められるものは無かった。ただ高台部に朱漆で漢数字の「一」とも読める印があった。

漆器を副葬する墓は、同時代では新潟県新発田市宝積寺館遺跡等枚挙に暇が無いが、食膳具である漆器の利用法の一つとして注意せねばならない。また食膳具を副葬品とするなら陶磁器ではなく何故漆器を選ぶのかも、併せて注意せねばならないが、現段階では全くもって不明である。

銅銭は36基中24基見られる。副葬品として確認されたもので、最も多い遺物である。土葬墓、火葬墓共に共通して見られる副葬品である。枚数は多いものでは第Ⅰ地区第122号墓の30枚以上の例があり、各墓の枚数も様々である。いわゆる六道銭イコール6枚という数には固定されていない。また倍数などの規則性も見られない。銭種は北宋銭・明銭が多く無文銭を含めると25種ある。又、7基の墓で無文銭が確認されている。

数珠玉は第Ⅱ地区第37号墓の1基のみである。いずれも無色透明であり、水晶製と推される。T字状の孔がある母珠が二つある。

刀子を副葬した例は2基ある。いずれも第Ⅰ地区で、第124号墓と第127号墓である。いずれも棺に納められていない直葬と推される墓で、副葬品と葬法に関係があるのかもしれないが、少数の事例から推測するのは危険であり、今後類例に注意したい。

他に有機質の遺物の存在も想定される。平成元年度に調査を行った第Ⅱ地区の火葬遺構からは、米・イナキビ(?)などの炭化種子が検出され、葬送儀礼にともなうものと推される。今回調査の墓にもこの種の遺物の存在が推測されるが、まだ墓内でのサンプル土の洗浄も終わっていない遺構があり、今回の調査では未だ確認していない。

他にも副葬品の配置状況など検討すべき課題は多いが、今後の課題としたい。(松田)

2 夷王山墳墓群のアイヌ墓

昭和56年～58年、重要遺跡詳細分布調査事業による夷王山地区の墳墓分布・確認調査を実施し、それ以前の二度の発掘調査概要も併せて、「夷王山墳墓群」とした²¹。同書では、第一回目の調査を行った後藤守一博士の中間報告にある「室町時代の和人の墓、恐らく崎崎・武田氏一族の墳墓・信広の墳墓もこの夷王山の山裾にある」等の内容や、第二回目調査の報告にある「本墳墓を築造した年代は(略)室町時代を前後した年代、夷王山墳墓群と(略)勝山館と(略)相互に相関連したの」との内容を受け、「いずれも仏教の影響を強く受け(略)、年代は15～16世紀を中心とし(略)、その被葬者は崎崎氏をはじめとする勝山館跡に強く関わる人々であり、後の松前氏に連る人々」とした。昭和62年には勝山館跡の一部として史跡に追加指定されたところである。

伸展土葬墓：この墳墓群(第Ⅰ地区)の一角から三基四体を埋葬したと推される伸展土葬墓が検出された。

墓壇の形状は東西長軸の一端東側が巾広の、長台形・楔型などと記されるものである。98号墓とした一基は全体に巾広で南列などから二体の合葬墓とした。

南列や頭部痕跡の位置から、長軸東壁側に頭位が推定された。南側の一体は頭部上下に円形の耳輪があり、顔は左外、横向きと分る。上半身右側に太刀、下半身左側に漆器碗、刀子、釘が副えられている。太刀の跗下に骨が残るが、部位が特定

で、太刀の副えられた位置が体中央、右側のいずれかは不明であった。又、仰臥・側臥の別も明らかではない。

北側の一体は歯列が上下に噛み合い、鉗子咬合状を呈する。太刀の銚直下に椎骨と肋骨の一部が残っていたことから、仰臥伸展葬で、体中央に太刀が副えられている例と推した。上半身左肩の辺りに腰刀？と針？が副えられる。歯列と椎骨を結ぶ中軸線上、下半身方向両足間に漆器碗が伏せて副えられる。副葬空間を足先限定すると⁸¹、伸展葬であれば身長130cm前後の小柄な人とも推される。一部破損しているが、歯列が残存しており、太刀下部の骨なども併せて、人類学的な調査を得たく思う。他に墓壇内東（頭部）個三分の一寄りの範囲から採取した覆土中から骨髄（鉄片鋸止）が1点検出された。

こうした墓壇の形状、葬法、頭位、装身具、副葬品などの埋葬様式の状態は、北海道内で一般的に見られる「近世アイヌ墓」に共通するものであり、この98号墓はアイヌ人を埋葬した墓、アイヌ墓とすることができよう。又、太刀や腰刀、漆器が埋納された、第116号墓と同様のものも、やや巾が狭いが土壇とするよりは、同様のアイヌ墓とその副葬品とすべきであろう。巾が狭いのは側臥伸展葬ともされるが、筵状の織物などに包まれて埋葬された時、狭いために若干移動して側臥状を呈するとも推測される。

98号墓の北4m、一段低い平坦面に小型（長軸東西1m）の台形をした第126号墓がある。少量の骨が見つかり、副葬品等はないが、アイヌ墓、大きさから子供の墓かと推測した。平取町や千歳市に類例がある。

北海道式石冠が出土した土壇4は、層序を検討し他の墳墓と同時代の所産とした。四周壁の検出に難渋して掘りすぎ、不正形に掘り上げた感が強い。長軸が同じというだけであるが、前述と同種の墓の可能性も推しているところである。

又、松田が前述したI-124号墓等も同様に検討すべきであろう。

因みに、勝山館跡後背部と夷王山墳墓群の調査で、今までに46基の土壇墓が発掘されているが⁸²、このうち43基は木棺土葬墓であり、墓壇及び推測された棺の大きさからは屈葬としたところである。又、その頭位は、昭和56年勝山館跡後背部で調査

した一基が南東方向である以外は、およそ北方向であった。

これらのことから、少くとも四体を埋葬した三基のアイヌ墓の存在を想定することは許されるのではないだろうか。

検出したアイヌ墓の年代：アイヌ墓は集落から離れたところに営まれるのが通則とされる⁸³。

夷王山墳墓群を勝山館を築いた和人の墓地としてきたことは上述の通りである。勝山館が廃絶された近世以降、館内の住人は館直下の現上ノ国市街地に居を移すと推される⁸⁴。寛文9年頃、上ノ国市街地には140～150の人家があり、その中に狄もいたことが知られているが⁸⁵、その江戸時代の狄達がかつての和人の墓地である夷王山墳墓群の中に自分達の葬地を求めることは考え難いところである。

勝山館跡内からは勝山館跡期の下位に堆積する第IV層中から推文土器が出土する。本年度の調査でも、第II地区寺ノ沢地点北西で同層中から出土したことは既述した。推文時代の墓とも推されるが、推文時代に道南で「アイヌ墓」が既に成立していたと明言できる段階にはない。

直下の上ノ国市街地内での分布調査や、住宅の建て替えに伴う緊急調査などで、縄文時代前期以降、各時代の遺物が出土している。大洲下遺跡では推文時代の初期から末葉迄の推文土器が採集されている⁸⁷。

筆者は市街地での調査で、明末朱付碗が、柱痕跡覆土から出土する、獨立柱建物跡・柱穴で切られ、1640年降灰Kodが覆土中に入るアイヌ墓を発掘した⁸⁸。

またこの墓の後方台地上で渡米銅銭11枚、ガラス玉10個が、耕作中に一括採集されている⁸⁹。

花沢館や勝山館の成立以前の現上ノ国市街地には、推文時代の終焉後も引き続き集落が営まれ、そこから花沢館や勝山館に連る人達の一部が生じていることは充分考えられる。それら一連の人達の埋葬されているのが、これらの地点ではなかったかと推している。

98・123号墓を覆うマウンドの掘部分から、胎土目積唐津焼皿が出土し、それをこのマウンド・墳墓の下限年代とした。これは勝山館の下限でもある。

また、98号墓、116号墓の間に見つかった123号

墓や他の土葬墓と相互に前後関係を有していることを示す層位的知見が得られたことから、これらアイヌ墓だけが、他の夷王山墳墓群を構成する墳墓より古い、或いは新しいという時代差はなく、上述の夷王山墳墓群全体の年代巾の中に位置づけられるものである。

二基の墓塚から三振りの太刀が出土した。共に60cm前後で、本州で中世前半に盛行したとされる太刀に比べて短かく、身巾も広いようである。鑢の発達が明らかでなく、非実用的であるという³¹⁸。鞘の一部に漆膜が残り、樹皮状の物が巻きつけられている。鑢は木瓜形及び丸形で、木瓜形の一と丸形には同形の切刃が付く。木瓜形の二者は青海波地に銀製の丸や菱文が描えられる。柄頭までの柄部の長さは98号墓の二例から中間に欠失部があるが20cmほどと推された。116号墓の例は茎尻まで約8cmで目釘穴が二個ある。98号墓の欠失部は茎尻の位置で、その先に裝飾が施され柄全体がつくられていることを示している。目貫などに飾飾が打たれ、赤漆で飾るものもある。

アイヌの男性墓の副葬品に太刀があり、伝世品にも多数の太刀がある。蝦夷持え・蝦夷好みの太刀などとされるものである。これらの太刀は刃（鋼）のつかない鈍刀であり、刀身のみがアイヌに持たられ、鞘などの刀装はアイヌ自身が行ったとされてきた。又、それはシャクシャインの蜂起終結後、刀剣などの武器はもとより、鉄製品などのアイヌへの供給が松前藩により制限されたとの通説と合せて扱われているようである。

杉山寿栄男が蒐集した太刀には国宝に指定されたものがあり³¹⁹、同氏や河野常吉によれば、アイヌが所持していた古い優品が本州に持ち去れることが多くあり、アイヌがそれを山中などに隠すことも漸々であったというから、古い時代の工芸品として優れた太刀が、アイヌにもたらされていたことが推されよう。

宝暦二（1752）年、貞治六（1367）年銘の板碑が箱（函）館で掘り出された³²⁰。その下に頭骨を安置した、方一尺五寸の小銅があり甲草の金具や大長刀とともに、木瓜形九曜紋付きの鑢がついた太刀が出土したという。

後述の札幌市発祥で発掘の15世紀中葉頃のアイヌ墓にも太刀が副葬されている。出土遺物を報告した高倉博士は、「鑢の形が 一略一 輪割を取っ

た、四角の四隅が中に折れて輪割の縁になったもの」と、木瓜形で猪目透しのものであること示し、唐草模様の薄い鑢に剣花菱の切刃がついた立派なものとしている。又同博士は、「此種の刀（の移入ルート一引用者補）は、日本刀とは縁の遠い、満洲一柳太一宗谷」のルートも考えられるが、「反り、鑢、柄等から見て、日本の古刀そのまま、若しくは粗末な蝦夷好みの造りにして、シャモから移入されたもの」とする³²¹。なお、鑢については大浜中道跡の出土例を松下亘氏が鎌倉時代のものとして紹介されている³²²。筆者は同道跡の陶磁器のうち天目茶碗を16世紀前半と引用したことがあるが、藤沢氏等により15世紀瀬戸窯の所産とされるに至っており³²³、大浜中の遺物は15世紀後葉を下限とできそうである。松下氏が紹介したこの鑢も、出土状況は定かではないが少なくともその下限はほぼ同じように考えられるのであろう。

アイヌ墓の溯源：前項において夷王山墳墓群中のアイヌ墓は勝山館跡の墓地とする他の同墳墓と同時代に属するものであろうことを示し、既に高倉博士は該種アイヌ墓が室町期に溯るであろうと予見していることに触れた。

アイヌ文化や、アイヌ民族史の解明を考古学的手法で積極的に推進している宇田川洋氏は、アイヌ文化を社会・宗教・流通経済の三側面からなる構造と捉え、葬制をその全てにかかわる文化要素の一つと位置づけている。そしてその葬制の確立は、近世アイヌの段階であり、その基本的な姿は、仲展葬・東頭位、豊富な（になる）副葬品を挙げ³²⁴。これは既に平川善祥氏が述べている【（発見されるであろう）中世アイヌ墓は近世アイヌ墓とは様相の異なるものであり、それは（中世から近世の間に一引用者補）アイヌ文化の転換期がある³²⁵】との予見と軌を一にするものと言うことができよう。

ライトコロ川河口で終半の撥文時代の住居跡の覆土上から掘り込まれた「平安時代には溯らないシャーマン？」を葬った墓が発掘され、15世紀頃に比定された³²⁶。有珠善光寺遺跡、森町御幸町遺跡、瀬棚南川2遺跡、余市町大川遺跡等16世紀以前と言及された例もあり、仲展葬・南一東頭位の基本の墓制形成は認められつつも、尚副葬品の量が少いとして、「アイヌ墓」の成立は後代とされている。

河野・高倉両氏による発寒村のアイヌ墓の発掘はその嚆矢として夙に知られ、詳細な報告は高く評価されている。その第一号墓の副葬品は後の構築と推される屈葬墓のそれを除くと、太刀5、マキリ2、刀子1、銅銭11、玉約70、銀製耳飾（ミミカネ）、笄、矢柄（中柄）数本、漆器碗（一点は皿に重なる）、直径9cm・施軸・無文椀・糸底が四つに割られた陶器皿、貝殻と極めて多種多量・豊富である（マキリ、刀子、中柄については、出土深さの記述がなく、厳密には屈葬墓の副葬品か一号墓のそれか識別し難いが、河野氏の記述から一号墓の副葬品と推した）。この年代を両氏は各、鎌倉から江戸初期、足利末期としている。現在本資料は北海道大学附属博物館が所蔵している²¹¹。このうち径9cmの陶器皿は実見できなかったが、高倉博士の記述とその大きさから、国内の十五世紀中葉の遺跡から出土する中国製白磁皿とすることができる。漆器碗（皿か）が重なっていたという出土状況の記述からは、後世の攪乱等の様子が窺い得ず、この皿は第一号墓の副葬品として埋納されたとしても間違いなであろう。

更に忠庭市カリンバ2遺跡でもこれと同種の白磁皿を副葬品とするアイヌ墓が発掘されている²¹²。同墓には大量の玉、耳金（飾）、注口付鍋、漆器などが副葬されている。

因みにこの白磁皿は北海道内では、函館市志苔館跡、勝山館跡、洲崎館跡、上ノ国市街地、余市町大川遺跡等での出土が知られているが、近年札幌市内での出土も報告されている。美々8遺跡の珠洲館跡の出土など15世紀中葉には石狩川流域（石狩低地帯）沿いにこの種の遺物の流入が見られるようである。そしてそれらの多くはアイヌ社会の中にもたらされ、アイヌ墓に副葬されたものもあると考えられるのである。

白磁皿は伝世品であり、アイヌ墓自体は近世墓との想定もできないが、アイヌに近世における陶磁器伝世の風は知られていないようである。蛇足乍らセタナイシャシ遺跡の出土品から、近世アイヌの陶磁器使用も軽視できないことを付しておきたい。

なお「ひの字なりに曲げた」耳金（飾）は発寒・ユカンプシに共通しており、或いは15世紀段階のニナリ（耳飾り）の形態を示すものかとも推される。又、墓の中央付近から出土すること、玉と

近接して出土していることも共通しているが、これについても高倉氏が既に触れている。

なお、アイヌ墓の成立については、余市町大川遺跡で平成11・12年度に発掘された竈通弁青磁碗などを伴出した、合葬・伸展・火葬墓²¹³も視野に入れる必要があるかと推している。尤も、大川例を所謂「アイヌ墓」の形態に先行するものとして位置づけようと思因する訳ではなく、「アイヌの墓」の成立自体がこれらも併せ15世紀を更に遡る存在として位置付けられるものかと推しているところである。

以上、「アイヌ墓」は共存遺物等から遅くとも15世紀中葉には成立していることは明らかである。また余市町大川遺跡の最新の調査例などから更に遡る可能性がある、と推される。

筆者はイクスパイの年代に触れた中で、アイヌ文化の成立を限り無く権文時代に近づくのではと推したことがあるが²¹⁴、それは単に個々の遺物・遺構の年代を遡らせるということではなく、宇田川氏がアイヌ墓（葬制）がアイヌ文化の全てにかかわる文化要素と位置づけ、平川氏が近世という時代にアイヌ社会の転換期を予測し、アイヌ墓の成立をそこに位置づけようとした視点に倣っていることに外ならない。問題は二期をどう見出すかということに帰するのであろう。

なお、第98号墓の胴下半に位置する覆土上部から、複数の柱穴が穿たれ、覆土上位で炭化材が面的に広がりを持って検出され、火熱を受けた唐津皿が表土直下から出土した。複数の柱穴は時間差と推され、炭化材等も埋葬後の儀礼行為かと推される。アイヌ墓に墓標の柱穴が伴う例は幾つか報告されているが、殆どは頭部墓域外のものである。火を用いる例は、先述の大川遺跡なども類例となるのかも知れないが、アイヌの葬制の中での位置づけは未だ定まっていないうである。後考したい。

（松崎）

註)

- 1 夷王山墳墓群 1984.3 上ノ国町教育委員会
- 2 田村俊之 1983.3 開いた足の上に副葬された可能性は既述した。
- 3 勝山館跡調査概報Ⅲ 夷王山墳墓群
- 4 平川善祥 1984
- 5 本概報XX

- 6 津軽一統志 北海道史資料 1
 7 未報告 久保泰 森廣樹 1983
 8 厚歌遺跡 S 地点 附
 9 未報告
 10 近藤好和氏のご教示による
 11 現在重要美術品指定 鎌倉時代の作とされる。
 藤沼邦彦・小井川和夫両氏のご教示を得た。杉
 山寿榮男 1943（'73復刻）
 12 蝦夷島奇観
 13 蝦夷往来 10 1933
 14 北海道の研究 2 1984
 15 瀬戸市史 4 藤澤良祐氏のご教示による。

- 16 宇田川洋他 1992
 17 註4に同じ
 18 ライトコロ川口遺跡 1980 註16に同じ
 19 北海道大学 加藤克氏からご高配を賜った。
 20 上屋真一氏のご教示による。陶磁器は同氏のご高配を賜り実現した。
 21 乾芳宏氏のご高配を賜った。
 22 本概報XX
 ※98号墓出土の耳飾りを東都文化財研究所で分析した結果純銀製と判明した。一部銅の付着が見られるとのことである。記して感謝申し上げます。

附篇 保存処理

1 鉄製品

650点の処理を行った。内200点は錆が生じ、破損の恐れがあるものの再処理を行った。

作業手順・方法は以下の通りである。錆除去後、エタノールによる脱水を行い、バラロイドNAD-10の20～30%ナフサ溶液で減圧含浸を3度行った。接合・注記作業終了後はR P剤と酸素インジケーターを入れ密封した。

再処理の鉄製品は薬品除去後、錆を除去し、エタノールによる脱水を行い、バラロイドNAD-10の20～30%ナフサ溶液で減圧含浸を3度行った。

接合・注記作業終了後はR P剤と酸素インジケーターを入れ密封した。

2 銅製品

100点の処理を行った。錆除去後、脱水し、ベンゾトリアゾールの2～3%溶液のキシレンで含浸処理を行った。接合・注記作業終了後はR P剤と酸素インジケーターを入れ密封した。

3 木製品

昨年度P.E.G含浸処理を行った300点をエタノールによる表面処理を行った。処理後、注記・分類・台帳作成作業を行い、コンテナに収納した。(松田)

图 版



1 第97・118・117・120・119・101号墓(和人墓)、第98・116号墓検出状況 前方は砂利を除いた後の配石並びに第122・124・128号墓他(南から)



2 第98・123(土壇4)、116号墓検出状況 左上は第119号墓(西から)



3 第116号墓検出状況



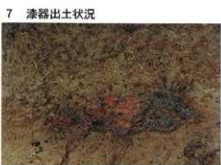
4 副葬品(太刀他)出土状況(北から)



6 小刀(腰刀?)詳細



5-イ、ロ 太刀柄詳細



7 漆器出土状況

8 第118号墓土層断面



P.L. 2 遺構検出状況 (夷王山墳墓群第1地区)



1 第98号墓 検出状況 (西から)



2 第98号墓 内部詳細 (北から)



3 頭部・歯列1詳細-耳飾 (ニンカリ) が装着される



4 歯列2詳細イ (西から)



5 同口 (北から)



6 漆器検出状況

7-イ、口 太刀1詳細



8 刀子・釘検出状況

9-イ、口 太刀2詳細

1 第Ⅰ地区砂利敷遺構区
（完掘状況）



2 第Ⅰ地区
砂利敷遺構区
（砂利敷面検出状況）



3 第Ⅰ地区砂利敷遺構区



5 第Ⅰ地区第122号墓



6 第Ⅱ地区第37号墓



4 第Ⅰ地区第126号墓



7 第Ⅱ地区第54号墓



1 青磁・白磁・染付・唐津・珠洲



2 肥前磁器



3 青磁・白磁・染付・瀬戸系類・唐津



4 青磁・白磁・染付・瀬戸系類・唐津





1 トオリニワ土間・前身遺構柱列（北、入口から）



2 トオリニワ入口付近礎石掘えつけ
—掘り方（東から）



3 トオリニワ下台所付近礎石掘えつけ
—掘り方（東から）



5 (西から)
シテンドコ（下台所）井戸・カマド跡



4 トオリニワ土間・タキキ断面
—下台所付近（南から）



6 第三期カマド跡残存状況（北から）



7 II-2期カマド跡検出状況（北から）



8 (北から)
II期カマド跡掘えつけ状況



9 第I期カマド跡検出状況（北から）



1 トオリニワ下層：旧笹浪家前身遺構柱列
手前白色部分は1640年降灰Ko-d火山灰
(南から)



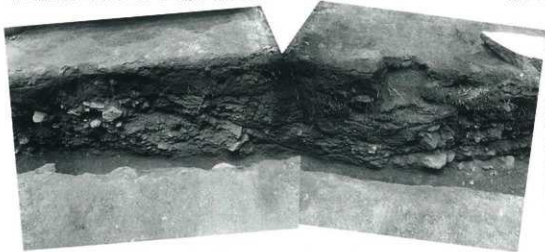
2 トオリニワ土層堆積状況-左6-1の火山灰部分
東半の断面、堀跡Ⅲが想定された(西から)



3 座敷床下土層堆積状況-堀跡Ⅱが想定された。
右の礫部分は17世紀の土壌による擾乱。(北から)



4 イタマ床下土層堆積状況-堀跡Ⅱが想定された。
(北から)



5 イタマ床下トレンチ3土層堆積状
況-堀跡Ⅲが想定された(東から)



6 拵出土状況(イタマ床下)



7 旧笹浪家東隣り・森兼夫氏
宅調査区西壁土層堆積状況-
堀跡Ⅲの延長部と推される
(平成11年度調査-東から)



1 旧笹浪家附属雑倉礎石 (北から)



4 旧笹浪家附属雑倉礎石栗石検出状況



2 旧笹浪家附属雑倉下遺構 江戸～昭和期 (北から)



7 勝山館期掘跡堆積状況 (東から)



3 旧笹浪家附属雑倉下 調査終了時 (北から)



8 旧笹浪家附属雑倉下 P118礎板検出状況 (北から)



5 土坑16検出状況 (北から)



6 旧笹浪家附属雑倉下柱穴と主屋 (西から)



9 旧笹浪家附属雑倉下 調査終了時 (東から)



1 米蔵調査前
（東から）



2 米蔵砂利検出状況（東から）



5 文庫蔵下墓1
土層堆積状況
（西から）



3 嘉永元年築旧笹浪家附属土蔵（文庫蔵・米蔵）礎石検出状況（西から）



4 嘉永元年築旧笹浪家附属土蔵（文庫蔵・米蔵）調査終了時（西から）

6 文庫蔵下墓1（西から）



7 文庫蔵下墓1 人骨・副葬品出土状況
（西から）



8 文庫蔵下墓1 人骨出土状況
（西から）



9 重文指定明治18年築旧笹浪家附属土蔵（東から）



10 重文指定旧笹浪家附属土蔵下配石遺構（東から）





1 夷王山山頂から見た第一地区（左上方）と第二地区（中央右）

2 墳墓群第一地区から
勝山館跡をのぞむ
—中央標柱左端が調査
地点



3 第一地区第116・123・98号墓
検出状況（南から）



4 砂利敷配石第124号墓から第98墓
他をのぞむ（北から）



第120・98・124号墓他検出状況



土壇2 北海道式石冠他出土状況





第97号墓 (北から)



2 第97号墓 歯・副葬品出土状況 (東から)



第101号墓 (南東から)

4 第117号墓 (南西から)

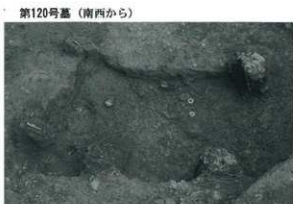
5 第121号墓 (西から)



第120号墓 (北東から)



8 第119号墓 (東から)



第120号墓 (南西から)



9 第123号墓 (西から)



1 第123号墓 歯・副葬品・棺出土状況 (南から)



2 第123号墓 副葬品出土状況 (北から)



3 第127号墓 (北から)



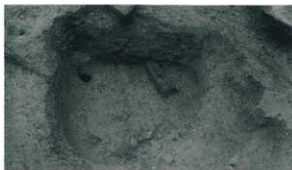
5 第129号墓 (北から)



4 第127・129号墓 (北から)



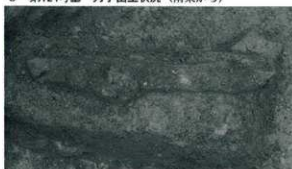
6 第129号墓 人骨・副葬品出土状況 (北から)



7 第124・125号墓 (東から)



9 第126号墓 堆積状況 (北から)



8 第124号墓 刀子出土状況 (南東から)



10 第126号墓 (北から)



配石遺構1・第131号墓 (北東から)



2 第131号墓 火葬骨 (北東から)



配石遺構2 (北東から)



4 第128号墓 (北東から)



第130号墓 (北東から)



6 第128・130号墓 (北東から)



第122号墓 (南から)



8 土嚢2 (東から)



9 土嚢5 (東から)



1 第Ⅱ地区調査区周辺から
勝山館跡中心部をのぞむ

2 第Ⅱ地区調査区西側
(東から)

3 第Ⅱ地区調査区
(北から)

5 第Ⅱ地区第23・119・
121・30・33号墓
(南西から)

6 第Ⅱ地区第39・54・
120号墓
(北東から)

9 寺ノ沢川上流部



4 第Ⅱ地区第30・121・118号墓
(北西から)

7 第Ⅱ地区第120・78号墓
(南東から)

8 第Ⅱ地区調査区東側
(西から)



1 第23号墓 (南東から)



2 第23号墓 火葬骨 (南東から)



3 第30号墓 (南西から)



4 第33号墓 (南西から)



5 第35号墓 (南東から)



9 第37号墓 火葬骨出土状況 (南から)



6 第35号墓 (南東から)



7 第35号墓 (南東から)



8 第37号墓 (南から)



1 第54号墓 (南東から)



3 第39号墓 (北から)



2 第39号墓 (南から)



4 第78号墓 (南から)



5 第78号墓 (南から)



6 第78号墓 (東から)



7 第115号墓 (北東から)



8 第117号墓 (西から)



9 第117号墓 (西から)



2 第118号墓 (北西から)



5 第120号墓 (南から)



6 第120号墓 人骨・遺物出土状況 (南から)



9 寺ノ沢川上流部検出状況 (東から)



1 第118号墓堆積状況 (北西から)



3 第119号墓堆積状況 (北東から)



4 第119号墓 (南西から)



7 第121号墓堆積状況 (東から)



8 第121号墓 (東から)

報告書抄録

ふりがな	しせきかみのくにかつやまであと							
書名	史跡上之回勝山館跡XXII							
副書名	平成12年度発掘調査環境整備事業概報							
巻次	22							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	松崎水穂 松田輝哉							
編集機関	上ノ国町教育委員会							
所在地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 01395-5-2230							
発行年月日	2001年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村名	遺跡番号					
勝山館跡	上ノ国町字上ノ国							史跡整備事業 (史跡等活用 特別事業－ふ るさと歴史の 広場)に伴う 調査
勝山館跡宮ノ沢川 右岸地区	上ノ国町字上ノ国236	013625	C-02-40	41° 48'	140° 6'	平成12年 9月11日	284㎡	
勝山館跡宮ノ沢川 左岸地区	上ノ国町字上ノ国 413・414					12月15日	220㎡	
夷王山墳墓群 第Ⅰ地区	上ノ国町字勝山386-2 他	013625	C-02-2			平成12年 5月10日	460㎡	
夷王山墳墓群 第Ⅱ地区	上ノ国町字勝山427			41° 48'	140° 6'	9月29日	495㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
勝山館跡	城館	中世						
勝山館跡宮ノ沢川 右岸地区	館他	中世～現代	勝山館期堀3条、近 世土壇・柱穴、旧笹 浪家住宅間通溝・石 列・カマド	青磁、白磁、染付、 珠洲、瀬戸美濃、唐 津、志野、肥前	15・16世紀の堀跡3条を検出。 旧笹浪家台所のカマドを検出。			
勝山館跡宮ノ沢川 左岸地区	館他	中世～現代	中世土葬墓1基、近 世配石遺構1基、旧 笹浪家附属土蔵布石 ・礎石	青磁、白磁、染付、 越前、瀬戸美濃、唐 津、志野、肥前	15世紀と推される土葬墓を検出。			
夷王山墳墓群 第Ⅰ地区	墓	中世	土葬墓15基 火葬墓 1基 中世アイヌ墓 3基	釘、銅銭、漆器、刀 子、太刀、ニンカリ、 鉄鍬	中世アイヌのものと推される仲裏 葬の墓を3基検出。			
夷王山墳墓群 第Ⅱ地区	墓	中世	土葬墓10基 火葬墓 4基	釘、銅銭				

史跡 上之國勝山館跡 XXII

—平成12年度発掘調査環境整備事業概報—

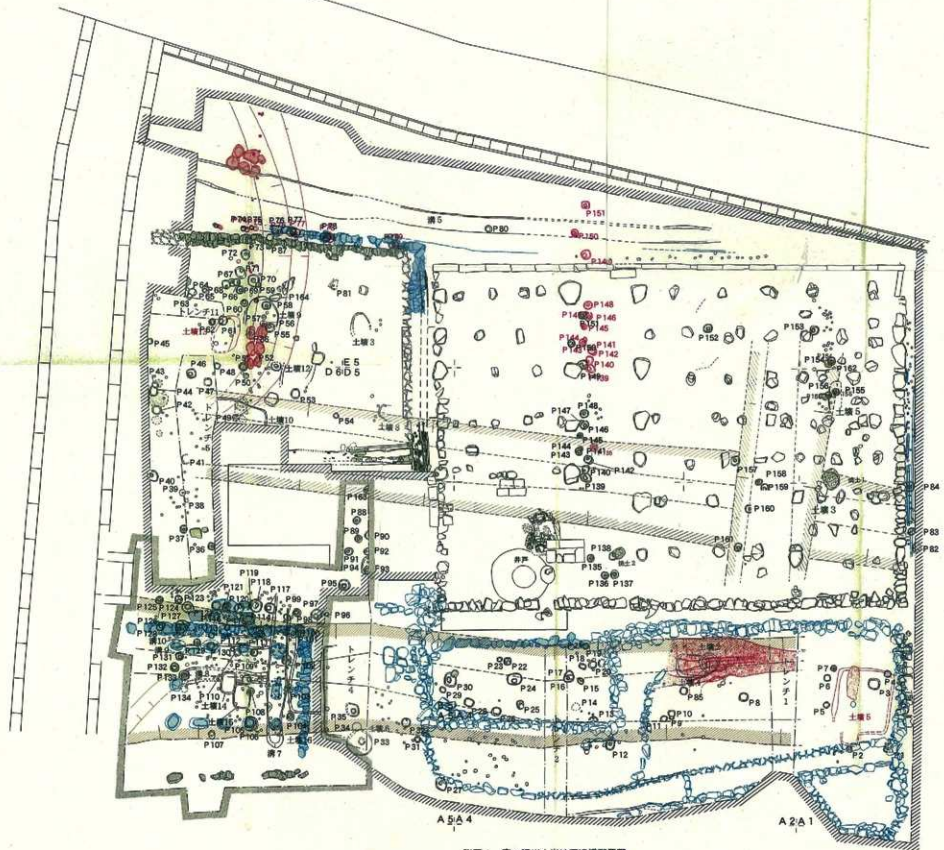
発行 上ノ国町教育委員会

北海道松山郡上ノ国町字大留100

印刷 平成13年3月27日

発行 平成13年3月31日

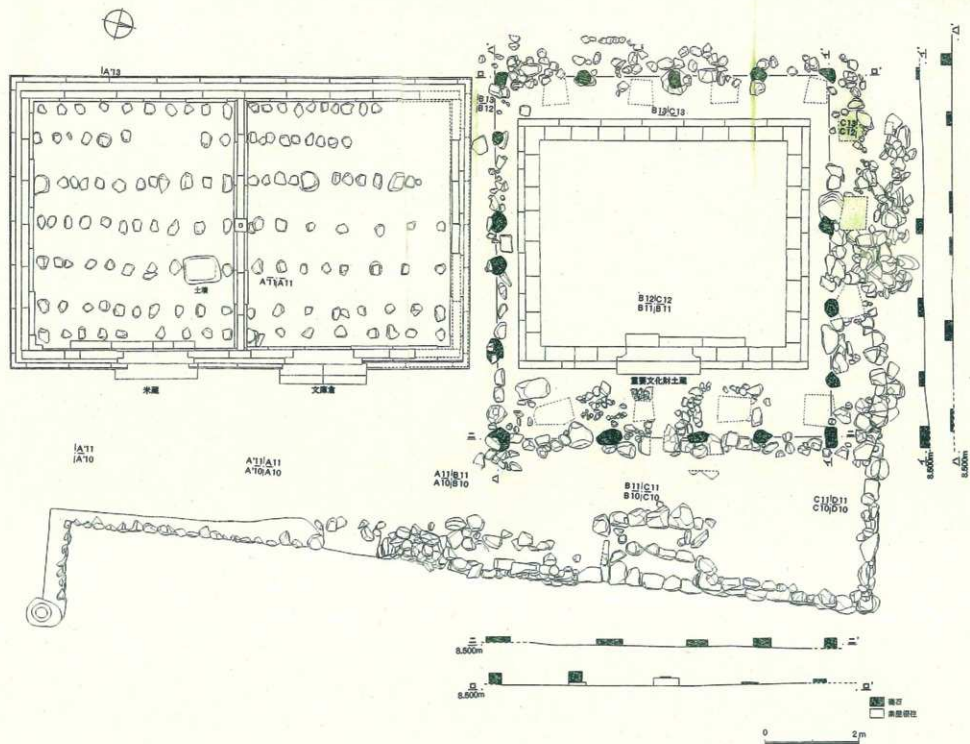
印刷所 祐三和印刷



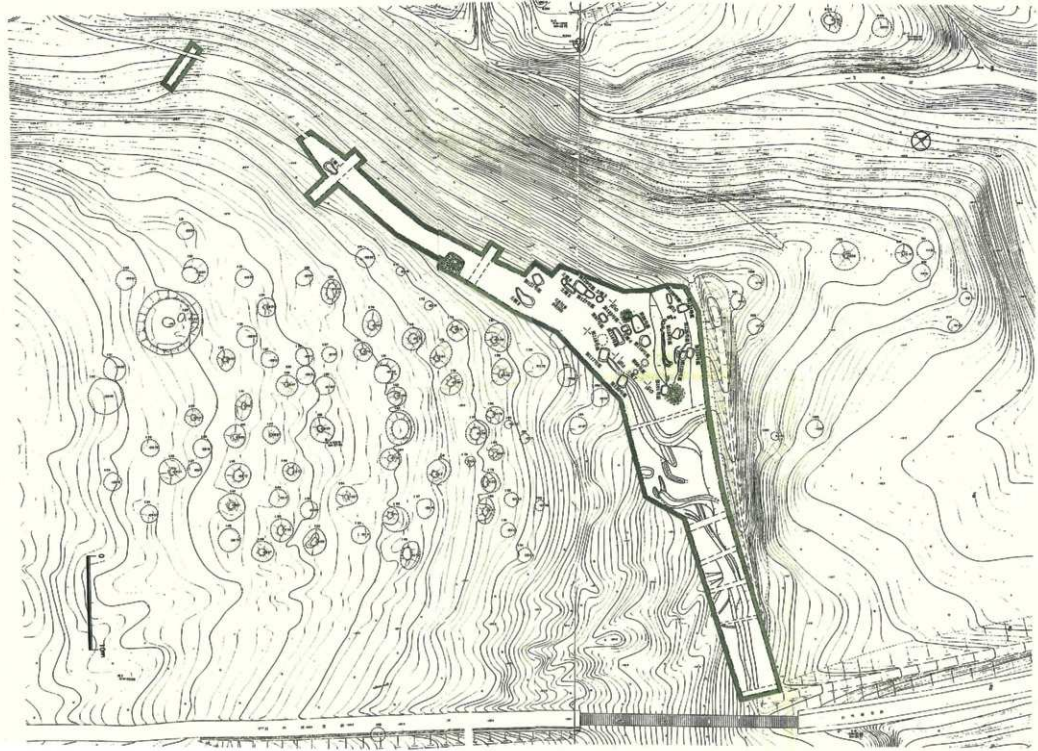
附図1 室ノ沢川右岸地区遺構配置図

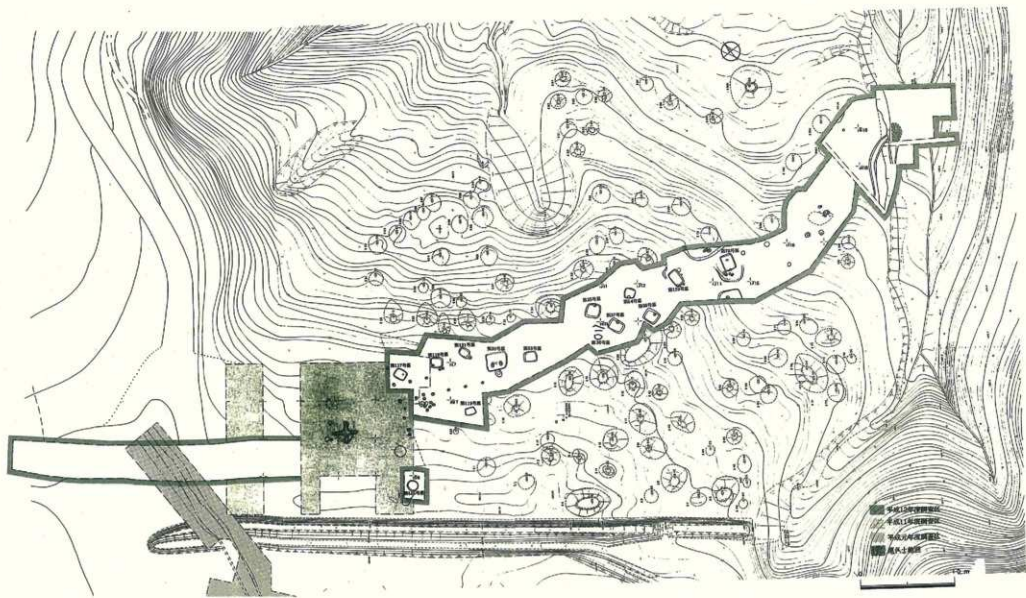
- 200年度調査区域
- 1990年度調査区域
- 藤山遺跡発掘後の遺構
- 昭和30年代～現代の石垣
- 石
- 明治～昭和30年代前半の石垣
- 瓦化物散置
- 粘土散置
- 溝
- 1990年度調査区域
- 2000年度調査区域

0 4 m



附図2 宮ノ沢川北岸地区遺構配置図





附图4 霸王山清溪源林江地区通情配置图